

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

2015年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、京都市美術館再整備事業に伴う円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

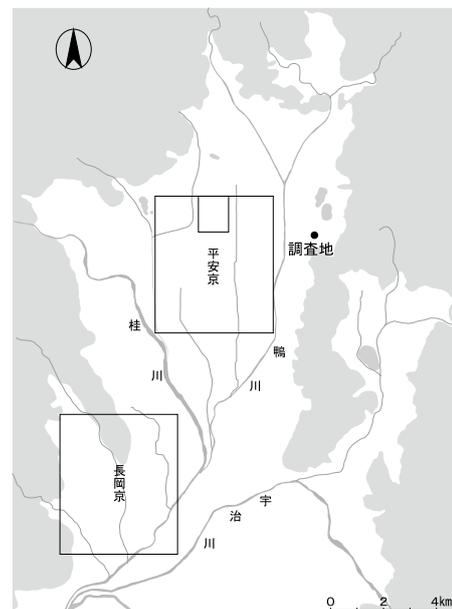
平成27年12月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡
(文化財保護課番号 13 R 450)
- 2 調査所在地 京都市左京区岡崎円勝寺町 (京都市美術館敷地内)
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 門川大作
- 4 調査期間 2014年10月9日～2015年3月5日
- 5 調査面積 1,387㎡
- 6 調査担当者 小檜山一良・金島恵一・近藤奈央・伊藤 潔
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図(縮尺1:2,500)「御所」・「吉田」・「三条大橋」・「岡崎」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系VI (ただし、単位(m)を省略した)
- 9 使用標高 T.P.:東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 調査区ごとに通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。ただし、柱列・土坑列・橋は別に付けた。
- 12 遺物番号 種類ごとに通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 小檜山一良・近藤奈央・伊藤 潔・上村和直・李 銀眞・柏田有香・山下大輝
- 14 執筆分担 小檜山一良:1、2-(2)、3、4-(1)・(2)・(4)～(7)、5-(1)
柏田有香:弥生土器と古式土師器の形式分類、4-(2)
上村和直:2-(1)、4-(3)
伊藤 潔:4-(2)、5-(2)
近藤奈央:4-(2)
李 銀眞:軒丸瓦・軒平瓦観察表
付章:小野映介(新潟大学)・
河角龍典(立命館大学)
- 15 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員および資料業務職員があたった。

(調査地点図)



目 次

| | |
|--------------------|----|
| 1. 調査経過 | 1 |
| (1) 調査に至る経緯 | 1 |
| (2) 発掘調査の経過 | 2 |
| 2. 調査地の位置と環境 | 4 |
| (1) 位置と環境 | 4 |
| (2) 周辺の調査 | 8 |
| 3. 遺 構 | 12 |
| (1) 基本層序 | 12 |
| (2) 検出遺構の概要 | 13 |
| (3) 検出遺構 | 14 |
| 4. 遺 物 | 32 |
| (1) 出土遺物の概要 | 32 |
| (2) 土器類 | 33 |
| (3) 瓦 類 | 52 |
| (4) 土製品 | 56 |
| (5) 木製品 | 56 |
| (6) 石製品 | 58 |
| (7) 植物遺存体ほか | 58 |
| 5. ま と め | 61 |
| (1) 調査地の遺構の変遷 | 61 |
| (2) 岡崎遺跡に伴う出土土器の傾向 | 66 |
| 付章 始良 Tn火山灰と土石流堆積物 | 68 |

図 版 目 次

- 図版 1 遺構 第 3 面遺構平面図 (1 : 300)
- 図版 2 遺構 第 2 面遺構平面図 1 (1 : 200)
- 図版 3 遺構 第 2 面遺構平面図 2 (1 : 200)
- 図版 4 遺構 第 1 面 2 期遺構平面図 (1 : 300)
- 図版 5 遺構 第 1 面 1 期遺構平面図 (1 : 300)
- 図版 6 遺構 北壁断面図 1 (1 : 100)
- 図版 7 遺構 北壁断面図 2 (1 : 100)
- 図版 8 遺構 西壁断面図 1 (1 : 100)
- 図版 9 遺構 西壁断面図 2 (1 : 100)
- 図版 10 遺構 溝 459 遺物出土状況図 1 (1 : 40)
- 図版 11 遺構 溝 459 遺物出土状況図 2 (1 : 40)
- 図版 12 遺構 溝 459 遺物出土状況図 3 (1 : 40)
- 図版 13 遺構 溝 459 遺物出土状況図 4 (1 : 40)
- 図版 14 遺構 柱列 1・2 実測図 (1 : 80、1 : 100)
- 図版 15 遺構 柱列 3～7 実測図 (1 : 80)
- 図版 16 遺構 柱列 8～10 実測図 (1 : 80)
- 図版 17 遺構 柱列 11・12 実測図 (1 : 80)
- 図版 18 遺構 柱列 13～17 実測図 (1 : 80)
- 図版 19 遺構 柱列 18～20 実測図 (1 : 80)
- 図版 20 遺構 柱列 21・22 実測図 (1 : 200)
- 図版 21 遺物 湿地 460 出土土器実測図 1 (1 : 4)
- 図版 22 遺物 湿地 460 出土土器実測図 2 (1 : 4)
- 図版 23 遺物 溝 459 出土土器実測図 1 (1 : 4)
- 図版 24 遺物 溝 459 出土土器実測図 2 (1 : 4)
- 図版 25 遺物 溝 459 出土土器実測図 3 (1 : 4)
- 図版 26 遺物 溝 459 出土土器実測図 4 (1 : 4)
- 図版 27 遺物 溝 459 出土土器実測図 5 (1 : 4)
- 図版 28 遺物 溝 459 出土土器実測図 6 (1 : 4)
- 図版 29 遺物 溝 459 出土土器実測図 7 (1 : 4)
- 図版 30 遺物 湿地 460 上層出土土器実測図 (1 : 4)
- 図版 31 遺物 瓦拓影・実測図 1 (1 : 4)
- 図版 32 遺物 瓦拓影・実測図 2 (1 : 4)

- 図版33 遺物 瓦拓影・実測図3 (1:4)
- 図版34 遺物 瓦拓影・実測図4 (1:4)
- 図版35 遺物 瓦拓影・実測図5 (1:4)
- 図版36 遺物 瓦拓影・実測図6 (1:4)
- 図版37 遺物 瓦拓影・実測図7 (1:4)
- 図版38 遺物 瓦拓影・実測図8 (1:4)
- 図版39 遺物 瓦拓影・実測図9 (1:4)
- 図版40 遺物 瓦拓影・実測図10 (1:4)
- 図版41 遺物 瓦拓影・実測図11 (1:4)
- 図版42 遺物 瓦拓影・実測図12 (1:4)
- 図版43 遺物 瓦拓影・実測図13 (1:4)
- 図版44 遺物 瓦拓影・実測図14 (1:4)
- 図版45 遺物 瓦拓影・実測図15 (1:4)
- 図版46 遺物 瓦拓影・実測図16 (1:4)
- 図版47 遺物 瓦拓影・実測図17 (1:4)
- 図版48 遺物 瓦拓影・実測図18 (1:4)
- 図版49 遺物 瓦拓影・実測図19 (1:4)
- 図版50 遺物 瓦拓影・実測図20 (1:4)
- 図版51 遺物 瓦拓影・実測図21 (1:4)
- 図版52 遺物 瓦拓影・実測図22 (1:4)
- 図版53 遺物 瓦拓影・実測図23 (1:4)
- 図版54 遺物 瓦拓影・実測図24 (1:4)
- 図版55 遺物 瓦拓影・実測図25 (1:4)
- 図版56 遺物 瓦拓影・実測図26 (1:4)
- 図版57 遺構 1 第3面西半全景(北東から)
2 第3面東半全景(南西から)
- 図版58 遺構 1 溝459西半(北東から)
2 溝459東半(北東から)
3 溝459土器出土状況(北東から)
- 図版59 遺構 1 第2面西半全景(北東から)
2 第2面東半全景(南西から)
- 図版60 遺構 1 溝326北部(南西から)
2 溝326北部護岸(北から)
3 溝326南部(北西から)
4 溝326南部護岸(北東から)

- 図版61 遺構 1 溝327北部（南西から）
2 溝327南部（北西から）
3 溝627・628東半（北西から）
4 溝627・628西半、地業193（西から）
- 図版62 遺構 1 井戸374検出状況（南から）
2 井戸374断割り（北東から）
3 井戸374木枠（北西から）
4 井戸374木枠（北西から）
5 井戸374木枠（北東から）
6 井戸374木枠（北東から）
- 図版63 遺構 1 井戸470（北から）
2 井戸335（東から）
3 井戸420（東から）
4 井戸629（南東から）
5 井戸775（北から）
6 井戸775断割り（北から）
- 図版64 遺構 1 土坑412（北から）
2 土坑444（北から）
3 土坑436（北から）
- 図版65 遺構 1 柱列3～5（北から）
2 柱列10南部（北西から）
- 図版66 遺構 1 第1面西半全景（北東から）
2 第1面東半全景（西から）
- 図版67 遺構 1 堀27・橋1（北東から）
2 堀27断面（西から）
- 図版68 遺物 縄文時代の土器
- 図版69 遺物 弥生時代から古墳時代初頭の土器1（湿地460出土）
- 図版70 遺物 弥生時代から古墳時代初頭の土器2（湿地460・溝459出土）
- 図版71 遺物 弥生時代から古墳時代初頭の土器3（溝459出土）
- 図版72 遺物 弥生時代から古墳時代初頭の土器4（溝459出土）
- 図版73 遺物 弥生時代から古墳時代初頭の土器5（溝459出土）
- 図版74 遺物 弥生時代から古墳時代初頭の土器6（溝459出土）
- 図版75 遺物 古墳時代中期から後期の土器（湿地460上層出土）
- 図版76 遺物 平安時代から鎌倉時代の土器1
- 図版77 遺物 平安時代から鎌倉時代の土器2

- 図版78 遺物 鎌倉時代から江戸時代の土器
- 図版79 遺物 軒丸瓦1
- 図版80 遺物 軒丸瓦2
- 図版81 遺物 軒丸瓦3
- 図版82 遺物 軒丸瓦4
- 図版83 遺物 軒丸瓦5
- 図版84 遺物 軒丸瓦6
- 図版85 遺物 軒丸瓦7
- 図版86 遺物 軒丸瓦8
- 図版87 遺物 軒丸瓦9
- 図版88 遺物 軒平瓦1
- 図版89 遺物 軒平瓦2
- 図版90 遺物 軒平瓦3
- 図版91 遺物 軒平瓦4
- 図版92 遺物 軒平瓦5
- 図版93 遺物 軒平瓦6
- 図版94 遺物 軒平瓦7
- 図版95 遺物 軒平瓦8
- 図版96 遺物 石製品・土製品・木製品

挿 図 目 次

| | | |
|-----|---------------------|----|
| 図1 | 調査地位置図（1：2,500） | 1 |
| 図2 | 調査区配置図（1：1,000） | 2 |
| 図3 | 調査前全景（北から） | 3 |
| 図4 | 作業風景（南西から） | 3 |
| 図5 | 中学生発掘体験（北から） | 3 |
| 図6 | 現地説明会（南西から） | 3 |
| 図7 | 周辺調査位置図（1：3,000） | 9 |
| 図8 | 基本層位図（1：40） | 12 |
| 図9 | 溝459・湿地460断面図（1：50） | 14 |
| 図10 | 湿地460断面図（1：50） | 15 |
| 図11 | 地業193実測図（1：50） | 16 |

| | | |
|-----|----------------------------|----|
| 図12 | 溝302・326・327断面図（1：50） | 18 |
| 図13 | 溝627・628断面図（1：50） | 19 |
| 図14 | 井戸374出土壁土 | 19 |
| 図15 | 井戸470・374実測図（1：50） | 20 |
| 図16 | 井戸335・420・466実測図（1：50） | 21 |
| 図17 | 井戸629・775実測図（1：50） | 22 |
| 図18 | 土坑412・436・444実測図（1：50） | 23 |
| 図19 | 井戸576実測図（1：50） | 28 |
| 図20 | 井戸576（北東から） | 28 |
| 図21 | 井戸576木柵（北から） | 28 |
| 図22 | 耕作溝41・113・133他断面図（1：50） | 29 |
| 図23 | 堀27断面図（1：50） | 30 |
| 図24 | 橋1実測図（1：100） | 30 |
| 図25 | 土坑列1・2実測図（1：200） | 31 |
| 図26 | 縄文土器拓影・実測図（1：3、12のみ1：4） | 33 |
| 図27 | 弥生土器・古式土師器形式分類1 | 35 |
| 図28 | 弥生土器・古式土師器形式分類2 | 36 |
| 図29 | 弥生土器・古式土師器形式分類3 | 38 |
| 図30 | 平安時代から鎌倉時代の土器類実測図1（1：4） | 48 |
| 図31 | 平安時代から鎌倉時代の土器類実測図2（1：4） | 49 |
| 図32 | 井戸629・775出土常滑甕実測図（1：8） | 50 |
| 図33 | 室町時代の土器類実測図（1：4） | 51 |
| 図34 | 江戸時代の土器類実測図（1：4） | 52 |
| 図35 | 土製品実測図（1：4） | 57 |
| 図36 | 木製品実測図（1：6） | 57 |
| 図37 | 石製品実測図（石1・2は1：2、石3・4は1：4） | 58 |
| 図38 | 湿地460出土種実等 | 59 |
| 図39 | 井戸374出土種実 | 59 |
| 図40 | 弥生時代から古墳時代の遺構概要図（1：400） | 62 |
| 図41 | 弥生時代から古墳時代の遺構配置図（1：3,000） | 62 |
| 図42 | 平安時代末から鎌倉時代の遺構概要図（1：400） | 63 |
| 図43 | 平安時代末から鎌倉時代の遺構配置図（1：3,000） | 63 |
| 図44 | 室町時代から江戸時代の遺構概要図（1：400） | 65 |
| 図45 | 江戸時代末以降の遺構概要図（1：400） | 66 |
| 図46 | 層相・層序の観察結果 | 69 |

表 目 次

| | | |
|----|---------------|----|
| 表1 | 白河略年表 | 6 |
| 表2 | 周辺調査一覧表 | 10 |
| 表3 | 遺構概要表 | 13 |
| 表4 | 遺物概要表 | 32 |
| 表5 | 軒瓦遺構別出土数量表 | 54 |
| 表6 | 軒瓦分類別出土数量表 | 55 |
| 表7 | 湿地460出土種実等一覧表 | 59 |
| 表8 | 井戸374出土種実一覧表 | 59 |

観 察 表 目 次

| | | |
|------|-------------------|-----|
| 観察表1 | 縄文時代から古墳時代の土器類観察表 | 71 |
| 観察表2 | 平安時代から江戸時代の土器類観察表 | 79 |
| 観察表3 | 軒丸瓦観察表 | 83 |
| 観察表4 | 軒平瓦観察表 | 90 |
| 観察表5 | 土製品観察表 | 100 |
| 観察表6 | 木製品観察表 | 100 |
| 観察表7 | 石製品観察表 | 100 |

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯

この調査は、京都市美術館再整備事業に伴う第1期埋蔵文化財発掘調査である。調査区は、美術館敷地内の北西部に位置している。

調査地は、平安時代後期「院政期」に造営された白河街区・六勝寺の寺院である円勝寺跡（1128年：待賢門院御願）・成勝寺跡（1139年：崇徳天皇御願）の推定地である。また、弥生時代から古墳時代の集落跡である岡崎遺跡の範囲内でもある。

今回の調査に先立って、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）が試掘調査を実施した。その結果、地表下1.5mで平安時代後期の遺物包含層、さら

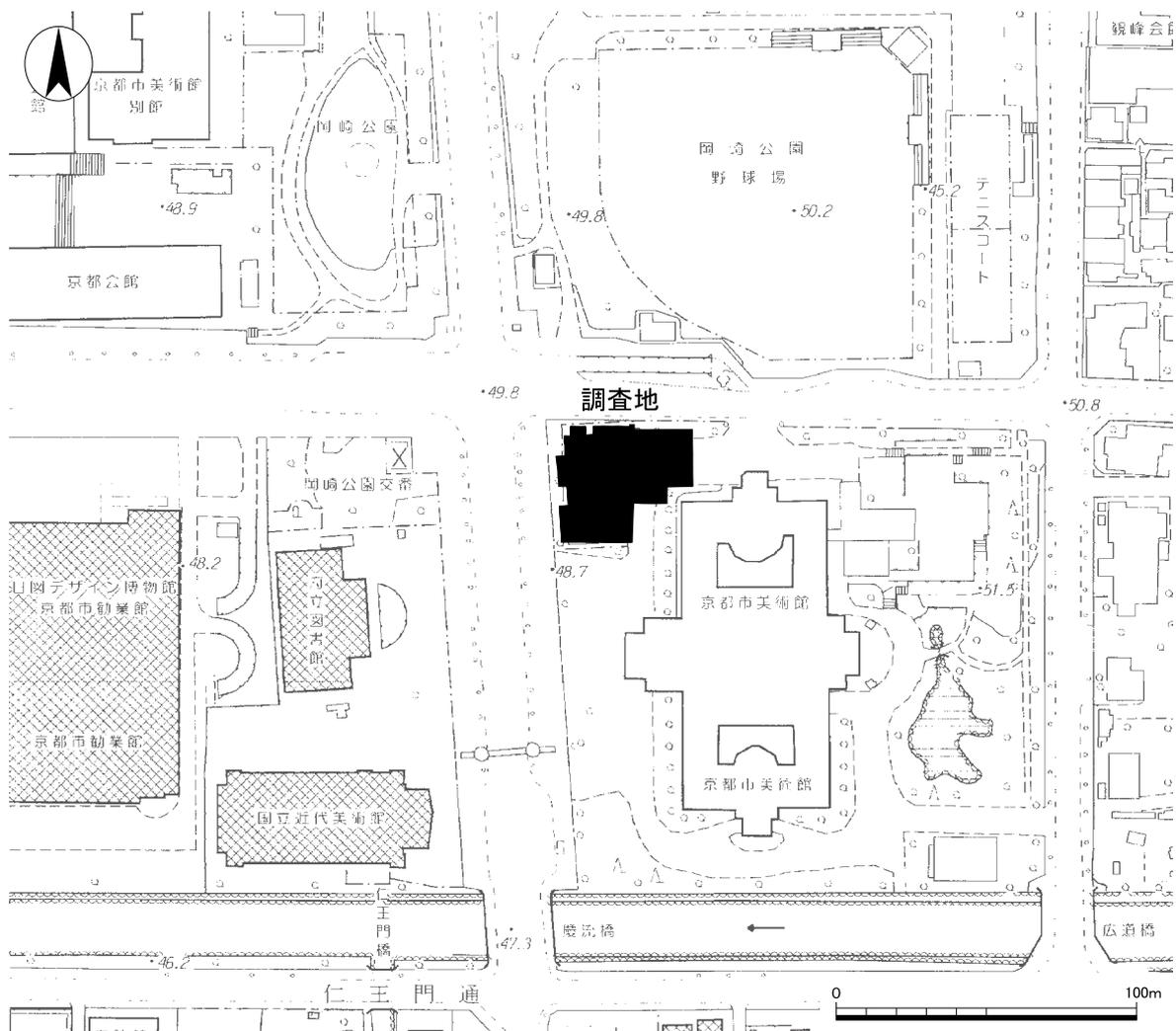


図1 調査地位置図 (1 : 2,500)

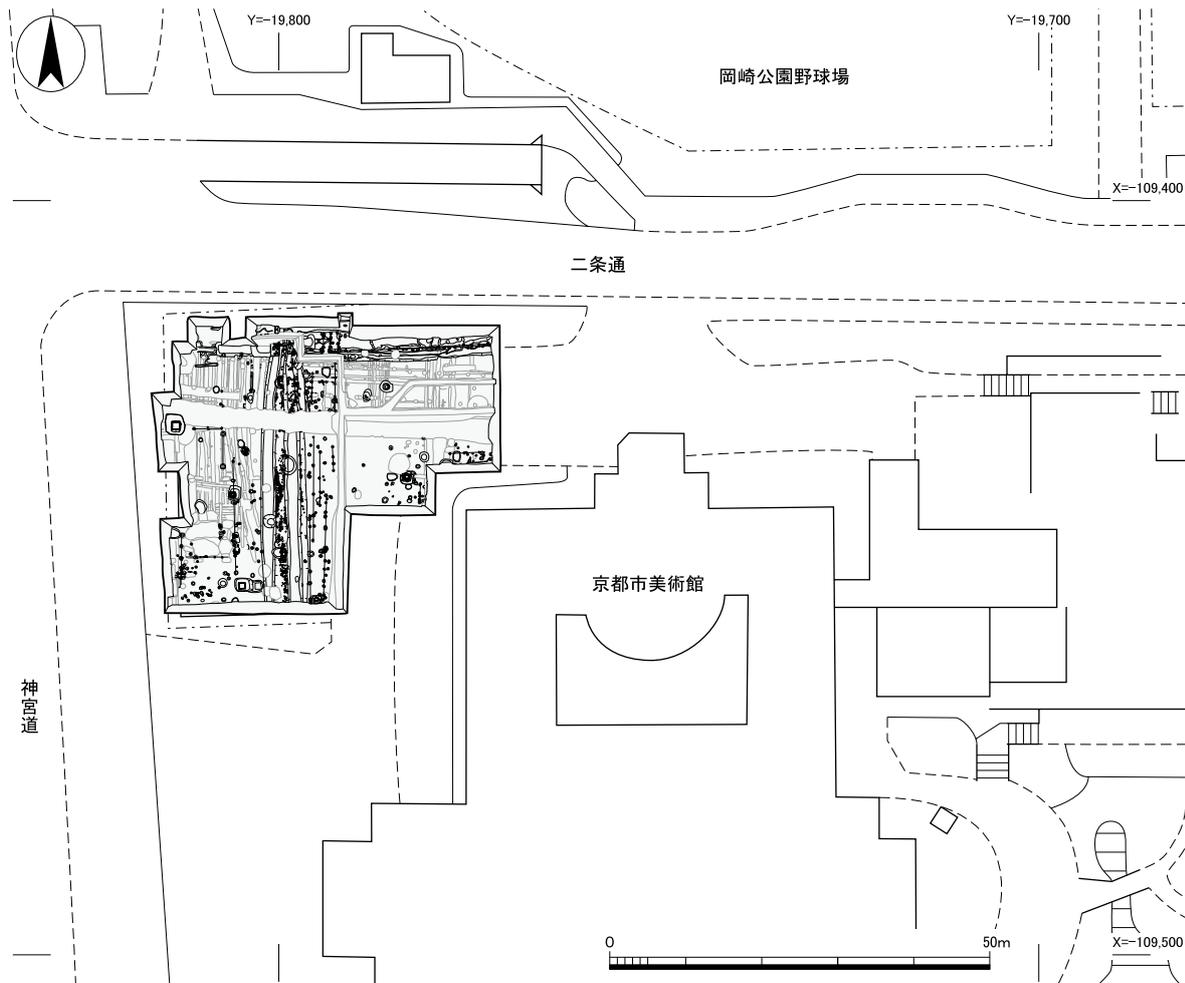


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)

に下層に弥生時代から古墳時代の遺物包含層を検出したため、対象地内に弥生時代以降の遺構が良好に遺存していると判断された。この結果から発掘調査の実施が必要との指導がなされた。これを受けて公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が文化財保護課の指導の下、発掘調査を実施した。

調査区は、既存ネットフェンスおよび一部の樹木の保護を考慮し、文化財保護課と協議した結果、調査面積は1,387㎡である。残土仮置き場確保のために反転調査とした。

(2) 発掘調査の経過

2014年10月14日から仮囲いフェンスの設置、樹木伐採、縁石撤去、アスファルト切断などの準備工を行った。10月22日から西半分の重機掘削を開始し、地表下約1.5mまでの近現代層や室町時代以降の耕作土層を除去した。以降は人力で掘削作業を進め、第1面の室町時代以降、第2面の平安時代後期から鎌倉時代前期、第3面の弥生時代から古墳時代の遺構面を順次、調査した。それぞれの面で全景写真・個別写真を撮影し、平面や断面などの図面を作成した。また、遺構の状況に応じてオルソ写真測量も併用した。その後、下層は堆積状況確認のため断割り調査を行い、火山灰層を検出し記録した。西半分の調査終了後、直ちに南・東半部に仮置きしていた掘削土で埋め戻しを実施した。



図3 調査前全景（北から）



図4 作業風景（南西から）



図5 中学生発掘体験（北から）



図6 現地説明会（南西から）

2015年1月5日から東半分の重機掘削を開始し、以後西半分と同様に調査を行った。第3面の調査終了後、2月16日から埋め戻しを開始し、その後、縁石の復旧・アスファルト舗装・砕石敷きを行った。3月5日にはすべての機材を撤収し、調査地を委託者に引き渡した。

調査の進展に伴い適宜、文化財保護課の臨検を受けた。また、当調査の検証委員である京都産業大学の鈴木久男教授、同志社大学の若林邦彦准教授の視察を受けた。地山層の断割り調査の際には、新潟大学の小野映介准教授、立命館大学の河角龍典教授のご教示を得た。

また、2014年11月12日には、「生き方探求・チャレンジ体験」の一環として中学生を受け入れた。2015年1月29日には調査成果の広報発表を行い、31日には現地説明会を開催し、成果の公表に努めた。

調査および報告書作成にあたり以下の方々からご教示を得た。記して謝意を表する次第である。

網 伸也（近畿大学）、池田保信（天理教調査団）、市村慎太郎（大阪府立近つ飛鳥博物館）、伊藤淳史（京都大学）、上原真人（京都大学）、植山 茂（古代学協会）、桐井理揮（公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）、國下多美樹（龍谷大学）、高 正 龍（立命館大学）、高野陽子（公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）、中居和志（京都府教育庁）、西山良平（京都大学）、橋本 久（元円勝寺跡発掘調査団）、肥後弘幸（公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）、森岡秀人（芦屋市教育委員会）、山本 亮（奈良文化財研究所）、米田敏幸（古墳出現期土器研究会顧問）

（五十音順、敬称略）

2. 調査地の位置と環境

(1) 位置と環境

位置と地形 調査地の位置する岡崎地域は、東の東山連峰と西の鴨川に挟まれた地域で、北辺には吉田山丘陵が位置し、南は東から西に粟田山丘陵が延びる。地域内中央には、白川が北東から南西に流れる。当地域は、この白川によって形成された北白川扇状地で、東から西へ、北から南へと緩やかに傾斜した傾斜段丘の地形を呈する。

岡崎遺跡 岡崎遺跡は、弥生時代から古墳時代まで継続する集落遺跡である。当遺跡は、白川が形成した北から南に緩やかに傾斜した微高地上に立地し、竪穴建物や方形周溝墓、流路などが多数検出されている。近年では、縄文時代の遺構や遺物の検出例も増えている。

白河の概要 当地域は史料上、平安時代前期から葬地として現れる。『文徳天皇実録』 斉衡三年(856) 六月二十五日の条には「正三位源朝臣潔姫薨、嵯峨太上天皇女也、(中略) 擇賀楽岡白川地面、為葬地。」とあり、『三代実録』 貞観十四年(872) 九月四日の条には「是日葬、太政大臣(藤原良房) 於、愛宕郡白川辺云々。」とある。さらに『栄華物語』 卷四十、寛治二年(1088) 四月の条には「二条院(章子)、故院(後一條)の御墓所に御堂たてさせ給て、併院とて東山御所に三昧堂たてられたるかたわらに御堂たてさせ給。」とあり、葬地として利用されていたことと共に、持仏堂なども建てられていたことがわかる。また、『扶桑略記』 承平三年(933) 五月十五日の条には「誠是幽閑、清水達階、観念之月自泛、緑苔地満、」とあり、当地域は景勝地ともなっていた。

藤原良房は、「白川辺」に葬られ、『大鏡』などには「白河大臣」・「白河殿」と呼ばれたことから、9世紀中頃には、白河地域に別業「白河第(白河院・白河別業・白河殿)」を営んだと推定される〔福山1975〕。白河第は、『本朝文粹』 卷十、天禄三年(972) 後二月の条に「豈非花鳥得時之春哉、然猶都人士女論花者、多以白河院為第一矣」とあり、都一の桜の名所であるとされている。

その後、当第は基経、忠平そして道長に伝領される。『御堂関白記』 寛弘元年(1004) 三月二十八日の条には「華山天皇、可花御覧参者、覧白河院」とあり、花山天皇が花見行幸し、11世紀初めには道長に伝領されたことがわかる。『左経記』 長元元年(1028) 三月二十日の条には「余(藤原経頼) 参白河院、関白殿(藤原頼通) 令伝領給、今日始御覧所坐御也」とあり、当院は道長から頼通に伝領された。白河院には、長元五年(1032) 三月二日に後一条天皇が翫桜の行幸〔『日本紀略』〕、康平三年(1060) 三月二十三日には後冷泉天皇が観桜のために行幸する〔『康平記』、『本朝続文粹』 卷九、『定家朝臣記』〕。この記事には白河院内の建物の状況が記される。当院は、桜の名所であり、公卿・文人らを招いて観桜宴・詩会・蹴鞠・競馬なども催された。

延久六年(1074)に頼通が没すると左大臣師実伝領されたが、『百練抄』 承保二年(1075) 六月十三日の条に「件所、故宇治前大相国(藤原頼道) 累代之別業也、左大臣伝領、彼献公家也」とあり、同院を白河天皇に献上した。これを契機として同年六月に法勝寺の造営が始まり、承暦元年(1077)に落慶供養された〔『法勝寺供養記』、『日本紀略』〕。その後、地域内に六勝寺などの寺院や

院御所が次々と造営され、「京・白河」と呼ばれるようになる。調査地は、「京・白河」地域の内、円勝寺と成勝寺に推定される〔杉山1991・上村1999〕。

その後、度重なる地震・火災などにより荒廃が進み、応仁の乱などの兵火で焼亡、廃寺となったとされるが、中世の状況はよくわかっていない。

寛永年中には悲田院の窮者が岡崎村内に移住し、字円照地に悲田院村（日伝寺）が作られる。

幕末には、元治元年（1864）の禁門の変を契機に、諸藩は岡崎地域に次々と京屋敷を建設した。調査地は川東仁王門通に位置した加州屋敷（加賀前田藩屋敷）にあたる。藩邸の範囲は、おおむね東は岡崎道、北は二条通、西は古川町通付近、南は仁王門通付近である〔『京町御絵図 洛中洛外町々小名上下京番組彩色入（明治二年、1869）』〕。

明治維新後に京屋敷は取り壊され、当該期の地図によると岡崎一帯は野菜畑と雑木林の混在する田園地域であった〔『改正京都区分一覧図』〕。その後、明治十八年（1885）から明治二十三年（1890）に造営された琵琶湖疏水の完成以降、当地域は開発が著しく進んだ。明治二十八年（1895）には平安神宮が造営され、第4回内国勸業博覧会の会場となる。明治四十二年（1909）には、当地域に京都市商品陳列所、翌々年には京都第一勸業館が建てられ、昭和元年（1926）には陳列所が京都市工芸館と改称され、美術館として使用した。その後、昭和八年（1933）に、現位置に大礼記念京都美術館が建設され、昭和二十七年（1952）に京都市美術館と名称変更し、現在に至る。

円勝寺の歴史 円勝寺は待賢門院藤原璋子の御願で、天治二年（1125）八月三日に木作りが始められ、翌大治元年（1126）三月七日に御塔が供養された〔『永昌記』〕。この塔は、三重塔で権中納言藤原顕隆の申請で、小男顕長が紀伊守の功に任じ造進された。翌二年正月十二日に但馬守藤原敦兼が造進した五重塔、同年三月十九日に伊予守藤原基隆が造進した西御塔が供養され、三つの塔は東塔・中塔・西塔と記される〔『永昌記』、『百練抄』、『中右記』〕。

塔造営と並行して伊予守藤原基隆により伽藍が造進され、大治元年（1126）十一月十三日に上棟、同三年（1128）三月十三日には中央精舎（金堂）、その左に五間層軒（五大堂）、その右に九間飛臺（薬師堂）が供養された〔「圓勝寺供養祝願文」『本朝続文粹』、『帝王編年記』〕。「圓勝寺供養祝願文」には「池水波平」とあることから、園池の存在を推定する説もある〔杉山1991〕。また、『帝王編年記』大治三年（1128）三月十三日の条に、殿上廊・同西北廊・寝殿・御浴室御所がある。

大治五年（1130）十二月二十六日に御堂（六時堂）が供養され、翌年正月十一日に御仏供養がされた〔『長秋記』〕。中心伽藍の他に西北廊・二階門・鐘楼・西面門・築垣が存在したことがわかる〔『帝王編年記』〕。

寺域は、大治三年（1128）三月十三日の「圓勝寺供養祝願文」に「（前略）法勝最勝寺、蓮宮ト隣、（後略）」とあり、法勝寺と最勝寺に隣接する。また、『長秋記』大治五年（1130）十二月二十六日の円勝寺御堂供養御幸の条に、「自二条東行円勝寺西門」とあり、二条大路末に近接する。さらに、『坊目誌』には「旧字円照地と道照寺にまたがる」とある。寺域の規模は、南北幅は1町と推定されるが、東西幅は1町〔福山1975〕、または2町〔杉山1991〕の説がある。寺域内建物配置は、塔が東・仲・西と記されることから東西一直線に存在したと推定されるが〔杉山1991〕、配置の詳細

表1 白河略年表

| 時期 | 天皇 | 上皇 | 白河殿関連 | 円勝寺 | 成勝寺 | 関連事項 |
|--------|-------------|---|--|--|--|--|
| 平安時代前期 | | | 前期から当地域は葬地などとなる〔三代実録・栄華物語〕。 承平3年(933)5.15頃には、当地域は景勝地となっていた〔扶桑略記〕。 天禄3年(972)2白河院が都一の花の名所といわれる〔本朝文粹〕。 | | | |
| 平安時代中期 | | 1072 白河 | 中期以降、藤原氏代々の別業(白河第・白河院)が営まれる。 長元元年(1028)3.20白河院は道長から頼通に伝領される〔左経記〕。 承保2年(1075)6.13藤原師実が、別業を白河天皇に献上し、同年7.11に法勝寺木作り始め〔百練抄〕 | | | 寛仁3年(1019)藤原道長法成寺造営。 延久2年(1070)後三条天皇円宗寺造営。 |
| 平安時代後期 | | 1086 堀河 | 承暦元年(1077)12.18法勝寺供養〔法勝寺供養記・扶桑略記〕。 この頃から白河の地割が施工されたと推定できる。 永保3年(1083)10.1法勝寺九重塔など供養〔扶桑略記〕。 | | | 承暦2年(1078)～康和5年(1103)興福寺再建。 |
| | | 1086 白河 | 嘉保2年(1095)5.10法勝寺別当覚円の房の地に、法勝寺御所(泉殿又は白河南殿)として造営〔中右記〕。 | | | 応徳3年(1086)白河上皇、院政開始。 寛治元年(1087)鳥羽殿造営。この頃から鳥羽殿の地割が施工されたと推定できる。 |
| | | 1107 鳥羽 | 康和4年(1102)7.21尊勝寺供養〔中右記〕。 永久2年(1114)11.29南殿西側に蓮華藏院供養〔中右記〕。 永久6年(1118)2.21尊勝寺東辺で最勝寺造営開始〔中右記〕、同年(元永元年)12.17供養〔帝王編年記〕。 元永元年(1118)7.10南殿に北接して北新御所(白河北殿)造営〔中右記〕。 保安3年(1122)12.15法勝寺小塔院供養〔百練抄〕。 | 天治2年(1125)8.3に木作り始め〔永昌記〕 大治元年(1126)3.7御塔(三重塔)〔永昌記〕、翌年1.12五重塔、同年3.19に西塔供養〔中右記〕。 | | この頃、鴨川東に貴賤の邸宅が進出〔本朝世紀〕。 |
| | | 1123 崇徳 | 大治2年(1127)7.10白河殿の地割が神楽坂まで拡大された〔鯨珠記〕。 大治4年(1129)11.29証菩提院供養〔百練抄〕。 天承2年(1132)3.13得長寿院観音堂供養〔中右記〕。 | 大治3年(1128)3.13金堂・五大堂など供養〔圓勝寺供養呪願文・帝王編年記〕。 大治5年(1130)12.26御堂(六時堂)供養〔長秋記〕。 | | 大治4年(1129)鳥羽上皇、院政開始。 大治5年(1130)10.25待賢門院法金剛院造営。 |
| | | 1141 近衛 | 保延7年(1141)2.21歎喜光院御堂など供養〔元亨釈書〕。 康治3年(1144)頃白河押小路殿造営〔台記〕。 久安5年(1149)3.20延勝寺供養〔本朝世紀〕。 | | 保延5年(1139)10.26金堂・東西軒廊・東西廻廊・経蔵・鐘楼・南大門・北門・東西門供養〔百練抄・成勝寺供養式〕。 | |
| | 1155 後白河 | 仁平元年(1151)6.13福勝院供養〔百練抄〕。 保元元年(1156)7.11保元の乱により白河北殿焼亡〔兵範記〕。 | | この頃、五大堂・観音堂・総社・宝蔵、境内に政所・修理所が見られる〔成勝寺年中相折帳〕。 | 久寿元年(1154)鳥羽金剛心院造営。 久寿2年(1155)醍醐柘杜堂(大藏卿堂)造営。 保元元年(1156)保元の乱。 | |

| 時期 | 天皇 | 上皇 | 白河殿関連 | 円勝寺 | 成勝寺 | 関連事項 |
|--------|----------------|-------------|--|--|---|---|
| 平安時代後期 | 1158 二条 | 1158 後白河 | <p>仁安2年(1167)6.16法勝寺御所内の不動堂供養、塔に落雷〔百練抄〕。</p> <p>元暦2年(1185)7.9地震により、法勝寺・尊勝寺・円勝寺・最勝寺・得長寿院などが被害を受ける〔玉葉〕。</p> | <p>元暦2年(1185)7.9地震により、築地・中塔九輪破損〔吉記〕。</p> | <p>仁安3年(1168)3.25鐘楼焼亡〔百練抄〕。 治承元年(1177)8.22御八講あり〔玉葉〕。</p> | <p>保元2年(1157)信西による大内裏修造。</p> <p>永暦2年(1161)法住寺殿造営、3年後に蓮華王院供養。この頃から法住寺殿の地割が施工されたと推定できる。 承安3年(1173)最勝光院造営。</p> |
| | 1165 六条 | 1180 安德 | | | | |
| 鎌倉時代 | 1185 後鳥羽 | 1198 後鳥羽 | <p>承元2年(1208)5.15落雷の為法勝寺塔焼亡〔百練抄〕。 健保元年(1213)4.26榮西により塔再建〔元亨釈書・明月記〕。</p> <p>承久元年(1219)11.27白河殿辺から出火、延勝寺・成勝寺・最勝寺・証菩提院など焼亡〔百練抄〕。</p> <p>元仁2年(1225)9.2延勝寺の堂宇焼亡〔百練抄〕。 宝治元年(1247)8.28法勝寺阿弥陀堂焼亡、建長5年(1253)12.3再建〔百練抄〕。</p> <p>正和3年(1314)2.14尊勝寺・最勝寺焼亡〔花園天皇宸記〕。 元弘3年(1333)3.28尊勝寺南北朝の乱で全焼〔太平記〕。 暦応5年(1342)3.20法勝寺金堂・塔など焼亡〔続史愚抄〕。</p> | <p>建久9年(1198)1.11修正会あり〔明月記〕。</p> <p>承久元年(1219)4.2金堂・塔3基・鐘楼・西門焼亡〔百練抄〕。</p> <p>天福2年(1234)6.29御仏修理〔真経寺経裏文書〕。</p> <p>延文3年(1358)11.18に年貢納入〔美吉文書〕。</p> | <p>文治2年(1186)6.29後白河が成勝寺の修造を諸国に課し、源頼朝が奉ずる〔吾妻鏡〕。 建久4年(1193)8.6御八講あり〔壬生家文書〕。 建久6年(1195)6.9台風で南大門倒壊〔玉葉〕。</p> <p>承久元年(1219)11.27白河殿辺りから出火、金堂・塔焼亡〔百練抄〕。</p> <p>仁治3年(1242)4.29御八講あり〔平戸記〕。 弘安10年(1287)7.19、周防国田布施関係文書あり〔美吉文書〕。</p> | <p>文治元年(1185)平氏滅ぶ。頼朝諸国に守護地頭設置。建久3年(1192)源頼朝鎌倉幕府設置。 建久6年(1195)重源東大寺再建。</p> <p>建久9年(1198)後鳥羽上皇、院政開始。 建仁2年(1202)建仁寺造営。</p> <p>承久3年(1221)承久の乱。嘉禄3年(1227)東大寺東塔廊瓦作成。安貞元年(1227)内裏未完成のまま焼亡、大内裏廃絶。 建長5年(1253)六波羅探題府設置。 13世紀後半頃、大覚寺御所造営。</p> <p>元弘3年(1333)鎌倉幕府滅亡。 建武3年(1336)室町幕府設置。</p> |
| | 1198 土御門 | | | | | |
| | 1210 順徳 | | | | | |
| | 1221 仲恭・後堀河 | | | | | |
| | 室町時代 | | | | | |

※ゴチックは主要事項

細は不明である。

元暦二年（1185）七月九日の地震により、築垣と中塔の九輪が破損した〔『吉記』〕。建久九年（1198）正月十一日に修正会が執行される〔『明月記』〕。承久元年（1219）四月二日の火災では、塔三基・鐘楼・西門が焼失し〔『百練抄』〕、これ以降記録が減少しており、衰退したと推定できる。天福二年（1234）六月二十九日の書状によると〔『真経寺経裏文書』〕、この頃御仏の修理が行われるが、堂宇の再建状況は不明である。延文三年（1358）十一月十八日に駿河国益頭庄から年貢が納入され〔『美吉文書』〕、室町時代中頃まで寺が存続したことがわかる。

成勝寺の歴史 成勝寺は崇徳天皇の御願で、金堂（七間四面）・東西軒廊・東西廻廊・経蔵・鐘楼・南大門・北門・東西門の落慶供養が保延五年（1139）十月二十六日に行われた〔『百練抄』、『成勝寺供養次第』、『成勝寺供養式』〕。また、『成勝寺年中相折帳』〔書陵部所蔵、祈雨法御書裏文書〕には、金堂の他に観音堂・五大堂・惣社・宝蔵があり、政所・修理所も見られる。

寺域は、『明月記』建暦二年（1213）十月四日条に「三条東行、延勝寺南門大路北行、件南門前東折、自成勝寺西出二条、尊勝寺南大門前東行、同寺東大路北行、自最勝寺北拋法勝寺北自」とあり、南辺が押小路末、西辺が尊勝寺南大門南側の南北街路、北辺は二条大路末に面したことが知られる。このことから、寺域南北幅は1町、東西幅も1町と推定されるが〔福山1975・杉山1991〕、位置は現京都府立図書館付近とした説〔福山1975〕と旧勸業館（現 みやこめっせ）付近とした説〔杉山1991〕がある。寺域内建物配置の詳細は不明である。

その後、仁安三年（1168）三月二十五日に鐘楼が焼失した〔『百練抄』〕。治承元年（1177）八月二十二日に御八講が執り行われる〔『百練抄』〕。また、文治二年（1186）六月二十九日に「天下静謐之御祈」のために後白河上皇が成勝寺修造を諸国に課して、源頼朝がこれを受ける〔『吾妻鏡』〕。建久六年（1195）六月九日に台風により南大門が倒壊した〔『玉葉』〕。承久元年（1219）十一月二十七日に、白河殿辺りからの出火で、他寺院と共に金堂・塔が焼失し〔『百練抄』〕、これ以降記録が減少しており衰退したと推定できる。

仁治三年（1242）四月二十九日に御八講が執行され〔『平戸記』〕、弘安十年（1287）七月十九日に周防国田布施関係〔『美吉文書』〕、永享八年（1436）に高野山領筑前国粥田庄から年貢がおさめられ〔『金剛三昧院文書』〕、室町時代中頃まで寺が存続している。

（2）周辺の調査（図7、表2）

岡崎遺跡・白河街区跡・六勝寺跡は、範囲が広く調査例も多いことから、ここでは調査地である円勝寺跡・成勝寺跡とその周辺で実施されている主な調査を以下に示す。

弥生時代から古墳時代 白川は、北東の東山と西の鴨川との間に広い扇状地を形成し、北東から南西方向に低い地形に沿って流れていく。この流れは幾筋にも分かれていたようで、弥生時代から古墳時代の遺物を含む自然流路が各所で検出されている（調査2・3・5・6・9・12・14）。集落跡である岡崎遺跡では、方形周溝墓・竪穴建物・掘立柱建物・ピット群・古墳など多くの遺構が検出されている。調査7・8では弥生時代から古墳時代初頭の方形周溝墓が10基検出されてい

る。竪穴建物は、弥生時代後期のものが1棟（調査9）、古墳時代後期のものが7棟（調査7・9）検出されている。また、掘立柱建物は、古墳時代後期のものが1棟（調査9）検出されている。また、古墳2基（調査12）が検出されたことも重要な成果である。

平安時代 白河街区跡・六勝寺跡の発掘調査は、1959年の尊勝寺跡の調査（調査3）が最初で、その後、法勝寺・最勝寺・延勝寺・円勝寺・成勝寺などの推定地で調査が実施されており、白河街区跡の地割や各寺院の寺域などが明らかになりつつある。

尊勝寺の推定地では、平安時代後期の建物基壇・礎石据付穴・石組雨落溝・南北溝・瓦溜・土坑・段差・整地層など多くの遺構が検出されており、最勝寺との間の道路路面・西側溝も検出された（調査1～3）。出土した遺物には、平安時代後期の瓦・土製円塔・磁器・瓦器・土師器・種子類がある。伽藍配置や寺域の復元が最も進んでいる。

円勝寺の推定地では、平安時代から鎌倉時代の礎石据付穴・掘立柱建物・南北方向築地掘形・雨落溝などが検出されている（調査14）。いずれも円勝寺に関連する遺構とみられるが、寺域や建物を復元できるまでには至っていない。

成勝寺の推定地では、平安時代後期の井戸13基・東西溝・南北溝・南北方向段差・整地層・土器溜などが検出されている（調査7・8・10・11）。また、平安時代末から鎌倉時代の掘立柱建物4棟・ピット群・井戸3基・土坑・溝なども検出されている（調査9）。多くの遺構が検出されて

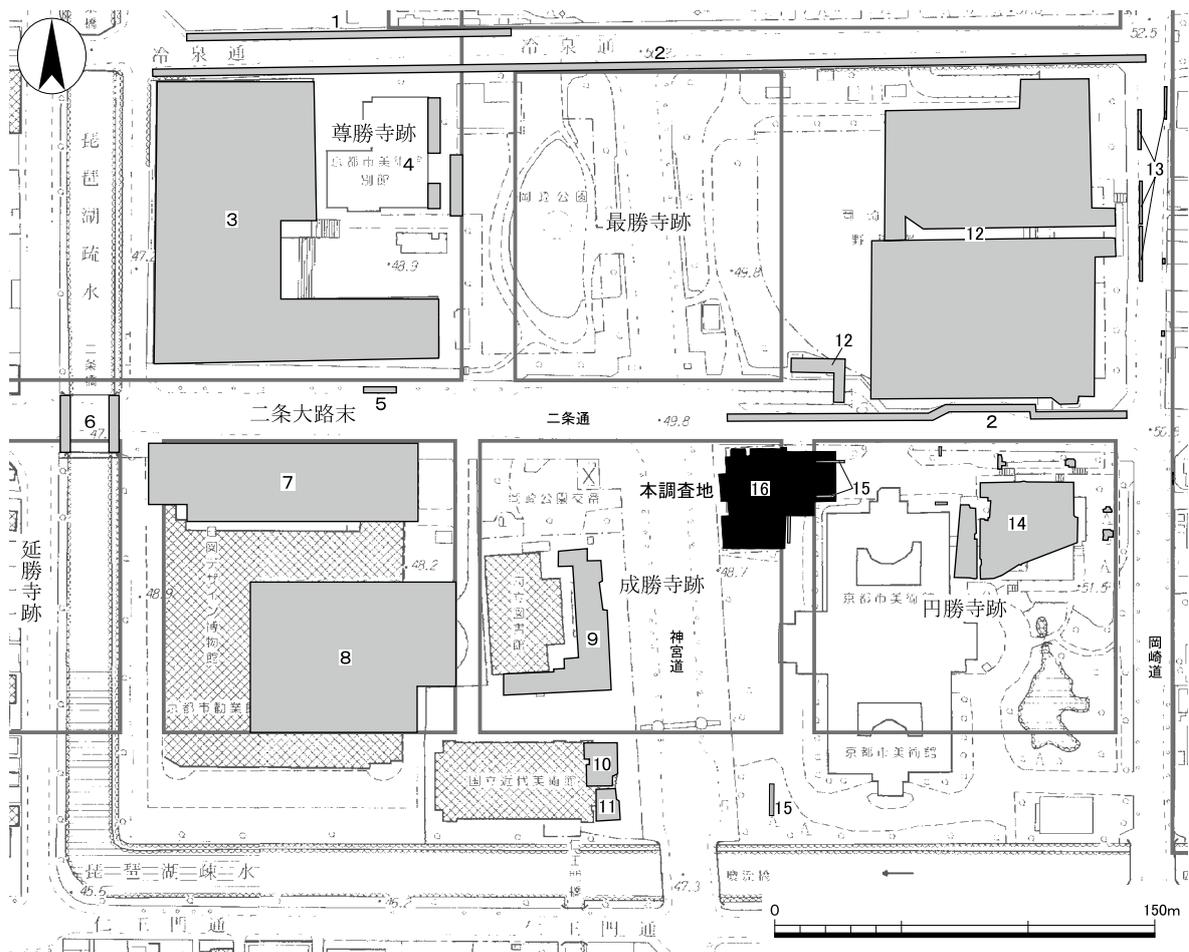


図7 周辺調査位置図（1：3,000）

表2 周辺調査一覧表

| No. | 遺跡名 | 調査方法 | 調査年度 | 調査概要 | 調査組織 | 文献番号 |
|-----|----------------|------|--------------|---|------|------|
| 1 | 尊勝寺跡・岡崎遺跡 | 発掘立会 | 1996 | 平安後期の瓦溜、石組雨落溝。時期不明の落込、土坑状遺構。 | 研究所 | 1 |
| 2 | 尊勝寺跡・岡崎遺跡 | 発掘立会 | 1995 | 古墳の流路。平安後期の南北溝、瓦溜、土坑、基壇、石組雨落溝、礎石据付穴、落込。江戸の南北溝、土坑、柱穴。時期不明の南北溝、段差、土坑。平安後期の最勝寺西限築地、最勝寺と尊勝寺間の道路路面、西側溝、尊勝寺内建物基壇・雨落溝、瓦溜、整地層、土坑。 | 研究所 | 2 |
| 3 | 尊勝寺跡・岡崎遺跡 | 発掘 | 1959 | 建物・溝・土坑など。平安後期の瓦多量・土製円塔・磁器・瓦器・土師器・種子類、平安以前の石器・須恵器。 | 奈文研 | 3 |
| 4 | 尊勝寺跡・岡崎遺跡 | 試掘 | 1988 | 弥生～古墳の遺物包含層。平安後期の整地層、柱穴。中世～近世の土坑、柱穴、溝。 | 研究所 | 4 |
| 5 | 尊勝寺跡・岡崎遺跡 | 試掘 | 1997 | 弥生後期の遺物包含層(流路)。平安後期の路面状遺構、土坑。中世・近世の遺物包含層。 | 研究所 | 5 |
| 6 | 延勝寺跡・岡崎遺跡 | 立会 | 1997 | 弥生の流路。平安～鎌倉の土坑。 | 研究所 | 6 |
| 7 | 白河街区跡・岡崎遺跡 | 発掘 | 1992 | 平安神宮火山灰層(AT)。弥生～古墳の方形周溝墓7基。古墳後期の堅穴建物2棟。平安後期の井戸12基、東西溝、南北溝、南北柵列。江戸後期の建物、柵列、井戸。 | 研究所 | 7 |
| 8 | 白河街区跡・岡崎遺跡 | 発掘 | 1992 | 弥生後期の方形周溝墓2基。平安の自然流路。平安後期の南北溝、南北方向段差、整地層、土器溜。中世のビット(礎石)。近世～近代の耕作溝、井戸、掘立柱建物。 | 研究所 | 7 |
| 9 | 成勝寺跡・岡崎遺跡 | 発掘 | 1998 | 弥生後期の堅穴建物1棟。古墳後期の堅穴建物5棟、掘立柱建物1棟、柱穴群。平安末～鎌倉の掘立柱建物4棟、柱穴群、井戸3基、土坑、溝。弥生以降の自然流路。 | 府埋セ | 8 |
| 10 | 白河街区跡・岡崎遺跡 | 発掘 | 1983 | 平安後期の溝、池状遺構。 | 研究所 | 9 |
| 11 | 白河街区跡・岡崎遺跡 | 発掘 | 1983 | 平安後期の溝、井戸。 | 研究所 | 10 |
| 12 | 白河街区跡・岡崎遺跡 | 発掘 | 1991 1992 | 平安神宮火山灰層(AT)。弥生～古墳の自然流路(庄内式)。古墳2基。平安後期の東西方向地業跡2基、東西溝、南北溝。 | 研究所 | 11 |
| 13 | 白河街区跡・岡崎遺跡 | 発掘 | 2005 | 古墳前期の土坑。 | 研究所 | 12 |
| 14 | 円勝寺跡・岡崎遺跡 | 発掘 | 1970 | 弥生～古墳の自然流路。平安～鎌倉の礎石据付穴、掘立柱建物、南北方向築地掘形、雨落溝。 | 調査団 | 13 |
| 15 | 円勝寺跡・成勝寺跡・岡崎遺跡 | 試掘 | 2014 | 弥生～古墳の遺物包含層。平安後期の遺物包含層。中世の遺物包含層。近世の遺物包含層。 | 保護課 | 14 |
| 16 | 円勝寺跡・成勝寺跡・岡崎遺跡 | 発掘 | 2014 | 平安神宮火山灰層(AT)。弥生～古墳の溝、柱穴群。弥生～古墳後期の湿地。平安後期の井戸8基、南北方向溝、東西方向地業跡2基、柱列。室町以降の耕作溝。江戸末の東西方向堀、柵、井戸、土坑。 | 研究所 | 本報告 |

*調査組織の表記は以下の様に略した。

研究所：(財)京都市埋蔵文化財研究所・(公財)京都市埋蔵文化財研究所、奈文研：奈良国立文化財研究所、府埋セ：(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、調査団：円勝寺発掘調査団、保護課：京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

いるが、中心伽藍に関連する遺構は不明である。

最勝寺の推定地では、平安時代後期の最勝寺西限築地、尊勝寺との間の道路路面、東西方向地業・東西溝・南北溝が検出されている(調査2・12)。検出された南北溝の位置から、法勝寺の一町おいて西の位置が寺域と考えられている。

二条大路末の推定地では、平安時代後期の路面状遺構、土坑が検出されている(調査5)。確実に道路側溝と考えられる遺構が検出されていないため道路幅は不明である。

中世以降 当該期の遺構としては、井戸・掘立柱建物・南北溝・礎石・柱穴・土坑・溝・耕作溝などが検出されている(調査2・8)。耕作溝以外の遺構密度は希薄になる傾向にある。

参考文献

福山1975：福山敏男「白河院と法勝寺の歴史」『法勝寺跡 京都市埋蔵文化財年次報告1974－II』京都市文化観光局文化財保護課 1975年

杉山1991：杉山信三『六勝寺と白河』講演会資料 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年

上村1999：上村和直「平安京と白河」『条里制・古代都市研究』通巻15号 同研究会 1999年

『地図で読む 京都岡崎年代史』京都岡崎魅力づくり推進協議会 2012年

文献（表2 周辺調査一覧表 の文献番号に一致する）

- 1 「最勝寺跡・最勝寺跡2」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1998年
- 2 「六勝寺跡・岡崎遺跡」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 3 「尊勝寺跡発掘調査報告」『奈良国立文化財研究所学報第十冊 平城京跡第一次飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告』奈良国立文化財研究所 1961年
- 4 「尊勝寺跡・岡崎遺跡」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 5 「六勝寺跡」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 6 「岡崎遺跡・延勝寺跡（97KS82）」『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』京都市文化市民局 1999年
- 7 「成勝寺跡」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 8 「成勝寺跡・岡崎遺跡」『京都府遺跡調査概報』第86冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1999年
- 9 「成勝寺跡」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 10 「成勝寺跡」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1985年
- 11 「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 12 『白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005－9 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005年
- 13 円勝寺発掘調査団「円勝寺の発掘調査（上・下）」『佛教藝術』82・84号 毎日新聞社 1970・1972年
- 14 「法勝寺跡・岡崎遺跡 No.11」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図8)

調査区の調査前地表面の標高は、北側が約49.50m、南側が49.40mで、ほぼ平坦である。中世以下の遺構面において近現代の攪乱はほとんどなく、遺構の残存状況は良好であった。調査区北側では、地山上面ですべての遺構が成立する。南側では縄文時代から古墳時代の遺物が出土する湿地の上に平安時代から鎌倉時代の整地層があり、その整地層の上面で平安時代から江戸時代の遺構を検出した。第1面を室町時代から江戸時代、第2面を平安時代から鎌倉時代、第3面を弥生時代から古墳時代として調査を行った。

西壁 (X=-109,424) 地表から約1mまでが現代盛土である。第2層は近世以降の耕作土1、第3層は室町時代の耕作土2である。第4層はいわゆる白川砂と呼ばれる暗黄褐色粗砂の地山層で、この層に切り込んで第1面の耕作溝、第2面の井戸・柱穴・溝、第3面の溝や湿地などの遺構を検出した。

南壁 (Y=-19,795) 地表から約1.1mまでが現代盛土層、第2層は近世以降の耕作土1、第3層は室町時代の耕作土2で、西壁と同様の堆積である。第4層は平安時代後期の整地層で、この層に切り込んで第1面の中世から近世の耕作溝、第2面の溝や井戸・柱穴などの遺構を検出した。第5層は縄文時代から古墳時代の遺物が出土する湿地、第6層は灰白色粘土の地山層である。

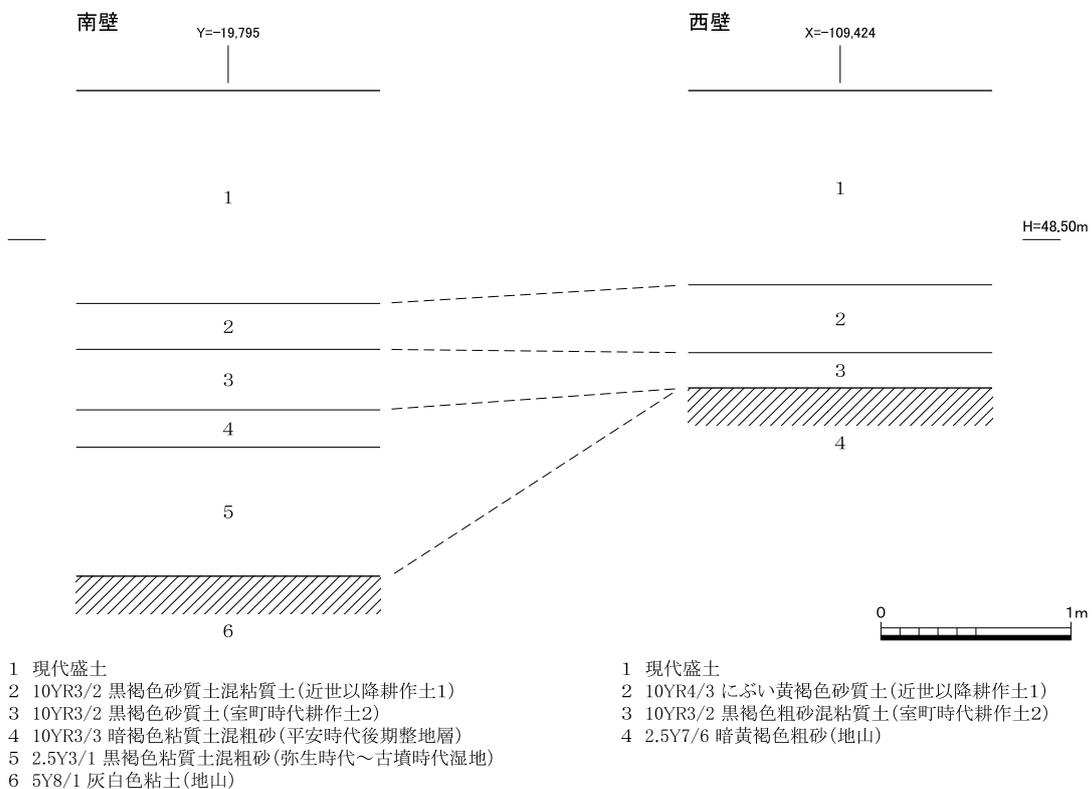


図8 基本層位図 (1 : 40)

火山灰層 調査区の南壁・北壁・中央南部のいわゆる地山層を重機で部分的に掘り下げ、断面観察を行った。北壁では、地表下約3.1m（標高46.6m）で始良Tn（AT）火山灰層（厚さ約0.3m）を確認した。付章にて詳細を報告する。

（２）検出遺構の概要

今回の調査で検出した遺構の時期は、弥生時代から古墳時代、平安時代後期から鎌倉時代、室町時代から江戸時代後半、江戸時代末以降に分けられる。平安時代後期の遺構が大半を占め、次いで室町時代以降の耕作関連溝が多数ある。平安時代前期から中期の遺構は少ない。弥生時代から古墳時代の岡崎遺跡に関連する遺構には溝や湿地などがあった。

第1面では、室町時代から江戸時代の遺構の調査を行った。江戸時代末の遺構には、東西方向の堀27、井戸47、土坑78、柱列21・22などがある。室町時代から江戸時代後期の遺構には、溝41・113・133・529などをはじめとした多くの耕作関連溝があるが、耕作溝以外の遺構は室町時代の井戸576のみで希薄である。本報告では、土器など出土遺物の検討や層位の検討により、第1面の江戸時代末以降の遺構と室町時代から江戸時代後期の遺構とに分類したため、前者を第1面1期、後者を第1面2期として遺構平面図を作成した。

第2面では、平安時代後期から鎌倉時代の遺構の調査を行った。主な遺構には、寺域の区画を示すとみられる東西溝627・628、南北溝302・326・327、地業193・195、東西・南北柱列のほか、井戸335・374・420・466・470・629・775、土坑412・444・480・706、柱穴など多くの遺構がある。

第3面では、弥生時代から古墳時代の遺構の調査を行った。調査区の南東側で、縄文時代から古墳時代後期の遺物が出土する大規模な湿地460を検出した。湿地460の西側は陸部となり、北から南西に向かう弧状の古墳時代初期の溝459を検出した。

以下、時代の古い順に各遺構面に分けて遺構を報告する。

表3 遺構概要表

| 時 代 | 遺 構 |
|------------------------|---|
| 弥生時代～古墳時代 (第3面) | 土坑263、溝459、湿地460 |
| 平安時代後期～鎌倉時代 (第2面) | 柱列1～20、柱穴304・339・340・458・485・580、溝302・326・327・627・628、地業193・195、井戸335・374・420・466・470・629・775、土坑200・213・319・412・436・444・464・465・471・480・637・706・726 |
| 室町時代～江戸時代後半 (第1面2期) | 溝31・41・50・113・130・133・176・495・500・503・506・509・523・529、井戸576 |
| 江戸時代末以降 (第1面1期) | 橋1、堀27、井戸47・555、土坑38・78・151、柱列21・22、土坑列1・2 |

(3) 検出遺構

1) 第3面の遺構 (図版1・57)

調査区の東側に大規模な湿地460が広がり、西側は陸部となる。その境に沿って、北から南西に向かう弧状の溝459が巡っている。調査区の南西隅では、土坑を検出している。

湿地460 (図9・10) 調査区の東半部に位置する湿地である。調査区の北東から南西に向かって広がる。東西幅44m以上、深さ0.3~1.5mある。調査区外の北東と南西方向に延びる。北東部は深さ0.5mと浅くなり、南西部分が深さ1.5mと最も深くなる。埋土は黒褐色砂泥が主体で、南西部では特に木の葉などの植物遺体を多く含む。植物遺体の堆積状態から、流れはほとんどなく水が溜まっていた状態がわかる。

上層で古墳時代の土師器・須恵器(212~239)、上層から下層で弥生時代後期から古墳時代初頭の土器(16~64)、土錘(土2)、縄文土器(1~15)が出土した。下層から腰掛とみられる木製品(木1)も出土している。

溝459 (図版10~13、図9) 調査区中央から西半部に位置する溝である。調査区の北端中央から南西隅に向かって弧状に延び、断面形は逆台形を呈する。幅2.2~2.7m、深さ0.5~0.7mある。約42m分を検出した。調査区外の北と南西方向に延びる。埋土は黒褐色砂泥が主体で、炭を含む。埋土下層からは、多量の古墳時代初頭の土器(65~211)や土錘(土1・3)が出土した。土器類は庄内式併行期に属する。溝が弧状を描くことや断面の形状から人工的に掘削された溝と考えられる。

土坑263 調査区の南西隅に位置する土坑である。溝459を切って成立する。平面形は円形とみられる。断面形は、下半部が広がる袋状を呈することから、貯蔵穴の可能性が考えられる。東西1.5m以上、南北約1.8m、深さ0.7mある。埋土は上層が暗褐色砂質土、下層

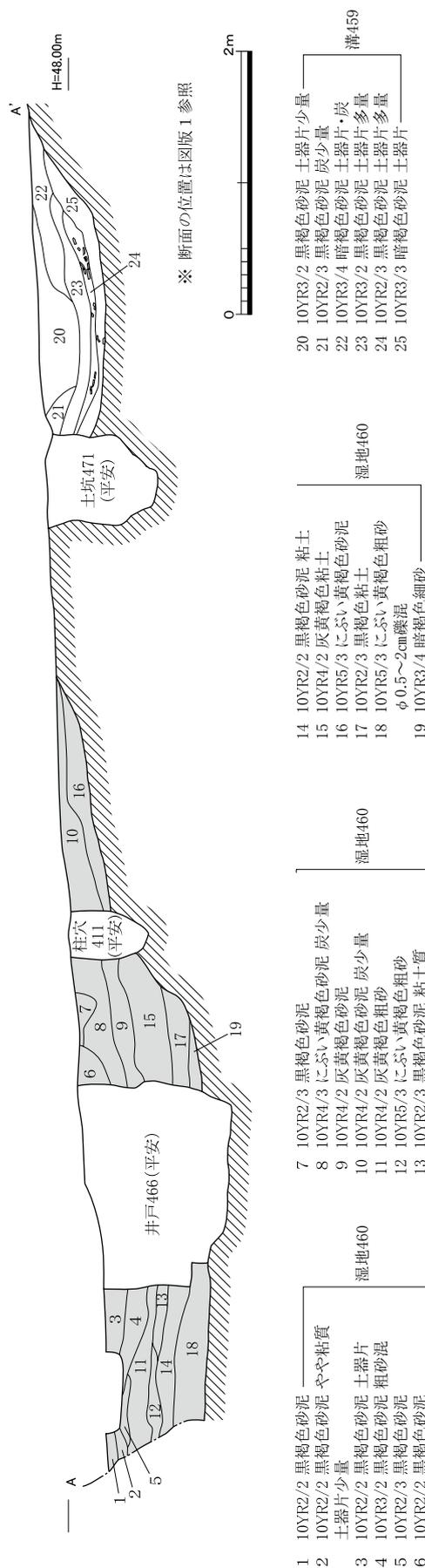
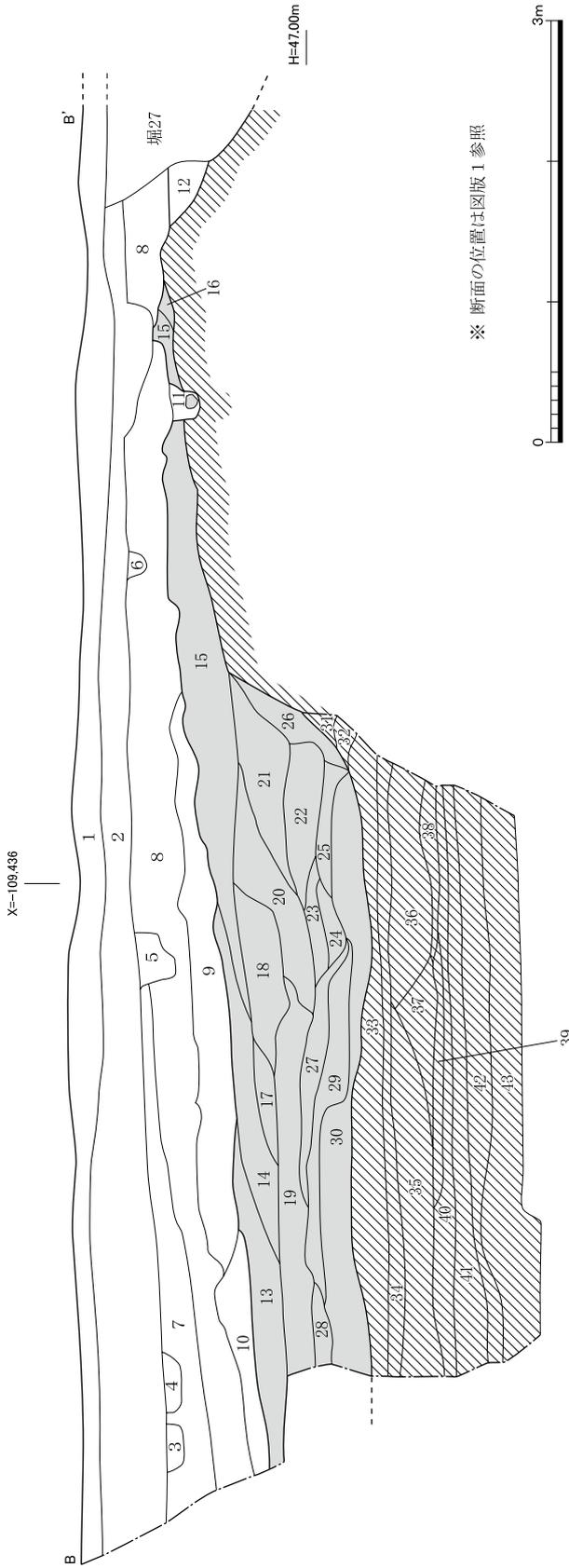


図9 溝459・湿地460断面図 (1:50)



- | | | |
|----|--------------------------------------|-------|
| 1 | 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 上面2.5Y7/4 浅黄色中砂 配管掘形 | 中世耕作土 |
| 2 | 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥 土器微量 | |
| 3 | 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 | 耕作溝 |
| 4 | 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 | |
| 5 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂～中砂 | 平安整地 |
| 6 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂～中砂 | |
| 7 | 10YR2/3 黒褐色砂泥 | 溝459 |
| 8 | 10YR2/2 黒褐色砂泥 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 斑状に混 | |
| 9 | 2.5Y3/1 黒褐色砂泥 2.5Y3/2 黒褐色シルトブロック少量混 | 湿地460 |
| 10 | 10YR2/1 黒色泥砂(上部) 7.5YR2/1 黒色粘土(下部) | |
| 11 | 10YR4/6 褐色砂泥・ブロック・5Y4/1 灰色シルトブロック少量混 | |
| 12 | 10YR2/3 黒褐色砂泥 | |
| 13 | 10YR2/1 黒色中砂 10YR1.7/1 黒色砂泥・ブロック混 | |
| 14 | 2.5Y3/2 黒褐色中砂～粗砂 | |
| 15 | 10YR3/2 黒褐色砂泥 | |
| 16 | 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色泥砂 | |
| 17 | 10YR2/3 黒褐色シルト | |
| 18 | 10YR3/3 暗褐色砂泥 | |
| 19 | 10YR2/3 黒褐色砂泥 10YR4/3 にふい黄褐色粗砂ブロック混 | |
| 20 | 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 | |
| 21 | 10YR3/3 暗褐色砂泥 | |
| 22 | 10YR3/4 暗褐色砂泥 | |
| 23 | 10YR2/3 黒褐色砂泥 やや粘質 | |
| 24 | 10YR2/2 黒褐色砂泥 粘質 | |
| 25 | 10YR2/3 黒褐色砂泥 粘質 | |
| 26 | 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂 10YR3/2 黒褐色砂泥 | |
| 27 | 10YR3/2 黒褐色砂泥 | |
| 28 | 10YR2/3 黒褐色砂泥 | |
| 29 | 10YR5/3 にふい黄褐色 粗砂 | |
| 30 | 7.5YR2/2 黒褐色砂泥 やや粘質 | |
| 31 | 5Y6/1 灰色シルト | |
| 32 | 7.5YR6/8 橙色粗砂 | |
| 33 | 5Y6/2 灰オリーブ色粗砂 | |
| 34 | 5Y6/3 オリーブ黄色粘土 | |
| 35 | 2.5Y7/2 灰黄色粗砂 | |
| 36 | 5Y7/2 灰白色粗砂 | |
| 37 | 10YR6/8 明黄褐色粗砂 | |
| 38 | 2.5Y7/2 灰黄色シルト | |
| 39 | 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂 | |
| 40 | 10YR6/8 明黄褐色粗砂 | |
| 41 | 10YR5/8 黄褐色シルト(火山灰) | |
| 42 | 10YR2/1 黒色粘土 | |
| 43 | 10YR3/1 黒褐色粘土 | |

図10 湿地460断面図 (1 : 50)

は黒褐色粘質土で、ともに炭を少量含む。土師器・須恵器が出土した。後世の土地造成に伴って著しく削平されているが、竪穴建物に伴う貯蔵穴であった可能性がある。

2) 第2面の遺構 (図版2・3・59)

調査区東半に基本層序の南壁第4層にあたる平安時代後期の整地層が広がる。厚さは0.05～0.4mある。特に湿地460の軟弱な土壌の上には厚く整地しているようである。この上面で溝326・327・627・628、井戸335・374・420・466・470・629・775、地業193・195、東西・南北柱列、井戸420・466・470・629・775、柱穴など多くの遺構が成立する。この整地により溝327の東側が西

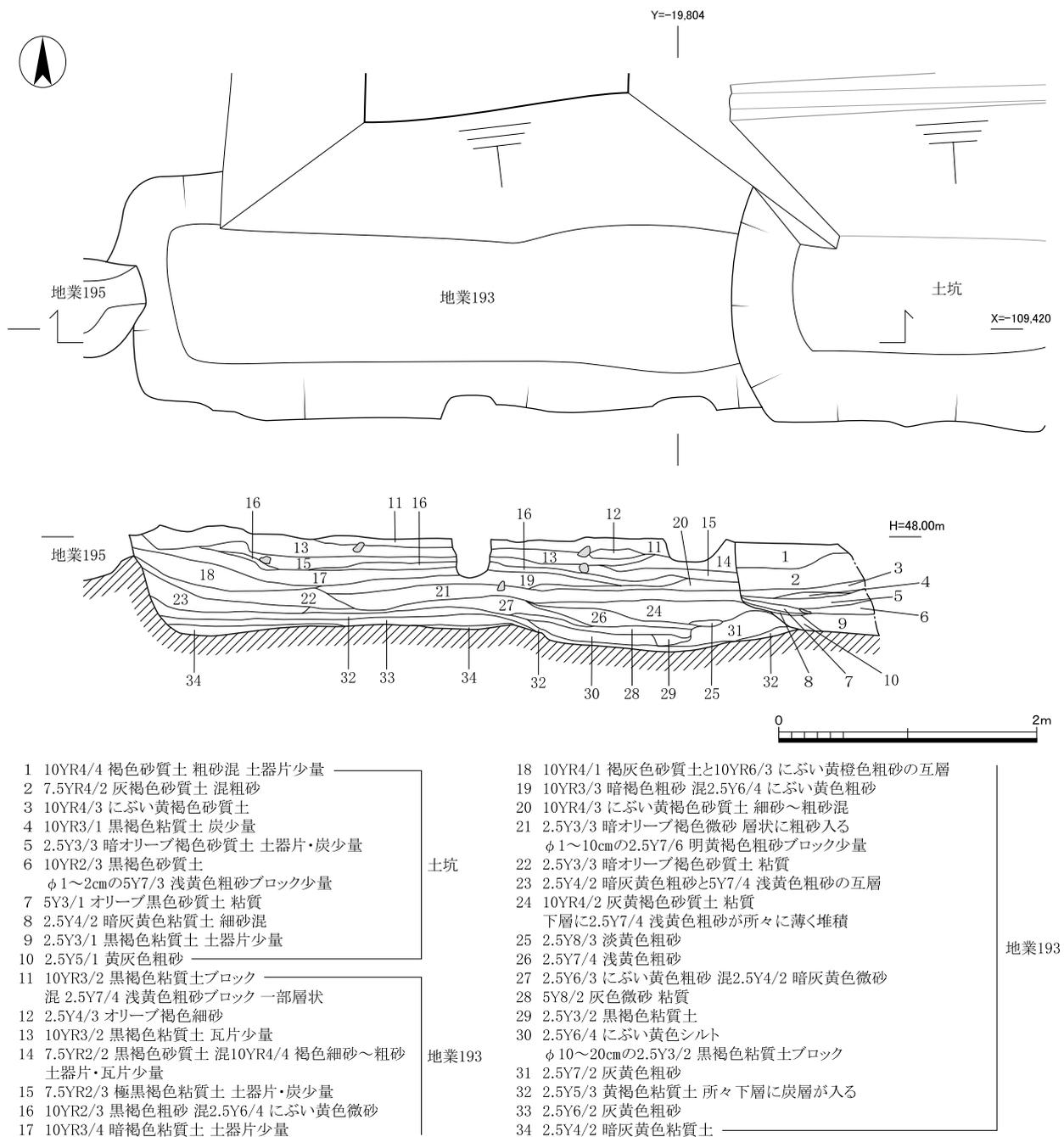


図11 地業193実測図 (1:50)

側に比べて約0.3m高くなっている。

地業193(図11) 調査区の北西部に位置する平面形が隅丸長方形の地業である。東西5.2m、南北1.9m、深さ0.7～0.9mある。地山のいわゆる白川砂をほぼ垂直に掘り込んで成立する。埋土は、黒褐色粘質土層や暗褐色粗砂層を主体とした20層以上の層からなり、版築状の堆積をしている。各層の厚さは5～15cmあり、10cm前後の厚さが多く、突き固めながら埋め戻している状態がわかる。東側を土坑に切られ、西側で東西方向の地業195を切る。断面で東側の土坑も版築状の堆積が確認できたため、地業193・195と一連の遺構である可能性がある。京都V期中段階の土器(303～308)、軒瓦(瓦110・195・220)が出土した。

地業195(図版8) 調査区の北西部に位置する東西方向の溝状の地業である。幅約0.7m、深さ約0.6mある。東西2.8m分を検出した。断面形はU字形を呈し、さらに調査区外の西方向に延びる。東側は東西方向の地業193に切られる。埋土は、暗褐色中砂層や黒褐色泥砂層を主体とした7層からなり、版築状の堆積をしている。各層の厚さは5～10cmあり、突き固めながら埋め戻している状態がわかる。埋土は上層が暗褐色中砂、下層はオリーブ褐色中砂である。京都V期中段階の土器(309～313)が出土した。

溝326(図版60、図12) 調査区の中央西寄りに位置する南北方向の溝である。溝327と重複し、同一の溝で溝326が新段階、溝327が古段階と考えられる。溝326は、幅1.6～1.9m、深さ0.5～0.8mある。北側で西に1.2°振る傾きを持つ。約35m分を検出した。溝の西肩に杭を打ち込み、石を並べるなどして護岸している。北端で後述する東西溝627の新段階と直交しつなると考えられる。接続部の西肩に0.4m大の石を並べて護岸する。南はさらに調査区外に延びる。埋土は黒褐色砂泥が主体で、下層には砂を多く含んでいることから、当初は水が流れていたことがわかる。京都V期新段階からVI期古段階の土器(340～348)、軒瓦(瓦4・7・159・165など58点)が出土した。

溝327(図版61、図12) 調査区の中央西寄りに位置する南北方向溝である。上述した溝326古段階の溝である。幅3.2～4.2m、深さ0.7～1.1mある。北側で西に1.5°振る傾きを持つ。約37m分を検出した。北端で後述する東西溝627の旧段階と直交しつなると考えられる。接続部の西肩に0.5m大の石を並べて護岸する。後述する東西溝628を切り、西肩を南北溝302に切られる。この溝の東側は、整地により西側より0.3m高くなり、溝を境として土地が雛壇状になっている。断面観察では、主に東側から瓦が溝に投入されている様子が見られる。溝はさらに調査区外の南方向に延びる。埋土は黒褐色砂泥が主体で、灰黄褐色泥砂を部分的に含む部分がある。京都V期新段階からVI期古段階の土器(323～339)、軒瓦(瓦8・16・153・155など263点)、土製円塔(土4・6・9・10)、石製帯飾り具(石1)が出土した。

溝302(図12) 調査区の中央西寄りに位置する南北方向溝である。南北溝327の西肩部を切る。東西幅は1.7～2.1m、深さは0.2～0.3mある。北側で東に1.6°振る傾きを持つ。約26m分を検出した。埋土は黒褐色砂泥が主体で、地山のいぶい黄褐色粗砂が混じる。下層に粗砂や砂を含むことから水が流れていたことがわかる。溝326の廃絶後に新たに排水溝として、掘削された可能性がある。

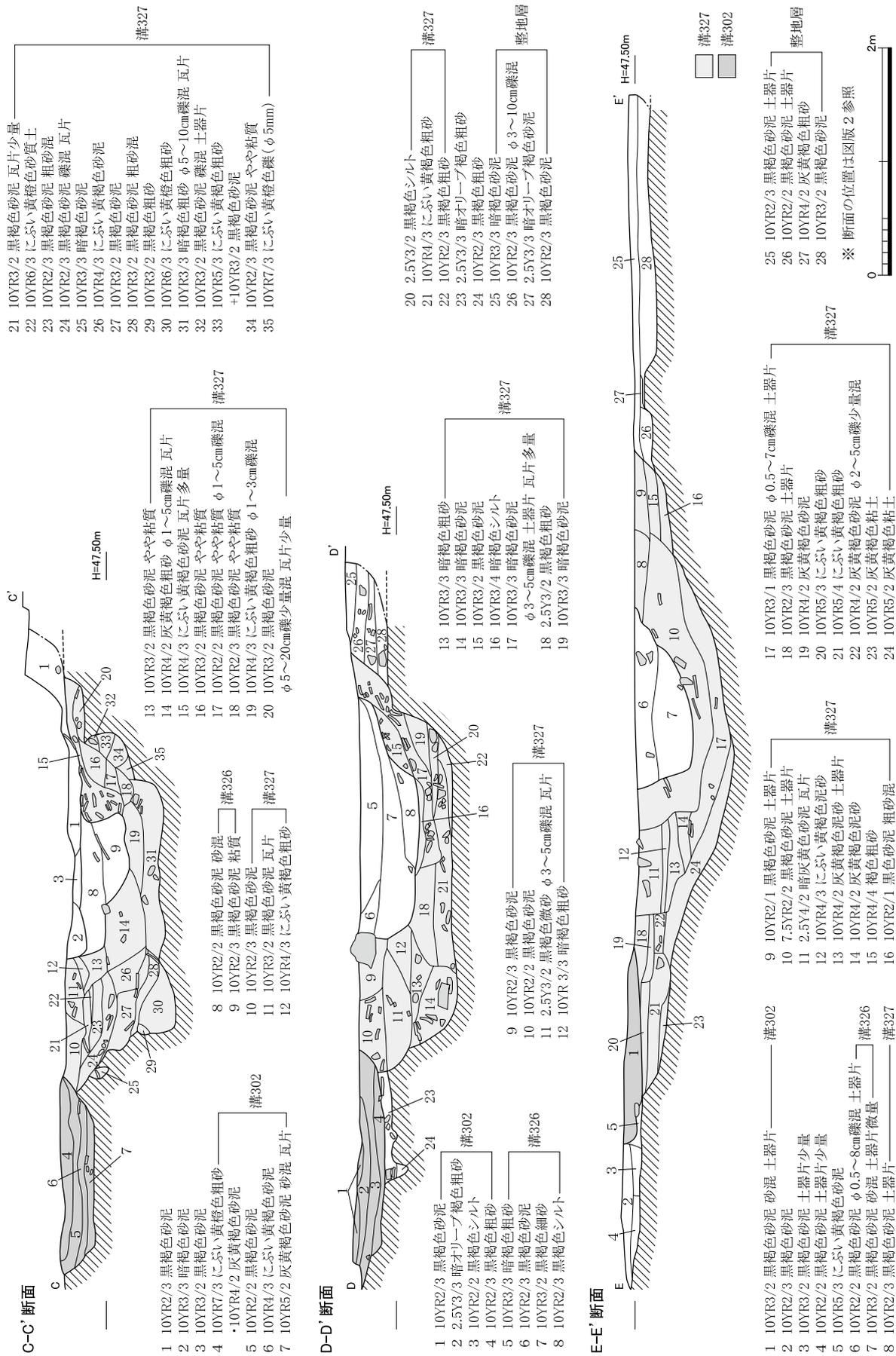


図12 溝302・326・327断面図(1:50)

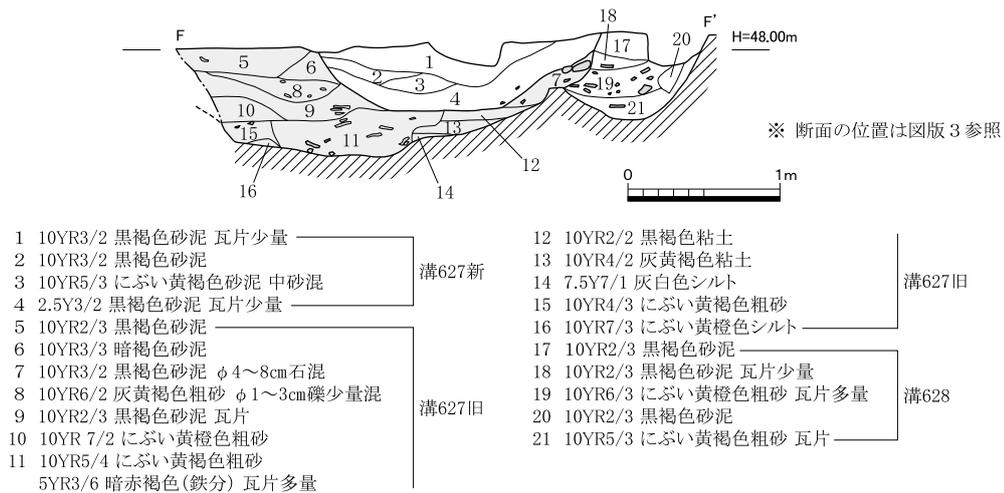


図13 溝627・628断面図（1：50）

る。軒瓦（瓦1・210・259・291）が出土した。

溝627（図版61、図13） 調査区の北部に位置する東西方向溝である。幅3.2m、深さ0.6～0.8mある。東側で北に2.6°振る傾きを持つ。約32m分を検出した。後述する東西溝628の北肩部を切って成立する。溝はさらに調査区外の東方向に延びる。西側で南北溝327と直交しつながる。検出時の平面では確認できなかったが、断面観察により、第1～4層は新段階の溝と考えられ、南北溝326とつながり機能していた可能性がある。埋土は暗褐色から黒褐色の砂泥を主体とし、下層ではにぶい黄褐色粗砂層となる。京都V期中段階から新段階の土器（267～281）、軒瓦（瓦14・17・161・167など100点）が出土した。

溝628（図版61、図13） 調査区の北東部に位置する東西方向溝である。溝の北肩部を東西溝627に切られる。幅0.9m以上、深さ0.6mある。東側で北に3.1°振る傾きを持つ。約26m分を検出した。溝はさらに調査区外の東方向に延びる。埋土は黒褐色砂泥を主体とし、下層ではにぶい黄褐色粗砂層となる。京都V期に属する土器（282・283）、軒瓦（瓦30・57・158・186など25点）が出土した。

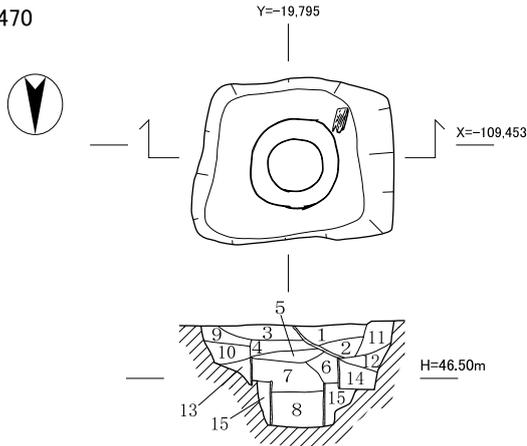
井戸470（図版63、図15） 調査区の南西部に位置する方形の井戸である。掘形は東西1.3m、南北1.1m、深さ0.7mある。底部には直径0.36m、高さ0.3mの小型の曲物を据え付ける。さらに上に重ねる状態で、直径0.54m、高さ0.2mのやや大型の曲物を据えている。埋土中に板材が多く含まれることから、縦板構造の井筒を備えていた可能性がある。京都V期中段階の土器（256～258）が出土した。溝327および柱列10・12に近接した位置にある。

井戸374（図版62、図15） 調査区の北西部に位置する大型の方形縦板横棧支柱構造の井戸である。掘形は東西2.6m、南北2.7m、深



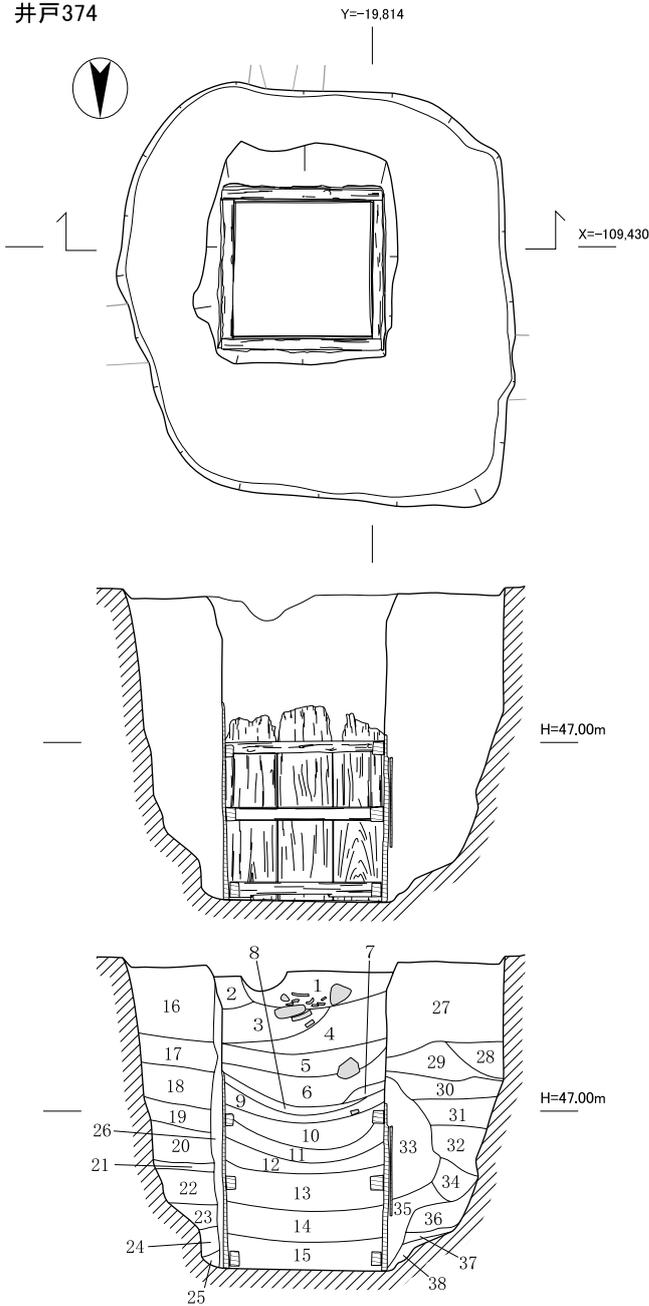
図14 井戸374出土壁土

井戸470



- 1 7.5YR2/1 黒色砂泥
- 2 10YR2/2 黒褐色砂泥 土器片
- 3 7.5YR2/1 黒色砂泥 φ0.5~5cm礫混
- 4 7.5YR1.7/1 黒色砂泥
- 5 7.5YR5/2 灰褐色粗砂
- 6 10YR2/1 黒色砂泥
- 7 10YR3/1 黒褐色砂泥 土器片少量
- 8 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
- 9 10YR2/3 黒褐色砂泥 粗砂混
- 10 10YR3/2 黒褐色砂泥 粗砂混
- 11 10YR3/1 黒褐色泥砂
- 12 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂
- 13 2.5Y5/3 黄褐色粗砂
- 14 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 15 2.5Y7/2 灰黄色細砂

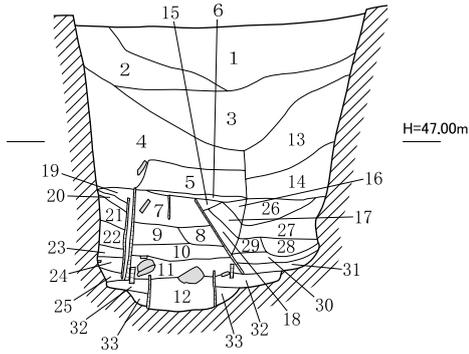
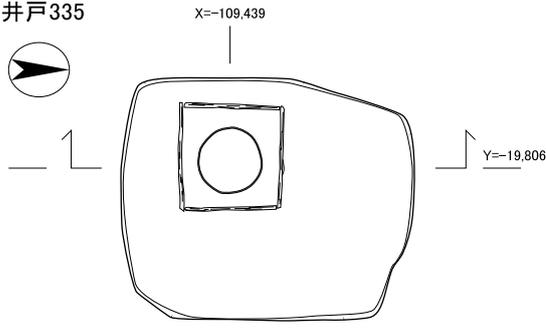
井戸374



- 1 10YR3/3 暗褐色砂泥 φ0.5~1cm礫少量混
下部に土器片多量含
- 2 10YR2/3 黒褐色砂泥
10YR3/3 暗褐色泥砂ブロック混 φ0.5~1cm礫少量混
- 3 10YR3/2 黒褐色砂泥 10YR3/3 暗褐色泥砂ブロック混
- 4 10YR2/2 黒褐色泥砂 φ0.5~1cm礫中量混
- 5 10YR2/3 黒褐色泥砂 粘質 10YR3/3 暗褐色泥砂混
- 6 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色泥砂 シルト混
- 7 2.5Y3/2 黒褐色細砂
- 8 2.5Y3/1 黒褐色粘土 中央下部に炭多量
- 9 10YR3/2 黒褐色中砂
- 10 10YR3/2 黒褐色粘土 中砂混 炭少量
- 11 2.5Y3/2 黒褐色中砂
- 12 2.5Y4/1 黄灰色中砂 木片
- 13 2.5Y2/1 黒色中砂 木片
- 14 2.5Y3/2 黒褐色中砂 木片
- 15 2.5Y3/1 黒褐色中砂 木片
- 16 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
- 17 2.5Y5/3 黄褐色粗砂 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
- 18 2.5Y6/3 にぶい黄色粗砂
- 19 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂
- 20 10YR5/6 黄褐色粗砂
- 21 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂
- 22 10YR6/3 にぶい黄褐色粗砂
- 23 10YR6/4 にぶい黄褐色粗砂
- 24 10YR6/4 にぶい黄褐色細砂
- 25 10YR7/4 にぶい黄褐色細砂
- 26 2.5Y6/2 灰黄色粗砂 木片
- 27 2.5Y5/4 黄褐色砂泥
- 28 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
- 29 10YR4/4 褐色砂泥
- 30 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 31 10YR5/3 にぶい黄褐色細砂
- 32 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂
- 33 10YR7/1 灰白色粗砂
- 34 10YR6/3 にぶい黄褐色細砂
- 35 2.5Y6/2 灰黄色細砂
- 36 10YR6/4 にぶい黄褐色細砂
- 37 2.5Y6/4 にぶい黄色細砂
- 38 2.5Y7/2 灰黄色細砂

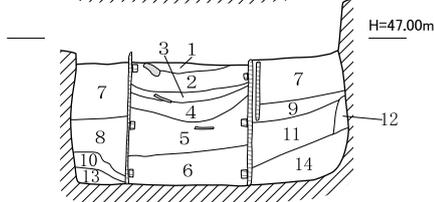
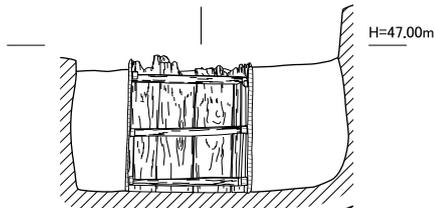
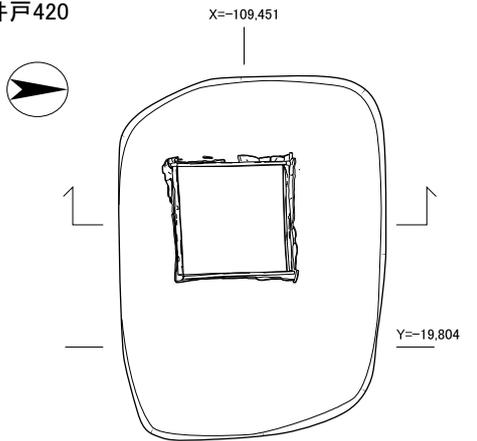
図15 井戸470・374実測図 (1 : 50)

井戸335



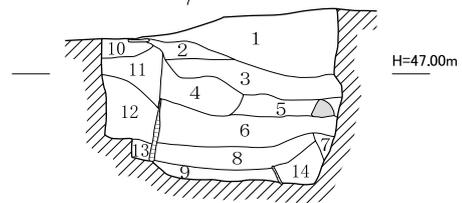
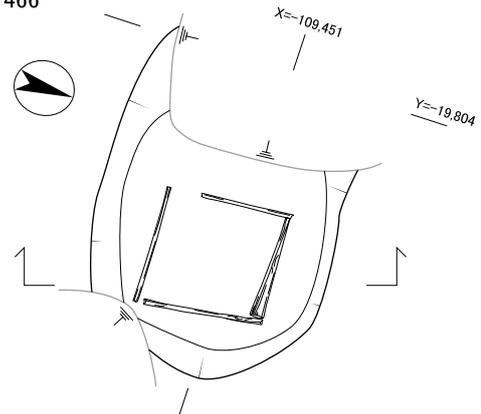
- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 10YR3/2 黒褐色砂泥 土器片少量
- 2 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 3 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥 2.5Y7/1 灰白色ブロック混
- 4 10YR3/2 黒褐色砂泥 木片
- 5 10YR3/1 黒褐色砂泥
- 6 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 7 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト
- 8 10YR6/4 にぶい黄橙色粗砂
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂
- 10 2.5Y4/1 黄灰色粗砂 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂泥
- 11 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂
- 12 2.5Y3/1 黒褐色粘質土
- 13 10YR5/2 灰黄褐色砂泥 7.5YR5/6 明褐色砂泥
- 14 10YR4/1 褐灰色砂泥
- 15 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 10YR2/2 黒褐色砂泥ブロック混
- 16 10YR4/2 灰黄褐色粗砂
- 17 10YR8/4 浅黄橙色粗砂
- 18 5Y5/2 灰オリーブ粗砂
- 19 10YR5/2 灰黄褐色粗砂
- 20 10YR6/6 明黄褐色粗砂
- 21 2.5Y3/1 黒褐色砂泥
- 22 10YR6/2 灰黄褐色粗砂
- 23 10YR2/3 黒褐色砂泥 10Y6/2 オリーブ灰色シルト 粘性 ブロック混
- 24 10YR2/3 黒褐色砂泥 やや粘質
- 25 10YR6/2 灰黄褐色細砂
- 26 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂
- 27 2.5Y4/3 オリーブ褐色粗砂
- 28 2.5Y6/3 にぶい黄色粗砂 10YR2/2 黒褐色砂泥ブロック状に混
- 29 2.5Y8/4 淡黄色粗砂
- 30 2.5Y6/2 灰黄色粗砂 10Y6/2 オリーブ灰色シルト 粘性 ブロック混
- 31 5Y6/2 灰オリーブ砂泥 10YR6/8 明黄褐色粗砂混
- 32 10YR6/2 灰黄褐色砂泥 粘土混
- 33 10YR7/1 灰白色粗砂

井戸420



- 1 10YR3/1 黒褐色粘土
- 2 10YR2/2 黒褐色砂泥 φ10cm礫混
- 3 10YR2/3 黒褐色粘土
- 4 10YR3/1 黒褐色砂泥 土器片少量
- 5 10YR4/1 褐色砂泥 土器片少量
- 6 10YR3/1 黒褐色砂泥
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂 10YR3/3 暗褐色砂泥 やや粘質
- 8 10YR4/2 灰黄褐色細砂 やや粘質
- 9 10YR3/1 黒褐色細砂 やや粘質
- 10 10YR4/4 褐色粗砂
- 11 2.5Y3/1 黒褐色粘土
- 12 10YR4/4 褐色粗砂
- 13 10YR5/3 にぶい黄褐色粗砂
- 14 10YR3/1 黒褐色細砂 粗砂混

井戸466



- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 土器片
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂
- 3 10YR7/2 にぶい黄橙色細砂
- 4 10YR2/3 黒褐色砂泥 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥ブロック混
- 5 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 土器片少量
- 6 2.5Y3/2 黒褐色砂泥
- 7 10YR5/2 灰黄褐色粘土
- 8 10YR2/3 黒褐色砂泥
- 9 10YR3/2 黒褐色粗砂
- 10 10YR2/3 黒褐色砂泥 固くしまる
- 11 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭
- 12 10YR3/4 暗褐色細砂混
- 13 10YR2/2 黒褐色砂泥 粗砂混
- 14 10YR2/2 黒褐色粗砂



図16 井戸335・420・466実測図 (1 : 50)

さ2.1mある。井筒は一辺約1.1mあり、高さは1.3m遺存する。一辺に幅0.4m弱の縦板を3枚並べ、外側から複数枚を重ねて2～3重構造とする。横棧は柄で組み、下から3段分が遺存する。遺存する木枠の状態は良好である。埋土からは、焼けた痕跡のある建築部材・焼けた壁土（図14）・炭などが出土しており、火災材の整理時に井戸が埋められたとみられる。井筒内からは曲物（木2・3）、京都V期中段階から新段階の土器（259～266）、軒瓦（瓦3・172）が出土した。

井戸335（図版63、図16） 調査区の南西部に位置する方形縦板横棧支柱構造の井戸である。掘形は東西1.6m、南北1.9m、深さ2.1mある。井筒は掘形の南西部に位置し、一辺約0.7mあり、高さは0.6m遺存する。縦板の遺存状態は悪く、南側と西側の一部以外は内側に倒れ込んでいた。横棧は柄で組み、最下段が遺存する。底部には、直径0.4m、高さ0.2mの曲物が据え付けられている。

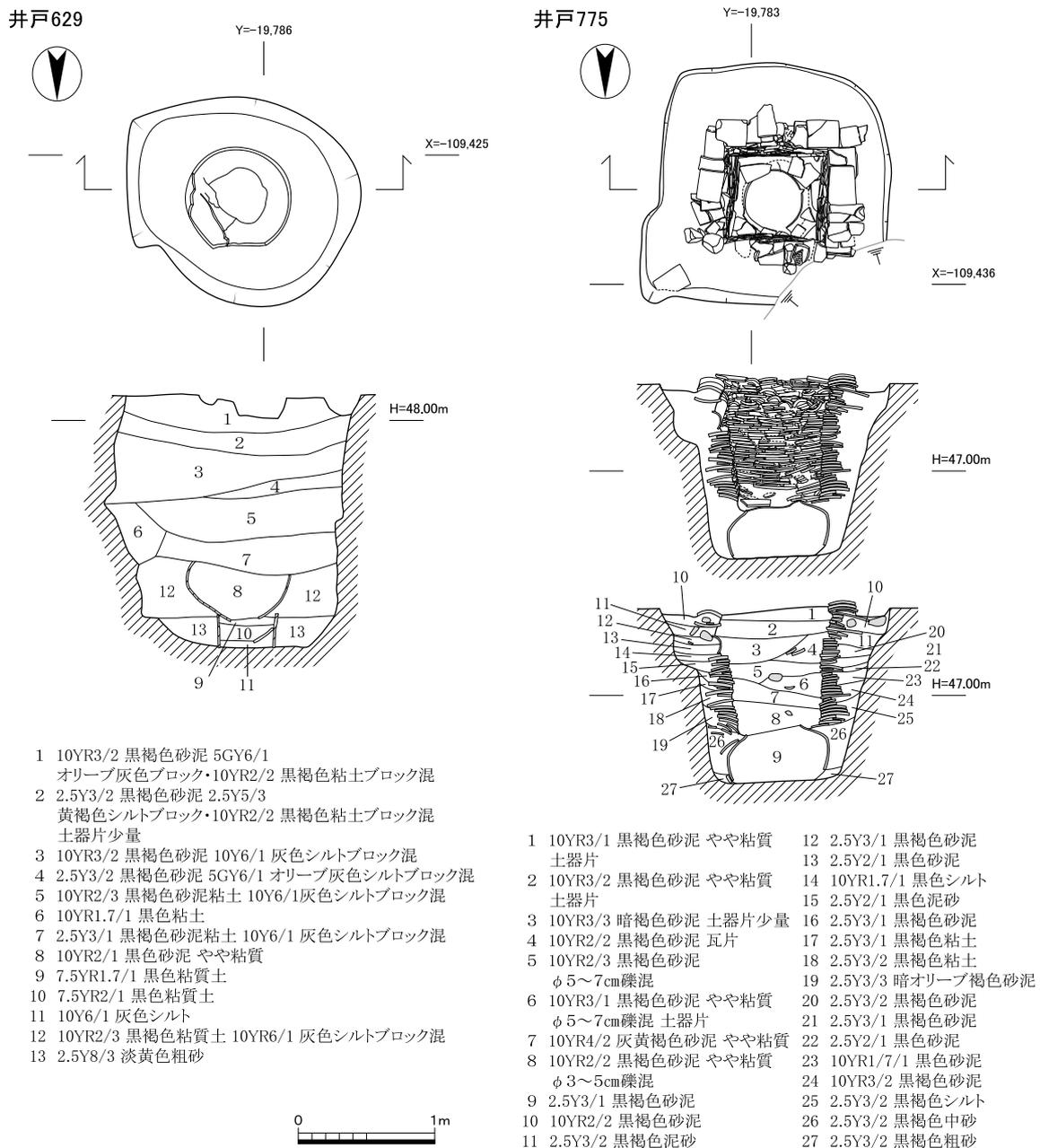


図17 井戸629・775実測図（1：50）

軒瓦（瓦301）が出土した。

井戸420（図版63、図16） 調査区の南西部に位置する方形縦板横棧支柱構造の井戸である。掘形は東西2.4m、南北1.8m、深さ1.2mある。井筒は一辺約0.7mあり、高さは0.8m遺存する。一辺に3～4枚の縦板を並べ、外側に3重に重ねる。横棧は柄で組み、下から3段分が遺存する。遺存する木柵の状態は良好である。軒瓦（瓦82）が出土した。

井戸466（図16） 調査区の南西部に位置する方形縦板横棧支柱構造の井戸である。掘形は東西2.2m以上、南北1.6m、深さ1.2mある。井戸420に西部を切られる。底部で最下段の横棧が遺存した。縦板の遺存状態は悪く、南側の一部以外は内側に倒れ込んでいた。

井戸629（図版63、図17） 調査区の北東部に位置する不定形の井戸である。掘形は東西1.7m、南北1.5m、深さ1.9mある。第7層までは掘り返されているが、下層では底部を欠いた胴部径0.75mの常滑甕（363）を井筒に転用したものが遺存している。井戸底部には、直径0.4m、高さ0.25mの曲物が据え付けられている。

井戸775（図版63、図17） 調査区の南東部に位置する方形瓦積み構造の井戸である。掘形は東西1.7m、南北1.8m、深さ1.4mある。底部に下半部を欠いた胴部径0.8mの常滑甕（364）を据え付けている。甕を据え付けた後、口縁部まで埋戻し、上に内法一辺1.6m、深さ（高さ）0.9mの瓦積みの方形井筒を築く。使用された瓦は、平瓦が主体である。軒瓦（瓦255）が出土した。

土坑480 調査区の南西部に位置する土坑である。掘形の平面形は楕円形とみられ、東半部を検出した。東西1.4m以上、南北1.6m、深さ0.5mある。埋土は暗オリーブ褐色粘質土を主体とする。京都V期中段階のほぼ完形の土師器皿（240～255）が多く出土した。

土坑412（図版64、図18） 調査区の南西部に位置する土坑である。掘形の平面形は長方形で、東西0.9m、南北1.4m、深さ0.2mある。埋土は黒褐色砂泥で炭・土師器片を多量に含む。京都V期新段階のほぼ完形の土師器皿（284～300）が多く出土した。

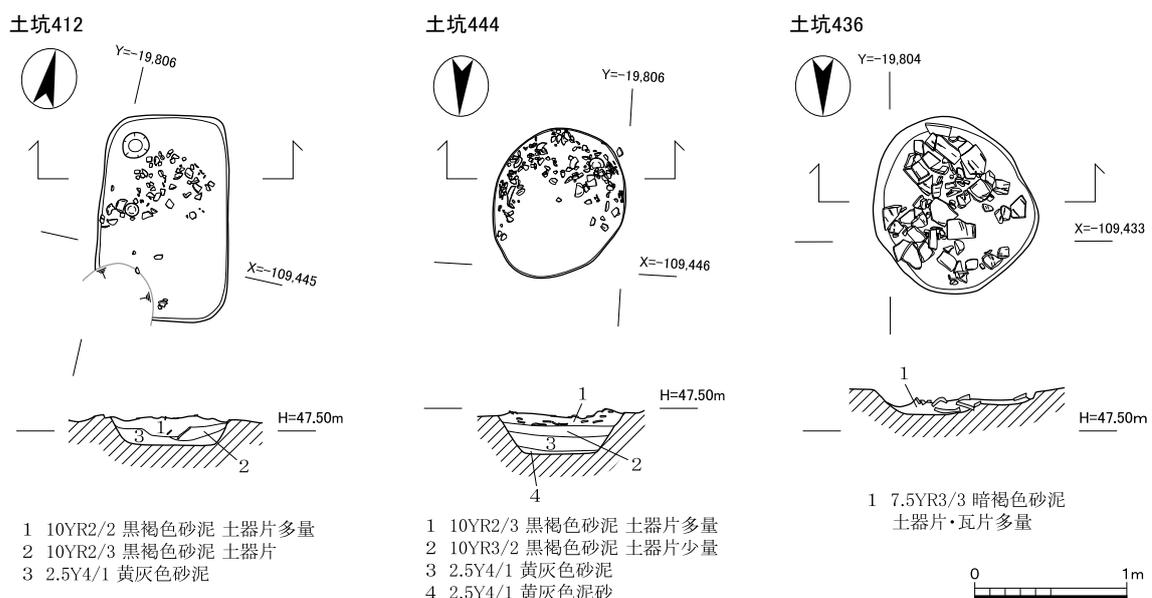


図18 土坑412・436・444実測図（1：50）

土坑444（図版64、図18） 調査区の南西部に位置する土坑である。掘形の平面形は楕円形で、東西0.9m、南北1.0m、深さ0.3mある。埋土は黒褐色砂泥で土師器片を多量に含む。京都V期新段階からVI期古段階の土師器（314～320）などが出土した。

土坑436（図版64、図18） 調査区の西部中央に位置する土坑である。掘形の平面形は楕円形で、東西1.1m、南北1.2m、深さ0.2mある。埋土は暗褐色砂泥で土師器片や瓦片を多量に含む。軒瓦（瓦40・265）、滑石製の紡錘車（石3）が出土した。

土坑706 調査区の東部に位置する土坑である。掘形の平面形は隅丸長方形で、東西1.0m、南北1.4m、深さ0.4mある。埋土は暗褐色砂泥で土師器片を多量に含む。京都VI期新段階からVII期古段階の土師器（351～362）が出土した。

土坑726 調査区の東部に位置する土坑である。掘形の北端部のみ検出した。東西0.9m、深さ0.5mある。埋土は黒褐色砂泥が主体である。軒瓦（瓦162・176）が出土した。

土坑464 調査区の中央部に位置する土坑である。溝327の底で検出した。掘形の平面形は楕円形で、東西1.3m、南北2.7m、深さ0.8mある。埋土は暗褐色砂泥が主体である。軒瓦（瓦274）が出土した。

土坑471 調査区の南西部に位置する土坑である。掘形の平面形は円形で、直径0.7m、深さ0.8mある。埋土は黒褐色砂泥である。土製円塔（土7）が出土した。

土坑465 調査区の中央部に位置する土坑である。南北溝327の底で検出した。掘形は東西2.2m、南北2.2m、深さ0.5mある。埋土は暗褐色砂泥が主体で、地山のにぶい黄褐色粗砂が混じる。京都V期の土師器（349・350）、軒瓦（瓦94・130）、土製円塔（土5）が出土した。

柱列1（図版14） 調査区の北東部に位置する東西方向の柱穴列である。溝627の底で検出したが、溝との前後関係は不明である。柱穴7基を検出した。東端柱穴816から西へ約13.5m延び、柱間は東から1.2m・1.0m・1.1m・5.4m・3.1m・1.2mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.3～0.4m、深さ0.1～0.4mある。柱穴833と柱穴829の間は、削平された可能性がある。埋土は黒褐色粘質土と黒褐色砂泥が主体である。

柱列2（図版14） 調査区の北東部に位置する東西方向の柱穴列である。柱列1と同様に溝627の底で検出したが、溝との前後関係は不明である。柱穴は13基からなり、東端柱穴815から西へ約19m延び、柱間は東から0.9m・2.0m・1.7m・0.8m・0.7m・1.0m・2.4m・0.6m・0.8m・0.4m・4.1m・3.5mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.2～0.4m、深さ0.1～0.3mある。柱穴の中には根石を据えるものがある。埋土は黒褐色粘質土が主体で黒褐色砂泥などもある。柱穴が集中し、作り替えの可能性や、柱列1と同一の遺構である可能性もある。柱穴823から軒瓦（瓦27）が出土した。

柱列3（図版15・65） 調査区の中央北部に位置する南北方向の柱穴列である。柱列1・2と同様に溝627の底で検出したが、溝との前後関係は不明である。柱穴は6基からなり、北端柱穴781から南へ約3m延び、柱間は北から0.5m・0.4m・0.2m・0.4m・0.6mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.3～0.6m、深さ0.1～0.3mある。埋土は黄灰色粗砂

が主体で暗灰黄色粗砂などがある。以下に記述する西側に位置する柱列4・5と柱間や柱列の傾きが類似していることから、これらの柱列は関係する遺構とみられ、橋の橋脚の可能性が考えられる。

柱列4（図版15・65） 調査区の中央北部に位置する南北方向の柱穴列である。柱穴は7基からなり、北端柱穴787から南へ約3m伸び、柱間は北から0.5m・0.3m・0.5m・0.5m・0.3m・0.3mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.3～0.4m、深さ0.1～0.3mある。埋土は黒褐色砂泥と暗灰黄色砂泥が主体である。柱穴792から軒瓦（瓦116）が出土した。柱列3・5と一連の遺構と考えられる。

柱列5（図版15・65） 調査区の中央北部に位置する南北方向の柱穴列である。柱穴は3基からなり、北端柱穴802から南へ約3m伸び、柱間は北から1.8m・0.5mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.4～0.5m、深さ0.2～0.3mある。埋土は暗灰黄色砂泥である。柱列3・4と一連の遺構と考えられる。

柱列6（図版15） 調査区の中央北部に位置する南北方向の柱穴列である。溝326・327の東側に位置する。柱穴は5基からなり、北端柱穴393から南へ約6.5m伸び、柱間は北から0.3m・1.6m・2.8m・1.4mと柱穴の間隔にばらつきがある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.2～0.7m、深さ0.1～0.4mある。埋土は黒褐色砂泥が主体で暗褐色砂泥などもある。3m西側には後述する柱列7が位置する。柱列6と柱列7の間にも柱穴が数基位置することから、この位置には、南北方向の塀が複数時期にわたり作られていた可能性がある。

柱列7（図版15） 調査区の中央北部に位置する南北方向の柱穴列である。溝326・327の東側に位置する。柱穴は8基からなり、北端柱穴666から南へ約4m伸び、柱間は北から0.5m・0.6m・0.9m・0.7m・0.5m・0.5m・0.3mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.2～0.4m、深さ0.1～0.4mある。埋土は黒褐色砂泥である。切り合いのある柱穴があることから作り替えなどがあったとみられる。

柱列8（図版16） 調査区の中央部に位置する南北方向の柱穴列である。溝326・327の東側に位置する。柱穴は4基からなり、北端柱穴687から南へ約3.5m伸び、柱間は北から1.3m・0.9m・0.9mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.3～0.4m、深さ0.1～0.3mある。埋土は黒褐色砂泥が主体で暗褐色砂泥などもある。

柱列9（図版16） 調査区の中央部に位置する南北方向の柱穴列である。溝326・327の東側で、柱列8と柱列11の間に位置する。柱穴は5基からなり、北端柱穴372から南へ約7.5m伸び、柱間は北から3.5m・1.8m・0.8m・1.0mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.2～0.4m、深さ0.1～0.2mある。柱穴の中には根石を据えるものもある。埋土は黒褐色砂泥が主体で暗褐色砂泥などもある。

柱列10（図版16・65） 調査区の中央南部に位置する南北方向の柱穴列である。溝326・327の東側で、柱列11・12の東側に位置する。柱穴は13基からなり、北端柱穴280から南へ約14m伸び、柱間は北から1.0m・1.3m・0.6m・1.5m・2.5m・0.6m・1.3m・1.2m・1.6m・0.8m・1.2m・0.6

mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.3～0.6 m、深さ0.1～0.3 mある。ほとんどの柱穴の中に根石を据える。埋土は黒褐色砂泥が主体で暗褐色砂泥などもある。

柱列11 (図版17) 調査区の中央部に位置する南北方向の柱穴列である。溝326・327の東側で、柱列9と柱列12の間に位置する。柱穴は5基からなり、北端柱穴371から南へ約14 m延び、柱間は北から3.8 m・3.8 m・2.8 m・3.4 mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.2～0.4 m、深さ0.2～0.3 mある。柱穴の中には径0.2～0.4 m大の根石を据えるものが多い。埋土は黒褐色砂泥である。

柱列12 (図版17) 調査区の中央南部に位置する南北方向の柱穴列である。溝326・327の東側に位置し、最も溝に接近している。柱穴は6基からなり、北端柱穴283から南へ約11 m延び、柱間は北から1.1 m・3.6 m・2.4 m・1.6 m・2.2 mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.4～0.8 m、深さ0.1～0.4 mある。柱穴の中には根石を据えるものもある。埋土は黒褐色砂泥が主体でオリーブ黒色砂泥などもある。柱穴346から軒瓦（瓦89）が出土した。

柱列13 (図版18) 調査区の東部に位置する東西方向の柱穴列である。柱穴は3基からなり、東端柱穴696から西へ約4 m延び、柱間は1.9 m等間である。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.2～0.3 m、深さ0.2～0.3 mある。埋土は黒褐色砂泥である。柱列はさらに東側の調査区外に延長する可能性がある。

柱列14 (図版18) 調査区の東部に位置する南北方向の柱穴列である。柱穴は3基からなり、北端柱穴712から南へ約3 m延び、柱間は1.2 m等間である。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.3～0.4 m、深さ0.2～0.4 mある。埋土は黒褐色砂泥である。柱列はさらに南側の調査区外に延長する可能性がある。

柱列15 (図版18) 調査区の北西部に位置する南北方向の布掘り柱穴列である。溝302の西側にほぼ平行して位置する。南北2.7 m以上、幅0.4 m以上、深さ約0.1 mの南北方向の溝の中に、柱穴が2基あり、柱間は1.9 mある。柱穴の平面形は円形を呈し、検出面での規模は、径0.3～0.4 m、深さ0.1～0.2 mある。埋土は暗褐色砂泥や暗褐色泥砂などがある。

柱列16 (図版18) 調査区の北西部に位置する東西方向の柱穴列である。柱穴は3基からなり、東端柱穴222から西へ約4 m延び、柱間は東から1.9 m・1.8 mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.3～0.6 m、深さ0.1～0.4 mある。埋土は黒褐色砂泥が主体で暗褐色砂泥などがある。

柱列17 (図版18) 調査区の北西部に位置する南北方向の柱穴列である。柱穴は2基からなり、柱間は4.3 mある。柱穴の平面形は隅丸方形を呈し、検出面での規模は、径0.7 m、深さ0.2 mある。埋土は黒褐色砂泥と暗褐色砂泥が主体である。

柱列18 (図版19) 調査区の西部に位置する南北方向の柱穴列である。溝302の西側にほぼ平行して位置する。柱穴は7基からなり、北端柱穴434から南へ約9.5 m延び、柱間は北から1.6 m・1.8 m・3.3 m・0.3 m・0.9 m・1.4 mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模

は、径0.2～0.4m、深さ0.1～0.2mある。柱穴の中には根石を据えるものもある。埋土は黒褐色砂泥が主体で暗褐色砂泥などもある。切り合いのある柱穴があることから作り替えなどがあったとみられる。

柱列19（図版19） 調査区の南西部に位置する東西方向の柱穴列である。柱穴は7基からなり、東端柱穴417から西へ約4.3m延び、柱間は東から1.0m・1.1m・0.3m・0.4m・0.5m・0.7mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.2～0.5m、深さ0.1～0.3mある。柱穴の中には根石を据えるものもある。埋土は黒褐色砂泥が主体で暗褐色砂泥などもある。

柱列20（図版19） 調査区の南西部に位置する南北方向の柱穴列である。柱穴は5基からなり、北端柱穴452から南へ約6m延び、柱間は北から1.5m・1.5m・1.3m・1.3mある。柱穴の平面形は円形ないし楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.3～0.6m、深さ0.1～0.4mある。柱穴の中には根石を据えるものもある。埋土は黒褐色砂泥が主体で暗褐色砂泥などもある。

柱穴304 調査区の中央部に位置する柱穴である。掘形は円形で径0.4m、深さ0.1mある。埋土は黒褐色砂泥が主体である。軒瓦（瓦31）が出土した。

柱穴458 調査区の南部に位置する柱穴である。掘形は楕円形で東西0.6m、南北0.3m、深さ0.3mある。埋土は暗褐色砂泥が主体である。軒瓦（瓦163）が出土した。

柱穴485 調査区の南部西寄りに位置する柱穴である。掘形は円形で径0.4m、深さ0.3mある。埋土は黒褐色砂泥が主体である。軒瓦（瓦156）が出土した。

柱穴580 調査区の東部に位置する柱穴である。掘形は円形で径0.6m、深さ0.4mある。埋土は暗褐色砂泥が主体である。軒瓦（瓦65）が出土した。

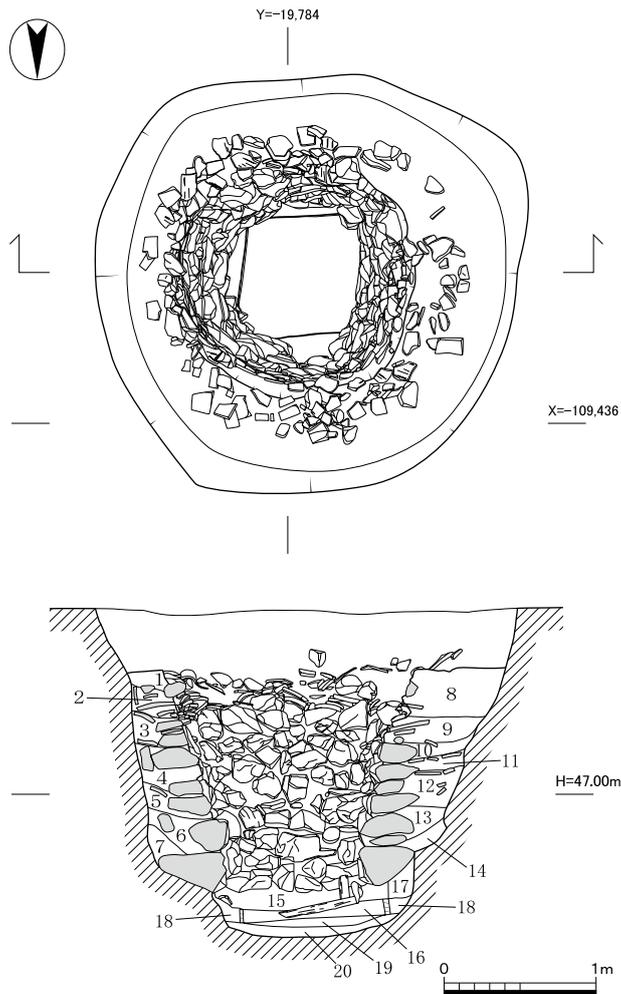
3) 第1面2期の遺構（図版4・66）

調査区の全域で多くの耕作関連溝が分布する。耕作溝以外の遺構は、室町時代の井戸576があるのみで希薄である。

井戸576（図19～21） 調査区の北東部に位置する石組構造の井戸である。掘形は円形で東西2.9m、南北2.8m、深さ2.2mある。底部に一辺0.8mの方形木枠を据え付ける。その上に川原石などを積み上げて内法約1.6mの円形井筒を構築する。加工された凝灰岩や軒瓦も部材として使用する。下層の埋土は黒褐色砂泥である。京都Ⅶ期に属する土師器（365～371）、軒瓦（瓦5・9・152・189など27点、表7参照）が出土した。調査区内では数少ない室町時代に属する遺構である。

耕作溝群（図22） 耕作溝は調査区のほぼ全域で検出した。東西・南北方向に正方位の溝（溝群1）と北で西に振れる傾きの溝（溝群2）に分けられる。

正方位の溝群1は、調査区のほぼ全体に分布する。南北溝31・41・130・133・500・503・529など、東西溝50・495・506・509・523など多数ある。幅0.3～0.5m、深さ0.1～0.2mある。断面の形状は皿型もあるが、逆台形を呈するものが多い。埋土はにぶい黄褐色砂泥や灰黄褐色砂泥が多い。溝31から軒瓦（瓦268）、溝500から軒瓦（瓦262・283）、溝506から軒瓦（瓦250）、溝509から軒瓦（瓦241）が出土した。



- 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 2 10YR2/1 黒色砂泥 粘質
- 3 10YR2/2 黒褐色砂泥 粘質
- 4 10YR2/1 黒色砂泥 粘質
- 5 10YR3/2 黒褐色砂泥 粘質
- 6 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 粘質
- 7 10YR2/2 黒褐色砂泥 粘質
- 8 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 9 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 10 10YR3/1 黒褐色砂泥
- 11 10YR2/1 黒色砂泥 粘質
- 12 10YR2/2 黒褐色砂泥 粘質
- 13 10YR2/3 黒褐色砂泥 粘質
- 14 10YR3/1 黒褐色砂泥 粘質
- 15 10YR3/2 黒褐色砂泥 粘質
- 16 7.5YR2/1 黒色砂泥
- 17 10YR2/1 黒色砂泥 砂泥
- 18 7.5YR3/1 黒褐色砂泥
- 19 2.5Y3/1 黒褐色砂泥
- 20 2.5Y3/2 黒褐色泥砂

図19 井戸576実測図 (1 : 50)



図20 井戸576 (北東から)



図21 井戸576木枠 (北から)

北で西に振れる傾きの溝群2は、南西部に分布する。溝113・176などがある。幅0.5~0.8m、深さ0.5~0.7mある。断面の形状は箱型もあるが、逆台形を呈するものが多い。埋土はにぶい黄褐色砂泥や灰黄褐色砂泥が多い。溝群1と比較すると規模が大きく、深い構造となる。

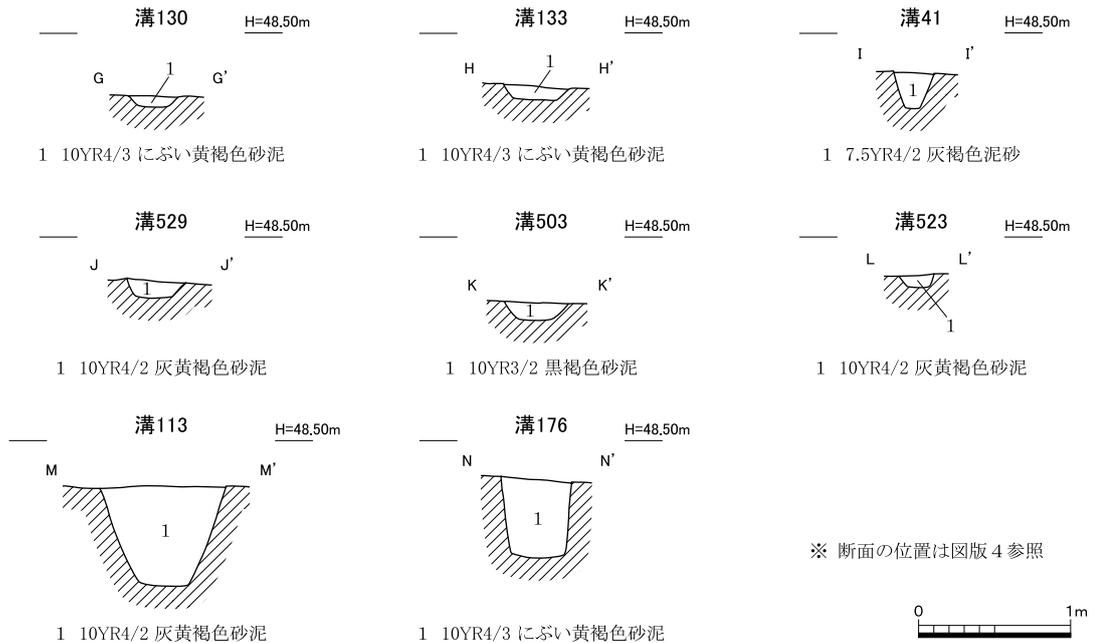


図22 耕作溝41・113・133他断面図（1：50）

4) 第1面1期の遺構（図版5・66）

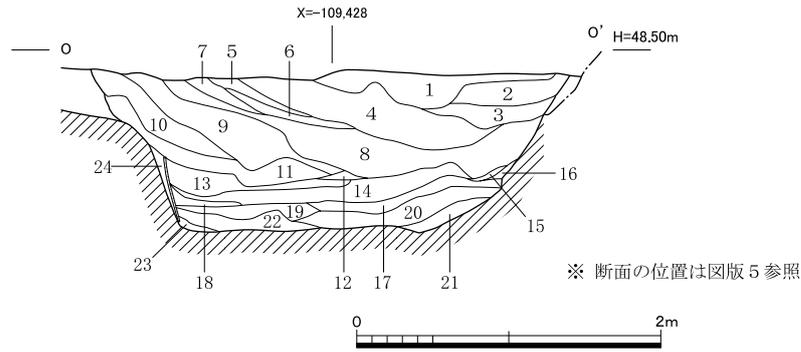
調査区中央やや北寄りに大型の東西方向の堀27がある。南寄りには、井戸47、土坑78など少数の遺構がある。また、調査区北側には東西方向の並行する柱列21・22、南側には東西方向に並行する土坑列1・2などがある。

堀27（図版67、図23） 調査区の北部に位置する東西方向の堀である。溝の断面形は逆台形を呈する。幅3.0～3.2m、深さ2.1～2.2mある。東側で南に3.0°振る傾きを持つ。東西44m分を検出した。堀はさらに東と西方向に延びる。堀の南壁は、板材や割竹と丸杭を用いて護岸している。西側では、堀を渡る橋跡（橋1）を検出した。埋土は上層が暗褐色から黄褐色系の砂質土から粗砂が主体、下層は明黄褐色灰黄褐色系の微砂から粗砂が主体であるが、粘質土層もみられ水が溜まっていた時期もあったとみられる。埋土上層は、南側から埋め戻されている。埋土からは少量の国産磁器、軒瓦（瓦45・54・175・211など12点、表7参照）が出土した。

橋1（図版67、図24） 調査区の西端に位置する堀27の橋の基礎部分とみられる。堀27の北肩部に東西1.9m、幅0.6m、深さ0.3mの溝を掘り、北壁に板をあてて3本の杭で固定する。橋桁の掛かる部分の護岸と考えられる。堀底部を南北方向に縦断する形で、北側には抜き取り穴があり、中央と南側には礎石が据え付けられている。この位置から東側には同様の遺構がないことから、この部分が橋東辺の可能性があり、これより西側に橋が架けられていたとみられ、橋の幅は東西約4m以上と想定される。

土坑38 調査区の中央部西寄りに位置する土坑である。掘形の平面形は不定形で、東西1.3m、南北0.7m、深さ0.2mある。埋土は黒褐色泥砂を主体とする。軒瓦（瓦160）が出土した。

土坑78 調査区の南西部に位置する土坑である。掘形の平面形は不定形で、東西4.8m、南北5.6m、深さ0.4～0.8mある。複数の土坑が切り合って構成している。埋土は黒褐色砂泥を主体とする。



- | | |
|--|--|
| 1 10YR3/4 暗褐色砂質土 φ1~2cmの土師・炭・礫少量 | 13 10YR3/1 黒褐色砂質土 φ5~10cmの2.5Y7/4 浅黄色粗砂ブロック少量 |
| 2 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 φ5~10cmの10YR2/3 黒褐色粘質土ブロック多量混 | 14 10YR6/6 明黄褐色細砂~粗砂 |
| 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土 炭少量 | 15 2.5Y5/2 暗灰黄色微砂 |
| 4 2.5Y6/4 にぶい黄色粗砂 10YR2/3 黒褐色砂質土が所々層状に混 | 16 2.5Y8/4 浅黄色粗砂 |
| 5 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 | 17 10YR4/1 褐灰色シルト 粘性あり |
| 6 10YR4/4 褐色粗砂 混砂質土 | 18 5Y3/2 オリーブ黒色微砂 |
| 7 2.5Y7/4 浅黄色粗砂 | 19 10YR8/1 灰白色細砂 φ5~10cmの5Y3/2 オリーブ黒色微砂が所々ブロック状に混 |
| 8 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土 φ5~15cmの10YR2/1 黒色砂質土ブロック混 土師・炭少量 | 20 2.5Y4/2 暗灰黄色微砂 10YR6/2 灰黄褐色粗砂が所々層状に混 |
| 9 10YR5/6 黄褐色粗砂 10YR4/2 灰黄褐色砂質土が所々層状に混 | 21 5Y6/3 オリーブ黄色細砂 |
| 10 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土 | 22 10YR4/1 褐灰色粘質土 φ5~10cmの10YR7/1 灰白色微砂ブロック少量 |
| 11 10YR4/1 褐灰色砂質土 粘性あり | 23 10YR6/2 灰黄褐色粗砂 |
| 12 2.5Y7/4 浅黄色粗砂 | 24 10YR3/3 暗褐色粗砂 (板材裏込め) |

図23 堀27断面図 (1:50)

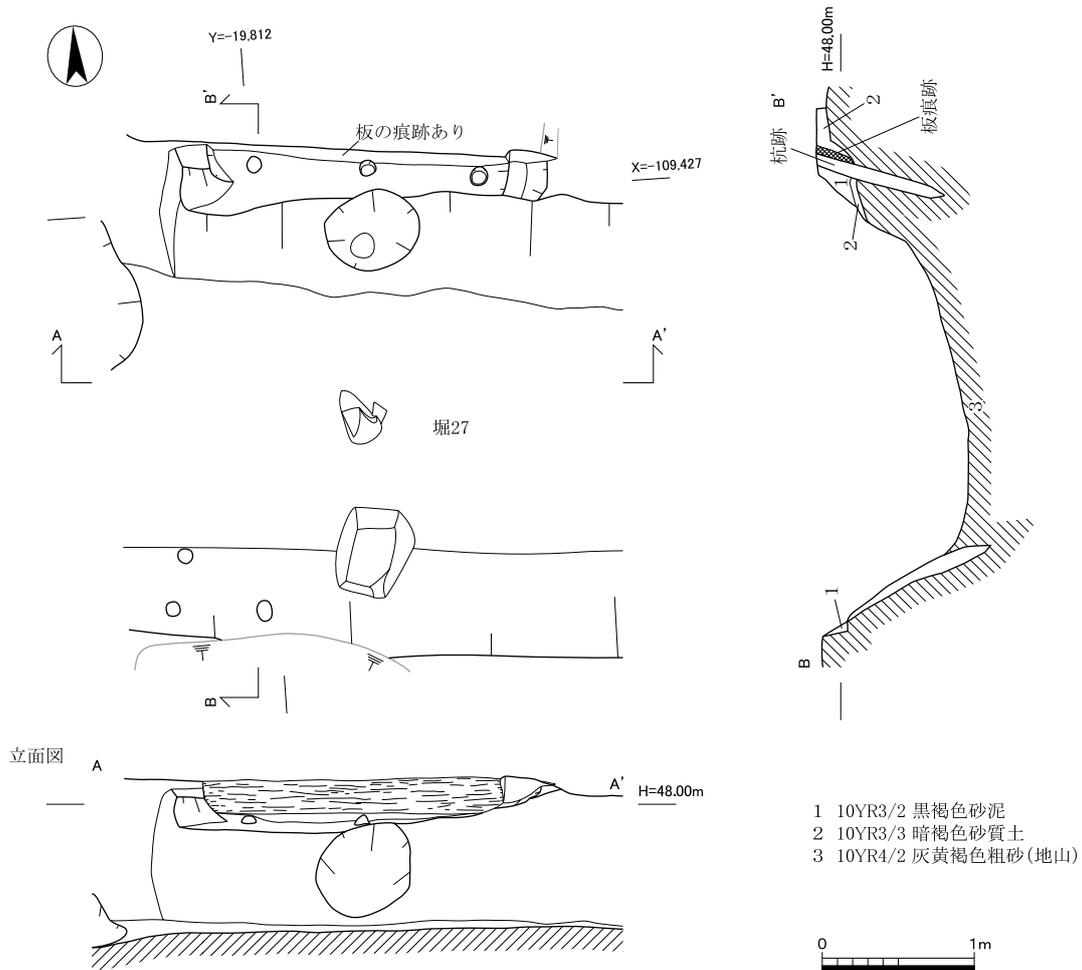


図24 橋1実測図 (1:50)

埋土からは国産陶磁器（372～379）が出土した。

井戸47（図版63） 調査区の南西部に位置する縦板組構造の井戸である。掘形の平面形は円形で、直径1.2m、深さ1.9mある。縦板組の井筒の平面形はほぼ円形を呈し、内径は約0.8mある。埋土は灰黄褐色泥砂を主体とする。埋土からは国産磁器などが出土した。

柱列21（図版20） 調査区の北部に位置する。東西方向に直線上に並ぶ21基の柱穴からなる。直径約0.6m、深さ0.5～0.8mある。柱間は約2mの等間である。東側で南に3.5°振る傾きを持つ。

柱列22（図版20） 調査区の北部に位置する。東西方向に直線上に並ぶ24基の柱穴からなる。直径約0.6m、深さ0.5～0.8mある。柱間は約2mの等間である。柱穴542と柱穴630の間は埋設管があるため掘削できなかったが、この位置にも柱穴が存在すると考えられる。柱列21と柱列22の方向はほぼ平行で約4m南に位置する。明治時代の遺構（第4回内国勸業博覧会の工業館東側の大通路基礎）である可能性がある。

土坑列1（図25） 調査区の南部に位置する。東西方向に直線上に並ぶ9基の土坑からなる。平面形は東西約1.2～1.8m、南北約0.5～0.9mの長方形を呈する。深さ0.3～0.4mある。間隔は約3.5mの等間である。真東西方向の傾きである。

土坑列2（図25） 調査区の南部に位置する。東西方向に直線上に並ぶ6基の土坑からなる。平面形は東西約1.2～1.8m、南北約0.4～0.7mの長方形を呈する。深さ0.2～0.4mある。間隔は約3.5mの等間である。土坑列1とほぼ平行で約10m南に位置する。大正時代の遺構（大典記念京都大博覧会の第一勸業館または商品陳列所の建物基礎）、もしくは昭和の遺構（大札記念京都大博覧会の商品陳列所の建物基礎）の可能性がある。

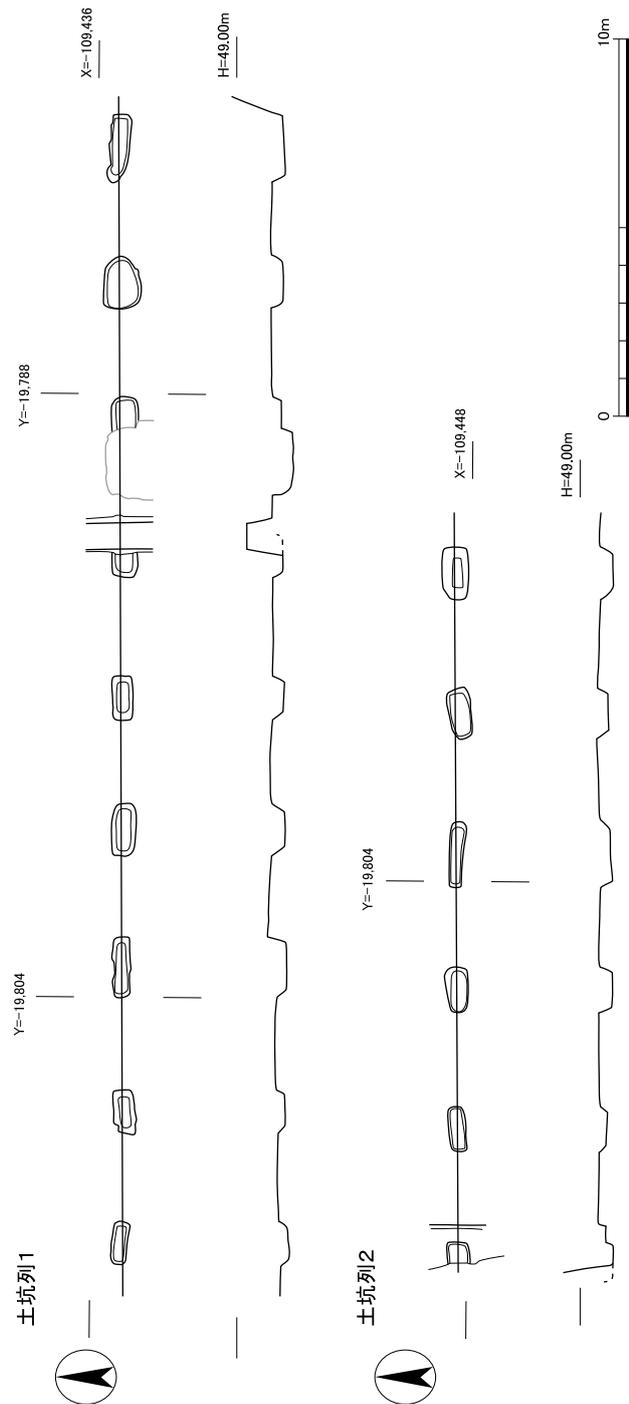


図25 土坑列1・2実測図（1：200）

4. 遺 物

(1) 出土遺物の概要

調査では整理用コンテナに582箱の遺物が出土した。出土遺物には、土器類・瓦類・木製品・石製品・金属製品などの種類がある。出土遺物の大半は瓦類が占め、次いで土器類が続き、他の種類の遺物は少ない。出土遺物の時期は、弥生時代から古墳時代と平安時代後期から鎌倉時代前期にかけてのものが大半を占めており、平安時代前期から中期のものは少量である。また、室町時代以降の遺物も少ない。縄文時代の土器も少量出土している。

弥生時代から古墳時代の遺物には、弥生土器、古墳時代の古式土師器や土師器・須恵器などがある。主に溝459・湿地460などから出土した。湿地460からは、縄文時代と弥生時代後期から古墳時代の土器類が出土した。少ないが木製品も出土している。溝459からは、庄内式併行期の土器類が多量に出土した。

平安時代後期から鎌倉時代の遺物は、土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器・瓦器・焼締陶器・輸入陶磁器などの土器類がある。他には、瓦類・土製品・木製品・石製品などがある。瓦類が遺物の大半を占め、溝327・627・628などから多量に出土している。

室町時代以降の遺物には、土師器・瓦器・施釉陶器・焼締陶器・輸入陶磁器などの土器類がある。他には、銭貨・木製品・石製品などがある。主に耕作溝から出土した。

以下では、時代の古いものから順に、遺物の概要を述べる。個々の遺物の詳細については、巻末の遺物観察表（観察表1～7）に掲載した。

表4 遺物概要表

| 時 代 | 内 容 | コンテナ箱数 | Aランク点数 | Bランク箱数 | Cランク箱数 |
|-----------------|--|--------|--|--------|--------|
| 縄文時代 | 縄文土器 | | 縄文土器15点 | | |
| 弥生時代 ～古墳時代 | 弥生土器、古式土師器、土師器、須恵器、土製品、木製品 | | 弥生土器・古式土師器196点、土師器10点、須恵器18点、土製品3点、木製品1点 | | |
| 平安時代後期 ～鎌倉時代 | 土師器、須恵器、瓦器、白色土器、山茶椀、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦類、土製品、木製品、石製品、金属製品 | | 土師器105点、瓦器9点、白色土器4点、山茶椀2点、焼締陶器2点、輸入磁器3点、瓦類303点、土製品7点、木製品2点、石製品4点 | | |
| 室町時代 | 土師器、瓦器 | | 土師器7点 | | |
| 江戸時代 | 土師器、国産陶器、国産磁器、土製品、銭貨 | | 国産陶器4点、国産磁器4点 | | |
| 合 計 | | 621箱 | 699点 (74箱) | 38箱 | 509箱 |

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より39箱多くなっている。

(2) 土器類

1) 縄文時代 (図版68、図26、観察表1)

1は深鉢の口縁部片である。口縁端部および口縁部外面にL R縄文を施す。沈線で区画した内側に、竹管の先端を利用した竹管文を等間隔に押捺する。内面はナデ調整である。2は口縁部直下に区画隆帯を貼り付けた深鉢B類とみられる頸部付近の破片である。区画の接点部分は特に高く隆起させる。区画内上段に竹管文、下段に竹管を押し引いたのち竹管文を施す。区画帯上部に接して竹管文が確認できることから、口縁端部までの間を竹管文で充填していたとみられる。頸部以下はL R縄文を施す。3は体部から頸部にかけて緩やかに開く深鉢の体部片である。下部と上部にR L縄文が認められ、上部には横方向の沈線が施されている。4～6は深鉢の体部片である。外面はナデ調整のちL R縄文、内面はナデ調整である。5・6は縄文の施文単位が破片中程で確認できる。胎土は雲母を含み、色調は灰黄褐色を呈する。7は深鉢体部片とみられる。外面にL R縄文を施

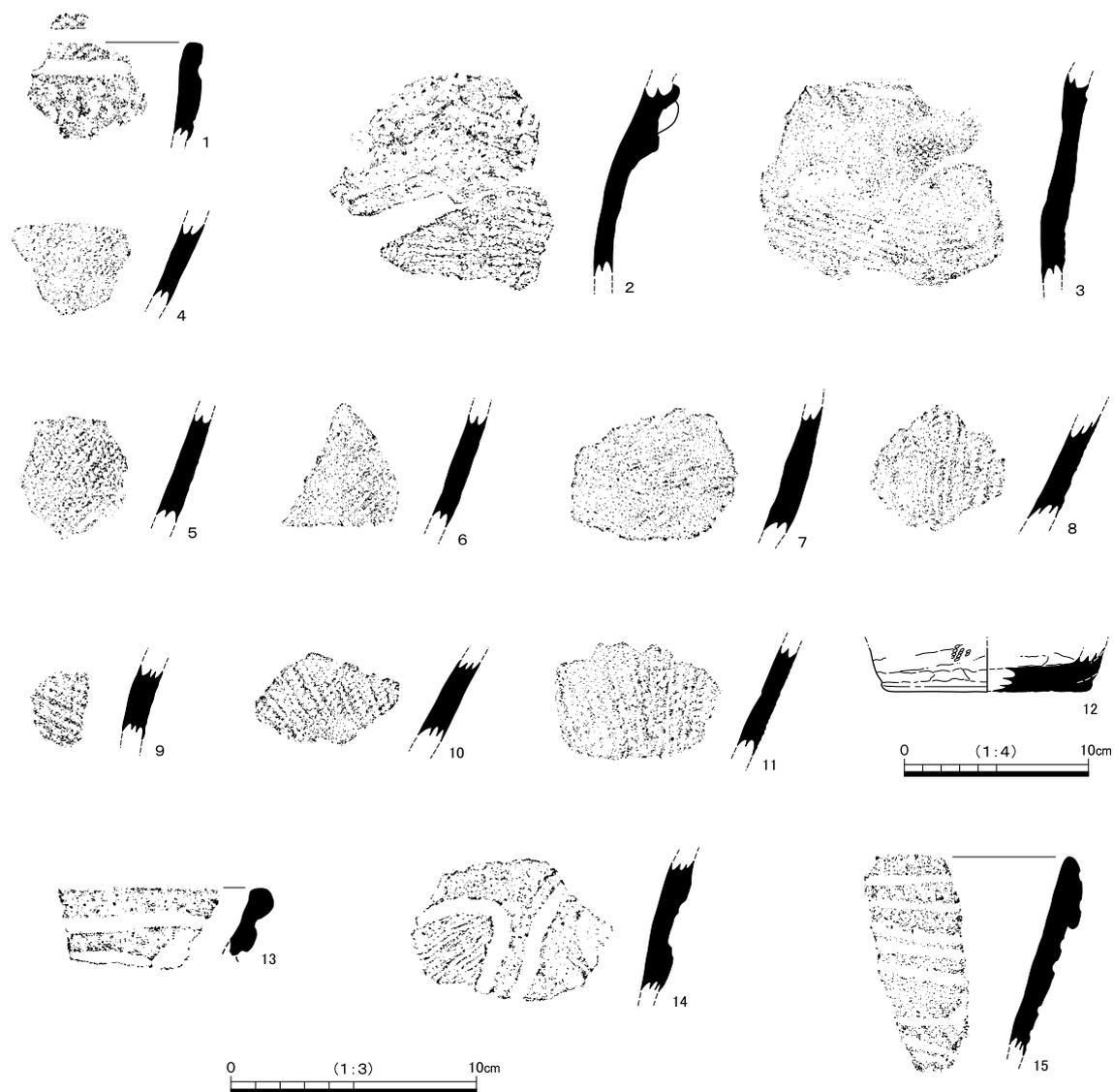


図26 縄文土器拓影・実測図 (1:3、12のみ1:4)

す。3段分の境目が確認できる。内面はナデ調整である。8～11は深鉢体部片である。外面は附加条Lの撚りが付いたRL縄文、内面は板状工具によるナデである。色調は褐色系を呈し、胎土に雲母が少量含まれることから、12の底部と同一個体とみられる。12は深鉢の平底である。外面はRL縄文を部分的に確認できる。内面は横方向のユビナデ、接地面は工具痕および何らかの圧痕が認められる。13は口縁が大きく開く深鉢の口縁端部片である。内面を横方向に強くナデ調整し、外面は幅約4mmの竹管状工具で沈線を2条施す。胎土は径2mm以下のチャートや石英、長石を含み、灰黄色を呈する。14は13と同一個体になるとみられる深鉢の体部片である。外面には竹管状工具を使用した沈線が3条施されている。方形に区画する逆く字形の沈線は、横方向から縦方向の順番で沈線を施す。区画内にRL縄文を充填し、はみ出た部分を丁寧に磨り消す。J字文の一部の可能性もある。内面はナデ調整で、粘土紐接合痕が認められる。15は括れた頸部から口縁が大きく開く深鉢の口縁部片である。口縁部外面に幅広の隆帯が貼り付けられ、段差を形成する。口縁部外面はRL縄文と棒状工具による沈線、ナデ調整が交互に配置されている。沈線は縄文施文上に施されているが、はみ出た部分はナデ消さない。隆帯直下に横長の方形区画が認められ、沈線は下部、縦方向、上部の順で施文されている。

土器の時期は7が縄文時代中期、1～6・8～12が縄文時代中期末の北白川C式土器、13～15が縄文時代後期初頭の中津式土器とみられる。すべて湿地460から出土した。

2) 弥生時代から古墳時代初頭 (図版21～29・69～74、図27～29、観察表1)

弥生時代と古墳時代初頭の土器は溝459(46箱)・湿地460(32箱:古墳時代中期から後期含む)などからまとまって出土した。出土した弥生時代後期から古墳時代初頭の土器には、壺・甕・鉢・手焙形土器・高杯・器台がある。弥生土器と古式土師器の形式分類は、本報告では以下に拠る(図27～29)。

壺 (図27)

細頸壺

<細頸壺A>細い頸部から口縁部が長く直線的にのび、扁球形の体部をもつもの。

<細頸壺B>細い頸部から口縁部が内湾ぎみに長くのびるもの。体部は下半に最大径がくる。

広口壺

<広口壺A>頸部から口縁部が外反して大きく開き、端部を拡張して装飾を施すもの。

<広口壺B>頸部から口縁部が外反して大きく開き、装飾を施さないもの。

<広口壺C>頸部から口縁部が直立して立ち上がり、明瞭な屈曲点をもって大きく開くもの。

<広口壺D>頸部から口縁部が外反して開き、端部を上方に拡張し受け口状を呈するもの。

無頸壺

<無頸壺A>扁球形の体部をもち、ごく短く直立する口縁部がつく、もしくは全く口縁部をもたないもの。

短頸壺

<短頸壺A>短く直線的に立ち上がる口縁部をもつもの。

<短頸壺B>短く「く」の字状に外反する口縁部をもつもの。

<短頸壺C>短く内弯して立ち上がる口縁部をもつもの。

長頸壺

<長頸壺A>斜め上方に直線的に長くのびる口縁部をもつもの。

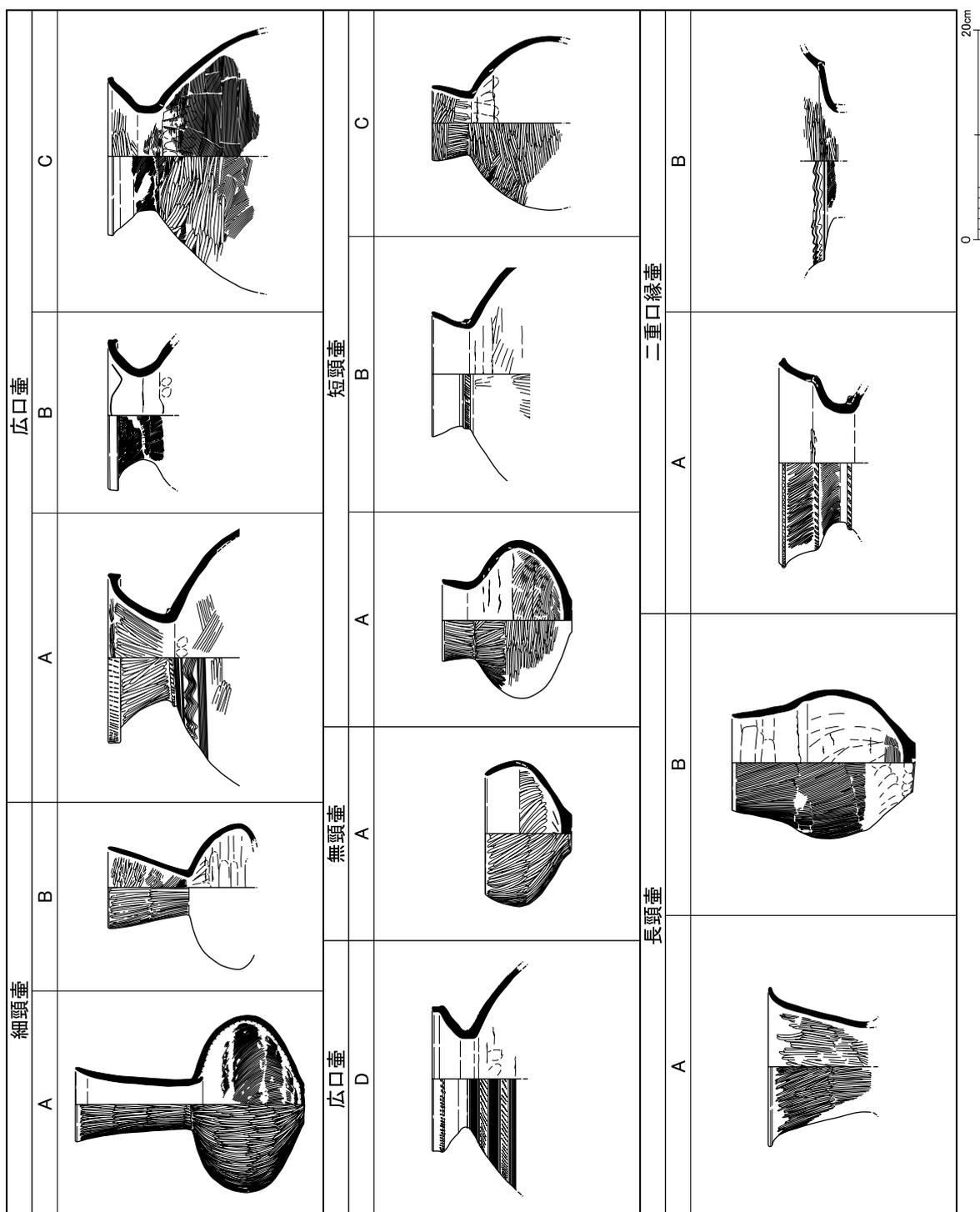


図27 弥生土器・古式土師器形式分類1

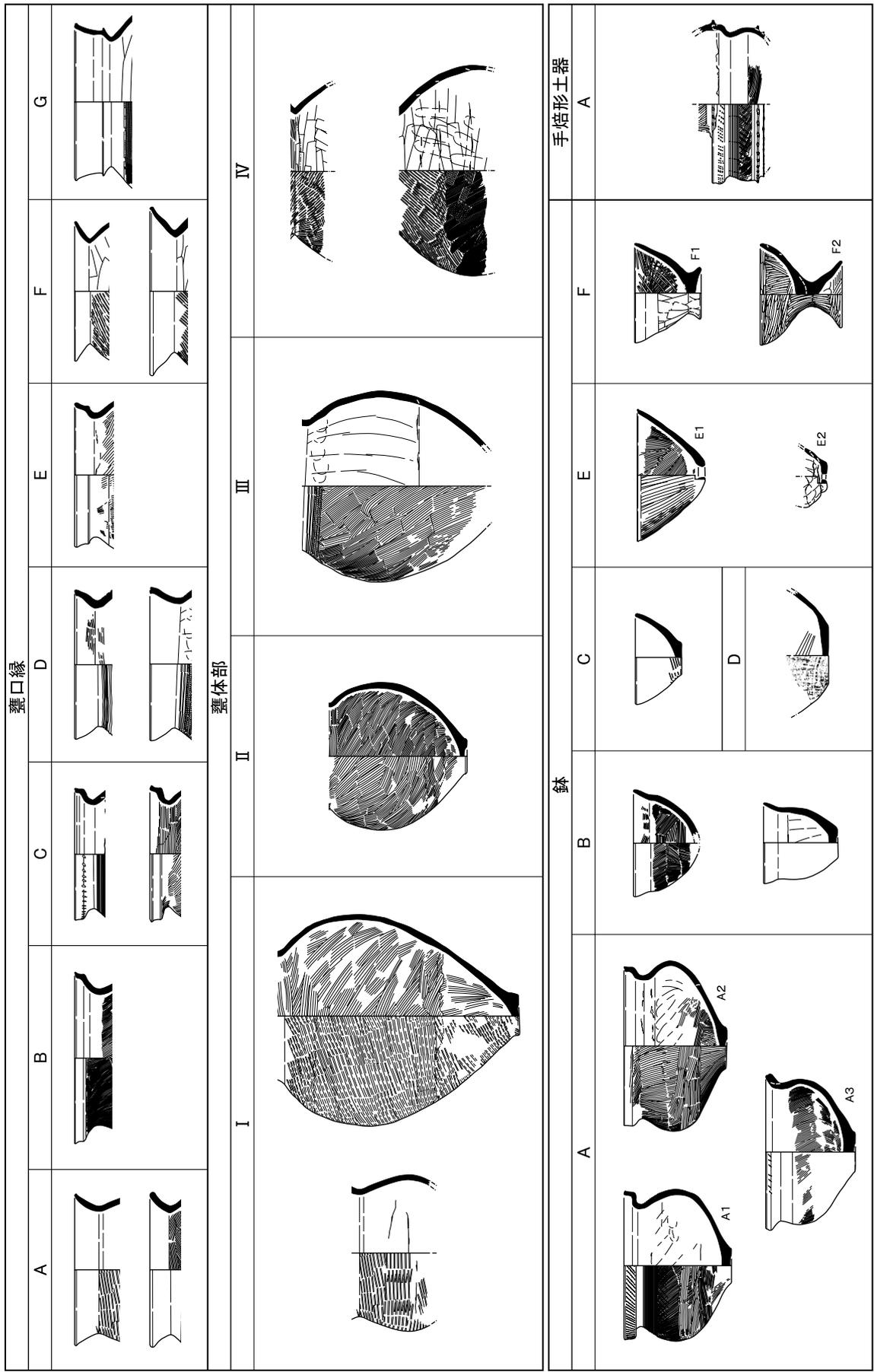


图28 弥生土器・古式土師器形式分類2

<長頸壺B>内傾して立ち上がる口縁部をもつもの。

二重口縁壺

<二重口縁壺A>短く外反する擬口縁部に外反する口縁部がつくもの。装飾を施す。

<二重口縁壺B>直立する頸部から大きく水平に開く擬口縁部に斜め上方にのびる口縁部がつくもの。装飾を施す。

甕 (図28)

口縁部と体部の形態をそれぞれ別に分類し、その組み合わせで表記する。

口縁部

<甕A>「く」の字状に外反するもの。

<甕B>「く」の字状に外反し、端部を上方に拡張し受け口状を呈するもの。

<甕C>強く外反する口縁部から上方に立ち上がり、受け口状を呈するもの。端部には水平な面をもつ。近江系。

<甕D>甕Cの退化したもので、外反が弱く、上方への立ち上がりも短い。端部には水平な面をもつもの。

<甕E>短く外反する口縁部から上方に立ち上がり、受け口状を呈するもの。端部は丸くおさめる。丹波系。

<甕F>体部から鋭角に外反する「く」の字状口縁を呈するもの。端部は丸くおさめるか、短くつまみ上げる。庄内式甕。

<甕G>「く」の字状に外反する擬口縁に、斜め上方にのびる2次口縁が付加されるもの。山陰系。

体部

<甕I>外面を太筋のタタキで仕上げるもの。内面はハケないしはナデで仕上げる。

<甕II>内外面ともにハケで仕上げるもの。外面にハケで消しきれずタタキの痕跡が残るものも含む。

<甕III>外面をハケで仕上げ、内面をケズリ・板ナデ・ナデのいずれかで仕上げるもの。肩部に櫛描き直線文や列点文などの装飾を施すものが多い。

<甕IV>外面は細筋のタタキのちハケ仕上げ、内面はヘラケズリする。庄内式甕。胎土に角閃石を含み暗茶褐色系の生駒西麓産のものと、角閃石をあまり含まずにぶい橙色系の河内平野部産のものがある。

鉢 (図28)

<鉢A> A 1 受け口状口縁で、口縁部と体部の肩部に装飾を施すもの。

A 2 受け口状口縁で、装飾を施さないもの。

A 3 体部形態はA 1・A 2と同じで、口縁部が受け口状をなさないもの。

<鉢B>「く」の字状口縁をもつもの。

<鉢C>体部が「ハ」の字状に開くもの。甕下半部と同じ作り。

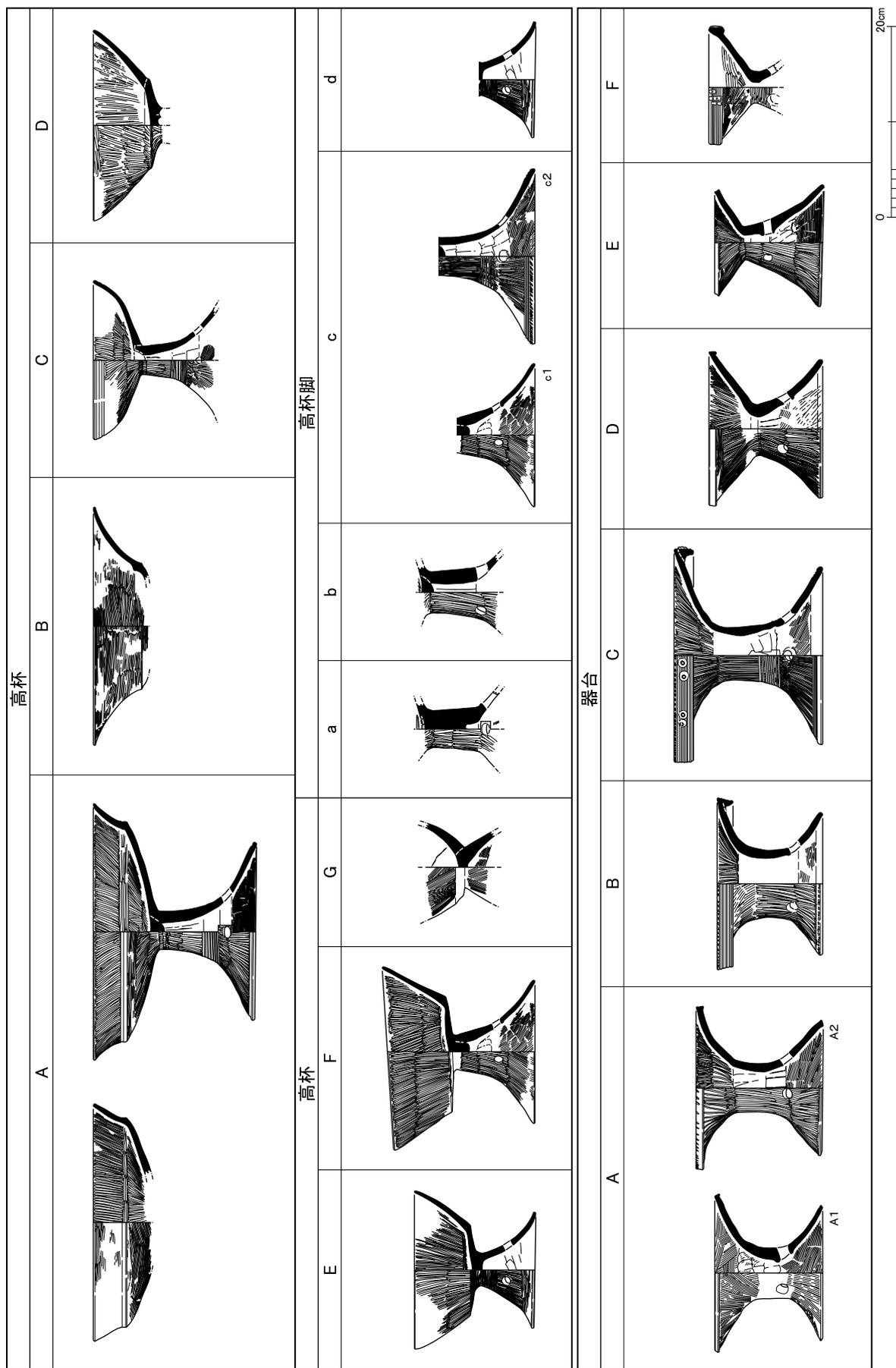


图29 弥生土器·古式土師器形式分類3

<鉢D>型作りで、外面にカゴ目がつくもの。

<鉢E> E 1 底部に焼成前穿孔がなされた有孔鉢。甕下半部と同じ作り。

E 2 手づくねの小型鉢で、底部に焼成前穿孔がなされた有孔鉢。

<鉢F> F 1 短い脚台をもつ台付き鉢。

F 2 「ハ」の字状に開く脚台をもつ台付き鉢。

手焙形土器 (図28)

<手焙形土器A>受口状口縁の鉢Aに覆部がつくもの。

高杯 (図29)

杯部と脚部の形態をそれぞれ別に分類し、その組み合わせで表記する。

杯部

<高杯A>皿型の杯部で、口縁部が外反するもの。

<高杯B>皿型の杯部で、口縁部が外反して大きく開くもの。

<高杯C>碗型の杯部をもつもの。

<高杯D>鉢状の杯部で、口縁部が大きく開くもの。

<高杯E>鉢状の杯部で、口縁部が内弯ぎみに立ち上がるもの。

<高杯F>鉢状の杯部で、口縁部が直線的に立ち上がるもの。

<高杯G>ミガキなどを施さない、粗製のもの。

脚部

<高杯a>中実で、脚裾が明瞭な屈曲点をもって開くもの。

<高杯b>中空で、脚裾が明瞭な屈曲点をもって開くもの。

<高杯c> c 1 中空で、脚柱から脚裾にかけてゆるやかに大きく開くもの。

c 2 c 1と同じ形状で、装飾を施すもの。

<高杯d>中空で、「ハ」の字状に開くもの。

器台 (図29)

<器台A> A 1 ゆるやかに開く脚裾から筒部が直線的に立ち上がり、口縁部がゆるやかに開くもの。

A 2 A 1の口縁端部に装飾を施すもの。

<器台B>器台Aの口縁端部を垂下させ、装飾を施すもの。

<器台C>ゆるやかに開く裾部から筒部が直線的に立ち上がり、明瞭な屈曲点をもって口縁部が大きく開くもの。口縁端部は垂下させ、装飾を施す。筒部、裾部にも装飾を施す。

<器台D>「ハ」の字状に開く脚部から明瞭な屈曲点をもって口縁部が大きく開くもの。

<器台E>直線的に長くのびる脚部から明瞭な屈曲点をもって口縁部が開くもの。

<器台F>直線的にひらく脚部から明瞭な屈曲点をもって口縁部が開き、端部を上方に拡張するもの。

湿地460出土土器（図版21・22・69・70） 遺物の出土場所は湿地状地形の北岸付近に多い傾向がある。

16～19・22は甕である。16は甕F・Ⅳ。口縁端部は短くつまみ上げる。体部内面へラケズリ調整するが、一部にハケが残る。生駒西麓産。17は甕E・Ⅱ。内面体部上半はヨコハケで、下半ナデ調整。粘土紐接合痕が残る。18は甕B・Ⅲで小型品。体部外面ハケの後ナデ、内面板ナデ調整。19は甕G。体部外面ハケ、内面にへラケズリを施す。山陰系。22は甕AⅢ。外面ハケ調整で口縁部は粗いタテヘラミガキを施す。内面は口縁部ハケ、体部板ナデで仕上げる。外面に煤が付着する。東日本からの搬入品である。

20・21・23～26は壺である。20は小型品の広口壺C。口縁部に3本の棒状浮文・6個の円形浮文で1単位を4単位貼り付ける。肩部には櫛描直線文を施す。21は小型品の二重口縁壺B。体部外面ハケの後タテヘラミガキ、内面はハケ調整を施す。23は細頸壺A。外面は短い単位のタテヘラミガキを密に施す。内面口頸部はヨコナデ・ナデ、体部はハケ調整。24は短頸壺A。口縁部ヨコナデ、体部外面・内面頸部及び体部下半ハケ調整で、体部内面上半は指ナデ痕が明瞭にみられる。25は短頸壺B。口縁部はナデ、体部外面と内面下半はハケ調整、内面上半は指ナデ痕が明瞭にみられる。26は口径31.2cmを測る大型品の広口壺A。垂下した口縁部に4条の擬凹線を施し竹管円形浮文が付く。頸部には凸帯を貼り付け刻目を施す。外面はハケの後、丁寧なタテヘラミガキを施す。内面は口頸部ハケの後、上半縦方向、下半横方向の密なヘラミガキで仕上げる。体部はハケ調整。河内産。

27～40は鉢である。27は鉢E 1。内外面タテ方向の原体の異なるハケ調整である、外面は粗いハケ。28は鉢F 1。外面はケズリの後、口縁部ヨコナデ、内面はケズリの後ヘラミガキで仕上げる。29は鉢F 2。脚部内面を除いた全面にヘラミガキを施す。30は鉢A 2。体部外面縦ハケの後、口縁部から体部上半はヨコナデ調整で、下半は不明瞭であるがヘラナデ調整か。底部内面にはクモの巣状ハケメが施されている。外面全体に煤付着。31～40は鉢A 1である。31・32は口径が体部最大径より大きく、口縁部に櫛描列点文を施す。体部外面は、31はタテハケ、32はナデの後、櫛描直線文と列点文を施す。内面はナデ調整である。31は外面に煤付着。33は口縁部に刺突文を施す。外面体部上半タテ方向、下半ヨコ方向のハケの後ナデ消し、上半に3条の櫛描直線文と列点文を施す。内面は板ナデ調整で、体部と底部の接合痕が明瞭。34・35は口縁部に櫛描列点文を施す。外面体部ハケ調整の後、34は6条、35は10条の櫛描直線文と列点文が施されている。外面全体に煤が付着している。36・37は口縁部に櫛描列点文を施す。体部上半にタテ方向、中位から下半ヨコ方向のハケ調整の後、上半に12条の櫛描直線文と列点文、中位に連弧条文を施す。内面はナデ調整で、口縁部と体部の接合痕が明瞭に残る。外面全体に煤付着。38・39は口縁部に刺突文を施す。38は体部外面ハケ調整の後、粗略な簾状文風の櫛描直線文、列点文、連弧条文を施す。内面は板ナデ調整。39は体部外面ハケ調整の後、7条の直線文・列点文・連弧状文を施す。内面は体部上半ヨコハケ、下半板ナデ、底部ハケ調整で分割成形の段が認められる。40は口径18cmをこえる大型品である。口縁部に櫛描列点文を施す。外面体部上半タテ、中位ヨコ方向のハケの後、13条の直線文、

列点文、連弧状文を施す。内面体部上半ヨコハケ、中位ナデの後タテヘラミガキを施す。

41～58は器台である。41～43は器台A 1。内外面ハケ調整で、41は筒部外面をナデで仕上げる。42は受部内面及び裾部外面はタテヘラミガキを施す。43は受部内面ハケの後タテヘラミガキを施す。41・43は筒部下位、42は裾部に円形透しを三方に穿つ。44は器台B。口縁部を下方に拡張し、5条の櫛描波状文をめぐらす。外面はタテハケの後、筒部ナデ、裾部タテヘラミガキを施す。内面は受部タテヘラミガキ、筒部ナデ、裾部ハケの後ナデ調整で仕上げる。45・46は器台C。45は垂下した口縁部に浅い櫛描直線文がめぐり、上端部に刻目、下端部に刺突文を施す。受部外面ハケ、内面ハケの後タテヘラミガキで仕上げる。46は垂下した口縁部に3条の擬凹線文をめぐらし円形浮文を貼り付ける。内外面タテヘラミガキで仕上げる。47・48は器台B。47は垂下する口縁部に4条の擬凹線文をめぐらし、上端部に刻目を施す。外面は受部ハケの後ナデ、筒部から裾部はタテヘラミガキで裾端部に1条の凹線と刺突文をめぐらす。内面は、受部タテヘラミガキ、筒部ナデ、裾部ヨコハケの後ナデ調整を行う。48は垂下する口縁部に4条の擬凹線文がめぐる。外面は受部ハケ、筒部から裾部はタテヘラミガキ、内面は受部ハケの後タテヘラミガキ、筒部ナデ、裾部ヨコハケの後ナデ調整を行う。47・48とも筒部下半に円形透しを三方に穿つ。

49～58は器台Cである。垂下した口縁部に擬凹線文をめぐらし2個1対の竹管円形浮文を貼り付ける。上端部には刻目を施す。調整は外面全体に丁寧なタテヘラミガキ。内面は受部タテヘラミガキ、筒部ケズリ、裾部ヨコハケの後ヨコナデ調整を行う。筒部と裾部の境界付近に円形透しを四方に穿つ。50・51は筒部下半に6条のヘラ描沈線文と刺突文をめぐらす。52は筒部下半に左回りで8条のヘラ描直線文、刺突文をめぐらし、裾端部には3条の凹線文をいれる。53は筒部下半に左回りの7条のヘラ描沈線文と刺突文をめぐらし、裾端部には2条の凹線文と烈点文を施す。54は筒部に5条のヘラ描沈線文と刺突文をめぐらし、裾端部には2条の凹線文と列点文を施す。55は筒部に1本でラセン状に右回りのヘラ描直線文と刺突文を施す。裾端部に2条の凹線文がめぐる。56は垂下した口縁部は剥離しているが3個1対の円形浮文の痕跡が残る。筒部には右回りに5条のヘラ描沈線文と列点文を施し、裾端部には2条の凹線文と烈点文がめぐる。57・58は裾部。57は裾部に2条の凹線文がめぐる。58は右回りのヘラ描沈線文と刺突文を施し、裾端部に1条の凹線文と烈点文がめぐる。

59～64は高杯である。59・60は高杯C。59は口縁部ヨコ方向、杯部はタテ方向の丁寧なヘラミガキを施す。60は口縁部に2条の浅い凹線文がめぐる。脚部形態c 2。右回りの8条のヘラ描沈線文と刺突文がめぐる。61～63は高杯A・c 2である。杯部及び外面全体に丁寧なヘラミガキを施し、脚部内面はヘラケズリ、裾部はハケ調整している。脚・裾部の文様構成は器台Cと同様である。61は脚部に右回りで5条のヘラ描沈線文と刺突文を施し、裾端部には2条の凹線文と列点文がめぐる。62は右回りで7条のヘラ描沈線文と刺突文を施し、裾端部に1条の凹線文がめぐる。63は右回りで5条のヘラ描沈線文と刺突文を施し、裾端部には3条の凹線文と列点文がめぐる。64は脚部のみで高杯c 2。10条のヘラ描沈線文と刺突文を施す。

溝459出土土器（図版23～29・70～74）掲載した土器の出土地点は、上層を除き、北東からA～Yの小地区単位で取り上げている（図版10～13）。

65～100は壺である。65はミニチュア品で広口壺Aか。外面ハケの後ナデで胴部上半櫛描直線文・波状文・直線文を施す。66は小型品の短頸壺A。内外面ともにナデで仕上げる。67は小型品の広口壺D。外面ハケで口縁部ヨコナデ。68は二重口縁壺B。口縁端部は欠損しているが、外面には3条の櫛描波状文をめぐらし、内面はヨコ方向のヘラミガキを施す。69・70は二重口縁壺A。69は外反する口縁部上端・下端に刻目を施す。口縁部外面はタテヘラミガキで頸部はタテハケ調整である。頸部と体部の境に刻目を施した凸帯を貼り付ける。内面はヘラミガキを施しているが磨滅して不鮮明である。70は口縁端部を下方へ拡張して面をもつ。外面は丁寧なタテヘラミガキを施し、擬口縁部に刻目がめぐる。頸部と体部の境に刻目を施した凸帯を貼り付ける。肩部には、櫛描直線文を巡らす。内面はヨコヘラミガキで仕上げる。71～78は短頸壺。71は小型品の短頸壺C。外面ハケ調整の後、口縁部と体部ともにヘラミガキを施す。内面は口縁部ヨコハケ、体部ナデ。72は短頸壺A。口縁部はヨコナデで体部外面ハケの後ナデ、内面ナデ調整。73は短頸壺C。最大径は体部下半にある。体部外面はハケ調整の後、短い単位のヨコヘラミガキ、下半はタテヘラミガキを密に施す。口縁部はヨコナデの後ヨコ方向、頸部はタテヘラミガキを行う。体部内面は指ナデで分割成形の段が認められ、底部はハケ調整である。口縁部は磨滅している。外面体部下半から底部に煤が付着している。74は短頸壺C。体部外面はタテハケ調整の後、短い単位のヨコヘラミガキを施す。口縁部はヨコナデの後ヨコ方向、頸部はタテ方向のヘラミガキを施す。口縁部内面はタテ方向、頸部はヨコ方向のヘラミガキを粗く施す。体部内面はナデ調整。75は短頸壺A。体部外面の上半から中位はハケ調整、下半から底部はヘラケズリ調整の後、上半はタテ方向、下半はヨコ方向のヘラミガキを加える。口縁部はヨコナデの後丁寧にタテヘラミガキを行う。体部内面は上半ナデ調整で粘土紐接合痕が明瞭に残るが、下半はヨコハケ調整である。76は短頸壺Aで球形に近い体部をもつ。口縁部はヨコナデ調整で端部に刻目を施す。体部外面上端の文様は櫛描直線文、列点文、直線文で構成する。内面はナデ調整である。77は短頸壺Bで球形に近い体部をもつ。内外面とも器面は磨滅しており、調整は不鮮明である。頸部外面に凸帯を貼り付け、刻目を施す。78は短頸壺B。口縁部は内外面ヨコナデ、体部外面は全面ハケ調整の後、短い単位のタテヘラミガキを上半は粗く、下半は密に施す。体部内面は上半ナデ、下半はハケで仕上げる。79は無頸壺A。精製品で口縁部外面はヨコナデ調整で、体部下半は丁寧なタテヘラミガキを行うが上半はやや粗いタテヘラミガキである。内面下半は粗い斜目方向のヘラミガキ、上半はヨコナデ調整である。80は細頸壺A。精製品で口縁部に4条の浅い凹線文を施し、タテ方向の密で丁寧なヘラミガキで仕上げる。頸部には右回りで4条のヘラ描直線文がめぐる。内面は口縁部ヨコナデ、頸部ケズリの後ナデ調整。81は細頸壺B。口縁部外面はタテ方向のヘラミガキ、内面はハケの後ヘラミガキである。体部は器面の磨滅が著しく、調整は不鮮明。82・83は長頸壺A。82は口縁部ヨコナデ、頸部外面タテハケ、内面はナデで仕上げる。83は内外面ナデ調整の後、粗いタテヘラミガキを施す。84は長頸壺B。外面タテハケ調整で体部下半はナデで仕上げる。内面はナデで粘土紐接合痕が明瞭に残る。85・86は

広口壺A。二重口縁壺の可能性もある。85は外面ハケ調整の後、短い単位のヨコヘラミガキを密に施す。肩部には刺突文がめぐるが施文後にミガキが施されているためつぶれている。86は胴部最大径を下半にもつ。外面ナデ調整の後、肩部から体部上半を8条1単位の櫛描直線文、直線文、波状文、直線文、波状文、直線文、刺突文の7帯の文様で飾る。下半はヨコヘラミガキを施す。内面はオサエ、ナデで仕上げる。87・88は広口壺B。87は外面タテハケ調整で頸部はナデ消す。口縁部はヨコナデで、内面に1条のヘラ描文がめぐる。88は内外面ハケ調整の後、外面はタテ方向、内面はヨコ方向のヘラミガキを密に施す。89～91は広口壺D。89は内外面磨減が著しい。90は口縁部外面をヘラで面取り状にケズリ、頸部はハケの後やや粗いヘラミガキ調整を施す。内面はハケの後ヘラミガキで仕上げる。91は口縁部下端に列点文をめぐらす。肩部には櫛描直線文、列点文、直線文、列点文、直線文の文様帯をめぐらす。内面はナデで仕上げる。92は広口壺A。口縁端部を上下に拡張して列点文を施す。頸部は凸帯を貼り付け刻目をめぐらす。肩部には櫛描直線文、直線文、波状文、直線文の文様帯をめぐらす。頸部は太いタテヘラミガキを施す。内面はハケの後、口縁部ヨコ、頸部タテ方向のヘラミガキを施す。93～95は広口壺C。93は口縁部に3条の擬凹線文がめぐる。外面は頸部タテハケ、体部ハケの後ナデ調整、内面は口頸部ヨコハケ、体部オサエナデ調整。94は外面ハケ調整の後、口縁部ヨコナデ、体部は粗いヘラミガキを施す。口縁部内面は粗いヨコヘラミガキ、体部ヨコハケ調整を施す。95は口縁部外面ヨコナデで体部はハケの後ヘラミガキを施す。口縁部内面はヨコヘラミガキを施し、体部はハケ調整。96は広口壺A。外面ヨコナデ調整で内面はヘラミガキで櫛描波状文がめぐる。97～100は壺体部のみですべて広口壺と考えられる。97は体部最大径が下半にある。外面は丁寧なヘラミガキを施し。内面は板ナデ調整である。98は肩部に櫛描直線文と半裁竹管文をめぐらす。体部はミガキが施されているが不鮮明である。内面はナデ調整。99は球形の体部をもつ。体部外面はハケの後ヘラミガキ、内面はヨコ方向のハケ調整である。100は球形に近い体部をもち、外面はハケ調整、内面は板ナデ調整である。

101～150は甕である。101～108は甕A・Ⅱ。102・105は内面に粘土紐接合痕が明瞭に残る。103は外面体部下半のタタキが残る。109～111は甕A・Ⅲ。110は内面に明瞭な粘土紐接合痕が認められる。111は口縁端部が下方へ突出して面をもつ。体部外面はタタキをハケで消すが下半は残る。112・113は甕A・Ⅰ。114・120・121・123～125は甕B・Ⅱ。120は立ち上がりが極めて短く口端の肥厚をもって立ち上がり面としている。121はつまみ上げタイプの受口である。口縁端部に擬凹線を施している。123は体部外面タタキをハケで消している。125は口縁下端部に刻目を施す。肩部には刺突文がめぐる。115～119は甕B・Ⅲ。115は煤が厚く付着している。117～118は口縁部つまみ上げタイプの受口状口縁である。119は頸部が直立して立ち上がり、開いて受口状口縁部をもつものである。122は甕E・Ⅱ。丹波系。126は甕B・Ⅰ。口縁端部をつまみ上げる。127は甕C・Ⅰ。口縁部に2条の凹線文がめぐり、下端に刻目を施す。外面は連続ラセンタタキである。外面体部中位に煤が付着する。内面は下半から底部に炭化物が付着する。128は甕D・Ⅰ。口縁部下端に刻目を施す。肩部には6条の櫛描直線文と列点文がめぐる。体部外面はタタキの後、一部ハケ調整される。129・131・132は甕C・Ⅱ。129は体部外面のタタキが残る。131は上方へ立ち上がり

端部は内傾する面をもつ口縁部に、球形に近い体部が付く。130は甕C・Ⅲ。口縁部はヨコナデの後、下半に刻目を入れる。肩部には6条の櫛描直線文と列点文がめぐり。内面は粘土紐接合痕が残る。133は甕D・Ⅱ。体部外面タタキの後ハケ調整を施す。134・135は甕D・Ⅲ。134は肩部に10条のヘラ描直線文と刺突文をめぐらす。135は肩部に6条の簾状文風の櫛描直線文と刺突文をめぐらす。136は甕E・Ⅱ。丹波系。137は甕D・Ⅱ。内外面板ナデ調整。138～149は甕F・Ⅳの庄内式甕である。144・145・148は口縁端部をつまみ上げない。外面のタタキは140以外右上がりである。143・147は下半部ハケ調整である。内面はケズリ調整であるが、147は体部上半のケズリがあまく指ナデ痕・粘土紐痕が残る。138～147は生駒西麓産。148・149は胎土に角閃石を含んでおらず、河内平野部産と考えられる。150は甕A・Ⅰ。外面はタタキの後ナデ調整。内面はナデ調整で仕上げている。肩部以下に煤が付着する。器壁は厚い。

151～176は鉢である。151～156は小型の鉢B。151は内外面ナデで、外面体部上半に稚拙な列点文、波状文、直線文がめぐり。152は口縁部ヨコナデで体部内外面ハケ調整。154・155は内外面ナデ調整を施すが、154の外面には粘土紐痕が明瞭に残る。157は鉢C。外面体部下半にタタキが残る。158は有孔の鉢E 2。指オサエとナデ調整で内面に粘土紐痕が明瞭に残る。159は有孔の鉢E 1。外面ハケ、内面上半ハケ調整を施す。160～164は台付鉢で、161・162は鉢F 1、160・163・164は鉢F 2である。160～163の底部内面はクモの巣状ハケ調整が施されている。165～171は鉢A。165は口縁部に列点文を施し、体部外面ハケの後、櫛描直線文、列点文、波状文をめぐらす。内面は板ナデで仕上げる。166は体部外面ハケの後、櫛描波状文をめぐらす。167は口縁部に列点文を施し、体部外面ハケの後、5条の櫛描直線文、列点文、1条の波状文、直線文、5条の波状文をめぐらす。口縁部及び体部中位に煤が付着する。湖南地方からの搬入品か。168は外面ナデの後、肩部に篋状工具で列点文状の線を入れる。口縁部内面に1条の浅い沈線がめぐり。169は口縁部はヨコナデ、体部外面上半タテハケ、中位ヨコハケの後ナデ調整し、口縁部と体部上半に列点文をめぐらす。170は口縁部下端に3個1単位の刺突文を施し、肩部にはハケ原体による列点文がめぐり。体部上半に細い2条の直線文と1条の波状文、下半には波状文がめぐり。内面はナデ調整、外面口縁部及び体部中位以下に煤が付着する。171は口縁部ヨコナデ、体部外面上半はタテハケ、中位はヨコハケの後、上半に櫛描直線文と列点文をめぐらせる。内面はナデ調整で、底部はハケ調整。外面口縁部から体部下半に煤が付着する。172は鉢A 3。全体に磨滅が著しい。口縁部下端に刻目を施す。173～175は鉢A 2。173は口縁部に2条の擬凹線文がめぐり。体部外面ハケ調整、内面は上半板ナデ、下半はハケである。外面煤付着。174は口縁端部を丸くおさめ、内外面ナデで仕上げる。体部外面下半に煤付着。175は外面ハケ、内面上半ナデ、下半ハケ調整である。外面全体に煤が付着する。底部外面は被熱により赤変している。176は鉢D。体・底部外面には成形時の籠の編目をそのまま残している。底部は籠の底の形状を残した四角形を呈し、四隅は突起状に膨らんでいる。内面は底部ナデ、体部はハケで仕上げている。

177～179は手焙形土器Aである。177は蔽部である。外面にヘラによる線刻が施されている。近江からの搬入品か。179は口縁部に列点文を施し、体部外面はハケ調整の後上半に簾状文風の櫛描

直線文と列点文をめぐらす。体部中位には1条の凸帯を貼り付け、凸帯上に1条の凹線をめぐらし刻目を施す。内面はナデ調整。

180～196は高杯である。180・181は高杯D。杯部内外面ともにヘラミガキを施す。182は高杯F。杯部は内外面ともに丁寧にタテヘラミガキを施す。脚部はやや粗いヘラミガキを施す。183・184は高杯F・c1。杯部内外面と脚部外面はタテヘラミガキを施す。脚部内面はハケ調整である。185は高杯E・d。口縁部は内外面ともタテヘラミガキ、底部はヨコヘラミガキを施す。脚部もタテヘラミガキを施すが、上半・裾部は丁寧なヨコヘラミガキで仕上げる。内面はヘラケズリ調整である。186～188は高杯E。186・187は杯部内外面タテヘラミガキを施す。188は杯部外面ヘラケズリの後ヨコヘラミガキ、内面ハケの後タテヘラミガキで仕上げる。189・190は高杯A。189は口縁部外面ヨコヘラミガキ、底部ヨコ・ナナメヘラミガキで、内面はタテヘラミガキを施す。190は磨滅が著しいが内外面ともタテヘラミガキが一部に残る。口縁部内面に1条の沈線がめぐる。191は高杯B。内外面とも単位の短いヨコヘラミガキを密に施す。北陸地方からの搬入品である。192・193は高杯C。192は杯部内外面丁寧なヘラミガキで、脚部は凹線文をめぐらし、円孔を四方に穿つ。193は杯部やや粗いヘラミガキで、脚部ハケの後ナデ調整で円孔を三方に穿つ。194は高杯G。杯部外面と脚部はタテハケ、杯部内面はナデ。195は高杯脚部a、196は高杯脚部b。いずれも外面ハケの後タテヘラミガキを施す。

197～211は器台である。197は器台F。口縁部に擬凹線文をめぐらし刻目を施した棒状浮文を貼り付ける。受部外面はハケの後タテヘラミガキ、内面はタテヘラミガキを施す。脚部外面はヨコヘラミガキ、内面はヘラケズリである。円孔を三方に穿つ。198～200は器台E。198は外面全体を密にタテヘラミガキし、脚部上位に円孔を三方に穿つ。受部内面は丁寧なタテヘラミガキ、脚部はケズリ・ナデ、裾部はハケ調整を行う。199・200は受部内外はハケの後ナデ調整し口縁部はヨコナデで仕上げる。脚部外面はタテヘラミガキを施し、円孔を三方に穿つ。内面は上位をヘラケズリし、下半はハケ調整で裾部はナデ消している。201～204は器台C。201は垂下した口縁部にヘラ描直線文をめぐらし、羽状文を施す。磨滅しており調整は不鮮明である。202は垂下した口縁部に3条の凹線文をめぐらし、円形浮文を貼り付ける。口縁上端下端に刻目を施す。203は垂下した口縁部に擬凹線文をめぐらし、棒状浮文を貼り付ける。受部内外面はタテヘラミガキを施す。204は垂下した口縁部に3条の凹線文をめぐらし、上端に刻目を施す。内外面タテヘラミガキで仕上げる。205～207は器台D。206は外面受部がタテヘラミガキ、脚部はヨコヘラミガキを行う。内面は磨滅しており不鮮明である。207は口縁端部を下方へ誇張し面を形成する。外面は全面に丁寧なヘラミガキを施し、円孔を三方に穿つ。208～210は器台A。208は筒部のみ残存。外面タテヘラミガキで内面は指ナデ調整である。209は外面タテヘラミガキ、内面は磨滅しており不明であるが、粘土接合痕が認められる。210は筒部から脚部が明瞭な屈曲点をもって開く。外面はハケの後やや粗いタテヘラミガキを施す。内面は筒部ヘラケズリ、脚部はナデ調整である。筒部下位に円孔を三方に穿つ。211は器台A2。口縁部上端に刻目を施す。外面全体はタテヘラミガキを密に施す。内面は受部タテヘラミガキ、筒部ナデ、脚部はハケ調整である。

3) 古墳時代中期から後期 (図版30・75、観察表1)

湿地460出土土器 (図版30・75) 古墳時代中期から後期の土器類には、湿地460から出土した須恵器・土師器がある。

須恵器には、杯蓋・杯身・有蓋高杯蓋・有蓋高杯・無蓋高杯・甗・壺・甕の器形がある。212～214は杯蓋である。212・213は丸味をもった天井部に、天井部と口縁部の境に稜をもつ。大型の214は天井部が扁平で、天井部と口縁部をわける稜線がにぶく突出しない。215～217は杯身である。215・216は口縁端部に段をもち、大型の217は口縁端部を丸くおさめる。218・219は有蓋高杯蓋、220・221は有蓋高杯である。220は脚部に三方に長方形透かし、221は円孔を穿つ。222は無蓋高杯である。杯部は浅く、口縁部は外反する。口縁部と底部の境に稜を持ち、櫛描き波状文を施す。223・224は甗である。223は肩部の張りが少なく、頸部は外上方へのびる。頸部に櫛描き列点文をめぐらす。224は、口頸部を欠損する。底部にカキ目調整を施す。225・226は広口壺である。口端ちかくに断面三角形の凸帯をめぐらす。口頸部文様帯は凸帯で区切り、225は上段に、226は上段・下段に波状文を施す。227～229は甕である。227は生焼けで、口縁部に凸帯をめぐらし、頸部に波状文を施す。228の口縁端部は玉縁状を呈し、頸部にカキ目を施す。229は口頸部が外反しながら外上方へのび、口縁部は直立して端部は丸くおさめる。体部外面はタタキの後カキ目を施す。

土師器には、小型丸底壺・高杯・甕・甑・鍋などの器形がある。230・231は小型丸底壺である。器壁は厚い。232・233は高杯である。杯部は浅く明瞭な稜をもたず、口縁部がゆるやかに立ち上がる。234～237は甕である。234・235は口縁端部が肥厚する布留系甕で、体部外面はハケ調整し、内面にケズリを施す。236・237はくの字状口縁をなす甕である。体部外面ハケ調整し、内面にケズリを施す。238は甑である。口縁端部はやや内傾する面をもつ。外面はタテ方向のハケ調整、内面はタテ方向のケズリ調整を施す。239は鍋である。いの字状口縁で口縁部はヨコナデ調整、体部は粗いハケ調整を施す。中位付近に把手がつくと考えられる。

以上の土器の帰属時期については、須恵器はTK23～TK10型式で、5世紀後半から6世紀前半の古墳時代中期から後期に位置付けられる。土師器も形態的特徴から須恵器と同様の古墳時代中期から後期に属するものと考えられる。

4) 平安時代から鎌倉時代 (図版76～78、図30～32、観察表2)

土坑480出土土器 (図版76、図30) 完形に近い土師器皿が多く出土している。京都V期中段階に属する²⁾。

240～255は土師器皿Nである。口縁部に2段のナデを施し、口縁端部は断面三角形状を呈するものが多い。小型皿と大型皿に分類できる。240～249は小型皿で、口径9.2～10.0cm、器高1.4～1.8cmある。250～255は大型皿で、口径14.0～14.8cm、器高2.6～3.7cmある。

井戸470出土土器 (図版76、図30) 土師器・須恵器・白色土器・瓦類が出土している。京都V期中段階に属する。

256・257は土師器皿Nである。口縁部に2段のナデを施す。小型皿で口径9.2・9.4cm、器高1.5・1.9cmある。258は白色土器皿である。口径13.5cm。ロクロで成形し、器表面は丁寧なナデを施す。胎土は白く、精良である。

井戸374出土土器 (図30) 土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦器・山茶椀・焼締陶器・白磁・瓦類が出土している。京都V期中段階に属する。

259は土師器皿A cである。口縁端部は内側へ折り返す。口径9.0cm、器高1.2cmある。260～264は土師器皿Nである。口縁部に2段のナデを施す。小型皿と大型皿に分類できる。260・261は小型皿で口径9.4cm、器高1.6・1.8cmある。262～264は大型皿で口径13.8～15.2cm、器高2.2～2.5cmある。265・266は白磁である。265は口径9.2cmの小型の皿で底部を欠損する。口縁端部が外反する。266は椀で底部を欠損する。口縁部が大きく外反する。灰白色の胎土で、灰白色の釉が掛けられる。

溝627出土土器 (図版76、図30) 土師器・須恵器・瓦器・白磁・瓦類が出土している。京都V期中段階から新段階に属する。

267～281は土師器皿Nである。口縁部に2段のナデを施す。小型皿と大型皿に分類できる。267～276は小型皿で口径9.1～10.2cm、器高1.4～1.9cmある。277～281は大型皿で口径13.9～14.8cm、器高は2.7～2.9cmある。

溝628出土土器 (図30) 土師器・須恵器・瓦器・山茶椀・焼締陶器・瓦類が出土している。京都V期に属する。

282は土師器皿Nの小型皿である。口縁部に2段のナデを施す。口径8.7cm、器高1.7cmある。283は山茶椀の小皿である。口径9.1cm、器高3.0cmある。ロクロで成形する。底部外面に貼り付け高台が付く。

土坑412出土土器 (図版76、図30) 土師器・瓦器・白磁・瓦類が出土している。京都V期新段階に属する。

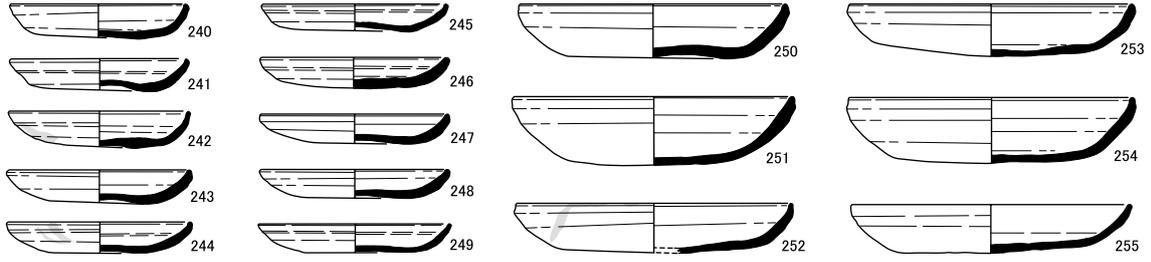
284・285は土師器皿A cである。口縁端部は内側へ折り返す。口径8.2・9.0cm、器高1.2・1.1cmある。286～300は土師器皿Nである。口縁部に2段のナデを施す。小型皿と大型皿に分類できる。286～295は小型皿で口径8.8～9.6cm、器高1.6～1.8cmある。296～300は大型皿で口径13.5～14.7cm、器高2.8～3.2cmある。297・299は外面に煤が付着する。301は瓦器椀である。口径15.8cmある。内外面にヘラミガキを施す。底部は欠損している。302は口径9.6cmの小型の白磁皿である。口縁端部は緩やかに外上方に延びる。内面中段に1条の凹線を施す。内面と外面上半に灰白色の釉がかかる。体部外面下半は露胎で、底部は糸切り痕を残す。

地業193出土土器 (図30) 土師器・須恵器・白磁・瓦類が出土している。京都V期中段階に属する。

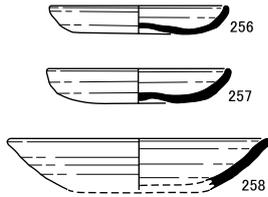
303～308は土師器皿Nである。口縁部に2段のナデを施す。小型皿と大型皿に分類できる。303～307は小型皿で口径9.7～11.0cm、器高1.4～2.4cmある。308は大型皿で口径12.4cm、器高は2.0cmある。

地業195出土土器 (図30) 土師器・瓦類が出土している。京都V期中段階に属する。

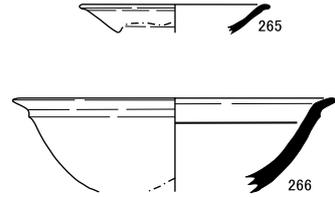
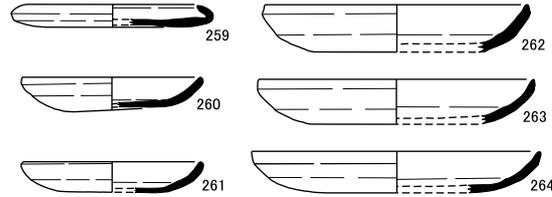
土坑480



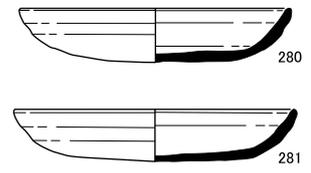
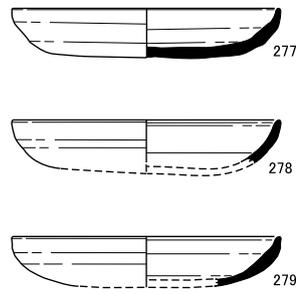
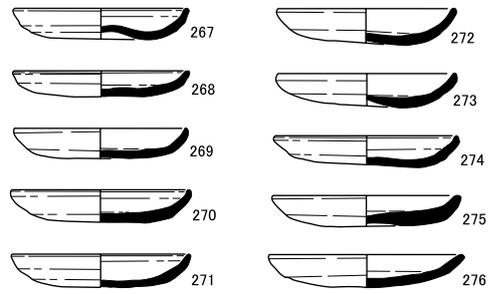
井戸470



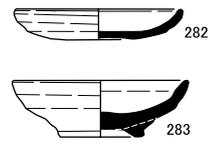
井戸374



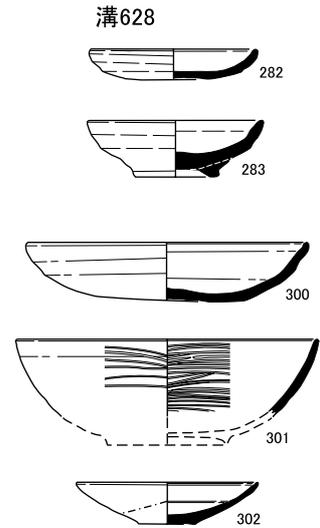
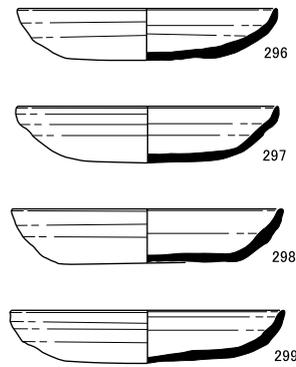
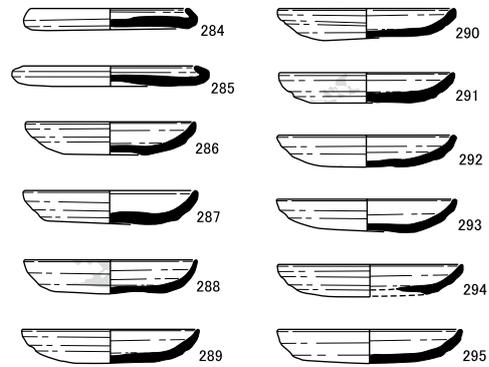
溝627



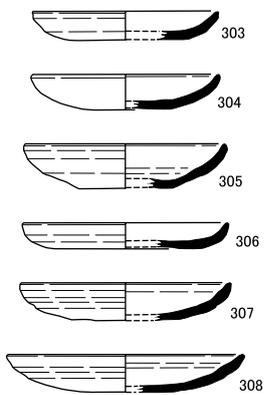
溝628



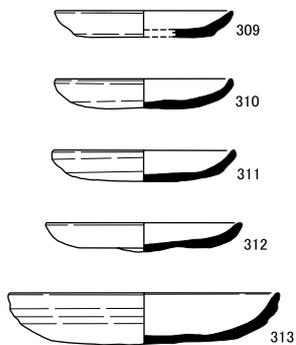
土坑412



地業193



地業195



土坑444

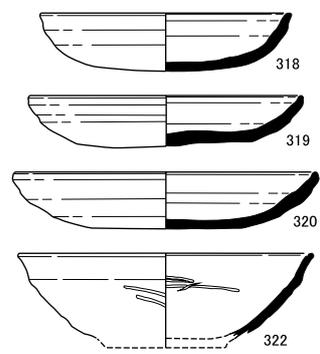
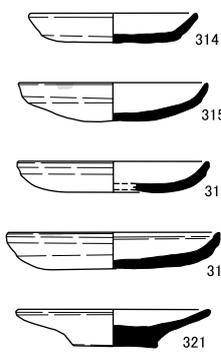


図30 平安時代から鎌倉時代の土器類実測図1 (1 : 4)

309～313は土師器皿Nである。口縁部に2段のナデを施す。小型皿と大型皿に分類できる。309～312は小型皿で口径9.2～10.2cm、器高1.5～1.7cmある。313は大型皿で口径14.1cm、器高2.8cmある。

土坑444出土土器（図版77、図30） 土師器・白色土器・瓦器・瓦類が出土している。京都V期新段階からVI期古段階に属する。

314～320は土師器皿Nである。口縁部に2段のナデを施す。小型皿と大型皿に分類できる。314～317は小型皿で口径8.8～11.1cm、器高1.6～2.1cmある。318～320は大型皿で口径13.0～15.8cm、器高2.8～3.1cmある。321は白色土器皿である。ロクロで成形する。底部は糸切り痕を残す。322は瓦器碗である。口径15.4cmある。内外面にヘラミガキを施す。底部は欠損している。

溝327出土土器（図版77、図31） 土師器・須恵器・白色土器・瓦器・山茶碗・白磁・瓦類が出土している。京都V期新段階からVI期古段階に属する。

323は土師器皿A cである。口縁端部は内側へ折り返す。口径9.4cm、器高1.3cmある。324～331は土師器皿Nである。口縁部に2段のナデを施す。小型皿と大型皿に分類できる。324～329は小型皿で口径9.2～10.3cm、器高1.5～1.9cmある。330・331は大型皿で口径13.2・14.3cm、器高3.2・2.7cmある。332は白色土器の体部から口縁部を欠損する小型の碗である。外面底部に糸切り痕が残

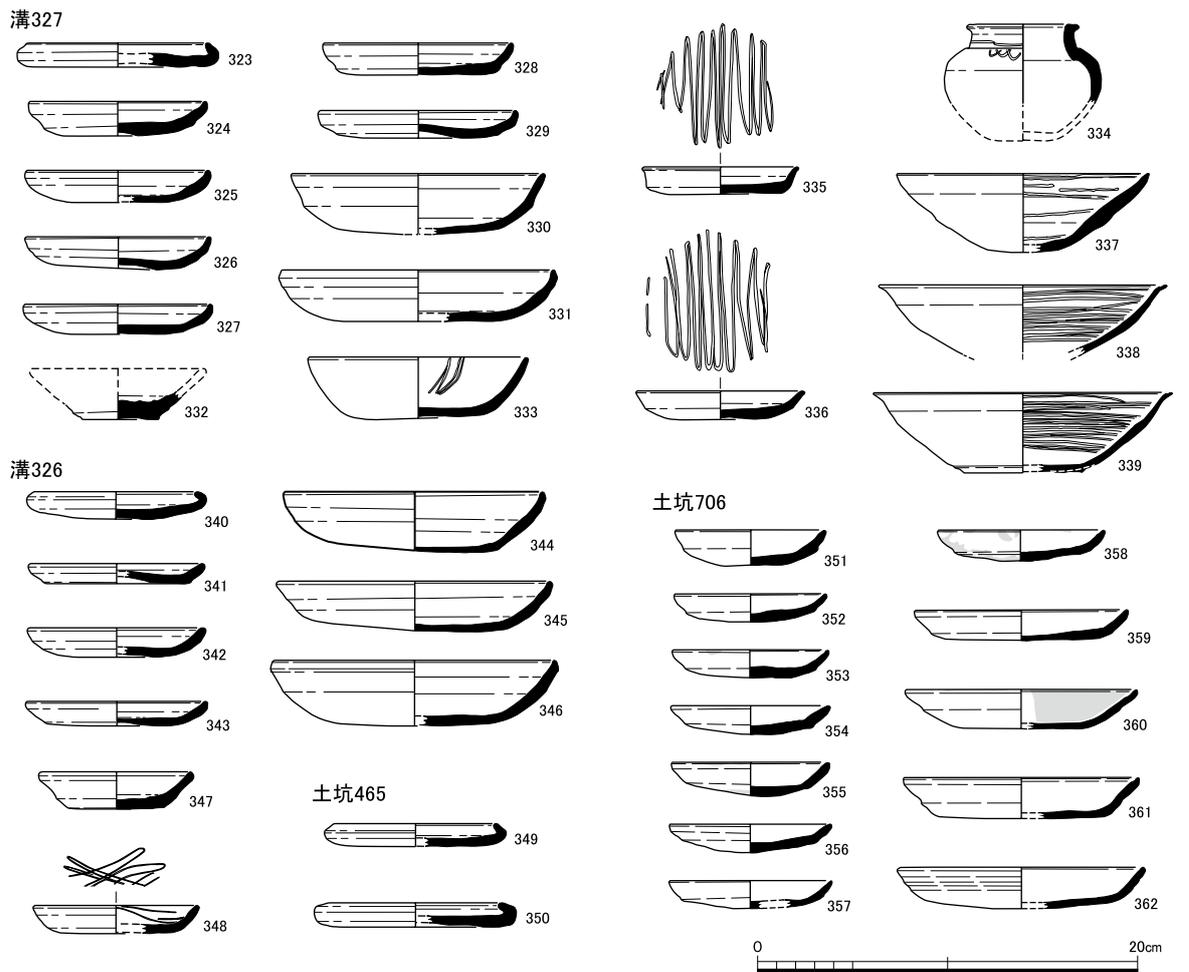


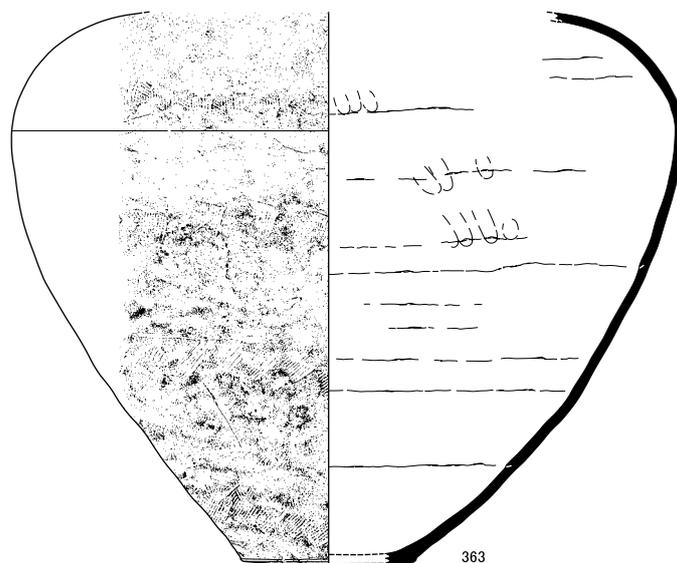
図31 平安時代から鎌倉時代の土器類実測図2（1：4）

る。333～339は瓦器である。333は瓦器椀で口径11.5cm、器高3.3cmある。磨滅するが、内面に暗文が残る。334は小型の壺である。口縁端部は外側につまみ、上方に面を作る。頸部下方に1条の凹線と花卉状暗文を施す。335・336は小型の皿である。口径8.0・8.8cm、器高はともに1.5cmある。内面底部に暗文を施す。337～339は椀である。337は体部が厚くヘラミガキが雑である。口径13.2cm、器高4.2cmある。338・339は内面に密なヘラミガキを施す。ともに底部は欠損しているが、339の高台部は残存し、底部径は6.2cmある。

溝326出土土器(図版77、図31) 土師器・須恵器・白色土器・瓦器・山茶椀・白磁・瓦類が出土している。京都V期新段階からVI期古段階に属する。

340は土師器皿A cである。口縁端部は内側へ折り返し、丸くおさめる。口径8.6cm、器高1.5cmある。341～346は土師器皿Nである。口縁部に2段のナデを施す。小型皿と大型皿に分類できる。341～343は小型皿で口径9.0～9.4cm、器高1.1～1.6cmある。344～346は大型皿で口径13.6～14.8cm、器高2.6～3.5cmある。347は山茶椀の皿である。口径7.8cm、器高2.0cmある。ロクロ成形で、底

井戸629



井戸775

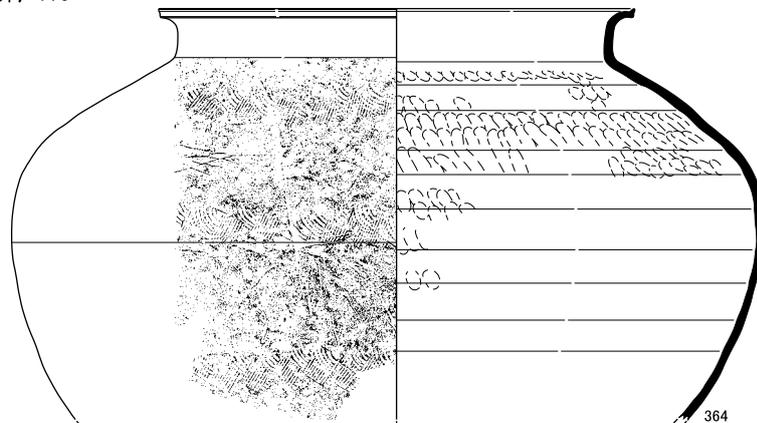


図32 井戸629・775出土常滑甕実測図(1:8)

部糸切り痕が残る。348は瓦器の小型皿である。口径8.5cm、器高は1.5cmある。内面底部に暗文を施す。

土坑465出土土器(図31) 土師器・須恵器・土製品・石製品・瓦類が出土している。京都V期に属する。

349・350は土師器皿Acである。口縁端部は内側へ折り返し、丸くおさめる。口径8.4・9.0cm、器高1.2・1.3cmある。

土坑706出土土器(図版77、図31) 土師器・須恵器・瓦器・瓦類が出土している。京都VI期新段階からVII期古段階に属する。

351～362は土師器皿Nである。小型皿と大型皿に分類できる。351～358は小型皿で口径7.8～8.7cm、器高1.5～1.9cmある。355は口縁部と外面底部に煤が付着する。燈明皿と見られる。358は外面に煤が付着する。359～362は大型皿で口径11.1～12.8cm、器高1.6～2.2cmある。358は内外面、360は内面全体に煤が付着する。

井戸629出土土器(図版78、図32) 土師器・須恵器・瓦器・焼締陶器・瓦類が出土している。京都VI期古段階から中段階に属する。

363は常滑産の大型甕で、頸部と口縁部を欠損する。底径17.6cmの小さな底部から体部が斜め上方に立ち上がる。胴部最大径は70.4cmを測る。平行文を組み合わせた文様のタタキを肩部から胴部に5列施す。肩部には自然釉が見られる。底部を打ち欠き、井戸の井筒として転用されていた。

井戸775出土土器(図版78、図32) 土師器・須恵器・瓦器・焼締陶器・白磁・瓦類が出土している。京都VI期古段階から中段階に属する。

364は常滑産の大型甕である。胴部下半を欠損する。胴部最大径は78.4cmを測る。短い頸部は外上方に延び、口縁部は外に開く。端部は小さくつまみ上げる。平行文と同心円文を組み合わせた文様のタタキを肩部から胴部に3列施す。井戸の井筒として転用されていた。

5) 室町時代(図版78、図33、観察表2)

井戸576出土土器(図版78、図33) 土師器・須恵器・瓦器・施釉陶器・焼締陶器・青磁・瓦類が出土している。京都VII期新段階からVIII期古段階に属する。

365～371は土師器皿である。白色系の皿Sと赤色系の皿Nに分類できる。白色系の皿Sはさらに皿Sと皿Shに分類できる。365は白色系の皿Shで口径6.3cm、器高1.8cmある。底部を内側上方に押し上げるいわゆるヘソ皿である。366～370は皿Sで口径11.8～13.0cm、器高2.6～2.8cmある。371は赤色系の皿Nで口径11.6cm、器高2.2cmある。

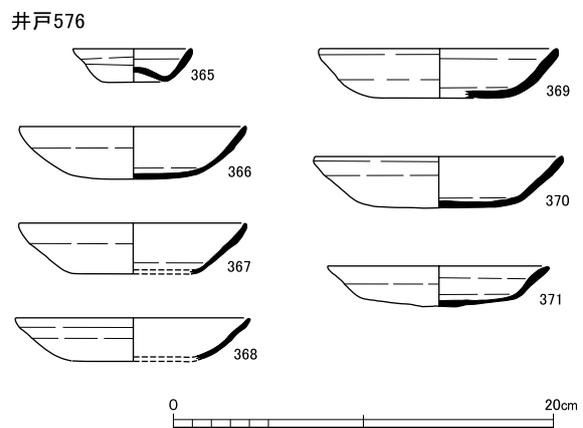


図33 室町時代の土器類実測図(1:4)

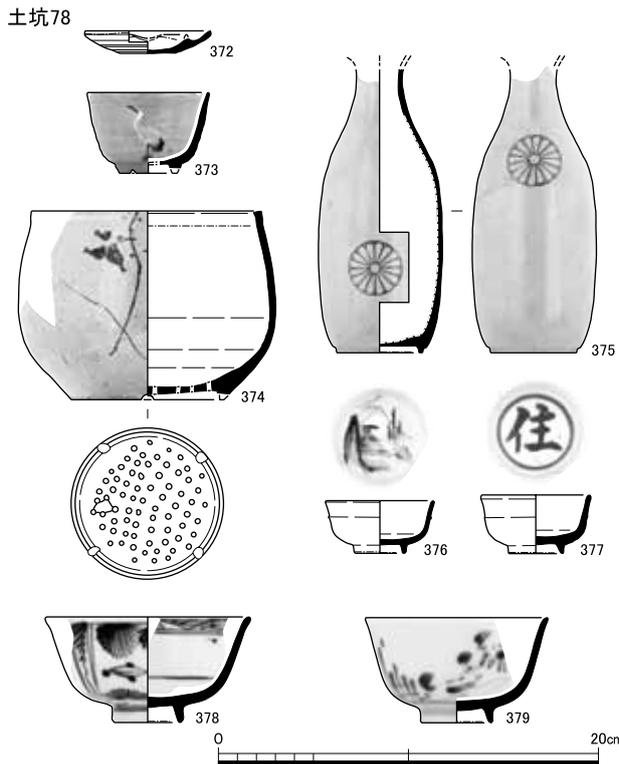


図34 江戸時代の土器類実測図（1：4）

6) 江戸時代 (図版78、図34、観察表2)

土坑78出土土器 (図版78、図34) 土師器・施釉陶器・磁器・瓦類が出土している。

372～375は施釉陶器である。372は灯明受皿である。底部から体部外面は回転ヘラケズリを施し、露胎である。灰白色の釉が施される。京信楽系。373は小椀である。削り出し高台、高台に切り込みがある。外面に立鶴が描かれる。374は蒸し器とみられる。碁笥底の底部中央部に径2～3mm、およそ80箇所の穿孔がある。口縁部の上面と内面は無釉である。外面に鉄絵の草文を2箇所に施す。高台に4箇所の切り込みがある。375は小型の徳利である。口縁部を欠損する。体部は極めて薄く仕上げ、丁寧な作り

りである。16弁の菊華文を2方向に施す。釉は浅黄色を呈している。禁裏御用品の京焼である。

376～379は磁器である。376・377は小杯である。376は内面底部に型紙摺りで富士の絵を施す。377は内面底部に型紙摺りで圏線内に「住」字を施す。ともに外面中段に凸線あり。ともに瀬戸美濃産。378・379は椀である。378は口縁部がわずかに外反する。内面底部に絵を施すが文は不明である。379は口縁部が外反する。底部内面には圏線と中央部に草文を施す。ともに瀬戸美濃産。

(3) 瓦 類 (図版31～56・79～96、表5・6、観察表3・4)

今回の調査では、遺物整理箱約300箱分の瓦類が出土した。瓦の種類は、軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・丸瓦・平瓦とヘラ記号を施した丸・平瓦などである。その内、軒瓦の出土点数は、軒丸瓦が363点、軒平瓦が278点、総数641点である。鬼瓦の出土点数は5点である。

出土瓦の時期は、平安時代後期前葉（11世紀後葉）と、平安時代後期中葉から後葉（12世紀代）と、鎌倉時代（13世紀代）に大きく分かれる。

なお、個々の軒瓦については、軒丸瓦・軒平瓦観察表（観察表3・4）に掲載した。

ここでは、瓦類の出土状況や、種類・産地などについて報告する。

1) 出土遺構 (表5)

軒丸瓦・軒平瓦の遺構別の出土数は、表5のとおりである。

調査区北部の東西溝の旧段階である溝627から100点、新段階である溝628から25点出土した。調査区中央部の南北溝の旧段階である溝327から263点、新段階である溝326から58点出土した。

これらの両溝の全体に占める割合は、東西溝が約2割、南北溝約5割を占め、今回の調査で出土した大半の瓦が両溝から出土したこととなる。これらの溝以外の遺構では、中世の井戸576から27点、近世の堀27から12点出土しやや多いが、他の溝・井戸・土坑・柱穴などは10点以下と少ない。その他、整地層掘り下げで81点出土した。

なお、溝327からは、13世紀代とされる軒瓦が8点出土しているが、上面整地層からの混入の可能性もあり、今後の検討を残す。

南北溝327は、溝埋土堆積状況から考え、溝の東方から瓦が投棄された様相を示している。また、東西溝の北側は街路又は空閑地と推定できることから、今回出土した瓦の大半は、南北溝の東エリアに存在したであろう堂宇の所用瓦である可能性が高い。

2) 軒瓦について (表6)

軒瓦の文様・産地による分類は、表6にまとめた。

軒丸瓦 軒丸瓦は、瓦当文様によって分類すると133型式150種、小片または文様が不明瞭なため型式が認定できないものが31点ある。瓦当文様は、蓮華文と巴文・文字文に大別できる。蓮華文は、単弁蓮華文・複弁蓮華文などに分類できる。さらに外区の有無や中房・蓮弁・間弁の違いなどによって細分できる。巴文は三巴文・二巴文で、外区の有無や巴文の巻き込み方向、頭部と尾部の接続方法などによって分類できる。さらに範の違いによって細分できる。文字文は梵字を配する。

種類毎の点数は、瓦13が10点、瓦18・35・92が各8点、瓦3・62・98・132が各6点とやや多いが、他は1種5点以下と少ない。型式としては、瓦64～67が12点、瓦58～62が13点、瓦3～5が8点、瓦23～25が6点となる。

軒平瓦 軒平瓦は、瓦当文様によって分類すると126型式152種、小片または文様が不明瞭なため型式が認定できないものが83点ある。瓦当文様は、唐草文・宝相華文・半裁花文・劔頭文・連巴文・雁行文・幾何学文・文字文に大別できる。蓮華文は、外行唐草文・内行唐草文・偏行唐草文などに分類できる。さらに外区の有無や、中心文の違いなどによって細分できる。劔頭文・連巴文は、陽刻のものと陰刻のものがある。文字文は梵字と寺名を配する。

種類毎の点数は、瓦173が12点、瓦164・190が各8点、瓦193が6点、瓦171が5点とやや多いが、他は1種4点以下と少ない。型式としては、瓦190～197が25点、瓦173+174が16点、瓦216～218が10点、瓦242～246が8点、瓦170+171が6点となる。

時期 軒丸瓦・軒平瓦の時期は、平安時代後期前葉（11世紀後葉）、平安時代後期中葉から後葉（12世紀代）と、鎌倉時代（13世紀代）に分けられるが、時期が不明なものも少なくない。

11世紀後葉と推定した軒瓦は29点出土した。出土遺構は、溝326・溝327などである。当該期の軒瓦は、調査地東側の美術館1970年調査で出土した軒丸瓦202点・軒平瓦140点の内、約1割程度を占める³⁾が、今回調査の出土状況とは型式が異なるものもある。当該期の瓦は、尊勝寺出土瓦⁴⁾・法勝寺金堂出土瓦⁵⁾と比較し、法勝寺所用瓦が隣接地に投棄されたと推定されている⁶⁾。

12世紀代と推定した軒瓦は582点出土した。出土遺構は、南北溝326・溝327や東西溝627・628

表5 軒瓦遺構別出土數量表

| 検出面 | 遺構名 | 11世紀後葉 | | 12世紀代 | | 13世紀以降 | | 時期不明 | | 計 |
|-------|------------|--------|-----|-------|-----|--------|-----|------|-----|-----|
| | | 軒丸瓦 | 軒平瓦 | 軒丸瓦 | 軒平瓦 | 軒丸瓦 | 軒平瓦 | 軒丸瓦 | 軒平瓦 | |
| 第2面 | 地業193 | | | 2 | 4 | | | | | 6 |
| | 地業195 | | | 2 | | | | | | 2 |
| | 溝302 | 3 | | 2 | 3 | | 1 | | | 9 |
| | 溝326 | 3 | 1 | 30 | 23 | | | 1 | | 58 |
| | 溝327 | 4 | 3 | 144 | 101 | 4 | 4 | | 3 | 263 |
| | 溝627 | 2 | | 59 | 37 | | | 1 | | 99 |
| | 溝627下層 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 溝628 | | 1 | 14 | 10 | | | | | 25 |
| | 井戸335 | | | | | | | | 1 | 1 |
| | 井戸374 | 1 | | | 2 | | | | | 3 |
| | 井戸420 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 井戸775 | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| | 土坑200 | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 土坑213 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 土坑319 | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| | 土坑436 | | | 1 | 2 | | | | | 3 |
| | 土坑464 | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 土坑465 | | | 5 | 2 | | | | | 7 |
| | 土坑637 | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 土坑726 | | | 2 | 2 | | | | | 4 |
| | 柱列2 柱穴823 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 柱列4 柱穴792 | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| | 柱列12 柱穴346 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 柱穴304 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 柱穴339 | | | 1 | 4 | | | 1 | | 6 |
| | 柱穴340 | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 柱穴458 | | | | 2 | | | | | 2 |
| | 柱穴485 | | 1 | | 1 | | | | | 2 |
| 柱穴580 | | | 1 | | | | | | 1 | |
| 整地層 | 4 | 2 | 40 | 32 | | 2 | | 1 | 81 | |
| 第1-2面 | 溝31 | | | | 2 | | | | | 2 |
| | 溝50 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 溝495 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 溝500 | | | 1 | 2 | | | | | 3 |
| | 溝506 | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 溝509 | | | | 2 | | | | | 2 |
| | 井戸576 | 2 | 1 | 8 | 7 | 3 | 4 | 1 | 1 | 27 |
| 第1-1面 | 堀27 | | | 7 | 4 | 1 | | | | 12 |
| | 土坑38 | | 1 | | | | | | | 1 |
| | 土坑151 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 井戸555 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 攪乱 | | | | | | | | 1 | 1 |
| 計 | 19 | 10 | 332 | 250 | 8 | 11 | 4 | 7 | 641 | |

表6 軒瓦分類別出土数量表

| 時期 | 種類 | 文様 | 山城 | 播磨 | 丹波 | 大和 | 讃岐 | 産地不明 | 計 | | | | |
|------------|-----|-------|-----|-------|----|----|----|------|-----|-----|---|---|---|
| 11世紀 後葉 | 軒丸瓦 | 複弁蓮華文 | | 10 | | 1 | | | 11 | 19 | | | |
| | | 単弁蓮華文 | | 1 | | | | 6 | 7 | | | | |
| | | 梵字文 | | | | 1 | | | 1 | | | | |
| | 軒平瓦 | 外行唐草文 | | 4 | 1 | 2 | | 1 | 8 | 10 | | | |
| | | 唐草文 | | 1 | | | | | 1 | | | | |
| | | 梵字文 | | | | 1 | | | 1 | | | | |
| 12世紀代 | 軒丸瓦 | 複弁蓮華文 | 29 | 53 | | | | 3 | 85 | 332 | | | |
| | | 単弁蓮華文 | 47 | 20 | 1 | | | 12 | 80 | | | | |
| | | 単複混合弁 | 11 | | | | | | 11 | | | | |
| | | 珠文帯巴文 | 67 | 3 | | | | 1 | 71 | | | | |
| | | 巴文 | 68 | 4 | | | | 0 | 72 | | | | |
| | | 文様不明 | 9 | 4 | | | | | 13 | | | | |
| | 軒平瓦 | 外行唐草文 | 44 | 87 | 13 | 1 | 1 | | 146 | 250 | | | |
| | | 内行唐草文 | 8 | 2 | | | | | 10 | | | | |
| | | 偏行唐草文 | 10 | 7 | | | | 1 | 18 | | | | |
| | | 唐草文 | 7 | 10 | 3 | | | | 20 | | | | |
| | | 宝相華文 | | 13 | | | | | 13 | | | | |
| | | 連巴文 | 6 | 2 | | | | | 8 | | | | |
| | | 幾何学巴文 | 2 | | | | | | 2 | | | | |
| | | 幾何学文 | 2 | | | | | 1 | 3 | | | | |
| | | 半栽花文 | 2 | 1 | 1 | | | | 4 | | | | |
| | | 雁行文 | 3 | | | | | | 3 | | | | |
| | | 劍頭文 | 18 | | | | | | 18 | | | | |
| | | 文様不明 | 3 | 1 | 1 | | | | 5 | | | | |
| | | 13世紀代 | 軒丸瓦 | 複弁蓮華文 | 2 | | | | | | | 2 | 8 |
| | | | | 単弁蓮華文 | | | | | | | 2 | 2 | |
| 巴文 | | | | | | | | 4 | 4 | | | | |
| 軒平瓦 | 唐草文 | | | | | 1 | | 8 | 9 | 11 | | | |
| | 劍頭文 | | 1 | | | | | | 1 | | | | |
| 時期不明 | 軒丸瓦 | 蓮華文 | | | | | | 1 | 1 | 4 | | | |
| | | 巴文 | | | | | | 2 | 2 | | | | |
| | | 文様不明 | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| | 軒平瓦 | 唐草文 | | | | | | 5 | 5 | 7 | | | |
| | | 幾何学文 | | | | | | 2 | 2 | | | | |
| 計 | | | 339 | 223 | 20 | 7 | 1 | 51 | 641 | | | | |

が多い。当該期の軒瓦は、尊勝寺出土瓦・鳥羽殿金剛心院・御室法金剛院・醍醐栢杜堂・法住寺殿などの出土瓦と比較して時期を特定できるものもあるが、現段階では詳細な時期区分はできない。

13世紀代と推定した軒瓦は19点出土した。出土遺構は、南北溝327や中世の井戸576などである。当該期の瓦は、法勝寺で使用された鎌倉時代の瓦や、鎌倉時代に創建された京都周辺寺院など、また大和地域の寺院などから出土した軒瓦に類似する。当該期の軒瓦は、文献史料と考え合わせ、当地域で使用されたもの、または法勝寺所用瓦が隣接地に投棄されたと推定できる。

産地 軒瓦の産地は、山城・播磨・丹波・大和・讃岐・備中などがあるが、産地が不明なものも少なくない。

11世紀後葉と推定した軒瓦は、播磨産・丹波産・大和産・備中産と推定できる。1970年調査で出土した当該期の瓦も、同様の産地であり、今回調査の状況と同様の状況を示している。

12世紀代と推定した軒瓦は、山城・播磨産瓦が大多数を占めるが、他地域のは少ない。

13世紀代と推定した軒瓦は、山城産・大和産のものがあるが、大半は産地が不明である。

3) 鬼瓦について

鬼瓦は5点出土した。うち3点は播磨産である。いずれも鬼面文で、4点は範型を使用して成形する。破片が小さく図化できなかった。

(4) 土製品 (図版96、図35、観察表5)

土製品には、土錘・土製円塔がある。

土錘 (土1～3) 土1～3はともに完形の管状土錘である。土1・2は中央部が膨らみ、両端が細くなる形状を呈する。胎土はやや粗く、長石・チャート・石英など多く含む。土1は溝459、土2は湿地460から出土。土3は長さ10.2cmの大型である。中央部は直線的で、両端が細くなる形状を呈する。一方の端部に板目が残る。胎土はやや粗く、長石・チャート・石英・雲母などを多く含む。溝459から出土。

土製円塔 (土4～10) 土4～10は土製円塔である。9点出土しているが、残存率の高い7点を図化した。半球状の上部から鏝部上面に緑釉が施される。型作りで、中実である。底部の一部に釉が点状に付着する個体がある。底部にはナデが見られる。上半部には布目痕が残るものや(土5)、下部に布のシワが残るもの(土10)もある。ほとんどの個体が高さ2cm台であるが、土8は4.9cmと特に高い。胎土は密で細かい長石・チャート・石英を少量含む。4点が溝327から出土し、土5は土坑465、土7は土坑471、土9は堀27から出土している。

(5) 木製品 (図版96、図36、観察表6)

木製品には、腰掛・曲物がある。

腰掛 (木1) 1枚板から削り出したもので、足は2本の「ハ」字状に広がると見られる。上面は中央を窪ませ、上端は平に調整する。裏面は足の間を削り込んで窪ませる。上面周縁外側にタテ

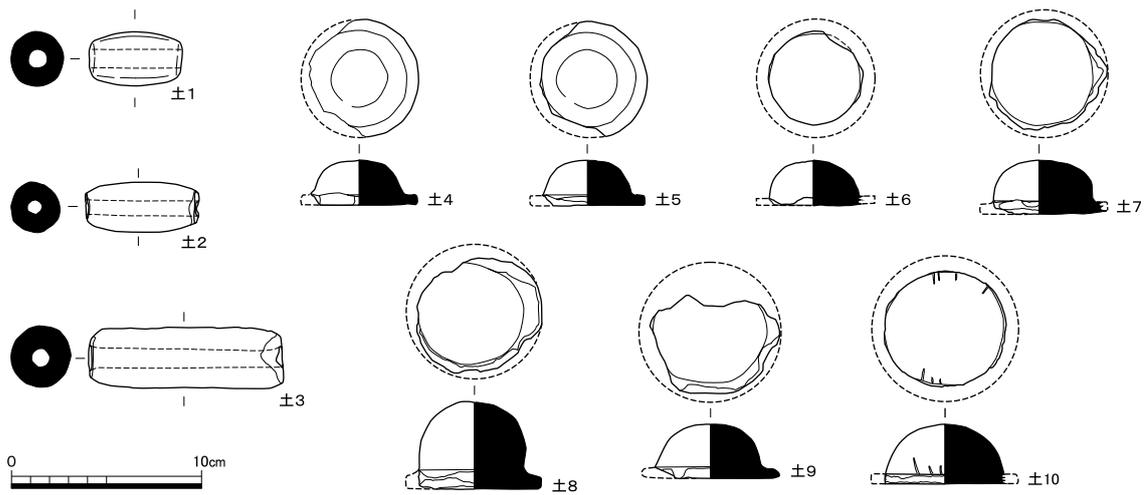


图35 土製品実測図 (1 : 4)

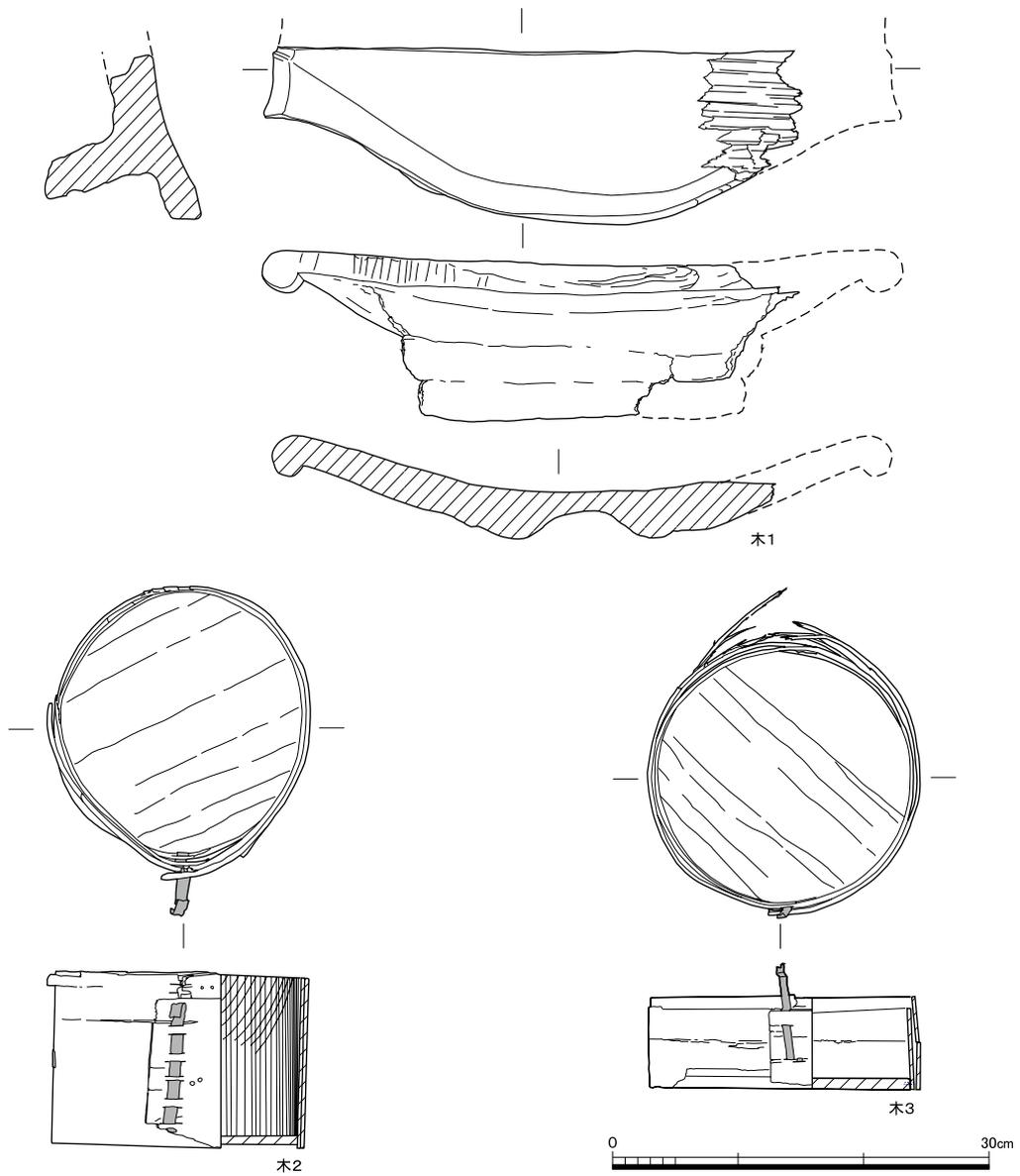


图36 木製品実測図 (1 : 6)

方向のケズリ痕が見える。上面端部は丸く作る。材質はヒノキ。湿地460から出土。

曲物(木2・3)ともに円形曲物である。木2は幅14cm、厚さ0.3cmの薄板の内側に縦・斜め方向の切り目を入れて曲げて、2枚重ねて桜樹皮で綴じ、側板を形成する。底板は厚さ0.7cmある。側板正面に4箇所、他に数箇所の釘穴があり、内1箇所には木釘が残存する。また、外側の割れた側板を竹で綴じて補修した痕が4箇所残る。木3は幅6.7cm、厚さ0.3cmの薄板を曲げて、2枚重ねて桜樹皮で綴じ、側板に5箇所、木釘を打ち付けて厚さ0.9cmの底板を取り付ける。曲物上部は欠損している。ともに材質はヒノキ、井戸374木枠内から出土。

(6) 石製品(図版96、図37、観察表7)

石製品には、紡錘車・石製帯飾り具・温石がある。

石製帯飾り具(石1・2) 石1は帯先端部の飾り具・蛇尾の可能性はあるが、通常の腰帯にしては幅が狭い。丸みを帯びた先端部は反り上がる。表面の先端から過半あたりまで中央に鑄を付け、断面を山形に研磨する。後端には帯本体を挟み込む括りを作り、括り部裏面の2箇所に鋌穴を、裏面先端近くの側面寄り片側に潜り孔を開ける。白色半透明の地に、淡く黄色味を帯びた脈がわずかに入る良質の石英(白玉)を用いており、研磨も丁寧で強い光沢をもつ。溝327から出土。石2は全体的に風化が著しく正確な形状は不明だが、巡方の可能性が高い。裏面の2箇所に潜り孔が認められるが、そのうち一方は半損している。石材は孔雀石(マラカイト)と見られ、緑色と淡緑色の年輪状の模様を呈する。土坑465から出土。

紡錘車(石3) 石3は滑石製の紡錘車である。直径4.6cm、高さ1.5cm。中央部には直径7mmの穴を穿つ。土坑436から出土。

温石(石4) 石4は滑石製の石鍋を再加工して作った温石である。長辺9.6cm、短辺5.6cm、厚さは1.2cmある。角の部分には面取りを施す。長辺部分は緩やかな曲面である。円孔はない。土坑412から出土。

(7) 植物遺存体ほか(図38・39、表7・8)

今回の調査では、湿地460と平安時代後期の井戸374の2基の遺構の土壌サンプルを採取し、水簸したのち種子類や昆虫の体部を選別・抽出した。

湿地460の南西部では、特に常緑のアカガシ亜属・シキミ、落葉のエゴノキの果実・種子と多量の葉が堆積していた(図38、表7)。滞水に近い水環境の周囲に前記の植生があったと考えられる。小型昆虫の頭・上翅・胸腹・脚部なども検出している。

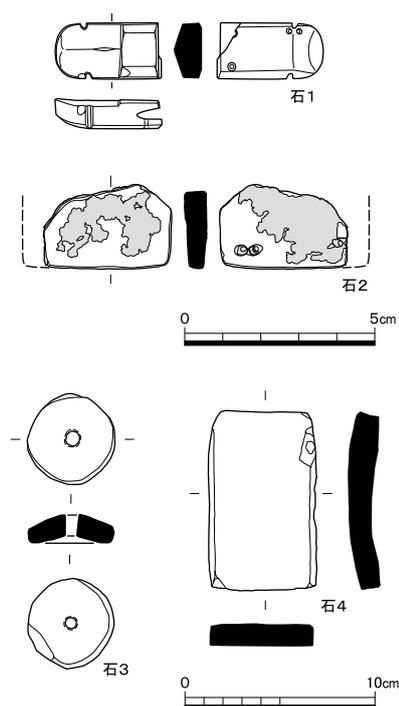


図37 石製品実測図(石1・2は1:2、石3・4は1:4)

表7 湿地460出土種実等一覧表

| | 和名 | 部位 | 科名 | 検出数 | 生育場所 |
|-----|--------|-----------|------|-----|----------|
| 木本 | アカガシ亜属 | 果実 | ブナ | 37 | 山地 |
| | シキミ | 種子 | シキミ | 2 | 山地・墓地に植栽 |
| | エゴノキ | 核 | エゴノキ | 13 | 山地・野原 |
| | ヒサカキ | 種子 | ツバキ | 4 | 庭木・山地 |
| その他 | 昆虫 | 頭・上翅・胸腹・脚 | | 2 | |

表8 井戸374出土種実一覧表

| | 和名 | 部位 | 科名 | 検出数 | | 生育場所 |
|----|--------|----|--------|-----|-----|-------|
| | | | | 曲物内 | 木枠内 | |
| 木本 | カヤ | 種子 | イチイ | 1 | | 山地・庭木 |
| 草本 | ヒユ属 | 種子 | ヒユ | 2 | | 畑・道端 |
| | エノキグサ | 種子 | トウダイグサ | | 1 | 道端・畑 |
| | メロンの仲間 | 種子 | ウリ | 1 | | 栽培 |



図38 湿地460出土種実等

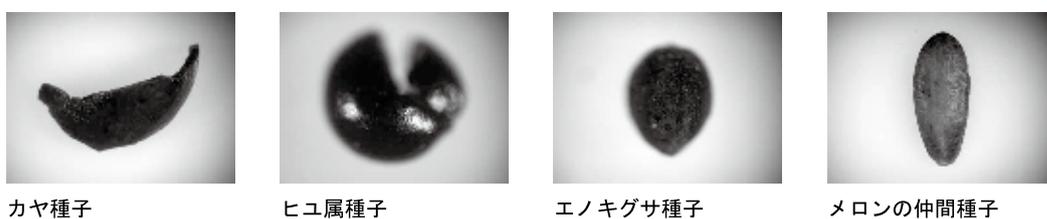


図39 井戸374出土種実

井戸374曲物内では、可食されるカヤ・ウリ類のメロンの仲間と雑草のヒユ属が、同木枠内に雑草のエノキグサが検出された（図39、表8）。ウリ類は栽培種である。

註

- 1) 山城地域では、畿内第Ⅴ様式と庄内式併行期の区分が不明瞭であった。溝459出土の土器群は、出土状況から一括性が高く、この中に河内産の庄内甕が含まれることから、今後、北山城の庄内期の基準資料となりうる可能性を持っている。
- 2) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年。なお、「平安京Ⅰ～Ⅴ期」「京都Ⅵ～ⅩⅣ期」を「京都Ⅰ～ⅩⅣ期」で統一した。

| 750頃 | | 840頃 | | 930頃 | | 1010頃 | | 1080~90頃 | | 1180頃 | | 1270頃 | | 1360頃 | | 1440頃 | | 1500頃 | | 1580~90頃 | | 1660頃 | | 1740年代頃 | | 1820年代頃 | | | |
|------|---|------|---|------|---|-------|---|----------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|----------|---|-------|---|---------|---|---------|---|---|---|
| Ⅰ | | Ⅱ | | Ⅲ | | Ⅳ | | Ⅴ | | Ⅵ | | Ⅶ | | Ⅷ | | Ⅸ | | Ⅹ | | Ⅺ | | Ⅻ | | Ⅼ | | Ⅽ | | | |
| 古 | 中 | 新 | 古 | 中 | 新 | 古 | 中 | 新 | 古 | 中 | 新 | 古 | 中 | 新 | 古 | 中 | 新 | 古 | 中 | 新 | 古 | 中 | 新 | 古 | 中 | 新 | 古 | 中 | 新 |

- 3) 円勝寺発掘調査団「円勝寺の発掘調査」『佛教藝術』84号 毎日新聞社 1972年
- 4) 「尊勝寺発掘調査報告－京都會館建設地の調査－」『平城宮跡第一次・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報第十冊 奈良国立文化財研究所 1960年
- 5) 「法勝寺金堂跡発掘調査概要」『法勝寺跡 京都市埋蔵文化財年次報告1974－Ⅱ』京都市文化観光局文化財保護課 1975年。「法勝寺金堂跡第Ⅱ次発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告1975』京都市文化観光局文化財保護課 1976年
- 6) 上原真人「瀬戸内海を渡ってきた瓦」『大阪湾をめぐる文化の流れ－もの・ひと・みち－』帝塚山考古学研究所 1987年

5. ま と め

今回の調査で検出した遺構は、弥生時代から古墳時代、平安時代後期から鎌倉時代、室町時代から江戸時代後半、江戸時代末以降に分けられる。ここでは、これまでの周辺の調査成果も含め、今回の調査で検出した遺構の変遷を時代ごとにまとめておく。さらに、弥生時代から古墳時代の遺構から出土した土器の様相についても若干述べる。

(1) 調査地の遺構の変遷

1) 弥生時代から古墳時代 (図40・41)

当該期の集落跡である岡崎遺跡では、縄文時代中期から古墳時代後期の遺物が出土する大規模な湿地460や古墳時代初頭の溝459などの遺構を検出した。

湿地460は、今回調査地の北側に位置する調査12で検出された自然流路と連続する流れの澱み部分と考えられる。調査地西側の調査9で検出された沼状地形は、西と南に広がりを見せるようで、一連の遺構である可能性が高い。北から流れる自然流路が幅広い氾濫原の中を大きく蛇行し、流れの中心を変化させ、多くの澱みや湿地を形成していったとみられる。この湿地460の西岸からは弥生時代後期から古墳時代初頭、古墳時代中期から後期の土器が出土しており、北西側に存在が想定される集落と関連すると考えられる。またこの湿地460は、縄文時代の土器を包含している。調査12で検出されている湿地堆積層や流路の砂礫層からは、縄文時代中期末の北白川上層式、晩期の船橋式の土器が出土しており、今回の湿地460からも縄文時代中期とみられる土器や、中期末の北白川C式土器、後期初頭の中津式土器が出土している。このことは、縄文時代中期からこの近隣で人の営みがあったことを示している。

古墳時代初頭の溝459は、北から南西方向に向かって弧状に延びている。さらに、逆台形の断面形状を呈することや土器が多量に出土したことから、集落を取り囲む環濠の一部である可能性がある。またこの溝459の東に接して縄文時代から古墳時代後期の遺物が出土する湿地460があり、集落と湿地との間の水を処理するための溝である可能性もある。いずれにしても、北西側に展開すると考えられる当該期の集落の東端を画する溝と考えられる。本調査地の西側約150mで実施された調査7・8では、弥生時代後期から古墳時代初頭の方形周溝墓10基が検出されており、集落の墓域であったと考えられ、居住域は今回調査地と墓域の間にあった可能性が高い。西側70mに位置する調査9で弥生時代後期の竪穴建物が1棟検出されているが、その北側に方形周溝墓群や溝459と同時期の居住域が拡がることが推測される。

2) 平安時代後期から鎌倉時代 (図42・43)

今回検出した調査区の中央部に位置する南北溝327は、幅4.2m・深さ1.1mと規模が大きいことが注目される。寺院敷地内にこのような大規模な溝が存在することは考えにくいことから、現時点では寺院間の区画溝と考えている。これまでの研究から、円勝寺の西側に成勝寺が位置すると推定

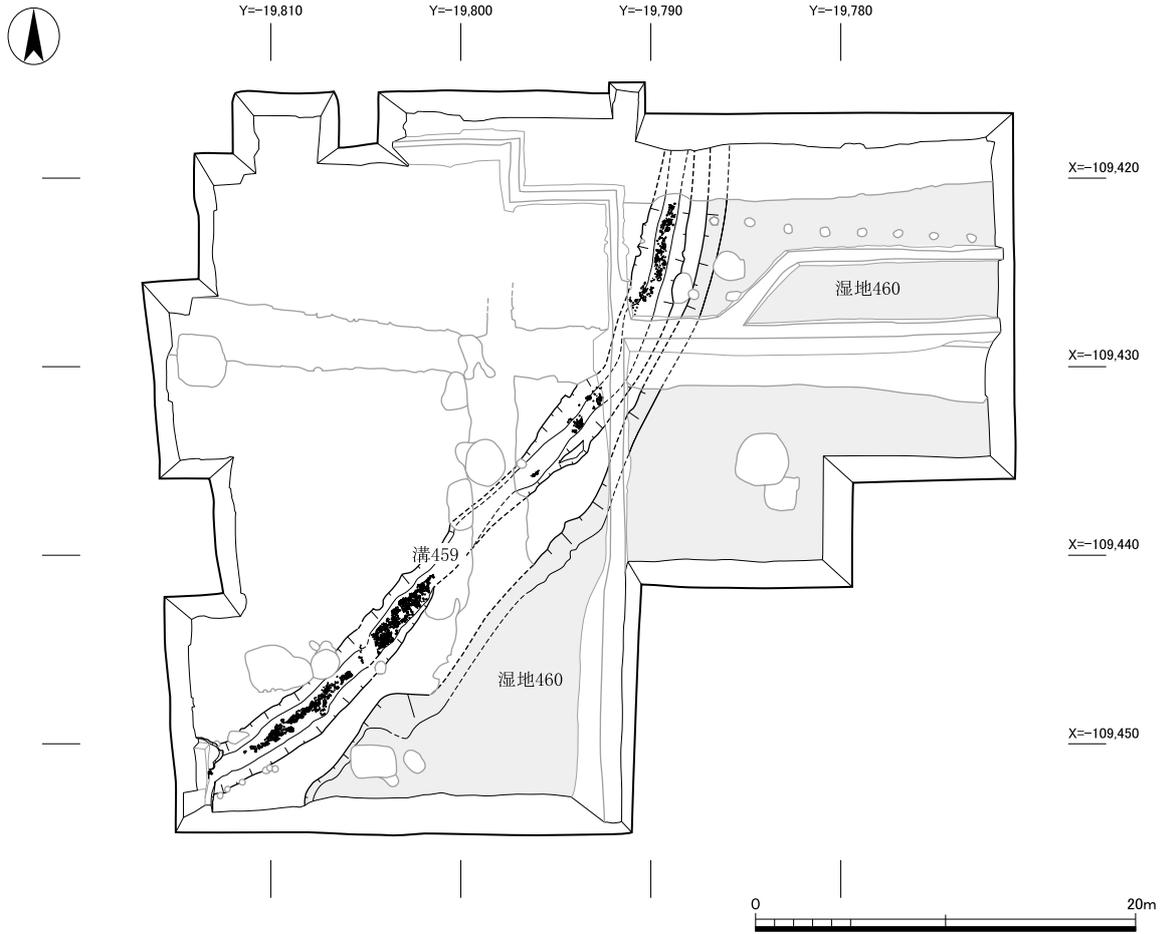


図40 弥生時代から古墳時代の遺構概要図（1：400）

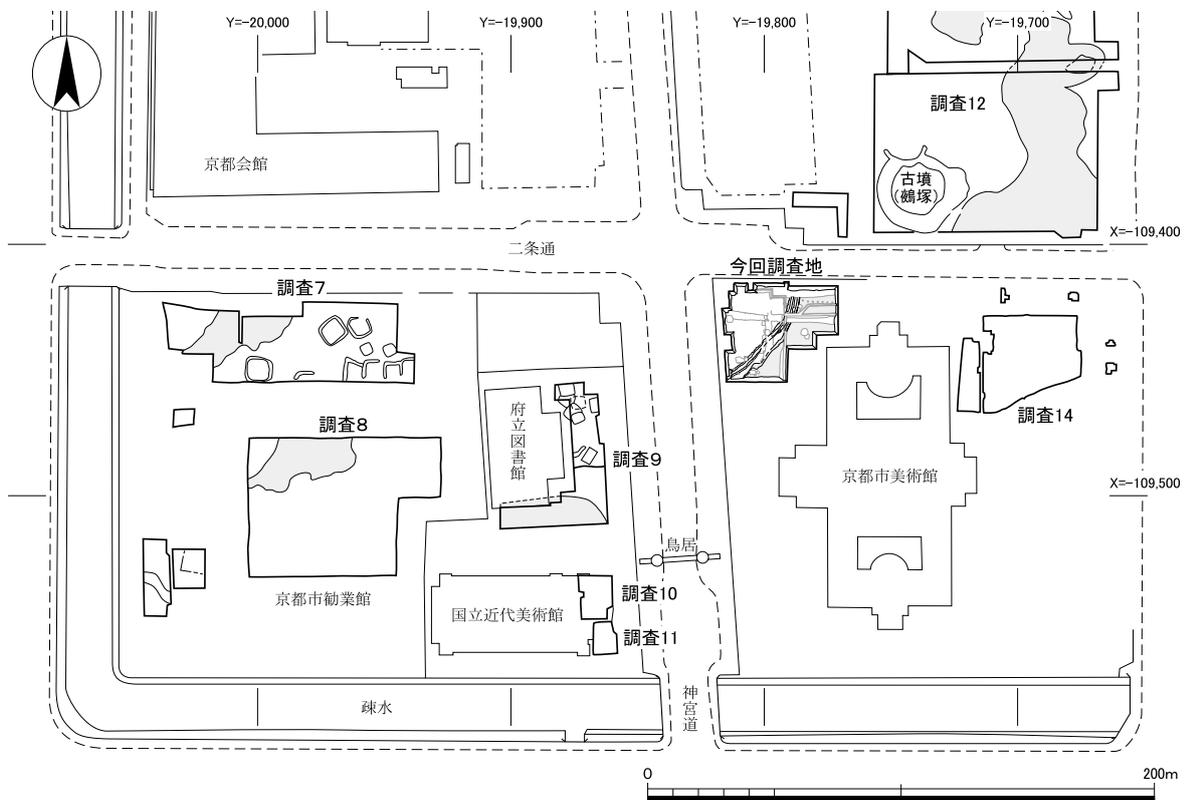


図41 弥生時代から古墳時代の遺構配置図（1：3,000）

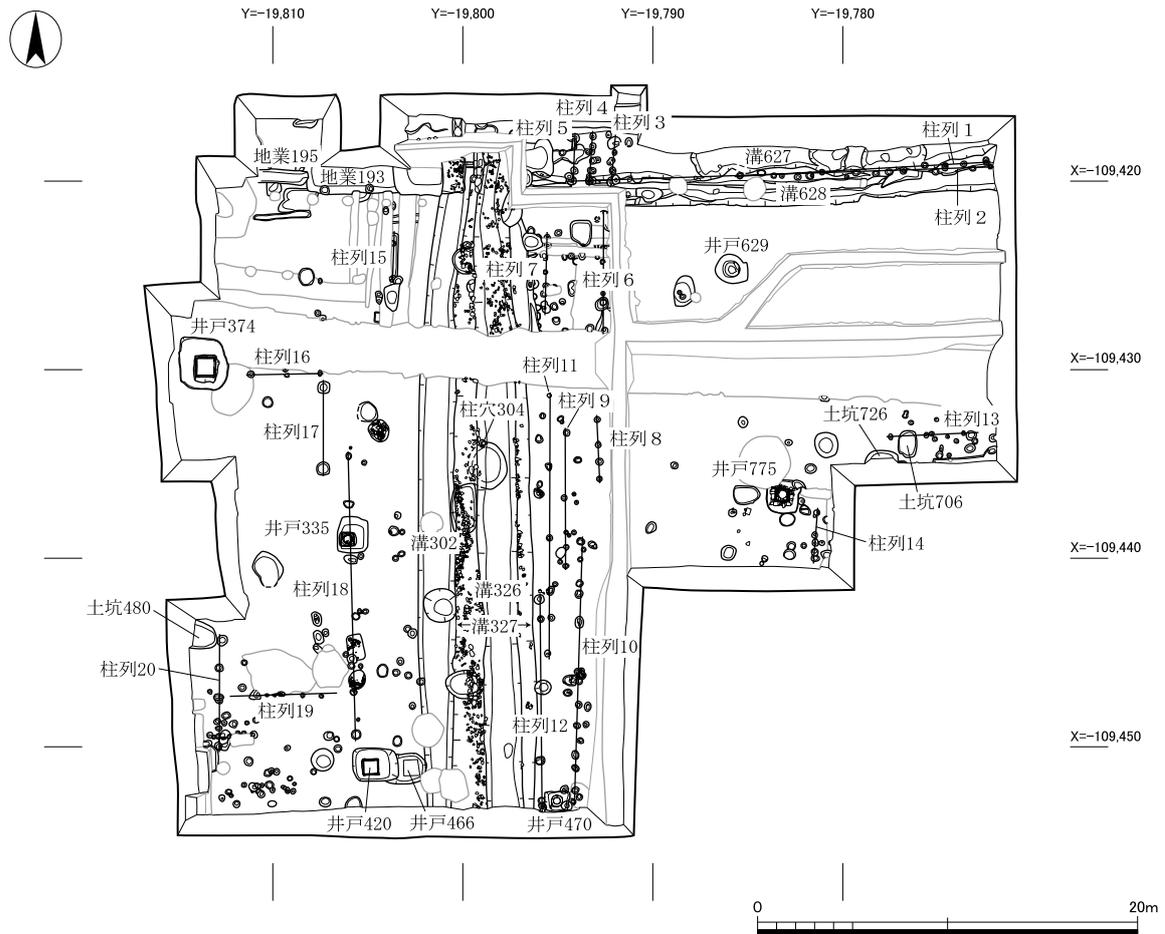


図42 平安時代末から鎌倉時代の遺構概要図 (1 : 400)

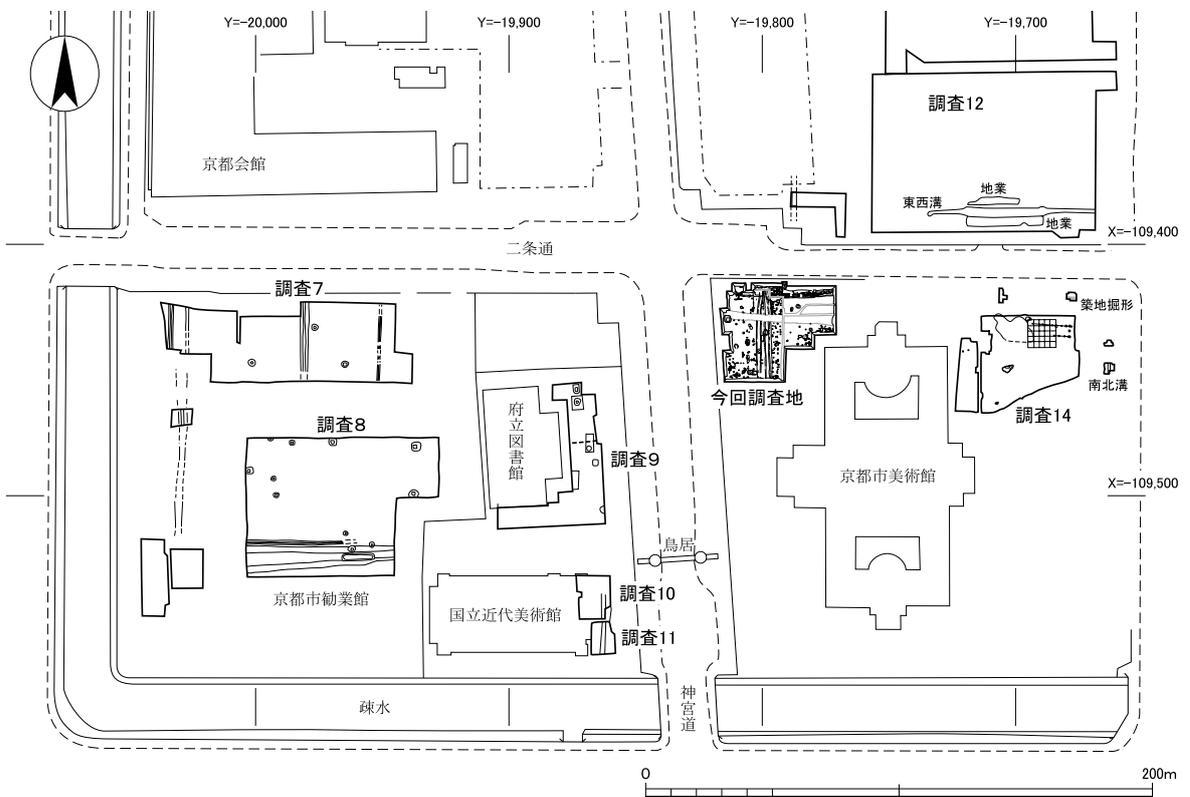


図43 平安時代末から鎌倉時代の遺構配置図 (1 : 3,000)

されており、溝327の東側が円勝寺、西側が成勝寺の寺域である可能性が考えられる。円勝寺の寺域については、南北幅は1町であるが、東西幅については1町説¹⁾と2町説²⁾の2説が存在した。調査14で検出されている南北方向の築地掘形が円勝寺の東端、今回の南北溝327が西端と仮定するならば、円勝寺の東西幅は約135mと推測される。

大規模な南北溝327と平行あるいは重複して位置する南北溝302・326は、溝327の掘り直しと考えられ、規模は縮小しながらも区画として維持され続けていたことがわかる。溝327の東側は、雛壇状に一段高く造成されており、東側の調査14で明らかになっていた盛土造成が、さらに西側まで広がっていることが判明した。また、溝327の東側には複数の南北柱列がある。現時点では円勝寺西限の堀跡と考えており、それが数回にわたって建て直されたとみられる。推定円勝寺境内の遺構には、井戸470・629・775や土坑706があり、建物を復元するには至らないが、柱列などもある。

一方、南北溝327の西側は、東側より一段低くなっており、地山が露出している部分も認められることから、切土によって造成された可能性がある。溝327の西側に位置する南北方向の柱列18などは堀跡とみられ、成勝寺東限の施設と考えている。さらに西側に展開する井戸355・374や柱列16・17・19・20、土坑480なども推定成勝寺境内の遺構と考えられる。井戸374からは、火災によるとみられる焼け焦げた建築部材や壁土とともに、京都V期中段階から新段階（12世紀中葉）に属する土師器が出土している。文献〔『百練抄』〕に仁安三年（1168）の成勝寺鐘樓の焼失記事がある。鐘樓の位置は不明であるが、焼け焦げた建築部材や壁土はこの火災に関連したものである可能性がある。

一方、調査区北端で検出した東西方向の地業193・195や東西方向の溝627・628については、これまでの研究で円勝寺・成勝寺の北限が二条大路末と考えられていることから（第2章参照）、現時点では二条大路末と寺域を区画する施設に関連する遺構と考えている。調査14でもこれらの遺構の東延長線上で東西方向の築地掘形が検出されている。地業跡・溝・築地掘形と形態がそれぞれ異なっているが、この要因については、各遺構の性格や時期差を含め、今後の検討課題である。また、北側の調査12で検出されている築地跡と想定される遺構との距離は約30m（10丈）となり、二条大路末の道幅が平安京の京極大路などと同規模であったと推測される。

今回の調査で寺域の区画に関連する施設や井戸などの寺院に関連すると考えられる遺構を検出できたことは大きな成果である。また、円勝寺と成勝寺が溝327により区画され、その間には街路を伴わないと考えられることから、今後、白河街区跡・六勝寺跡の復元に際しては街路以外の施設による区画も想定することが必要であろう。今後も京都市美術館敷地内の発掘調査が行われる予定であり、今回明らかにできなかった部分について、資料が増加し新たな研究が進展することが望まれる。

3) 室町時代から江戸時代後半（図44）

当該期の遺構は、耕作溝を除けば井戸576など少数の遺構が確認される程度で、寺院に関連すると考えられる遺構は希薄である。文献〔『美吉文書』〕にみられる様に円勝寺と成勝寺の二寺はこの

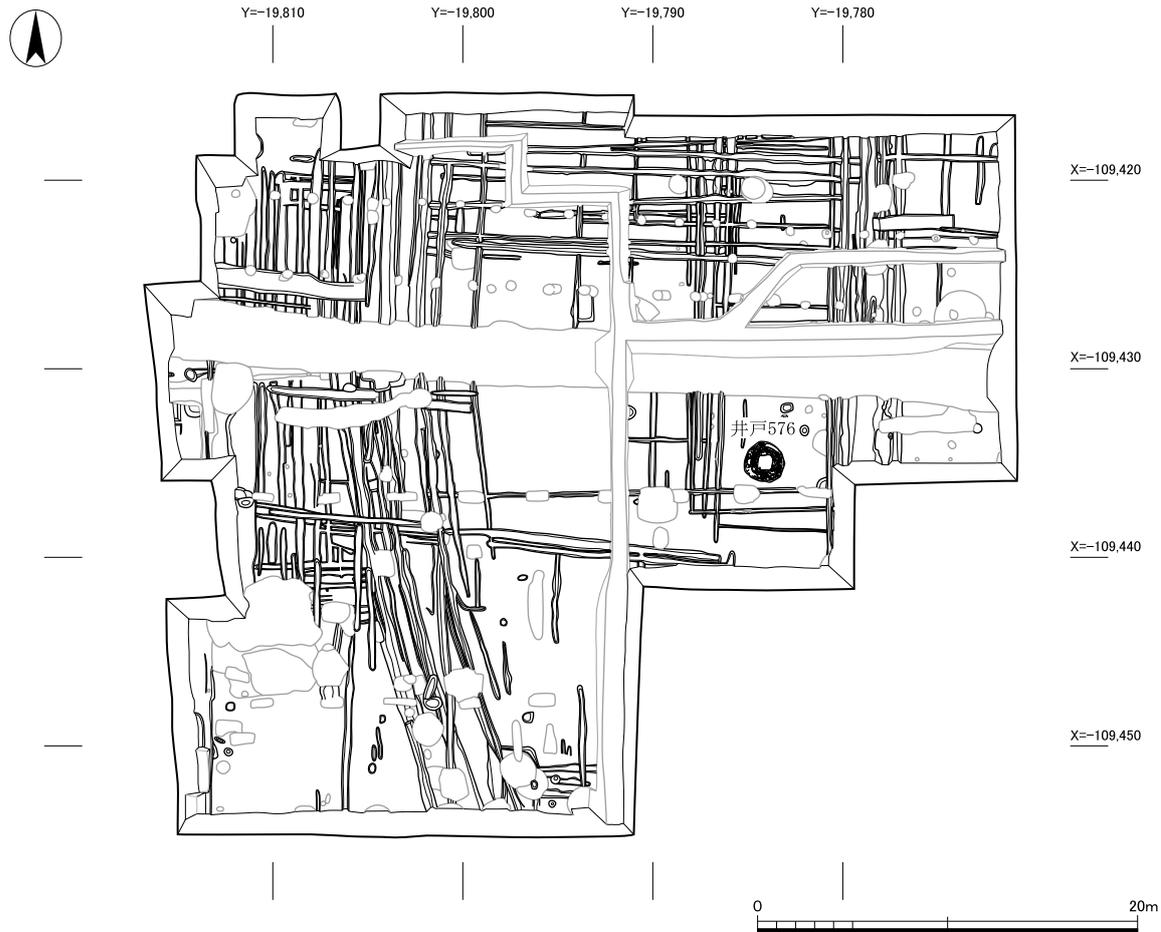


図44 室町時代から江戸時代の遺構概要図（1：400）

時期には廃絶したと考えられる。

以後、当地では耕作溝が全面的に展開しており、耕作地として活発に利用されていたことがわかる。調査区内の溝の形態には、2種類あることが判明した。北西部に掘削された耕作（排水）溝の規模が小さいことは、この区域の基盤層が白川砂であるため、水はけが良好なためと推測される。

一方、岡崎遺跡の湿地460を埋め立てている部分では、水はけが悪いことから小規模溝では対応できないため、規模が大きく深い排水溝が必要だった可能性が考えられる。

4) 江戸時代末以降（図45）

江戸時代末に当地に加州屋敷（加賀藩前田屋敷）が造営される。第1面1期で検出した堀27・橋1・土坑78・井戸47などは、加州屋敷に関連する遺構とみられる。東西方向の堀27は大規模で、屋敷地と北側の二条通とを区画する外堀と考えられ、外堀を渡る橋1が備えられている。堀は南側から多量の土砂が入れられて埋没していることから、堀の南側に土塁が存在した可能性も考えられる。また、堀からの出土遺物は極めて少量なことから短時間で埋め戻されたとみられる。土坑78からは江戸時代後期の陶磁器類が多く出土しており、藩邸内の廃棄土坑と考えられる。陶磁器類の中には、高級品である禁裏御用品の菊華文を施した京焼徳利が出土しており、藩邸跡という遺跡の性格を反映している。

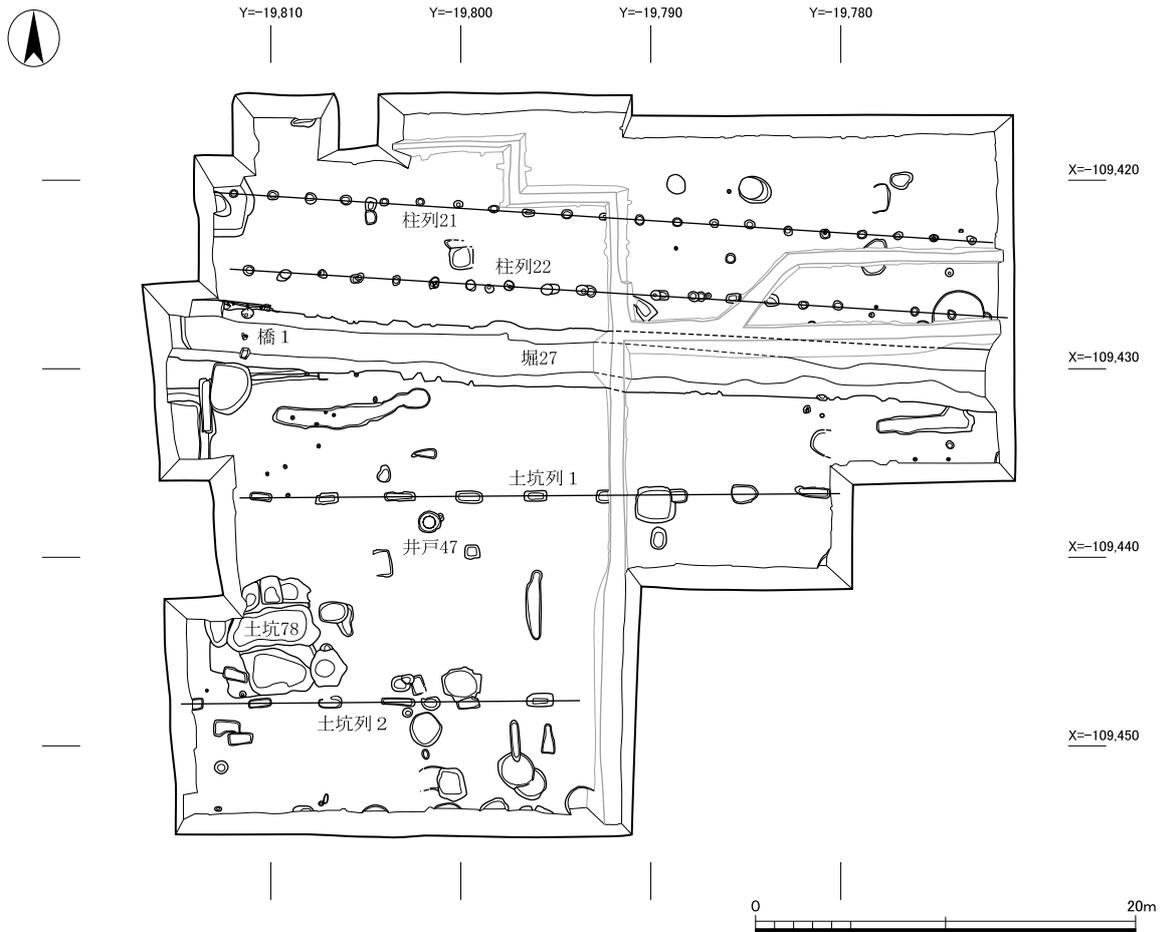


図45 江戸時代末以降の遺構概要図（1：400）

北側に位置する2条の東西柱列21・22は、明治二十八年（1895）の第四回内国勸業博覧会の際の工業館・大通路に関連する遺構の可能性がある。柱列は堀27と傾きが類似していることから、加州屋敷撤収後も地割がこの時期まで踏襲されていたと考えられる。

また、南側に位置する2条の東西土坑列1・2は、大正四年（1915）の大典記念京都大博覧会の際の第一勸業館・商品陳列所、もしくは昭和三年（1928）の大礼記念京都大博覧会の際に建設された商品陳列所の建物基礎の可能性があり、土坑列の方位が真東西方向の傾きとなっており、この時期から現在まで継承する地割が施工されたと考えられる。

（2）岡崎遺跡に伴う出土土器の傾向

京都盆地東部の鴨川左岸、白川流域に位置する岡崎遺跡は、調査14以降多数の調査が行われており遺跡の様相が明らかになりつつある。これまでも、調査12や京都市動物園北西隅の調査³⁾で多量の弥生時代後期から古墳時代初頭の土器類・木器類が出土しているが、今回の調査で出土した土器は整理用コンテナに78箱以上にのぼり、そのほとんどが湿地460および溝459から出土した弥生時代後期から庄内併行期の土器群でより一括性の高い資料と考える。

湿地460からは、弥生時代後期から古墳時代初頭の土器が多く出土した。器台・鉢が多く出土しており、甕の出土量は少ない。この土器群の中には、胎土が精良で、色調がにぶい黄橙色からにぶ

い橙色を呈する鉢A・器台C・高杯Aがある。特に器台C・高杯Aは内外面ともに丁寧にヘラミガキ調整され、脚柱部下半に数条のヘラ描沈線文と刺突文をめぐらし、裾端部にも1～3条の凹線文と刺突文をめぐらすといった共通性をもち、鉢Aとともにセット関係にある土器群と考えられる。これらの土器群は、周辺部の調査では見られなかった一群であり、特殊な用途に用いられた可能性が指摘できるとともに産地についても今後検討を要する。

溝459からは、庄内式併行期の土器がまとまって出土している。壺・甕では畿内第V様式の特徴を残すものも多いが、甕口縁Dのような受口状口縁の甕Cの退化形態が存在することや、甕体内面をヘラケズリするものなど新しい要素をもつ個体が認められる。また、河内から搬入された庄内式の甕Fも一定量出土している。胎土から生駒西麓産のものと河内平野部産のものがある。高杯は弥生時代後期後半に特徴的な畿内系の高杯Aが存在するものの、近江・東海系の高杯E・Fは庄内式併行期の特徴をもつものであり、器台では、小型器台の祖型となる器台Eに小型化の傾向が見られる。各器種ともバリエーションが多く、一見すると時間幅をもつ資料であるように見えるものの、搬入された庄内甕が全て庄内式期前半に位置づけられるものであることや、出土状況から一括性は高いと考えられ、この多様性こそが北山城の弥生時代から古墳時代への移行期の様相の特徴として評価できると考える。

来年度以降に今回調査地の東・南隣接地で発掘調査が予定されており、湿地460の延長部や当該時期の新たな遺構の出土が予測される。それらの成果を待って、岡崎遺跡の当該期の様相を明らかにしたい。

註

- 1) 福山敏男「白河院と法勝寺の歴史」『法勝寺跡 京都市埋蔵文化財年次報告1974 - II』京都市文化観光局文化財保護課 1975年
- 2) 杉山信三『六勝寺と白河』講演会資料 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 3) 「法勝寺跡」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1983年
「法勝寺跡」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年

参考文献

- 國下多美紀「東土川西遺跡の弥生土器 - 乙国における第5様式～庄内式土器の変遷 -」『研究紀要』創刊号 向日市文化資料館 1986年。「山城地域における古式土師器の様相」『庄内式土器研究』IX 庄内式土器研究 1994年
- 吹田直子「山城地域」『古式土師器の年代学』財団法人大阪府文化財センター 2006年
- 高野陽子「弥生時代後期～古墳時代の土器様相」『佐山遺跡 京都府遺跡調査報告書 第33集』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2003年
- 田中元浩「東土川西遺跡出土土器の検討」『長岡京跡発掘調査研究所調査報告書』長岡京跡発掘調査研究所・財団法人向日市埋蔵文化財センター 2003年
- 森岡秀人「山城地域」『弥生土器の様式と編年 近畿編II』木耳社 1990年
- 若林邦彦「岩倉忠在地遺跡出土土器群と古式土師器編年」『岩倉忠在地遺跡』同志社歴史資料館調査研究報告第6集 同志社大学歴史資料館 2006年

付章 始良 Tn 火山灰と土石流堆積物

小野映介（新潟大学）・河角龍典（立命館大学）

1) はじめに

筆者らは、京都盆地東部の岡崎地区に立地する複数の遺跡（法勝寺八角九重塔跡、延勝寺跡・岡崎遺跡、白河街区跡・法勝寺跡・岡崎遺跡）において、始良 Tn（AT）火山灰とそれを覆う花崗岩質の土石流堆積物を観察・報告してきた（小野・河角 2014a；小野・河角 2014b など）。今回、発掘調査が行われた円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡においても AT 火山灰が確認されるとともに、上位の土石流堆積物の堆積年代を決定するうえで良好な年代試料が得られたので概略を報告する。

2) 調査方法

発掘調査の終盤にトレンチ内の 2 地点で行われた地山の断割り調査に立ち会い、調査区壁断面の記載および各種分析用の試料を採取した。2015 年 2 月 16 日にトレンチ南西部の西断面（地点 1：35° 00' 48.23" N；135° 46' 59.31" E）、2 月 20 日に北東部の北断面（地点 2：35° 00' 48.62" N；135° 46' 59.92" E）で調査を行った。前者は小野、後者は河角が担当した。記載の対象としたのは、主に調査面より下位の層準である。

地点 1 および 2 では計 6 点の有機物試料を採取し、炭素 14 年代測定を実施した。測定は地球科学研究所に依頼した。本稿では炭素 14 年代を Intcal 13 によって較正した 2σ の暦年代で示す。また、地点 1 で採取した火山灰試料については、パレオ・ラボに同定をお願いした。

3) 断面の観察結果

各深堀地点における層相・層序の観察結果、有機物試料の炭素 14 年代を図 46 に示す。

地点 1：標高 45.4 m から 47.4 m について記載を行った。最下部には還元状態で青灰色を呈する泥層が確認され、同層上部には黒色を呈する土壤化層の発達が見られた。この土壤化層は層厚約 0.3 m の火山灰層によって覆われる。なお、火山灰層中には層厚約 0.05 m の粗粒砂混じり極粗粒砂層が狭在する。火山灰層下部から得た試料（試料 A）は、軽鉱物の割合が 98.9% と高く、その鉱物組成は火山ガラスが 95.9% と圧倒的に多い。多産するバブル型のガラスの屈折率を測定した結果、レンジが 1.4987-1.5000 の狭い範囲に集中し、平均値は 1.4995 であった。

火山灰層の上位には約 0.7 m の極粗粒砂層（風化花崗岩から成る）が認められる。同層には斜交層理が発達しており、泥混じりの極細粒砂層が狭在するほか、上部では細礫の混入が見られる。さらに、その上位には極細粒砂を母材とした層厚約 0.15 m の土壤下層が認められる。同層に含まれる木片 2 点について炭素 14 年代測定を行ったところ、cal. 5,885-5,810 BP；cal. 5,760-5,655 BP；cal. 4,345-4,335 BP と cal. 4,295-4,145 BP；cal. 4,115-4,100 BP の値が得られた。なお、同層は有機質の極細粒砂混じり細粒砂によって覆われる。

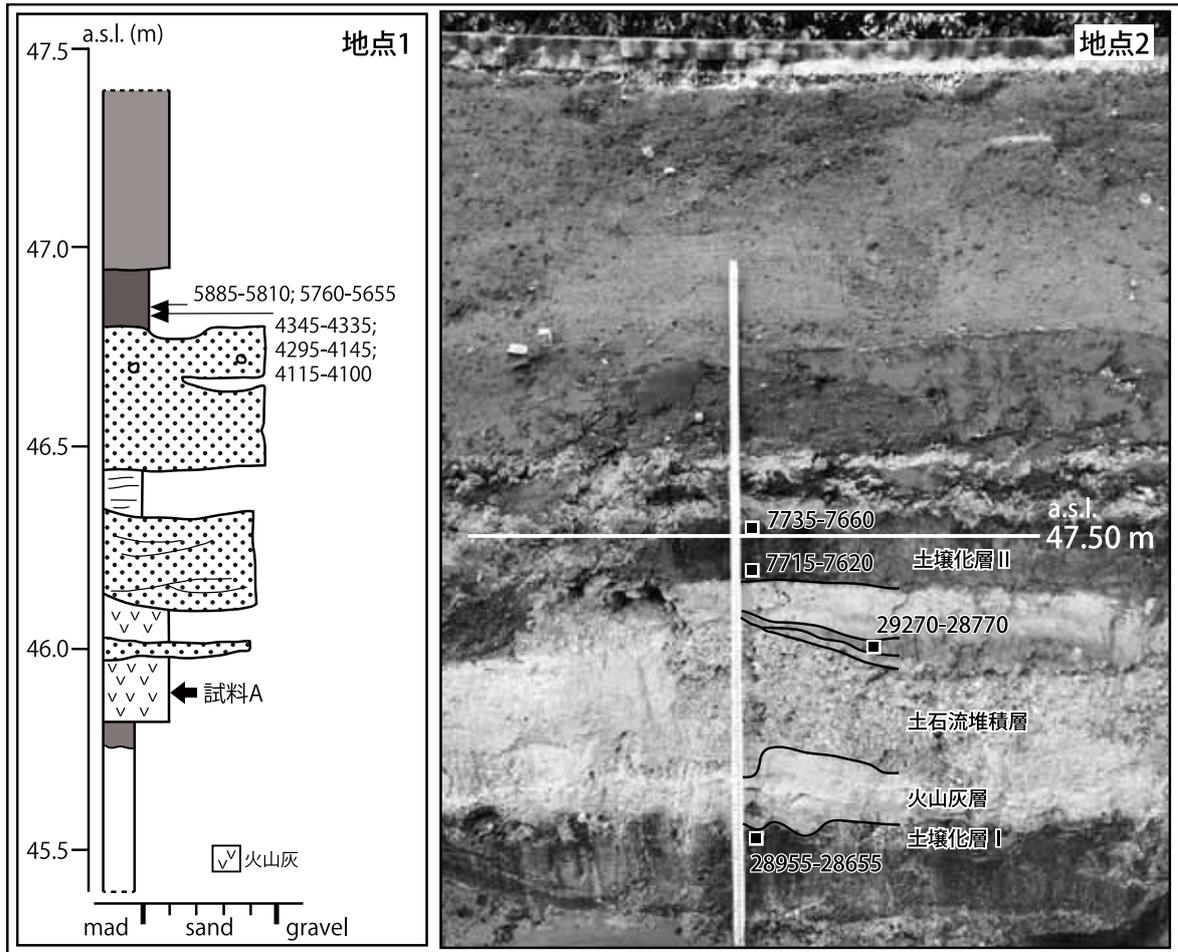


図46 層相・層序の観察結果

地点2：基本的には地点1と同様の層相・層準がみられる。最下部の泥層を母材とした黒色を呈する土壌化層（土壌化層Ⅰ）からは、cal. 28,955-28,655 BPの炭素14年代値が得られた。同層は層厚約0.2mの火山灰層に覆われ、その上位には層厚約0.5mの砂礫層（風化花崗岩から成る）が堆積する。

砂礫層の上位の層相は地点1と異なり、0.2～0.4mの細粒堆積物層が認められ、その下部には有機物の集積が見られる。この層からはcal. 29,270-28,770 BPの値が得られた。

また、細粒堆積物層の上位には黒色を呈する土壌化層Ⅱが認められる。同層と下位層とのコンタクトは明瞭である。土壌化層Ⅱからはcal. 7,715-7,620 BPとcal. 7,735-7,660 BPの炭素14年代値が得られた。その上位には古墳時代の遺構の埋土と、それ以降の盛土が堆積する。

4) おわりに

本遺跡で確認された火山灰は、ガラスの形状および屈折率から始良 Tn 火山灰であると考えて間違いないだろう。火山灰に覆われた土壌層からは cal. 28,955-28,655 BP の値が得られ、これまでに報告されている始良 Tn 火山灰の降灰年代と調和的である。

ところで、本遺跡では始良 Tn 火山灰を覆う花崗岩質の砂礫層の上位に堆積した細粒堆積物層か

ら cal. 29,270-28,770 BPの値が得られた。この結果は、始良 Tn テフラ降灰直後に土石流が生じた可能性を強く示唆する。

また、土石流の発生後には土壌化層の形成が進行したことから、土砂供給の少ない安定した地形環境が続いたことが推定される。安定の期間は、約8,000～4,000年前と推定される。当地域では弥生時代の遺物・遺構が多く検出されているが、当時の堆積環境については人為的改変が著しいために不明な点が多い。

当地域で生じた始良 Tn 火山灰の降灰と土石流の発生の関係、約8,000年前から続く地形環境の安定化と弥生時代における土地利用の活発化の関連性については、今後の検討課題とする。

参考文献

- 小野映介・河角龍典（2014a）京都盆地東部，白河街区跡・延勝寺跡・岡崎遺跡における遺構面下の地質，『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－1 延勝寺跡・岡崎遺跡』，公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所，pp.32-33.
- 小野映介・河角龍典（2014b）京都盆地東部に位置する白河街区跡，法勝寺跡，岡崎遺跡の地質，『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－6 白河街区跡・法勝寺跡・岡崎遺跡』，公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所，pp.26-27.
- 小野映介・河角龍典・柏田有香（2014）法勝寺八角九重塔の支持地盤，日本文化財学会第31回大会研究要旨集，pp.352-353.
- 小野映介・河角龍典・藤根 久（2014）京都盆地における始良 Tn 火山灰の堆積状況，日本地理学会発表要旨集No.86，p.142.

観察表1 縄文時代から古墳時代の土器類観察表

| 番号 | 器種 | 器形 | 出土遺構 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土色調 | 備考 |
|----|-------|--------|----------------|------|--------|------|---|--|
| 1 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (4.0) | — | 内面:10YR6/4にぶい黄橙色 外面:2.5Y2/1黒色 | 生駒西麓産。胎土やや密。3mm以下の長石、2mm以下のチャート、石英含む。1mm以下の雲母少量含む。 |
| 2 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (7.9) | — | 内面:10YR6/3にぶい黄橙色 外面:10YR3/2黒褐色～ 10YR1.7/1黒色 | 胎土やや密。5mm以下の長石、2mm以下のチャート、石英含む。1mm以下の雲母少量含む。 |
| 3 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (8.6) | — | 内面:2.5Y7/3浅黄色、 2.5Y4/1黄灰色 外面:7.5YR7/4にぶい橙色 | 胎土やや密。2mm以下のチャート、石英、長石、雲母含む。 |
| 4 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (3.3) | — | 内面:2.5Y6/3にぶい黄色 外面:10YR4/2灰黄褐色 | 胎土やや密。2mm以下のチャート、石英、長石含む。1mm以下の雲母少量含む。 |
| 5 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (4.4) | — | 内面:10YR6/3にぶい黄橙色 外面:10YR4/2灰黄褐色 | 胎土やや密。2mm以下のチャート、石英、長石、雲母含む。4～5mm以下のチャート少量含む。 |
| 6 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (4.5) | — | 内面:10YR5/3にぶい黄褐色 外面:10YR4/2灰黄褐色 | 胎土やや密。2mm以下のチャート、石英、長石含む。1mm以下の雲母少量含む。 |
| 7 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 北肩最下層 | — | (5.1) | — | 10YR4/2灰黄褐色 | 胎土やや粗。2mm以下のチャート、石英、長石多量含む。1mm以下の雲母少量含む。 |
| 8 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (4.2) | — | 内面:10YR4/6褐色 外面:2.5Y5/2暗灰黄色 | 胎土やや密。2mm以下のチャート、石英、長石含む。1mm以下の雲母少量含む。 |
| 9 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (2.7) | — | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 胎土やや密。1mm以下のチャート、石英、長石、雲母少量含む。 |
| 10 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (3.2) | — | 内面:10YR4/6褐色 外面:2.5Y5/2暗灰黄色 | 胎土やや密。2mm以下のチャート、石英、長石含む。1mm以下の雲母少量含む。 |
| 11 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (4.5) | — | 内面:10YR4/3にぶい黄褐色 外面:7.5YR5/4にぶい褐色 | 胎土やや密。2mm以下のチャート、石英、長石含む。1mm以下の雲母少量含む。 |
| 12 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (2.4) | 10.5 | 内面:10YR5/4にぶい黄褐色 外面:10YR6/3にぶい黄橙 | 1/4残存。胎土やや密。2mm以下のチャート、石英、長石含む。1mm以下の雲母少量含む。 |
| 13 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (2.7) | — | 2.5Y6/2灰黄色 | 胎土密。2mm以下のチャート、石英、長石含む。 |
| 14 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (5.3) | — | 内面:2.5Y4/2暗灰黄色 外面:10YR4/1灰黄褐色 | 胎土密。2mm以下のチャート、石英、長石含む。 |
| 15 | 縄文土器 | 深鉢 | 湿地460 | — | (8.2) | — | 内面:7.5YR7/2にぶい橙色 外面:5Y6/1灰色 | 胎土やや密。2mm以下のチャート、石英、長石含む。1mm以下の雲母少量含む。 |
| 16 | 古式土師器 | 甕F・IV | 湿地460 | 14.2 | (6.0) | | 10YR6/4にぶい黄橙色 | 口縁部1/6残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート、雲母、角閃石含む。 |
| 17 | 古式土師器 | 甕E・II | 湿地460 | 12.0 | (11.8) | | 2.5Y7/3浅黄色 | 口縁部1/2残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 18 | 弥生土器 | 甕B・III | 湿地460下層 | 11.3 | 15.0 | 2.8 | 2.5Y7/2灰黄色 | 1/7残存。胎土密。3.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 19 | 古式土師器 | 甕G | 湿地460 | 15.8 | (9.6) | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 山陰系。口縁部1/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 20 | 弥生土器 | 広口壺C | 湿地460 | 10.9 | (4.0) | | 10YR8/4浅黄褐色 | 口縁部1/3残存。胎土粗。3.5mm以下の長石、チャート、赤色粒子含む。 |
| 21 | 古式土師器 | 二重口縁壺B | 湿地460 | | (5.3) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 頸部1/3残存。胎土やや粗。2mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 22 | 古式土師器 | 甕A・III | 湿地460下層 | 14.0 | 18.1 | 6.2 | 7.5YR6/3にぶい褐色 | 東日本系。3/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 23 | 弥生土器 | 短頸壺A | 湿地460 | 7.0 | 21.7 | 3.8 | 2.5Y7/3浅黄色 | ほぼ完形。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 24 | 弥生土器 | 短頸壺A | 湿地460 | 10.7 | 19.2 | 5.2 | 10YR7/3にぶい黄褐色 | 底部ほぼ完形。口縁部1/6残存。胎土やや粗。2.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 25 | 弥生土器 | 短頸壺B | 湿地460下層 | 10.9 | 22.5 | 3.9 | 10YR7/2にぶい黄褐色 | 4/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 26 | 弥生土器 | 広口壺A | 湿地460 | 31.2 | (15.9) | | 10YR4/2灰黄褐色 | 河内産。口縁部～頸部3/5残存。胎土やや粗。0.9mm以下の長石、石英、チャート、角閃石、雲母含む。 |
| 27 | 弥生土器 | 鉢E1 | 湿地460 | 13.7 | 7.5 | | 10YR7/3にぶい黄褐色 | 4/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 28 | 弥生土器 | 鉢F1 | 湿地460下層 | 10.2 | 6.9 | 5.0 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | 2/3残存。胎土密。6mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 29 | 弥生土器 | 鉢F2 | 湿地460下層 | 10.4 | 8.5 | 6.8 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | 3/5残存。胎土やや粗。4.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 30 | 弥生土器 | 鉢A2 | 湿地460 | 12.4 | 8.4 | 3.4 | 10YR8/3浅黄褐色 | 9/10残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |

*単位はcm、()は残存数値

| 番号 | 器種 | 器形 | 出土遺構 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土色調 | 備考 |
|----|------|--------|---------|------|--------|------|---------------|---|
| 31 | 弥生土器 | 鉢A1 | 湿地460 | 14.0 | (5.8) | | 10YR6/4にぶい黄橙色 | 口縁部1/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 32 | 弥生土器 | 鉢A1 | 湿地460 | 14.2 | (5.0) | | 10YR8/3浅黄橙色 | 口縁部1/8残存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英、雲母含む。 |
| 33 | 弥生土器 | 鉢A1 | 湿地460下層 | 13.5 | 9.5 | 3.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 9/10残存。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 34 | 弥生土器 | 鉢A1 | 湿地460下層 | 14.4 | (10.8) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 口縁部～体部3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 35 | 弥生土器 | 鉢A1 | 湿地460下層 | 14.9 | 11.2 | 3.5 | 7.5YR8/4浅黄橙色 | 3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 36 | 弥生土器 | 鉢A1 | 湿地460 | 14.8 | (7.0) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 口縁部1/3残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を含む。 |
| 37 | 弥生土器 | 鉢A1 | 湿地460 | 14.8 | (6.7) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 口縁部1/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 38 | 弥生土器 | 鉢A1 | 湿地460下層 | 16.2 | (5.4) | | 10YR8/3浅黄橙色 | 口縁部1/10残存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 39 | 弥生土器 | 鉢A1 | 湿地460下層 | 16.3 | (9.7) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 3/5残存。胎土密。10mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 40 | 弥生土器 | 鉢A1 | 湿地460下層 | 18.8 | (8.7) | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 口縁部1/4残存。胎土密。2.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 41 | 弥生土器 | 器台A1 | 湿地460 | 16.0 | 11.2 | 13.8 | 10YR8/3浅黄橙色 | 3/5残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 42 | 弥生土器 | 器台A1 | 湿地460 | 18.3 | 10.4 | 14.8 | 7.5YR8/4浅黄橙色 | 4/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 43 | 弥生土器 | 器台A1 | 湿地460 | 18.8 | (8.5) | | 7.5YR8/4浅黄橙色 | 3/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 44 | 弥生土器 | 器台B | 湿地460 | 16.6 | (9.0) | | 2.5YR8/3淡黄色 | 口縁部～脚柱部3/5残存。胎土やや粗。5.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 45 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460北肩 | 19.2 | (2.6) | | 10YR6/4にぶい黄橙色 | 口縁部1/8残存。胎土やや粗。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 46 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460 | 19.0 | (2.2) | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 口縁部1/8残存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 47 | 弥生土器 | 器台B | 湿地460 | 17.8 | 11.0 | 14.4 | 10YR8/3浅黄橙色 | 2/7残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 48 | 弥生土器 | 器台B | 湿地460 | 18.2 | 10.3 | 14.9 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 2/5残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 49 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460下層 | 23.2 | (2.4) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 器台受部1/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 50 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460下層 | 20.7 | (10.5) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 3/5残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 51 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460下層 | 21.8 | (12.3) | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | 杯～脚柱部9/10残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 52 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460下層 | 22.2 | 15.5 | 18.4 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 53 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460下層 | 21.8 | 15.6 | 17.8 | 7.5YR7/3にぶい橙色 | 5/7残存。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 54 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460下層 | 21.2 | 15.2 | 19.1 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 55 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460下層 | | (12.4) | 18.0 | 10YR8/2灰白色 | 脚柱部4/5残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 56 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460北肩 | 20.8 | 16.2 | 18.7 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 1/3残存。胎土密。3mm以下の長石、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 57 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460下層 | | (4.4) | 18.0 | 10YR8/3浅黄橙色 | 底部1/3残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子、雲母含む。 |
| 58 | 弥生土器 | 器台C | 湿地460下層 | | (6.7) | 19.0 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 底部1/2残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 59 | 弥生土器 | 高杯C | 湿地460 | 17.0 | (4.8) | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 2/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 60 | 弥生土器 | 高杯C・c2 | 湿地460下層 | 16.4 | (12.6) | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 2/5残存。胎土密。3mm以下の長石、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 61 | 弥生土器 | 高杯A・c2 | 湿地460下層 | 21.2 | 15.5 | 17.9 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 3/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |

* 単位はcm、()は残存数値

| 番号 | 器種 | 器形 | 出土遺構 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土色調 | 備考 |
|----|-------|--------|----------|------|--------|------|---------------|---|
| 62 | 弥生土器 | 高杯A・c2 | 湿地460下層 | 26.8 | 17.0 | 18.4 | 10YR7/2にぶい黄橙色 | 3/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 63 | 弥生土器 | 高杯A・c2 | 湿地460北肩 | 26.7 | 16.4 | 18.3 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 1/3残存。胎土密。4mm以下の長石、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 64 | 弥生土器 | 高杯脚部c2 | 湿地460下層 | | (7.4) | | 2.5Y7/2灰黄色 | 脚部残存。胎土やや粗。2mm以下の長石、石英、チャート、含む。 |
| 65 | 古式土師器 | 広口壺Aか | 溝459 B | | (5.2) | | 10YR8/3浅黄橙色 | ミニチュア。4/5残存。胎土密。2mm以下の長石、チャート、雲母含む。 |
| 66 | 古式土師器 | 短頸壺A | 溝459 P～Y | 6.7 | 7.3 | 3.6 | 2.5Y8/2灰白色 | 小型品。2/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 67 | 古式土師器 | 広口壺D | 溝459 J～N | 8.5 | (6.0) | | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 小型品。口縁部～体部2/5残存。胎土密。3.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 68 | 古式土師器 | 二重口縁壺B | 溝459 P～Y | | (3.3) | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 口縁部1/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 69 | 古式土師器 | 二重口縁壺A | 溝459 P～Y | 18.9 | (8.1) | | 10YR8/3浅黄橙色 | 1/3残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 70 | 古式土師器 | 二重口縁壺A | 溝459 L | 23.4 | (10.1) | | 5YR6/6橙色 | 1/4残存。胎土やや密。4mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 71 | 古式土師器 | 短頸壺C | 溝459 B | 6.4 | (6.6) | | 10YR6/4にぶい黄橙色 | 小型品。口縁部～体部2/5残存。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 72 | 古式土師器 | 短頸壺A | 溝459 Y | 11.8 | (6.0) | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 口縁部1/4残存。胎土やや粗。4.5mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 73 | 古式土師器 | 短頸壺C | 溝459 E | 6.5 | 13.8 | 2.6 | 5YR7/6橙色 | ほぼ完形。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 74 | 古式土師器 | 短頸壺C | 溝459 K | 7.0 | (12.3) | | 5YR6/6橙色 | 口縁部～体部2/5残存。胎土密。6mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 75 | 古式土師器 | 短頸壺A | 溝459 J | 7.7 | 12.3 | 3.0 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 3/5残存。胎土密。2.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 76 | 古式土師器 | 短頸壺A | 溝459 J | 10.0 | (8.3) | | 7.5YR6/6橙色 | 胎土やや粗。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 77 | 古式土師器 | 短頸壺B | 溝459 W | 11.8 | (21.7) | | 7.5YR7/6橙色 | 口縁部～体部1/6残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 78 | 古式土師器 | 短頸壺B | 溝459 S | 11.0 | 22.1 | 5.1 | 5YR6/6橙色 | 9/10残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 79 | 古式土師器 | 無頸壺A | 溝459 T | 11.4 | 8.2 | 3.6 | 5YR6/6橙色 | 精製。4/5残存。胎土やや粗。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 80 | 古式土師器 | 細頸壺A | 溝459 P～Y | 7.8 | (11.2) | | 5YR6/6橙色 | 精製。口縁部～頸部4/5残存。胎土密。5.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 81 | 古式土師器 | 細頸壺B | 溝459 O | 7.8 | (13.9) | | 5YR8/4淡橙色 | 3/5残存。胎土粗。1mm以下の長石、チャート、石英を含む。 |
| 82 | 古式土師器 | 長頸壺A | 溝459 O | 13.0 | (6.7) | | 5YR7/6橙色 | 頸部1/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 83 | 古式土師器 | 長頸壺A | 溝459 F | 14.8 | (9.8) | | 5YR6/6橙色 | 頸部1/3残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 84 | 古式土師器 | 長頸壺B | 溝459 U | 9.0 | 17.4 | 4.6 | 7.5YRにぶい橙色 | 9/10残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 85 | 古式土師器 | 広口壺A | 溝459 D | | (7.8) | 3.4 | 2.5Y7/3浅黄色 | 3/5残存。胎土密。5.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 86 | 古式土師器 | 広口壺A | 溝459 F | | (9.9) | | 7.5YR6/4にぶい橙色 | 頸部と体部最大径で径復元。頸部～体部1/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 87 | 古式土師器 | 広口壺B | 溝459 P～Y | 14.5 | (6.2) | | 7.5YR7/6橙色 | 口縁部ほぼ完形。胎土やや粗。2.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 88 | 古式土師器 | 広口壺B | 溝459 G | 14.0 | (6.8) | | 5YR6/6橙色 | 口縁部3/5残存。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 89 | 古式土師器 | 広口壺D | 溝459 R | 13.2 | (3.9) | | 5YR6/8橙色 | 口縁部完存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 90 | 古式土師器 | 広口壺D | 溝459 O | 14.0 | (6.0) | | 5YR4/2灰褐色 | 口縁部1/6残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、雲母、赤色粒子含む。 |
| 91 | 古式土師器 | 広口壺D | 溝459 Y | 13.6 | (8.5) | | 10YR8/3浅黄橙色 | 口縁部～肩部3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、雲母含む。 |

*単位はcm、()は残存数値

| 番号 | 器種 | 器形 | 出土遺構 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土色調 | 備考 |
|-----|-------|--------|----------|------|--------|-----|---------------|---|
| 92 | 古式土師器 | 広口壺A | 溝459 D | 15.8 | (12.8) | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 口縁部1/3残存。胎土密。2.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 93 | 古式土師器 | 広口壺C | 溝459 Y | 14.9 | (17.5) | | 2.5Y7/3浅黄色 | 口縁部～体部2/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 94 | 古式土師器 | 広口壺C | 溝459 B | 14.9 | (14.3) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 口縁部～肩部4/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 95 | 古式土師器 | 広口壺C | 溝459 R | 13.6 | | 4.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 上部11.9。底部8.5。口縁部1/2残存。底部1/8残存。胎土やや粗。7mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 96 | 古式土師器 | 広口壺A | 溝459 P～Y | | (3.1) | | 7.5YR6/4にぶい橙色 | 口縁部破片。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 97 | 古式土師器 | 広口壺 | 溝459 U | | (17.6) | 5.2 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 2/3残存。胎土密。1.5mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 98 | 古式土師器 | 広口壺 | 溝459 P～Y | | (6.9) | | 5YR7/6橙色 | 肩部2/5残存。胎土密。5mm以下の長石、石英、雲母、チャート含む。 |
| 99 | 古式土師器 | 広口壺 | 溝459 G | | (21.0) | | 10YR7/2にぶい黄橙色 | 3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 100 | 古式土師器 | 広口壺 | 溝459 Y | | (18.4) | 4.4 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 体部3/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 101 | 古式土師器 | 甕A・II | 溝459 F | 11.9 | (9.9) | | 7.5YR8/3浅黄橙色 | 口縁部～体部1/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 102 | 古式土師器 | 甕A・II | 溝459 O | 13.8 | (11.0) | | 7.5YR6/4にぶい橙色 | 2/5残存。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 103 | 古式土師器 | 甕A・II | 溝459 G | 12.7 | (12.5) | | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 1/4残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 104 | 古式土師器 | 甕A・II | 溝459 A | 14.9 | (10.4) | | 10YR8/2灰白色 | 口縁部1/2残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 105 | 古式土師器 | 甕A・II | 溝459 M | 15.6 | (10.6) | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 口縁部1/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 106 | 古式土師器 | 甕A・II | 溝459 G | 15.6 | (15.8) | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 口縁部～体部2/5残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 107 | 古式土師器 | 甕A・II | 溝459 V | 12.8 | (20.7) | | 10YR8/3浅黄橙色 | 2/5残存。胎土やや粗。2mm以下の長石、チャート、石英、雲母を含む。 |
| 108 | 古式土師器 | 甕A・II | 溝459 N | 14.0 | (19.7) | | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 2/5残存。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 109 | 古式土師器 | 甕A・III | 溝459 N | 16.0 | (6.6) | | 2.5YR6/4にぶい橙色 | 口縁部1/2残存。胎土やや粗。2mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 110 | 古式土師器 | 甕A・III | 溝459 Y | 12.0 | (12.2) | | 10YR8/3浅黄橙色 | 2/3残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 111 | 古式土師器 | 甕A・III | 溝459 F | 15.8 | (13.4) | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 1/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 112 | 古式土師器 | 甕A・I | 溝459 O | 15.6 | (9.8) | | 5YR6/5にぶい赤褐色 | 1/8残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 113 | 古式土師器 | 甕A・I | 溝459 G | 20.0 | (17.2) | | 10YR7/2にぶい黄橙色 | 口縁部3/4残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 114 | 古式土師器 | 甕B・II | 溝459 R | 14.4 | (11.5) | | 7.5YR8/6浅黄橙色 | 口縁部～頸部2/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 115 | 古式土師器 | 甕B・III | 溝459 L | 14.8 | (7.6) | | 7.5YR7/6橙色 | 口縁部1/3残存。胎土やや粗。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 116 | 古式土師器 | 甕B・III | 溝459 M | 16.2 | (19.2) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 山城系受口。2/3残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 117 | 古式土師器 | 甕B・III | 溝459 V | 17.5 | (14.0) | | 7.5YR8/6浅黄橙色 | 口縁部ほぼ完形。胎土粗。5mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 118 | 古式土師器 | 甕B・III | 溝459 W | 17.4 | (13.1) | | 7.5Y7/6橙色 | 口縁部～肩部4/5残存。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 119 | 古式土師器 | 甕B・III | 溝459 R | 17.0 | (15.5) | | 10YR8/6黄橙色 | 1/6残存。胎土やや粗。4mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 120 | 古式土師器 | 甕B・II | 溝459 Y | 16.0 | (20.1) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 山城系受口。口縁部～体部1/3残存。胎土密。7mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 121 | 古式土師器 | 甕B・II | 溝459 N | 17.8 | (18.1) | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 3/5残存。胎土やや粗。9mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 122 | 古式土師器 | 甕E・II | 溝459 U | 15.2 | (5.2) | | 2.5Y8/4淡黄色 | 丹波系。口縁部1/4残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |

* 単位はcm、()は残存数値

| 番号 | 器種 | 器形 | 出土遺構 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土色調 | 備考 |
|-----|-------|--------|----------|------|--------|-----|---------------|---|
| 123 | 古式土師器 | 甕B・II | 溝459 K | 15.3 | (20.9) | | 10YR6/4にぶい黄橙色 | 口縁部～体部3/5残存。胎土密。 |
| 124 | 古式土師器 | 甕B・II | 溝459 Q | 17.8 | (16.3) | | 5YR7/4にぶい橙色 | 口縁部～肩部3/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 125 | 古式土師器 | 甕B・II | 溝459 X | 18.0 | (11.3) | | 5YR7/6橙色 | 口縁部～肩部3/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 126 | 古式土師器 | 甕B・I | 溝459 Q | 13.7 | (16.1) | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 口縁部～体部3/5残存。胎土密。6.5mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 127 | 古式土師器 | 甕C・I | 溝459 T | 16.5 | 27.6 | 4.1 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 2/5残存。胎土密。3mm以下の長石、チャート、赤色粒子含む。 |
| 128 | 古式土師器 | 甕D・I | 溝459 L | 16.8 | 27.0 | 4.8 | 2.5Y6/3にぶい黄色 | 4/5残存。胎土密。7mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子を含む。 |
| 129 | 古式土師器 | 甕C・II | 溝459 I | 13.7 | (8.1) | | 7.5YR6/4にぶい橙色 | 口縁部～体部2/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 130 | 古式土師器 | 甕C・III | 溝459 Y | 13.6 | (7.2) | | 7.5YR7/6橙色 | 口縁部完存。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 131 | 古式土師器 | 甕C・II | 溝459 M | 14.5 | (14.3) | | 7.5YR6/4にぶい橙色 | 1/4残存。胎土やや密。3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 132 | 古式土師器 | 甕C・II | 溝459 C | 13.6 | 16.2 | 3.1 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 1/3残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 133 | 古式土師器 | 甕D・II | 溝459 G | 15.0 | 21.0 | 4.5 | 7.5YR6/6橙色 | 3/5残存。胎土やや粗。6.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 134 | 古式土師器 | 甕D・III | 溝459 O | 15.4 | (13.2) | | 7.5YR6/4にぶい橙色 | 口縁部～肩部2/5残存。胎土密。7mm以下の長石、石英、赤色粒子含む。 |
| 135 | 古式土師器 | 甕D・III | 溝459 O | 16.0 | (21.7) | | 5YR6/8橙色 | 1/2残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、10mm以下のチャート、赤色土粒を含む。 |
| 136 | 古式土師器 | 甕E・II | 溝459 M | 14.9 | (14.9) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 丹波系。1/6残存。胎土密。2.5mm以下の長石、石英、チャート、金雲母含む。 |
| 137 | 古式土師器 | 甕D・II | 溝459 N | 14.5 | 22.1 | 5.4 | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 1/4残存。胎土やや密。4mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 138 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 O | 16.1 | (3.3) | | 2.5Y5/2暗灰黄色 | 生駒西麓産。口縁部1/10残存。胎土密。1mm以下の長石、チャート、角閃石含む。 |
| 139 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 H | 16.7 | (2.4) | | 10YR4/2灰黄褐色 | 生駒西麓産。口縁部1/8残存。胎土密。2mm以下の長石、チャート、雲母、角閃石含む。 |
| 140 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 L | 17.5 | (5.4) | | 2.5YR4/2暗灰黄色 | 生駒西麓産。口縁部1/4残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート、雲母、角閃石含む。 |
| 141 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 P～Y | 17.9 | (3.7) | | 2.5Y5/3黄褐色 | 生駒西麓産。口縁部1/8残存。胎土密。10mm以下の長石、石英、チャート、角閃石、雲母含む。 |
| 142 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 P | | (4.6) | | 10YR5/4にぶい黄褐色 | 生駒西麓産。頸部1/6残存。胎土密。3.5mm以下の長石、石英、チャート、角閃石、赤色粒子含む。 |
| 143 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 P | 16.3 | (6.9) | | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 生駒西麓産。口縁部1/12残存。胎土密。0.8mm以下の長石、石英、角閃石、赤色粒子含む。 |
| 144 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 L | 16.5 | (3.1) | | 7.5YR5/4にぶい褐色 | 生駒西麓産。口縁部1/5残存。胎土密。3.5mm以下の長石、チャート、雲母、角閃石含む。 |
| 145 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 P | 14.3 | (5.5) | | 2.5Y4/2暗灰黄色 | 生駒西麓産。口縁部1/6残存。胎土密。2.5mm以下の長石、石英、チャート、角閃石、赤色粒子含む。 |
| 146 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 M | 17.3 | (5.9) | | 2.5Y5/3黄褐色 | 生駒西麓産。口縁部1/2残存。胎土密。2mm以下の長石、チャート、雲母、角閃石含む。 |
| 147 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 H | 17.4 | (12.0) | | 10YR5/3にぶい黄橙色 | 生駒西麓産。口縁部～体部1/5残存。胎土密。3.5mm以下の長石、チャート、角閃石、赤色粒子含む。 |
| 148 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 H | 15.8 | (3.6) | | 10YR5/3にぶい黄褐色 | 河内産。口縁部1/8残存。胎土密。1mm以下の長石、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 149 | 古式土師器 | 甕F・IV | 溝459 P～Y | 17.1 | (3.7) | | 7.5YR6/6橙色 | 河内産。口縁部1/12残存。胎土密。1.5mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 150 | 古式土師器 | 甕A・I | 溝459 K | | (15.3) | 5.6 | 2.5Y6/3にぶい黄色 | 体部～底部完存。胎土やや粗。7.5mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 151 | 古式土師器 | 鉢B | 溝459 G | 9.0 | (5.7) | | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 口縁部1/4。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 152 | 古式土師器 | 鉢B | 溝459 U | 11.2 | (6.7) | | 2.5Y8/2灰白色 | 1/2残存。胎土密。2.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 153 | 古式土師器 | 鉢B | 溝459 J～N | 8.2 | 6.8 | | 5YR6/6橙色 | 1/2残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。 |

*単位はcm、()は残存数値

| 番号 | 器種 | 器形 | 出土遺構 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土色調 | 備考 |
|-----|-------|--------|----------|------|--------|---------|---------------|---|
| 154 | 古式土師器 | 鉢B | 溝459 E | 8.3 | (6.5) | | 2.5Y7/2灰黄色 | 3/4残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 155 | 古式土師器 | 鉢B | 溝459 J | 8.5 | 7.8 | | 2.5Y7/3浅黄色 | 1/3残存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 156 | 古式土師器 | 鉢B | 溝459 K | | (5.8) | 1.5 | 10YR8/2灰白色 | 底部ほぼ完形。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 157 | 古式土師器 | 鉢C | 溝459 D | 9.5 | 4.8 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 5/6残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子、雲母含む。 |
| 158 | 古式土師器 | 鉢E2 | 溝459 I | | (2.4) | 3.1 | 2.5Y5/2暗灰黄色 | 底部1/1残存。胎土密。2.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 159 | 古式土師器 | 鉢E1 | 溝459 J~N | 12.6 | 9.2 | 4.3 | 7.5YR7/6橙色 | 底部1/1残存。胎土密。2.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 160 | 古式土師器 | 鉢F2 | 溝459 B | | (4.6) | 7.8 | 2.5Y8/3淡黄色 | 底部1/3残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 161 | 古式土師器 | 鉢F1 | 溝459 U | | (3.9) | 5.6 | 2.5Y8/3淡黄色 | 底部3/1残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 162 | 古式土師器 | 鉢F1 | 溝459 G | | (5.0) | 5.9 | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 底部ほぼ完形。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 163 | 古式土師器 | 鉢F2 | 溝459 U | | (6.5) | 10.1 | 2.5Y8/2灰白色 | 3/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 164 | 古式土師器 | 鉢F2 | 溝459 N | | (4.6) | 7.6 | 5YR6/6橙色 | 底部完形。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 165 | 古式土師器 | 鉢A1 | 溝459 Q | 13.0 | (7.7) | | 2.5Y8/1灰白色 | 口縁部~肩部完存。胎土密。2mm以下の長石、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 166 | 古式土師器 | 鉢A1 | 溝459 K | 14.1 | (6.2) | | 10YR7/2にぶい黄橙色 | 口縁部1/2残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 167 | 古式土師器 | 鉢A1 | 溝459 N | 14.4 | (7.1) | | 2.5Y7/2灰黄色 | 近江産か。口縁部1/2残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 168 | 古式土師器 | 鉢A1 | 溝459 J~N | 15.4 | (8.2) | | 10YR8/2灰白色 | 1/4残存。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 169 | 古式土師器 | 鉢A1 | 溝459 P~Y | 16.0 | (6.8) | | 5YR7/6橙色 | 口縁部~肩部1/8残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 170 | 古式土師器 | 鉢A1 | 溝459 F | 17.3 | (8.8) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | 口縁部~肩部1/4残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 171 | 古式土師器 | 鉢A1 | 溝459 U | 14.6 | 11.6 | | 5YR7/6橙色 | ほぼ完形。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子、7mm大礫含む。 |
| 172 | 古式土師器 | 鉢A3 | 溝459 O | 15.8 | 9.3 | 4.1 | 10YR8/4浅黄橙色 | 3/5残存。胎土粗。5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 173 | 古式土師器 | 鉢A2 | 溝459 J~N | 17.8 | (6.4) | | 10YR8/3浅黄橙色 | 口縁部~肩部1/2残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 174 | 古式土師器 | 鉢A2 | 溝459 D | 16.4 | (9.0) | | 7.5YR8/4浅黄橙色 | 1/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 175 | 古式土師器 | 鉢A2 | 溝459 K | 16.5 | 10.7 | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 9/10残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 176 | 古式土師器 | 鉢D | 溝459 N | | (3.7) | 6.1×6.0 | 5YR6/8橙色 | 底部ほぼ完形。胎土密。2.5mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子、雲母含む。 |
| 177 | 古式土師器 | 手焙形土器A | 溝459 F | | (5.0) | | 10YR8/3浅黄橙色 | 近江産か。傘部破片。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 178 | 古式土師器 | 手焙形土器A | 溝459 P | | (3.1) | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 凸帯部1/8残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 179 | 古式土師器 | 手焙形土器A | 溝459 Q | | (7.4) | | 2.5YR8/2灰白色 | 頸部1/4残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 180 | 古式土師器 | 高杯D | 溝459 J~N | 20.0 | (7.7) | | 10YR6/3にぶい黄橙色 | 口縁部1/2残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 181 | 古式土師器 | 高杯D | 溝459 J~N | 19.8 | (7.2) | | 2.5YR6/6橙色 | 口縁部3/5残存。胎土やや粗。6mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 182 | 古式土師器 | 高杯F | 溝459 I | 21.4 | (12.9) | | 10YR7/2にぶい黄橙色 | 3/5残存。胎土密。0.5mm以下の石英、チャート含む。 |
| 183 | 古式土師器 | 高杯F・c1 | 溝459 E | 19.0 | 15.9 | 14.8 | 5YR6/6橙色 | 3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 184 | 古式土師器 | 高杯F・c1 | 溝459 B | 13.6 | 9.7 | 11.1 | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 4/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |

* 単位はcm、()は残存数値

| 番号 | 器種 | 器形 | 出土遺構 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土色調 | 備考 |
|-----|-------|-------|----------|------|--------|-------|---------------|---|
| 185 | 古式土師器 | 高杯E・d | 溝459 F | 16.4 | 12.6 | 11.85 | 5YR6/8橙色 | 3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 186 | 古式土師器 | 高杯E | 溝459 J～N | 13.1 | (5.0) | | 2.5Y7/2灰黄色 | 口縁部1/5残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 187 | 古式土師器 | 高杯E | 溝459 I | 16.1 | (4.8) | | 2.5Y8/2灰白色 | 杯部3/5残存。胎土密。5mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 188 | 古式土師器 | 高杯E | 溝459 R | 20.6 | (7.1) | | 10YR5/3にぶい黄褐色 | 口縁部1/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 189 | 古式土師器 | 高杯A | 溝459 N | 24.5 | (6.0) | | 7.5YR7/6橙色 | 杯部2/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 190 | 古式土師器 | 高杯A | 溝459 F | 25.5 | (4.9) | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 杯部1/10残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 191 | 古式土師器 | 高杯B | 溝459 J～N | 24.7 | (6.0) | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 北陸産。杯部1/5残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、赤色粒子、5mm以下の礫含む。 |
| 192 | 古式土師器 | 高杯C | 溝459 F | | (4.3) | | 5YR6/6橙色 | 脚接合部完存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 193 | 古式土師器 | 高杯C | 溝459 O | | (4.5) | | 5YR7/6橙色 | 脚接合部完存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 194 | 古式土師器 | 高杯G | 溝459 C | | (7.3) | | 10YR5/3にぶい黄褐色 | 2/5残存。胎土粗。5mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 195 | 古式土師器 | 高杯脚部a | 溝459 P～Y | | (8.6) | | 5YR6/6橙色 | 脚柱部2/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 196 | 古式土師器 | 高杯脚部b | 溝459 G | | (8.3) | | 10YR7/3にぶい黄褐色 | 脚柱部2/5残存。胎土密。1.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 197 | 古式土師器 | 器台F | 溝459 J～N | 12.5 | (7.2) | | 10YR8/2灰白色 | 杯部4/5残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 198 | 古式土師器 | 器台E | 溝459 H | 10.6 | 11.4 | 12.2 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 9/10残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 199 | 古式土師器 | 器台E | 溝459 I | 14.6 | 13.1 | 13.6 | 10YR7/4にぶい黄褐色 | 3/5残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 200 | 古式土師器 | 器台E | 溝459 I | 16.1 | 14.0 | 14.2 | 10YR7/3にぶい黄褐色 | 1/2残存。胎土密。4mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 201 | 古式土師器 | 器台C | 溝459 P～Y | 15.9 | (2.9) | | 10YR8/4浅黄褐色 | 1/3残存。胎土やや密。4mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 202 | 古式土師器 | 器台C | 溝459 D | 18.0 | (1.8) | | 5YR6/8橙色 | 口縁部1/15残存。胎土密。1.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 203 | 古式土師器 | 器台C | 溝459 G | 19.1 | (2.0) | | 10YR7/4にぶい黄褐色 | 口縁部1/15残存。胎土密。0.5mm以下の長石、石英、チャート含む。 |
| 204 | 古式土師器 | 器台C | 溝459 T | 19.9 | (4.3) | | 10YR8/3浅黄褐色 | 口縁部1/2残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 205 | 古式土師器 | 器台D | 溝459 N | 16.2 | (5.0) | | 10YR8/3浅黄褐色 | 1/3残存。胎土密。2mm以下の長石、チャート、赤色粒子含む。 |
| 206 | 古式土師器 | 器台D | 溝459 Q | 15.5 | 11.2 | 13.4 | 2.5Y8/3淡黄色 | 4/5残存。胎土密。7.5mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 207 | 古式土師器 | 器台D | 溝459 F | 15.9 | 11.8 | 14.2 | 10YR6/4にぶい黄褐色 | 5/7残存。4mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 208 | 古式土師器 | 器台A | 溝459 T | | (8.5) | | 10YR7/2にぶい黄褐色 | 胴部のみ3/5残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 209 | 古式土師器 | 器台A | 溝459 U | | (10.7) | 13.6 | 10YR6/3にぶい黄褐色 | 1/6残存。胎土やや密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |
| 210 | 古式土師器 | 器台A | 溝459 N | | (11.0) | 16.5 | 2.5Y7/3浅黄色 | 底部1/2残存。胎土やや粗。3mm以下の長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| 211 | 古式土師器 | 器台A2 | 溝459 R | 16.9 | 13.3 | 13.1 | 5YR6/6橙色 | 9/10残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、チャート、雲母、赤色粒子含む。 |

*単位はcm、()は残存数値

| 番号 | 器種 | 器形 | 出土遺構 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土色調 | 備考 |
|-----|-----|-------|-------------------|------|--------|-------------|---------------|---------------------------------------|
| 212 | 須恵器 | 杯蓋 | 湿地460上層 | 11.6 | 4.5 | | N6/0灰色 | 4/5残存。白色砂粒少量含む。天井部外面灰付着。天井部内面ナデ。 |
| 213 | 須恵器 | 杯蓋 | 湿地460上層 | 12.0 | 4.6 | | N6/0灰色 | 2/5残存。石英、白色砂粒含む。 |
| 214 | 須恵器 | 杯蓋 | 湿地460上層 | 13.8 | 4.3 | | N6/0灰色 | 1/3残存。胎土やや粗。白色砂粒多く含む。口縁部合成。 |
| 215 | 須恵器 | 杯身 | 湿地460上層 | 10.8 | 4.7 | | 5PB6/1青灰色 | 7/10残存。白色砂粒少量含む。 |
| 216 | 須恵器 | 杯身 | 湿地460上層 | 10.6 | 4.6 | | 5PB5/1青灰色 | 2/5残存。胎土やや粗。白色砂粒含む。 |
| 217 | 須恵器 | 杯身 | 湿地460上層 | 13.2 | 5.4 | | 5PB6/1青灰色 | 1/2残存。胎土細。砂粒少量含む。 |
| 218 | 須恵器 | 有蓋高杯蓋 | 湿地460上層 | 11.6 | 5.3 | つまみ 3.3 | 5PG4/1暗青灰色 | 1/2残存。白色砂粒含む。外面灰付着。 |
| 219 | 須恵器 | 有蓋高杯蓋 | 湿地460上層 | 12.8 | 6.1 | つまみ 3.1 | 5PB5/1青灰色 | 2/5残存。白色砂粒少量含む。 |
| 220 | 須恵器 | 有蓋高杯 | 湿地460上層 | 10.6 | 7.8 | 8.8 | 5PB6/1青灰色 | 受部1/2残存。白色砂粒含む。 |
| 221 | 須恵器 | 有蓋高杯 | 湿地460上層 | | (9.2) | 9.6 | 5PB6/1青灰色 | 脚部完存。砂粒少量含む。 |
| 222 | 須恵器 | 無蓋高杯 | 湿地460上層 | 16.6 | (4.4) | | N4/0灰色 | 1/8残存。胎土精良。内面灰付着。断面セピア色。 |
| 223 | 須恵器 | 甗 | 湿地460上層 | | (12.5) | | N4/0灰色 | 3/4残存。胎土密。2mm以下の長石、石英含む。 |
| 224 | 須恵器 | 甗 | 湿地460上層 | | (7.8) | | N6/0灰色 | 体部1/1残存。胎土密。3mm以下の長石、石英、黒色粒子含む。 |
| 225 | 須恵器 | 広口壺 | 湿地460上層 | 16.4 | (4.8) | | 5PB4/1暗青灰色 | 1/5残存。白色砂粒少量含む。 |
| 226 | 須恵器 | 広口壺 | 湿地460上層 | 18.0 | (5.6) | | N4/0灰色 | 口縁部1/8残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、黒色粒子含む。 |
| 227 | 須恵器 | 甗 | 湿地460上層 | 21.3 | (6.2) | | 7.5YR6/4にぶい橙色 | 口縁部1/3残存。胎土密。1mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子含む。 |
| 228 | 須恵器 | 甗 | 湿地460上層 | 17.0 | (7.4) | | 7.5YR5/1褐灰色 | 口縁部完存。2mm以下の長石、石英、チャート、黒色粒子含む。 |
| 229 | 須恵器 | 甗 | 湿地460上層 | 18.0 | (12.3) | | N5/0灰色 | 口縁部～肩部3/5残存。胎土密。2mm以下の長石、石英、黒色粒子含む。 |
| 230 | 土師器 | 小型丸底壺 | 湿地460北肩 上層(黒) | 8.7 | 10.0 | 胴最大 径9.5 | 2.5Y8/2灰白色 | 胎土精良・密。石英少量含む。 |
| 231 | 土師器 | 小型丸底壺 | 湿地460北肩 上層(黒) | | (7.2) | 胴最大 径9.0 | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 石英、金雲母少量含む。 |
| 232 | 土師器 | 高杯 | 湿地460上層 | 17.2 | (5.9) | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 1/5残存。石英、チャート含む。 |
| 233 | 土師器 | 高杯 | 湿地460上層 | 16.8 | (8.2) | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | チャート、長石、石英、赤色粒子少量含む。 |
| 234 | 土師器 | 甗 | 湿地460セク ション東上層 | 13.8 | (5.4) | | 10YR8/4浅黄橙色 | 1/3残存。石英多く含む。 |
| 235 | 土師器 | 甗 | 湿地460セク ション東上層 | 16.4 | (9.4) | | 5YR6/8橙色 | 1/5残存。胎土細。チャート、長石、金雲母含む。 |
| 236 | 土師器 | 甗 | 湿地460セク ション東上層 | 15.4 | (7.0) | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 1/4残存。チャート、長石少量、銀雲母含む。 |
| 237 | 土師器 | 甗 | 湿地460セク ション東上層 | 19.2 | (9.9) | | 10YR8/3浅黄橙色 | 1/5残存。胎土やや粗。赤色粒子少量含む。 |
| 238 | 土師器 | 甗 | 湿地460上層 | 29.0 | 8.2 | | 10YR8/3浅黄橙色 | 1/5残存。石英含む。 |
| 239 | 土師器 | 鍋 | 湿地460上層 | 27.4 | (9.0) | | 2.5Y8/3淡黄色 | 胎土細。石英含む。 |

*単位はcm、()は残存数値

観察表2 平安時代から江戸時代の土器類観察表

| 番号 | 器種 | 器形 | 遺構名 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | 備考 |
|-----|------|-----|-------|------|-------|----|--------------------------------|----|
| 240 | 土師器 | 皿N | 土坑480 | 9.2 | 1.8 | | 7.5YR8/3浅黄橙色 | |
| 241 | 土師器 | 皿N | 土坑480 | 9.2 | 1.7 | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 242 | 土師器 | 皿N | 土坑480 | 9.4 | 1.8 | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 243 | 土師器 | 皿N | 土坑480 | 9.5 | 1.8 | | 外7.5YR7/6橙色 内7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 244 | 土師器 | 皿N | 土坑480 | 9.5 | 1.8 | | 7.5YR7/6橙色 | |
| 245 | 土師器 | 皿N | 土坑480 | 9.6 | 1.4 | | 外7.5Y8/3淡黄色 内7.5Y8/1灰白色 | |
| 246 | 土師器 | 皿N | 土坑480 | 9.7 | 1.8 | | 10YR8/2灰白色 | |
| 247 | 土師器 | 皿N | 土坑480 | 9.8 | 1.6 | | 7.5YR8/2灰白色 | |
| 248 | 土師器 | 皿N | 土坑480 | 9.8 | 1.6 | | 7.5YR8/2灰白色 | |
| 249 | 土師器 | 皿N | 土坑480 | 10.0 | 1.6 | | 外7.5YR8/2灰白色 内7.5YR8/1灰白色 | |
| 250 | 土師器 | 皿N大 | 土坑480 | 14.0 | 2.9 | | 外7.5YR7/6橙色 内7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 251 | 土師器 | 皿N大 | 土坑480 | 14.0 | 3.7 | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 252 | 土師器 | 皿N大 | 土坑480 | 14.4 | 2.6 | | 外7.5YR7/6橙色 内7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 253 | 土師器 | 皿N大 | 土坑480 | 14.8 | 2.8 | | 外7.5YR7/3にぶい橙色 内7.5YR8/1灰白色 | |
| 254 | 土師器 | 皿N大 | 土坑480 | 14.8 | 3.5 | | 外7.5YR7/3にぶい橙色 内7.5YR8/2灰白色 | |
| 255 | 土師器 | 皿N大 | 土坑480 | 14.8 | 2.6 | | 10YR8/4浅黄橙色 | |
| 256 | 土師器 | 皿N | 井戸470 | 9.2 | 1.5 | | 7.5Y8/2灰白色 | |
| 257 | 土師器 | 皿N | 井戸470 | 9.4 | 1.9 | | 外2.5Y7/3浅黄色 内2.5Y8/1灰白色 | |
| 258 | 白色土器 | 皿 | 井戸470 | 13.5 | (2.7) | | 外10YR8/1灰白色 内2.5Y8/2灰白色 | |
| 259 | 土師器 | 皿Ac | 井戸374 | 9.0 | 1.2 | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | |
| 260 | 土師器 | 皿N | 井戸374 | 9.4 | 1.8 | | 2.5Y7/2灰黄色 | |
| 261 | 土師器 | 皿N | 井戸374 | 9.4 | 1.6 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 262 | 土師器 | 皿N大 | 井戸374 | 13.8 | 2.5 | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | |
| 263 | 土師器 | 皿N大 | 井戸374 | 14.4 | 2.4 | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | |
| 264 | 土師器 | 皿N大 | 井戸374 | 15.2 | 2.2 | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | |
| 265 | 白磁 | 皿 | 井戸374 | 9.2 | (1.5) | | 5Y8/1灰白色 釉5YR7/2明褐灰色 | |
| 266 | 白磁 | 椀 | 井戸374 | 16.4 | (5.0) | | 5Y8/1灰白色 釉5YR7/2明褐灰色 | |
| 267 | 土師器 | 皿N | 溝627 | 9.1 | 1.7 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 268 | 土師器 | 皿N | 溝627 | 9.2 | 1.4 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 269 | 土師器 | 皿N | 溝627 | 9.2 | 1.6 | | 7.5YR8/3浅黄橙色 | |
| 270 | 土師器 | 皿N | 溝627 | 9.3 | 1.8 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 271 | 土師器 | 皿N | 溝627 | 9.3 | 1.8 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 272 | 土師器 | 皿N | 溝627 | 9.4 | 1.9 | | 7.5YR8/4浅黄橙色 | |
| 273 | 土師器 | 皿N | 溝627 | 9.4 | 1.8 | | 7.5YR8/4浅黄橙色 | |
| 274 | 土師器 | 皿N | 溝627 | 9.6 | 1.7 | | 10YR7/6明黄褐色 | |
| 275 | 土師器 | 皿N | 溝627 | 9.8 | 1.6 | | 7.5YR8/3浅黄橙色 | |
| 276 | 土師器 | 皿N | 溝627 | 10.2 | 1.2 | | 7.5YR8/3浅黄橙色 | |
| 277 | 土師器 | 皿N大 | 溝627 | 13.9 | 2.7 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |

*単位はcm、()は残存数値

| 番号 | 器種 | 器形 | 遺構名 | 口径 | 器高 | 底径 | 色 調 | 備 考 |
|-----|-----|-----|-------|------|-------|-----|--------------------------|-------|
| 278 | 土師器 | 皿N大 | 溝627 | 14.0 | (2.3) | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 279 | 土師器 | 皿N大 | 溝627 | 14.0 | 2.7 | | 10YR7/2にぶい黄橙色 | |
| 280 | 土師器 | 皿N大 | 溝627 | 14.2 | 2.9 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 281 | 土師器 | 皿N大 | 溝627 | 14.8 | 2.8 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 282 | 土師器 | 皿N | 溝628 | 8.7 | 1.7 | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | |
| 283 | 山茶碗 | 皿 | 溝628 | 9.1 | 3.0 | 4.3 | 5Y7/1灰白色 | |
| 284 | 土師器 | 皿Ac | 土坑412 | 8.2 | 1.2 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 285 | 土師器 | 皿Ac | 土坑412 | 9.0 | 1.1 | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | |
| 286 | 土師器 | 皿N | 土坑412 | 8.8 | 1.8 | | 7.5YR8/4浅黄橙色 | |
| 287 | 土師器 | 皿N | 土坑412 | 9.0 | 1.8 | | 10YR8/4浅黄橙色 | |
| 288 | 土師器 | 皿N | 土坑412 | 9.0 | 1.8 | | 7.5YR8/4浅黄橙色 | |
| 289 | 土師器 | 皿N | 土坑412 | 9.2 | 1.8 | | 7.5YR6/6橙色 | |
| 290 | 土師器 | 皿N | 土坑412 | 9.2 | 1.7 | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | |
| 291 | 土師器 | 皿N | 土坑412 | 9.2 | 1.6 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 292 | 土師器 | 皿N | 土坑412 | 9.2 | 1.7 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 293 | 土師器 | 皿N | 土坑412 | 9.5 | 1.8 | | 7.5YR8/4浅黄橙色 | |
| 294 | 土師器 | 皿N | 土坑412 | 9.6 | 1.7 | | 7.5YR7/6橙色 | |
| 295 | 土師器 | 皿N | 土坑412 | 9.6 | 1.8 | | 10YR8/3浅黄橙色 | |
| 296 | 土師器 | 皿N大 | 土坑412 | 13.5 | 2.8 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 297 | 土師器 | 皿N大 | 土坑412 | 13.6 | 3.0 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | 外面煤付着 |
| 298 | 土師器 | 皿N大 | 土坑412 | 14.2 | 2.9 | | 5YR6/4にぶい橙色 | |
| 299 | 土師器 | 皿N大 | 土坑412 | 14.4 | 2.8 | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | 外面煤付着 |
| 300 | 土師器 | 皿N大 | 土坑412 | 14.7 | 3.2 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 301 | 瓦器 | 椀 | 土坑412 | 15.8 | (4.1) | | N4/0灰色 | |
| 302 | 白磁 | 皿 | 土坑412 | 9.6 | 2.2 | 3.0 | 7.5YR7/1明褐灰色 釉7.5Y7/2 | |
| 303 | 土師器 | 皿N | 地業193 | 9.7 | 1.5 | | 10YR8/3浅黄橙色 | |
| 304 | 土師器 | 皿N | 地業193 | 9.8 | 1.8 | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 305 | 土師器 | 皿N | 地業193 | 10.4 | 2.4 | | 2.5Y8/3淡黄色 | |
| 306 | 土師器 | 皿N | 地業193 | 10.8 | 1.4 | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 307 | 土師器 | 皿N | 地業193 | 11.0 | 2.1 | | 2.5Y7/2灰黄色 | |
| 308 | 土師器 | 皿N大 | 地業193 | 12.4 | 2.0 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 309 | 土師器 | 皿N | 地業195 | 9.2 | 1.5 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 310 | 土師器 | 皿N | 地業195 | 9.2 | 1.6 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 311 | 土師器 | 皿N | 地業195 | 9.5 | 1.7 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 312 | 土師器 | 皿N | 地業195 | 10.2 | 1.6 | | 2.5Y8/2灰白色 | |
| 313 | 土師器 | 皿N大 | 地業195 | 14.1 | 2.8 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 314 | 土師器 | 皿N | 土坑444 | 8.8 | 1.6 | | 10YR8/2灰白色 | |
| 315 | 土師器 | 皿N | 土坑444 | 9.9 | 2.1 | | 7.5YR7/6橙色 | |

*単位はcm、()は残存数値

| 番号 | 器種 | 器形 | 遺構名 | 口径 | 器高 | 底径 | 色 調 | 備 考 |
|-----|------|-----|-------|------|-------|-----|--------------------------------|-------|
| 316 | 土師器 | 皿N | 土坑444 | 10.0 | 1.7 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 317 | 土師器 | 皿N | 土坑444 | 11.1 | 2.0 | | 2.5Y7/2灰黄色 | |
| 318 | 土師器 | 皿N大 | 土坑444 | 13.0 | 3.1 | | 2.5Y8/2灰白色 | |
| 319 | 土師器 | 皿N大 | 土坑444 | 14.3 | 2.8 | | 10YR8/3浅黄橙色 | |
| 320 | 土師器 | 皿N大 | 土坑444 | 15.8 | 3.0 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 321 | 白色土器 | 皿 | 土坑444 | 10.0 | 2.0 | 4.3 | 10YR8/3浅黄橙色 | 底部糸切り |
| 322 | 瓦器 | 椀 | 土坑444 | 15.4 | (4.5) | | N4/0灰色 | |
| 323 | 土師器 | 皿Ac | 溝327 | 9.4 | 1.3 | | 10YR8/3浅黄橙色 | |
| 324 | 土師器 | 皿N | 溝327 | 9.2 | 1.9 | | 2.5Y7/2灰黄色 | |
| 325 | 土師器 | 皿N | 溝327 | 9.6 | 1.7 | | 2.5Y7/3浅黄色 | |
| 326 | 土師器 | 皿N | 溝327 | 9.6 | 1.8 | | 2.5Y8/2灰白色 | |
| 327 | 土師器 | 皿N | 溝327 | 9.8 | 1.6 | | 2.5Y8/2灰白色 | |
| 328 | 土師器 | 皿N | 溝327 | 9.9 | 1.7 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |
| 329 | 土師器 | 皿N | 溝327 | 10.3 | 1.5 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 330 | 土師器 | 皿N大 | 溝327 | 13.2 | 3.2 | | 7.5YR7/6橙色 | |
| 331 | 土師器 | 皿N大 | 溝327 | 14.3 | 2.7 | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 332 | 白色土器 | 小椀 | 溝327 | | (1.5) | 4.0 | 10YR8/2灰白色 | 底部糸切り |
| 333 | 瓦器 | 椀 | 溝327 | 11.5 | 3.3 | | 5Y7/1灰白色 | |
| 334 | 瓦器 | 小壺 | 溝327 | 5.7 | (4.2) | | N4/0灰色 | |
| 335 | 瓦器 | 皿 | 溝327 | 8.0 | 1.5 | | N4/0灰色 | |
| 336 | 瓦器 | 皿 | 溝327 | 8.8 | 1.5 | | N4/0灰色 | |
| 337 | 瓦器 | 椀 | 溝327 | 13.2 | 4.2 | | 5Y6/1灰色 | |
| 338 | 瓦器 | 椀 | 溝327 | 15.1 | (3.7) | | N3/0暗灰色 | |
| 339 | 瓦器 | 椀 | 溝327 | 15.7 | 4.3 | | N3/0暗灰色 | |
| 340 | 土師器 | 皿Ac | 溝326 | 8.6 | 1.5 | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 341 | 土師器 | 皿N | 溝326 | 9.0 | 1.1 | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 342 | 土師器 | 皿N | 溝326 | 9.1 | 1.6 | | 外7.5YR8/2灰白色 内7.5YR8/1灰白色 | |
| 343 | 土師器 | 皿N | 溝326 | 9.4 | 1.3 | | 10YR8/2灰白色 | |
| 344 | 土師器 | 皿N大 | 溝326 | 13.6 | 3.2 | | 外7.5YR8/3浅黄橙色 内7.5YR7/2明褐灰色 | |
| 345 | 土師器 | 皿N大 | 溝326 | 14.2 | 2.6 | | 外7.5YR7/3にぶい橙色 内7.5YR8/2灰白色 | |
| 346 | 土師器 | 皿N大 | 溝326 | 14.8 | 3.5 | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 347 | 山茶椀 | 皿 | 溝326 | 8.7 | 2.0 | | 2.5Y6/1黄灰色 | |
| 348 | 瓦器 | 皿 | 溝326 | 8.5 | 1.5 | 4.4 | 外N4/0灰色 内N8/0灰白色 | |
| 349 | 土師器 | 皿Ac | 土坑465 | 8.4 | 1.2 | | 7.5Y7/3浅黄色 | |
| 350 | 土師器 | 皿Ac | 土坑465 | 9.0 | 1.3 | | 外10YR8/2灰白色 内10YR7/2にぶい黄橙色 | |
| 351 | 土師器 | 皿N | 土坑706 | 7.8 | 1.9 | | 10YR8/3浅黄橙色 | |
| 352 | 土師器 | 皿N | 土坑706 | 7.9 | 1.5 | | 2.5Y7/3浅黄色 | |
| 353 | 土師器 | 皿N | 土坑706 | 8.1 | 1.5 | | 10YR7/4にぶい黄橙色 | |

*単位はcm、()は残存数値

| 番号 | 器種 | 器形 | 遺構名 | 口径 | 器高 | 底径 | 色 調 | 備 考 |
|-----|------|------|-------|------|--------|------|---------------|--------------|
| 354 | 土師器 | 皿N | 土坑706 | 8.2 | 1.5 | | 10YR8/3浅黄橙色 | |
| 355 | 土師器 | 皿N | 土坑706 | 8.2 | 1.8 | | 10YR8/3浅黄橙色 | 口縁、底外面煤付着 |
| 356 | 土師器 | 皿N | 土坑706 | 8.4 | 1.5 | | 10YR8/3浅黄橙色 | |
| 357 | 土師器 | 皿N | 土坑706 | 8.5 | 1.5 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 358 | 土師器 | 皿N | 土坑706 | 8.7 | 1.7 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 359 | 土師器 | 皿N大 | 土坑706 | 11.1 | 1.6 | | 2.5Y6/2灰黄色 | 内外面煤付着 |
| 360 | 土師器 | 皿N大 | 土坑706 | 12.1 | 2.1 | | 2.5Y7/3浅黄色 | 内面煤付着 |
| 361 | 土師器 | 皿N大 | 土坑706 | 12.3 | 2.2 | | 7.5YR7/4にぶい橙色 | |
| 362 | 土師器 | 皿N大 | 土坑706 | 12.8 | 2.2 | | 10YR7/3にぶい黄橙色 | |
| 363 | 焼締陶器 | 甕 | 井戸629 | | (58.4) | 17.6 | 7.5YR3/2黒褐色 | 常滑 胴部最大径70.4 |
| 364 | 焼締陶器 | 甕 | 井戸775 | 49.8 | (43.2) | | 5Y5/2灰オリーブ色 | 常滑 胴部最大径78.4 |
| 365 | 土師器 | 皿Sh | 井戸576 | 6.3 | 1.8 | | 10YR8/1灰白色 | |
| 366 | 土師器 | 皿S大 | 井戸576 | 11.8 | 9.8 | | 10YR8/1灰白色 | |
| 367 | 土師器 | 皿S大 | 井戸576 | 11.9 | 2.7 | | 10YR8/1灰白色 | |
| 368 | 土師器 | 皿S大 | 井戸576 | 12.2 | (2.2) | | 10YR8/1灰白色 | |
| 369 | 土師器 | 皿S大 | 井戸576 | 12.6 | 2.6 | | 10YR8/2灰白色 | |
| 370 | 土師器 | 皿S大 | 井戸576 | 13.0 | 2.7 | | 2.5Y8/1灰白色 | |
| 371 | 土師器 | 皿N大 | 井戸576 | 11.6 | 2.2 | | 7.5YR7/3にぶい橙色 | |
| 372 | 施釉陶器 | 灯明受皿 | 土坑78 | 6.5 | 1.2 | 3.0 | 5Y7/1灰白色 | |
| 373 | 施釉陶器 | 小椀 | 土坑78 | 6.3 | 4.3 | 3.0 | 2.5Y6/2灰黄色 | 立鶴 |
| 374 | 施釉陶器 | 蒸し器 | 土坑78 | 12.0 | 10.0 | 8.0 | 5Y7/1灰白色 | |
| 375 | 施釉陶器 | 德利 | 土坑78 | | (15.0) | 4.5 | 2.5Y7/2灰黄色 | 鉄絵菊華文 |
| 376 | 磁器 | 杯 | 土坑78 | 5.6 | 2.8 | 2.6 | | |
| 377 | 磁器 | 杯 | 土坑78 | 5.6 | 3.1 | 2.8 | | |
| 378 | 染付磁器 | 椀 | 土坑78 | 9.5 | 5.6 | 3.7 | | |
| 379 | 染付磁器 | 椀 | 土坑78 | 10.6 | 5.6 | 3.5 | | |

*単位はcm、()は残存数値

観察表3 軒丸瓦観察表

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|-----|---|--|--|-----------------------------------|
| 瓦1 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房、1+8。間弁は独立、輪郭線有り。 | 瓦当成形不明。丸瓦接合位置低い。 | 11世紀後葉。播磨産。法勝寺(辻2007)図9-41・神出堂ノ前窯(春成2014)258と同文。 | 溝302、計1点。 |
| 瓦2 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房、1+4と「×」。子葉部凹む。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 11世紀後葉。播磨産。法勝寺(西森2015)図39-4・法勝寺(市埋文1996)391と同文。 | 整地層、溝627、計2点。 |
| 瓦3 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房で内向き突起有り。1+8。弁端は山形、間弁は独立、輪郭線有り。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 11世紀後葉。播磨産。円勝寺(円勝団1972)ER001A・法勝寺池(上原1975)図20-1と同文。 | 井戸374、溝327(3点)・溝627・溝302、計6点。 |
| 瓦4 | 複弁蓮華文。弁端は山形、間弁は独立。瓦3の瓦箔外区縮小し、輪郭線の端部のみ残存。 | 瓦当成形不明。 | 11世紀後葉。播磨産。円勝寺(円勝団1972)ER001C・法勝寺池(近藤2014b)図14-4と同文。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦5 | 単弁8弁蓮華文。凹中房。弁端は山形。間弁無し。輪郭線有り。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 11世紀後葉。播磨産。法勝寺金堂(市文保1976a)図7-7と同文。 | 井戸576、計1点。 |
| 瓦6 | 内区に梵字「アーク」を配す。左右逆字、1画面と2画面連続。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 11世紀後葉。大和産。円勝寺(円勝団1972)ER048・興福寺中門(山崎1999)図21-9と同文。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦7 | 単弁8弁蓮華文。凸中房、1+7。周囲に圏線。間弁は独立。外区は界線・珠文が3つ1組で7単位・圏線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 11世紀後葉。産地不明。法勝寺(市埋文1996)388・法勝寺(市埋文1980)188と同文。 | 溝326、溝302、計2点。 |
| 瓦8 | 複弁6弁蓮華文。圏線中房。間弁は独立。外区無し。 | 筒型一本造り成形。瓦当裏面紋り無しの布目痕跡、下半土堤上面横ナデ。長石粒を含む。 | 11世紀後葉。産地不明。広隆寺(平安博1977)149・備前国分寺(宇垣2009)図154-87と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦9 | 単弁8弁蓮華文。圏線中房、1+8。間弁はY字で、外区界線に接続。蓮弁に輪郭線有り。 | 筒型一本造り成形。瓦当裏面紋り無しの布目痕跡、土堤内に沿ってナデ施す。裏面下半土堤、上面横ケズリ。長石粒を含む。 | 11世紀後葉。産地不明。備前国分寺(宇垣2009)図177-178と同文。 | 井戸576、計1点。 |
| 瓦10 | 単弁8弁蓮華文。凹中房、1+5。間弁は連続。外区に密な珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦、円形押印有り。 | 11世紀後葉。産地不明。円勝寺(円勝団1972)ER028と同文。 | 整地層、溝326、計2点。 |
| 瓦11 | 複弁5弁蓮華文。圏線中房、1+5。間弁は連続。外区に珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 11世紀後葉。産地不明。円勝寺(円勝団1972)ER007と同範。興福寺(藪中1991)VI丸C12と同文。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦12 | 複弁6弁蓮華文。凸中房、1+4。外区に界線・珠文12個・圏線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)31型式と同範。 | 整地層、井戸576、計2点。 |
| 瓦13 | 複弁6弁蓮華文。圏線中房、1+4。外区に界線・珠文12個・圏線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 12世紀前葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)5型式・南ノ庄田窯(市埋文1996)139と同範。 | 整地層(5点)、溝327(3点)・溝326・溝627、計10点。 |
| 瓦14 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房、1+4。外区に界線・珠文16個・圏線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀代。山城産。尊勝寺(奈文研1960)8型式・栗栖野窯(市埋文1996)56と同文。 | 溝627(2点)、溝326・溝495・整地層、計5点。 |
| 瓦15 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房、1+6。間弁は独立。外区に界線・珠文16個・圏線。瓦当は楕円形。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 12世紀中葉。山城産。栗栖野窯(市埋文1996)50と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦16 | 複弁7弁蓮華文。凹中房、1+5。外区に界線・珠文・圏線。間弁は独立。瓦当は楕円形。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)7型式と同文。 | 溝327、柱穴339、計2点。 |
| 瓦17 | 単弁6弁蓮華文。凸中房。間弁はY字形で、独立。蓮弁の中央に凹む。外区に界線・珠文24個・圏線。周縁は広い。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。丸瓦の接合位置が低く、瓦当側面上半が傾斜する。 | 12世紀代。山城産。平安宮朝堂院(平安博1977)188と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦18 | 単弁9弁蓮華文。圏線中房、1+4。間弁は連続。蓮弁に輪郭線有り。外区に珠文9個。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)64型式・栗栖野窯(吉村1993)図23-14と同範。 | 溝327(4点)、溝326(2点)・溝627・土坑726、計8点。 |
| 瓦19 | 単弁12弁蓮華文。凸中房、0+3。間弁は連続。外区に珠文。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀中葉。山城産。 | 整地層、溝327、計2点。 |
| 瓦20 | 単弁8弁蓮華文。内区が盛り上がる。外区に密な珠文。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。山城産。円勝寺(円勝団1972)ER032・尊勝寺(奈文研1960)63型式と同文。 | 井戸576石組内、計1点。 |
| 瓦21 | 単弁10弁蓮華文。圏線中房、中央に突起有り。間弁は連続。外区珠文は上半大7個、下半小2個。瓦当は楕円形。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀後葉。山城産。円勝寺(円勝団1972)ER038・南ノ庄田窯(高1998)図版3-16と同範。 | 溝326、井戸576、計2点。 |
| 瓦22 | 単弁4弁蓮華文。蓮子は1個で半球状。間弁は独立。外区に花形の界線・珠文。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀後葉。山城産。法住寺殿(網2011)図55-38と同文。 | 溝627、計1点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|-----|--|----------------------------------|--|-------------------------------|
| 瓦23 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房、1+4。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)23B型式と同范。 | 溝326、溝327・整地層、計3点。 |
| 瓦24 | 瓦23と同文。瓦23より蓮弁が高く、子葉が三角形で接する。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)23B型式と同文。 | 溝326、溝627、計2点。 |
| 瓦25 | 瓦23と同文。瓦23・24より蓮弁が低く、子葉が三角形で離れる。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀後葉。山城産。常盤仲之町遺跡(加納2010)図16-瓦2・仁和寺(市埋文1996)781と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦26 | 単弁8弁蓮華文。子葉有り。圏線中房。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、溝326、計2点。 |
| 瓦27 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房、1+4。間弁は連続。外区に界線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。山城産。法勝寺北方(近藤2005)図62-517・円勝寺(円勝団1972)ER004と同文。 | 柱列2柱穴823、計1点。 |
| 瓦28 | 単弁12弁蓮華文。圏線中房、1+4。間弁は連続。外区に界線。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。山城産。仁和寺円堂院(木村1990)図版13-23と同范。 | 溝327、整地層、計2点。 |
| 瓦29 | 複弁9弁蓮華文。凹中房。蓮弁は剣頭状。間弁は独立。外区に界線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。山城産。円勝寺(円勝団1972)ER019と同范。尊勝寺(奈文研1960)20型式と同文。 | 溝627、計2点。 |
| 瓦30 | 単弁16弁蓮華文。圏線中房、1+8。蓮弁は剣頭状。外区に界線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)89型式と同文。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦31 | 単弁8弁蓮華文。凹中房、1+5。蓮弁は方形、子葉1ヶ所輪郭線に接する。間弁は独立。外区に界線。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀中葉。山城産。延勝寺(近藤2014a)図23-瓦10・仁和寺円堂院(木村1990)図版15-41と同范。 | 柱穴304、計1点。 |
| 瓦32 | 単弁8弁蓮華文。圏線中房、1+0。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀中葉。山城産。白河南殿(堀内1981)1と同文。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦33 | 単弁8弁蓮華文。圏線中房、1+7。間弁は独立、界線に接する。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦34 | 単弁蓮華文。圏線中房、1+4。蓮弁は柳葉状で不定方向。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当側面に縦縄叩き。 | 12世紀後葉。山城産。平安宮大極殿(平安博1977)229と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦35 | 単弁8弁蓮華文。中房は半球状。蓮弁は剣頭状で、子葉有り。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。山城産。法勝寺金堂回廊(上村1987)図版13-14・円勝寺(円勝団1972)ER044と同文。 | 溝327(2点)、溝627(5点)・溝326、計8点。 |
| 瓦36 | 瓦35と同文。中房円形で上面平坦。蓮弁と周縁の間に線鋸歯文1箇所以上有り。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)86型式と同文。 | 溝627(2点)、溝327(2点)・溝627下層、計5点。 |
| 瓦37 | 単弁8弁蓮華文。凸中房、1+4と凸線を配す。蓮弁は菱形で、間弁はY形。蓮弁・間弁周囲に輻線配す。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面下端が薄い土塊状となり、上面横ヶズリ。 | 12世紀代。山城産。尊勝寺(六勝研1977)SWA10と同范。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦38 | 単弁10弁蓮華文。圏線中房、蓮子無し。間弁は連続。外区に珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀代。山城産。福勝院(上村1991b)図3-2と同范。栗栖野窯(北田1986)図版11-6と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦39 | 単弁7弁蓮華文。圏線中房、1+4。間弁は連続し、周縁となる。蓮弁は凹み、一つだけ子葉有り。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀代。産地不明。尊勝寺観音堂(森下1987)図28-17と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦40 | 単弁蓮華文。子葉有り。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀代。山城産。 | 土坑436、計1点。 |
| 瓦41 | 単弁13弁蓮華文。凸中房、蓮子無し。間弁は連続。外区に珠文。瓦当面は楕円形。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦42 | 単弁8弁蓮華文。凹中房、中央に突起2つ、周囲に蓋有り。周縁内側に輻線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦43 | 単弁蓮華文。圏線中房。間弁は単独、周縁に接する。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|-----|--|--|--|-----------------------------|
| 瓦44 | 単複交互蓮華文(単弁6弁+複弁6弁)。凹中房で4ヶ所内向き突起有り、1+4。単複弁共に子葉有り。間弁は連続。外区に界線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。瓦当裏面盛り上がる。 | 12世紀前葉。山城産。円勝寺(円勝団1972)SR018・尊勝寺(奈文研1960)18型式と同範。 | 溝627、溝327(3点)、計4点。 |
| 瓦45 | 単複混合蓮華文(単弁5弁+複弁1弁)。圏線中房、凸線2・突起2、1+4。間弁は独立。外区無し。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)82型式と同範。 | 堀27、溝327、計2点。 |
| 瓦46 | 単複混合蓮華文(単弁5弁+複弁5弁)。凹中房、1+4。間弁は連続。外区に界線・珠文11個・圏線。瓦当面は楕円形。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀後葉。山城産。仁和寺円堂院(木村1990)図版15-42と同範。 | 整地層、溝327・溝326、計3点。 |
| 瓦47 | 単複混合蓮華文(複弁7弁+単弁2弁)。圏線中房で内向き突起有り、1+4で中心蓮子は水滴形。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀代。山城産。尊勝寺(奈文研1960)41A型式と同文。 | 溝327、計2点。 |
| 瓦48 | 複弁9弁蓮華文。中房は半球状、周囲に圏線。間弁は連続。外区に界線・珠文21個・圏線。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 12世紀前葉。播磨産。神出窯(春成2014)259と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦49 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房、1+6。間弁は連続。外区に珠文25個・圏線。 | 瓦当成形不明。裏面中央はやや凹む。丸瓦部は粘土紐成形。 | 12世紀前葉。播磨産。法勝寺塔(柏田2011)図80-瓦21と同範。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦50 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房、1+8。間弁は連続。外区に界線・珠文26個・圏線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 12世紀前葉。播磨産。久留美柳谷2号窯(池田99)NM1bと同文。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦51 | 瓦50と同範。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面は凹み、中央は盛り上がる。裏面下半土堤上面横ナデ。 | 瓦50と同様。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦52 | 複弁8弁蓮華文。凸中房、1+4。中房の周囲に蓋有り。蓮弁に子葉3本有り。外区に界線・楕円形の珠文・圏線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面中央は凹む、下半土堤上面横ナデ。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)93型式・久留美平井E1窯(中村90)図版22-8と同文。 | 溝327、計2点。 |
| 瓦53 | 単弁蓮華文。外区に界線・密な珠文・圏線。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)70型式・久留美平井E2号窯(中村90)図版21-10と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦54 | 複弁蓮華文。凹中房。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)9型式・林崎三本松窯(春成2014)1と同文。 | 堀27、溝327・土坑726、計3点。 |
| 瓦55 | 複弁蓮華文。凹中房。間弁は連続。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)11型式と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦56 | 複弁8弁蓮華文。凹中房、中央がやや盛り上がる、1+8。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当成形不明。丸瓦は粘土紐成形。 | 12世紀代。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦57 | 複弁蓮華文。凹中房。間弁は連続。外区に界線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝628、溝326、計2点。 |
| 瓦58 | 複弁8弁蓮華文。凸中房、周囲に圏線。間弁は連続。外区に界線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当裏面平坦。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 整地層、溝327、計2点。 |
| 瓦59 | 瓦58と同文。蓮弁の幅が瓦58よりやや狭い。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦60 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房、1+8。間弁は連続。外区に界線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当裏面やや盛り上がる。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)44型式・林崎三本松窯(春成2014)12と同文。 | 堀27、溝327(2点)、計3点。 |
| 瓦61 | 複弁蓮華文。圏線中房。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。播磨産。林崎三本松窯(春成2014)15と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦62 | 複弁8弁蓮華文。凸中房、1+5。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 整地層、溝327(3点)、溝627・溝326、計6点。 |
| 瓦63 | 複弁蓮華文。圏線中房。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 12世紀前葉。播磨産。円勝寺(円勝団1972)ER017と同文。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦64 | 複弁6弁蓮華文。凸中房、1+6。間弁は連続。外区に界線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)45型式・円勝寺(円勝団1972)ER010・林崎三本松窯(春成2014)13と同文。 | 溝327、計1点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|-----|---|--------------------|--|--------------------------|
| 瓦65 | 瓦64と同文。凸中房の周囲に圏線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 柱穴580、溝327・溝628、計3点。 |
| 瓦66 | 瓦64と同文。中房の直径が瓦64・65より小さい。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝327(2点)、溝627、計3点。 |
| 瓦67 | 瓦64と同文。凸中房の周囲に圏線。中房直径・内区径が瓦64～66より小さい。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝327(4点)、溝500、計5点。 |
| 瓦68 | 複弁8弁蓮華文。圏線中房、1+8。間弁は連続。外区に界線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1960)46型式・ 林崎三本松窯(春成2014)8と同文。 | 井戸576、溝327、計2点。 |
| 瓦69 | 瓦68と同文。中房直径が瓦68よりやや大きい。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。播磨産。 最勝寺(吉村1995)図28-19と同文。 | 溝326、溝327、計2点。 |
| 瓦70 | 複弁13弁蓮華文。圏線中房で内向きに5ヶ所突起有り、1+5。周囲に圏線。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1960)22型式・ 林崎三本松窯(春成2014)54と同文。 | 整地層、溝327、計2点。 |
| 瓦71 | 複弁9弁蓮華文。圏線中房、1+6。蓮弁は上下に2重。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(円勝団1972)SR019・ 林崎三本松窯(春成2014)26と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦72 | 複弁6弁蓮華文。中房は半球状、周囲に圏線。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀中葉。播磨産。 鳥羽金剛心院(前田2002)HM1類・ 林崎三本松窯(春成2014)35と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦73 | 単弁8弁蓮華文。凸中房でやや盛り上がる、周囲溝有り、1+6+8。弁端切り込む。間弁は連続。外区無し。周縁は傾斜する。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1960)47型式・ 林崎三本松窯(春成2014)9と同文。 *内区内拓本は別個体。 | 溝326、溝327(2点)、計3点。 |
| 瓦74 | 単弁蓮華文。中房は半球状、周囲に2重圏線・葎有り。間弁は連続、基部に珠点。蓮弁の大きさが相違、弁端切り込む。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。播磨産。 林崎三本松窯(春成2014)53と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦75 | 単弁蓮華文。圏線中房。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀代。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦76 | 複弁6弁蓮華文。凸中房、1+6。外区に2重界線。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(上村1996)23・33と同文。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦77 | 瓦76と同文。蓮子の間隔が瓦76よりやや広い。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦78 | 瓦76と同文。蓮子の間隔が瓦76よりやや狭く、蓮弁の高さが低い。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝327、溝195、計2点。 |
| 瓦79 | 単弁8弁蓮華文。凸中房、1+5。外区に2重界線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦80 | 瓦79と同文。瓦79より中房直径が小さい。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 12世紀前葉。播磨産。 林崎三本松窯(春成2014)30と同文。 | 溝327、溝302、計2点。 |
| 瓦81 | 瓦80と同文。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 12世紀中葉。播磨産。 鳥羽金剛心院(前田2002)HM3A・ 林崎三本松窯(春成2014)32と同文。 | 溝327(3点)、溝326・井戸775、計5点。 |
| 瓦82 | 単弁蓮華文。圏線中房、1+4。間弁は連続。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀代。播磨産。 | 井戸420、計1点。 |
| 瓦83 | 単弁17蓮華文。圏線中房。間弁は連続。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。播磨産。 円勝寺(市埋文1996)490と同文。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦84 | 単弁8弁蓮華文。圏線中房、周囲に葎。間弁は連続。外区に界線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1960)54型式・ 林崎三本松窯(春成2014)52と同文。 | 溝327(2点)、溝627、計3点。 |
| 瓦85 | 単弁8弁蓮華文。凸中房。間弁は独立。外区に界線・珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。丹波産。 円勝寺(円勝団1972)ER030・出雲神社(梅原1925)図版33-6と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦86 | 単弁11弁蓮華文。凸中房、蓮子無し。外区に太い界線・珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 12世紀代。産地不明。 最勝寺(梶川1997)図23-3と同文。 | 溝326、計1点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|------|--|---|--|-----------------------------|
| 瓦87 | 単弁8弁蓮華文。凹中房、蓮子不明。間弁は連続。珠文は楕円形。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面に格子叩き。裏面平坦。胎土に長石粒多量含む。 | 12世紀代。産地不明。尊勝寺観音堂(森下1987)図27-1・尊勝寺(市埋文1996)475と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦88 | 単弁蓮華文。弁端尖る。外区が一段高く、圏線・密な珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀代。産地不明。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦89 | 複弁蓮華文。中房は半球状、周囲に2重圏線。間弁は連続。蓮弁は山形。外区に珠文・圏線。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 12世紀代。産地不明。 | 柱列12柱穴346、計1点。 |
| 瓦90 | 複弁8弁蓮華文。凸中房、周囲に圏線、1+4。弁区が一段高い。蓮弁の返りが強い。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀代。産地不明。円勝寺(円勝団1972)ER012と同範。旧勸業館(市埋文1996)513と同文。 | 井戸576、溝627、計2点。 |
| 瓦91 | 単弁12弁蓮華文。圏線中房、1+4。外区に界線。 | 瓦当成形不明。 | 12世前葉。産地不明。円宗寺(市埋文1997)図63-67と同文。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦92 | 単弁8弁蓮華文。凸中房、1+8、周囲に葦あり。外区に界線。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 12世紀代。産地不明。堺市法道寺(市本2001)・東大阪市客坊山遺跡(市本2001)と同文。 | 溝327(7点)、井戸576、計8点。 |
| 瓦93 | 右巻三巴文。頭・尾は離れる。外区に界線・珠文14個・圏線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面は盛り上がる。 | 12世紀中葉。山城産。円宗寺(市埋文1997)図62-54と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦94 | 右巻三巴文。頭は離れ、尾は接し界線となる。外区に珠文21個。 | 瓦当成形不明。瓦当側面に斜縄叩き。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)119型式と同範。 | 土坑465、整地層、計2点。 |
| 瓦95 | 右巻三巴文。頭は離れ、尾は接し界線となる。巴文上面平坦。外区に珠文22個。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面はやや平坦。 | 12世紀中葉。山城産。栢杜遺跡(清野1974)h類と同範。 | 溝327(2点)、溝627、計3点。 |
| 瓦96 | 右巻三巴文。頭は離れ、尾は接し界線となる。外区に珠文。 | 瓦当成形不明。裏面は盛り上がる。 | 12世紀中葉。山城産。 | 溝327、整地層、計2点。 |
| 瓦97 | 右巻三巴文。頭は連結、尾は接し界線となる。外区に珠文。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦98 | 右巻三巴文。頭は連結、尾は離れる。外区に珠文21個。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面盛り上がる。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)123型式と同文。 | 溝326、溝327(3点)・溝627・整地層、計6点。 |
| 瓦99 | 瓦98同文。外区の珠文は瓦98より大きく、少ない。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀代。山城産。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦100 | 右巻三巴文。頭・尾は離れる。外区に珠文14個。 | 瓦当成形不明。瓦当側面に縦縄叩き。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝627、土坑151、計2点。 |
| 瓦101 | 左巻三巴文。頭・尾は離れる。外区に界線・珠文24個。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦102 | 瓦101と同文。内区径が瓦101よりやや大きい。外区に密な珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦103 | 左巻三巴文。頭は離れ、尾は他の巴文と接する。外区に界線・密な珠文。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀後葉。山城産。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦104 | 左巻三巴文。頭・尾は離れる。外区に密な珠文。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦105 | 左巻三巴文。頭は連結、尾は離れる。外区に珠文。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計2点。 |
| 瓦106 | 左巻三巴文。頭は連結、尾は離れる。外区に密な珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面凹む。瓦当側面に縦縄叩き。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦107 | 左巻三巴文。頭・尾は離れる。外区に密な珠文。瓦当面盛り上がる。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀代。山城産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦108 | 左巻三巴文。頭は離れる。外区に密な珠文。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦109 | 右巻二巴文。頭・尾は離れる。外区に界線・珠文24個・圏線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝195、計1点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|------|---|-------------------------|--|--|
| 瓦110 | 右卷二巴文。頭・尾は離れる。外区に太い界線・珠文17個。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀代。山城産。 | 地業193、計1点。 |
| 瓦111 | 右卷二巴文。頭は連結、尾は離れる。外区に密な珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面はやや平坦。 | 12世紀代。山城産。 尊勝寺(奈文研1960)111型式と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦112 | 右卷二巴文。頭・尾は離れる。外区に密な珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。瓦当側面に縦縄叩き。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦113 | 左卷二巴文。頭は連結。外区に密な珠文。 | 瓦当成形不明。瓦当側面に斜縄叩き。 | 12世紀代。山城産。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦114 | 左卷二巴文。頭は離れ、尾は接し界線となる。外区に珠文18個。 | 瓦当成形不明。瓦当側面に縦縄叩き。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計4点。 |
| 瓦115 | 左卷二巴文。頭は連結、尾は離れる。外区に珠文20個。 | 瓦当成形不明。瓦当側面に斜縄叩き。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝627(2点)、 溝327、計3点。 |
| 瓦116 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。中心に突起有り。外区に単弁8弁蓮華文。蓮弁の間に輻線と圏線を配す。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀代。山城産。 尊勝寺(奈文研1960)101型式と同範。 外面は褐灰色。 | 柱列4柱穴792、 溝327、計2点。 |
| 瓦117 | 右卷三巴文。頭は離れ、尾は接し界線となる。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦118 | 右卷三巴文。頭は離れ、尾は接し界線となる。外区無し。巴文がやや平坦。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面はやや平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦119 | 右卷三巴文。頭は離れる。外区無し。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦120 | 右卷三巴文。頭は離れ、尾は界線に接する。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計2点。 |
| 瓦121 | 右卷三巴文。頭は離れ、尾は周縁に接する。外区無し。 | 瓦当成形不明。裏面はやや平坦。 | 12世紀代。山城産。 円勝寺(円勝団1972)ER051と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦122 | 右卷三巴文。頭は離れ、尾は周縁に接する。外区無し。巴文がやや平坦。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面はやや平坦。 | 12世紀代。山城産。 円勝寺(円勝団1972)ER051と同文。 | 溝627、計3点。 |
| 瓦123 | 瓦122と同文。範を2度押しする。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦124 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦125 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦126 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦127 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。巴文がやや平坦。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦128 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、 土坑465、計2点。 |
| 瓦129 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦130 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。中央に突起有り。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀後葉。山城産。 | 土坑465、 溝327、計2点。 |
| 瓦131 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦132 | 右卷三巴文。頭は連結、尾は離れる。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 整地層(2点)、 溝327(2点)・溝627・ 土坑465、計6点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|------|--|---------------------------------------|--|--------------------------|
| 瓦133 | 右卷三巴文。頭は離れ、尾は周縁に接する。文様は平坦。瓦当面は楕円形。 | 瓦当成形不明。裏面平坦。 | 12世紀後葉。山城産。岡崎福祉センター(市文保1974)2と同範。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦134 | 左卷三巴文。頭は離れ、尾は接し界線となる。外区無し。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀代。山城産。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦135 | 左卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦136 | 左卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦137 | 左卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 堀27、計1点。 |
| 瓦138 | 左卷三巴文。頭・尾は離れる。中央に突起有り。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦139 | 左卷三巴文。頭は連結、尾は離れる。外区無し。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 12世紀代。山城産。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦140 | 左卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦141 | 左卷三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 瓦当成形不明。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦142 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。外区に界線・楕円形の珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。 | 12世紀中葉。播磨産。東寺八幡社(鈴木1995)73と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦143 | 右卷三巴文。頭は連結、尾は離れる。外区に太い界線・珠文35個。 | 瓦当成形不明。裏面はやや平坦。 | 12世紀中葉。播磨産。鳥羽金剛心院(前田2002)HM4A・林崎三本松窯(春成2014)58と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦144 | 左卷三巴文。頭は連結、尾は界線に接する。外区に太い界線・密な珠文。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 12世紀中葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)146型式・鳥羽勝光明院(鈴木1979)Pl. 13-24と同文。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦145 | 瓦139と同文。左卷三巴文。頭は連結、尾は離れる。外区無し。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面盛り上がる。丸瓦は粘土紐成形。 | 12世紀中葉。播磨産。法金剛院東門(小松1998)図51-1・魚橋窯(今里1978)図2-8と同文。 | 溝327(2点)、井戸555・溝628、計4点。 |
| 瓦146 | 単弁8弁蓮華文。圏線中房、梵字「カーン」を配す。蓮弁は円形浮文。外区に界線・珠文は2・3個1単位・圏線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。溝底は縦ナデで歯車状とするものも有り。裏面平坦。 | 13世紀代。産地不明。醍醐大智院(鳥羽研1976)図15-21と同範。*裏面拓本は別個体。 | 井戸576、溝327、計2点。 |
| 瓦147 | 複弁8弁蓮華文。凸中房、卍字を配す。間弁は連続。外区に珠文12個・圏線。小型瓦。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 13世紀代。山城産。円勝寺(円勝団1972)ER014と同範。常盤仲ノ町遺跡(鈴木1978)図18-1と同文。 | 溝327、計2点。 |
| 瓦148 | 右卷三巴文。頭は連結、尾は離れる。外区に界線・密な珠文・圏線。 | 裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 13世紀代。産地不明。龜山殿(布川2005)図版9-105と同文。 | 井戸576、計1点。 |
| 瓦149 | 右卷三巴文。頭は離れ、尾は接して圏線となる。外区は界線・密な珠文・圏線。 | 瓦当裏面溝付丸瓦挿入成形。裏面平坦。 | 13世紀代。産地不明。 | 井戸576、計1点。 |
| 瓦150 | 複弁蓮華文。凸中房、周囲溝有り、蓮子数不明。間弁は独立。外区に界線・珠文・圏線。 | 瓦当成形不明。 | 時期・産地不明。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦151 | 右卷三巴文。頭・尾は離れる。外区に珠文16個。周縁は圏線状。小型瓦。 | 瓦当裏面丸瓦貼付成形。裏面平坦。 | 時期・産地不明。 | 溝326、計1点。 |

観察表 4 軒平瓦観察表

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|------|--|-------------------------------------|---|----------------------------------|
| 瓦152 | 外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続。上外区と下外区に界線・密な珠文。 | 段顎。顎貼付成形。 | 11世紀後葉。丹波産。最勝寺推定地(丸川1995)図46-13と同范。 | 井戸576、計1点。 |
| 瓦153 | 外行唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続、分岐点に蕾有り。外区上下に界線。 | 段顎。顎貼付成形。 | 11世紀後葉。播磨産。法勝寺金堂(木村1975)図14-6と同文。 | 溝327、整地層、計2点。 |
| 瓦154 | 外行唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続、分岐点に蕾有り、外区の界線に接する。 | 段顎。瓦当成形不明。平瓦凹面に「十」ヘラ記号有り。 | 11世紀後葉。播磨産。法勝寺金堂(木村1975)図14-5と同文。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦155 | 瓦154と同文。瓦154より外区幅がやや広い。 | 段顎。顎貼付成形。 | 11世紀後葉。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦156 | 瓦154と同文。唐草の巻きがやや相違。 | 段顎。瓦当成形不明。 | 11世紀後葉。播磨産。円勝寺(円勝団1972)ER115・法勝寺金堂(木村1975)図14-7と同文。 | 柱穴485、計1点。 |
| 瓦157 | 外行2転唐草文。中心文は上向C字。唐草は連続。外区に界線。 | 段顎。顎貼付成形。 | 11世紀後葉。大和産。円勝寺(円勝団1972)ER135と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦158 | 外行2転唐草文。唐草は分離。外区に界線。 | 曲線顎。顎貼付成形。 | 11世紀後葉。大和産。興福寺(藪中1991)VI平C1と同文。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦159 | 内区に梵字「キヤ・カ・ラ・バ・ア」を配す。外区無し。 | 曲線顎。瓦当成形不明。平瓦側部に釘穴有り。 | 11世紀後葉。大和産。法勝寺塔(柏田2011)図83・興福寺(藪中1991)VI平K1と同文。円勝寺(市理文1996)509と釘穴の位置が同様。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦160 | 外行3転唐草文。中心文は上向C字並列。唐草は複線で連続。上外区に2重界線。 | 段顎。瓦当成形不明。瓦当裏面はナデ。 | 11世紀後葉。産地不明。円勝寺(円勝団1972)ER102・備前国分寺(宇垣2009)図159-110と同文。 | 土坑38、計1点。 |
| 瓦161 | 外行2転唐草文。中心文無し。唐草は連続。外区に界線・珠文。 | 曲線顎・段顎。半折曲成形。瓦当裏面下端は横ケズリ。 | 12世紀前葉。山城産。円勝寺(円勝団1972)SR174・栗栖野窯(吉村1993)図26-93と同范。 | 溝627、溝326・柱穴339、計3点。 |
| 瓦162 | 外行2転唐草文。中心文は背向C字。唐草は連続。瓦当中央に箔キズ有り。外区に界線。 | 曲線顎。半折曲成形。 | 12世紀前葉。山城産。勸修寺(平方1991)図3-12と同范。尊勝寺(奈文研1960)244型式と同文。范の切り縮め。平安宮中和院(平安博1977)504と同文。 | 土坑726、計1点。 |
| 瓦163 | 外行唐草文。唐草は分離。外区に界線。 | 段顎。半折曲成形。文様面に布目残存。 | 12世紀代。山城産。円勝寺(円勝団1972)SR242Cと同范。 | 柱穴458、計2点。 |
| 瓦164 | 外行3転唐草文。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | 薄顎。大半は半折曲成形で、折り曲げも有り。瓦当裏面縄叩きのものも有り。 | 12世紀前葉。山城産。円勝寺(円勝団1972)ER122・尊勝寺(奈文研1960)171B型式・栗栖野窯(吉村1993)図26-89と同文。 | 溝327(4点)、整地層(2点)・溝627・土坑465、計8点。 |
| 瓦165 | 外行唐草文。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | 薄顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺有り。 | 12世紀後葉。山城産。平安宮内裏(平安博1977)524と同文。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦166 | 外行6転唐草文。中心文は下向きC字。唐草は連続。外区無し。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺有り。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)179型式・鳥羽金剛心院(前田2002)KH1Aと同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦167 | 外行唐草文。左側6転。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | 薄顎。完全折曲成形。瓦当裏面は横ナデ。文様面に布目残存。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)185型式・旧勸業館(市理文1996)523と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦168 | 外行唐草文。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | 曲線顎。半折曲成形。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦169 | 外行3転唐草文。中心文は対向C字で下側接する。唐草は連続。外区無し。 | 薄顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺有り。 | 12世紀後葉。山城産。鳥羽田中殿(杉山1976)図7-8と同文。 | 溝327、柱穴792、計2点。 |
| 瓦170 | 外行2転唐草文。中心文無し。唐草主茎は連続。外区無し。 | 薄顎。完全折曲成形。瓦当裏面に縄叩き、曲げ皺有り。平瓦凸面にヘラ記号。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)181型式と同范。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦171 | 瓦170と同文。支茎数が相違。 | 薄顎・段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺有り。平瓦凸面にヘラ記号。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)181型式と同文。 | 溝627、溝327(3点)・整地層、計5点。 |
| 瓦172 | 外行唐草文。唐草は連続、上部に曲線。外区無し。 | 薄顎。折曲成形。瓦当裏面横ナデ。 | 12世紀後葉。山城産。 | 井戸374枠内、計1点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|------|---|----------------------------------|---|---------------------------------------|
| 瓦173 | 外行3転唐草文。中心文は3重半裁花文。唐草は分離。外区無し。 | 段顎。折曲成形 | 12世紀前葉、山城産。 円勝寺(円勝団1972)SR272A・尊勝寺(奈文研1960)272型式と同文。 | 整地層(2点)、溝327(6点)・溝627(3点)・北壁33層、計12点。 |
| 瓦174 | 瓦173と同文。唐草は連続。 | 段顎。折曲成形 | 12世紀前葉、山城産。 円勝寺(円勝団1972)SR272B・栗栖野窯(市埋文1996)126と同文。 | 溝327(2点)、井戸576石枠内・溝628、計4点 |
| 瓦175 | 内行3転唐草文。唐草は分離。外区に界線・密な珠文・圏線。 | 曲線顎・段顎。半折曲成形。瓦当裏面下端横ケズリ。 | 12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(奈文研1960)175型式・延勝寺(近藤2014a)瓦30・平安宮朝堂院(平安博1977)441と同文。 | 堀27、柱穴339・整地層、計3点。 |
| 瓦176 | 内行2転唐草文。唐草は連続。外区無し。 | 曲線顎。半折曲成形。 | 12世紀前葉。山城産。 法勝寺金堂(上原1975)図13-2・塔(柏田2011)瓦65と同文。 | 土坑726、計1点。 |
| 瓦177 | 内行唐草文。左側6転・右側9転。唐草は連続。外区無し。 | 曲線顎。半折曲成形。平瓦凸面へラ記号。 | 12世紀中葉。山城産。 栗栖野窯(市埋文1996)91・128・南ノ庄田窯(市埋文1996)140と同範。 | 溝627、溝327(2点)、計3点。 |
| 瓦178 | 内行唐草文。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | 曲線顎。半折曲成形。平瓦凸面にへラ記号、凹面の布は織物を使用。 | 12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(奈文研1960)158型式・法勝寺(市埋文1996)442と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦179 | 右4転偏行唐草文。唐草は連続。外区・周縁無し。 | 曲線顎。半折曲成形。平瓦凸面にへラ記号。 | 12世紀前葉。山城産。 円勝寺(円勝団1972)SR195・尊勝寺(奈文研1960)195型式・栗栖野窯(吉村1993)図26-87と同範。 | 溝327、整地層、計2点。 |
| 瓦180 | 右偏行唐草文。唐草は連続。外区無し。 | 段顎。折曲成形。瓦当裏面横ナデ、下端横ケズリ。文様面に布目残存。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦181 | 右偏行唐草文。唐草は連続。外区無し。 | 薄顎。完全折曲成形。 | 12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(奈文研1972)243型式・尊勝寺北側(上村1991a)図5-19と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦182 | 右偏行5転唐草文。唐草は連続。外区無し。 | 曲線顎。半折曲成形。文様面に布目残存。 | 12世紀前葉。山城産。 尊勝寺(奈文研1960)202型式・平安宮豊楽院(平安博1977)529と同文。 | 整地層、溝627・溝327、計3点。 |
| 瓦183 | 左偏行唐草文。唐草は連続、周縁に接する。外区無し。 | 曲線顎。半折曲成形。瓦当下面・平瓦凸面に格子叩き目。 | 12世紀代。山城産。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦184 | 左偏行3転唐草文。唐草は連続、周縁に接する。外区無し。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺有り。平瓦凸面へラ記号。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦185 | 左偏行3転唐草文。唐草は連続、周縁に接する。外区無し。 | 薄顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺有り。 | 12世紀後葉。山城産。 尊勝寺五大堂(上村1989)図4-10・栗栖野窯(市埋文1996)95と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦186 | 外行3転唐草文。唐草は連続、分岐点に蕾有り、唐草が外区の界線に接する。 | 曲線顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 尊勝寺(奈文研1960)232型式と同範、瓦範の切り縮め。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦187 | 瓦186と同文。唐草の巻きが相違。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 法勝寺金堂(市文保1974)図8-14と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦188 | 瓦186と同文。瓦186より内区幅がやや狭い。 | 曲線顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦189 | 外行2転唐草文。中心文は垂線。唐草は連続、分岐点に蕾有り。支茎先端蕾状となる。外区に界線。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀前半。播磨産。 円勝寺(円勝団1972)SR233A・林崎三本松窯(春成2014)75と同文。 | 井戸576、計1点。 |
| 瓦190 | 外行4転唐草文。中心文は2重花文。唐草は連続。外区に界線。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 林崎三本松窯(春成2014)150と同文。 | 溝327(5点)、溝637・柱穴485・整地層、計8点。 |
| 瓦191 | 瓦190と同文。内区幅が狭い。 | 段顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝628、溝327、計2点。 |
| 瓦192 | 瓦190と同文。中心花文が高く、中心文と左側1転目の支茎の間に蕾有り。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 最勝寺(吉村1995)図28-23と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦193 | 瓦190と同文。中心花文が高く、尖がる。右側1・2・4転目の支茎が相違。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝326、溝327(4点)・溝627、計6点。 |
| 瓦194 | 瓦190と同文。中心花文が高く、左側2転目の支茎が分かれ、蕾状になる。 | 段顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝627、計1点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|------|---|---------------------------|--|------------------------|
| 瓦195 | 瓦190と同文。右側4転目の支茎が分かれる。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 地業193、柱穴340・溝627、計3点。 |
| 瓦196 | 瓦190と同文。中心花文が高い。 | バチ形類。包込成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀前葉。播磨産。林崎三本松窯(春成2014)151と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦197 | 瓦190と同文。右側4転目の支茎が立ち上がる。 | バチ形類。包込成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀前葉。播磨産。円勝寺(円勝団1972)ER134と同文。 | 溝628、溝327・土坑319、計3点。 |
| 瓦198 | 外行唐草文。唐草は連続、外区の界線に接する。 | 段類。瓦当裏面平瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝327、整地層、計2点。 |
| 瓦199 | 外行唐草文。唐草は連続。外区に界線。 | 段類。瓦当裏面平瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。播磨産。円勝寺(円勝団1972)ER124と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦200 | 外行3転唐草文。中心文は上向きC字。唐草は連続、外区の界線に接する。 | 曲線類。瓦当裏面平瓦貼付成形。 | 12世紀前葉。播磨産。円勝寺(円勝団1972)ER141・久留美窯(池田1999)NH2と同文。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦201 | 外行唐草文。唐草は連続。外区に界線。 | 段類。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦202 | 外行唐草文。唐草は連続。外区に界線。 | 段類。瓦当成形不明。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦203 | 外行4転唐草文。唐草は連続。中心文無し。外区に界線。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。林崎三本松窯(春成2014)128と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦204 | 外行唐草文。唐草は連続。外区に界線。 | 段類。瓦当成形不明。 | 12世紀代。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦205 | 外行唐草文。唐草は連続、唐草両端が外区の界線に接する。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)263型式の両側を縮小。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦206 | 外行唐草文。中心文は垂線。唐草は連続。外区無し。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)266型式と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦207 | 外行2転唐草文。中心文は花草文。唐草は連続。外区に界線。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。法勝寺北方(近藤2005)図69-592と同文。 | 溝627、溝326、計2点。 |
| 瓦208 | 外行3転唐草文。中心文は花草文。唐草は分離。外区に界線。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。三条西殿(植山1983)図118-5・神出窯(春成2014)355と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦209 | 外行2転唐草文。中心文は樹状文。唐草は連続。外区無し。 | 曲線類。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)254型式と同文。円勝寺(円勝団1972)SR254Bの両側を縮小。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦210 | 外行2転唐草文。中心文は下向きC字並列。唐草は分離、外区の界線に接する。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)242E型式と同文。 | 溝302、計1点。 |
| 瓦211 | 瓦210と同文。右側2転目唐草は切れる。 | 曲線類。半折曲成形。文様面に布目残存。 | 12世紀前葉。播磨産。円勝寺(円勝団1972)SR242B・鳥羽南殿(細谷1968)G3と同文。瓦範の切り縮め。林崎三本松窯(春成2014)76と同文。 | 堀27、計1点。 |
| 瓦212 | 瓦210と同文。中心文大きい。 | 曲線類。半折曲成形。瓦当裏面・下面に縦縄叩き。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)242型式と同文。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦213 | 外行唐草文。左側4転・右側3転。中心文は垂線。唐草主茎は直線的で連続、支茎は不定方向、外区の界線に接する。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)278型式と同文。 | 整地層(2点)、溝327(2点)、計4点。 |
| 瓦214 | 外行唐草文。唐草は連続。外区に界線。 | 段類。瓦当裏面溝付平瓦挿入成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦215 | 外行唐草文。唐草は連続。外区に界線。 | 段類。瓦当裏面平瓦貼付成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦216 | 外行唐草文。左側3転・右側2転。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | 段類・バチ形類。瓦当成形不明。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝627、溝327(2点)・整地層、計4点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|------|--|---------------------------|--|------------------------|
| 瓦217 | 瓦216と同文。左側2転・右側3転。 | 段顎・バチ形顎。瓦当成形不明。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝326、計2点。 |
| 瓦218 | 瓦216と同文。左側3転・右側3転。 | 段顎・バチ形顎。瓦当成形不明。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝327(2点)、溝326・整地層、計4点。 |
| 瓦219 | 外行2転唐草文。中心文は下向C字。唐草は連続。外区無し。 | 段顎・バチ形顎。包込成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)253型式と同文。 | 溝327、溝326(2点)、計3点。 |
| 瓦220 | 外行唐草文。唐草は連続。外区無し。周縁に凹線。 | 段顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 地業193、計1点。 |
| 瓦221 | 外行2転唐草文。唐草は分離。中心文は2重上向きC字。内区の両側狭まる。外区無し。 | 直線顎。瓦当成形不明。 | 12世紀中葉。播磨産。円勝寺(円勝団1972)ER113と同文。最勝寺推定地(丸川1995)図46-7と同范。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦222 | 外行唐草文。唐草は連続。外区無し。 | バチ形顎。包込成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦223 | 外行2転唐草文。中心文は下向C字。唐草は分離。外区無し。 | 段顎。瓦当裏面溝付平瓦挿入成形。 | 12世紀中葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)252型式と同文。 | 堀27、計1点。 |
| 瓦224 | 外行唐草文。唐草は連続。外区無し。内区の両側狭まる。 | 曲線顎。顎貼付成形。 | 12世紀代。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦225 | 外行2転唐草文。唐草は連続。外区無し。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。林崎三本松窯(春成2014)102と同文。 | 溝327、整地層、計2点。 |
| 瓦226 | 外行唐草文。唐草は連続。外区無し。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦227 | 外行唐草文。唐草は連続。外区無し。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦228 | 外行唐草文。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | バチ形顎。包込成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝326(2点)、整地層、計3点。 |
| 瓦229 | 外行唐草文。唐草は連続。外区無し。 | 段顎・バチ形顎。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝327、地業193、計2点。 |
| 瓦230 | 外行唐草文。中心文無し。唐草は陰刻、連続。 | 段顎。顎貼付成形。瓦当下面・平瓦凸面に縦縄叩き。 | 11～12世紀。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)151D型式と同范。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦231 | 瓦230と同文。 | 段顎。顎貼付成形。 | 11～12世紀。播磨産。 | 井戸576、計1点。 |
| 瓦232 | 瓦230と同文。 | 段顎。瓦当成形不明。 | 11～12世紀。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦233 | 瓦230と同文。 | 段顎。顎貼付成形。瓦当下面に縦縄叩き。 | 11～12世紀。播磨産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦234 | 外行4転唐草文。唐草は陰刻、連続。中心文無し。脇は縮小。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)153型式・林崎三本松窯(春成2014)133と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦235 | 内行3転唐草文。唐草は連続。外区に密な珠文、界線は両端三角形。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。神出窯(春成2014)385と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦236 | 内行唐草文。唐草は連続。外区無し。 | 段顎。瓦当成形不明。 | 12世紀代。播磨産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦237 | 右偏行7転唐草文。唐草は連続。内区1段回む。外区に密な珠文。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)176A型式・久留美窯(池田1999)NH6と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦238 | 右偏行19転唐草文。唐草は連続。外区に界線、両端円形。 | バチ形顎・曲線顎。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。尊勝寺(奈文研1960)218型式・林崎三本松窯(春成2014)131・久留美窯(池田1999)NH8と同范。 | 溝327、整地層(2点)、計3点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|------|---|---|--|--------------------|
| 瓦239 | 左偏行唐草文。唐草は連続。外区に界線・密な珠文・圏線。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。白河(市埋文1996)612・久留美窯(池田1999)NH7と同文。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦240 | 左偏行唐草文。唐草は連続。内区1段凹む。外区に密な珠文。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀前葉。播磨産。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦241 | 左偏行9転唐草文。唐草は連続。内区に斜線配す。外区無し。 | 顎形態・瓦当成形不明。 | 12世紀中葉。播磨産。久留美柳谷10号窯(池田1999)NH9と同文。 | 溝509、計1点。 |
| 瓦242 | 外行3転唐草文。中心文は背向C字。唐草は分離。外区に界線・密な珠文。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺・横縄叩き、下面に縦縄叩き。 | 12世紀前葉。丹波産。円勝寺(円勝団1972)ER117-Aと同範。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦243 | 瓦242と同文。界線は両端三角形。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺・横縄叩き、下面に斜縄叩き。 | 12世紀前葉。丹波産。円勝寺(円勝団1972)ER117B・尊勝寺阿弥陀堂(上村1981)17・篠窯(安井1960)97-1と同文。 | 整地層、溝327、計2点。 |
| 瓦244 | 瓦242と同文。界線は両端直線。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺・斜縄叩き。 | 12世紀前葉。丹波産。円勝寺(円勝団1972)ER118・法勝寺北方(近藤2005)図64-543と同文。 | 溝627(2点)、溝327、計3点。 |
| 瓦245 | 瓦242と同文。界線は両脇直線。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺・斜縄叩き。 | 12世紀前葉。丹波産。篠窯(亀岡市1994)図1-11と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦246 | 瓦242と同文。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺・縦縄叩き。 | 12世紀前葉。丹波産 | 溝627、計1点。 |
| 瓦247 | 唐草文。唐草は連続。外区無し。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺有り。 | 12世紀前葉。丹波産。頸部裏面に丹が付着。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦248 | 外行唐草文。唐草は分離。外区に界線無し、珠文は3個1単位。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺あり。瓦当裏面・瓦当下面・平瓦凸面に縦縄叩き。 | 12世紀前葉。丹波産。円勝寺(円勝団1972)ER144・法勝寺阿弥陀堂(高橋2012)図27-20と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦249 | 外行4転唐草文。中心文は無し。唐草は分離。外区に2重界線。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当下面に縄叩き・裏面に押さえ。 | 12世紀前葉。丹波産。円勝寺(円勝団1972)ER101Aと同文。 | 溝327、計2点。 |
| 瓦250 | 外行3転唐草文。唐草は陰刻、連続。外区珠文は陽刻、3個1単位。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に縦縄叩き、下面に斜縄叩き。 | 12世紀前葉。丹波産。尊勝寺(奈文研1960)151A型式と同文。円勝寺(円勝団1972)ER108と同範。 | 溝506、計1点。 |
| 瓦251 | 外行唐草文。中心文は花文。唐草は連続、分岐点に蕾有り。唐草文下部は切れる。外区に界線。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に横縄叩き、下面に縦縄叩き。 | 12世紀前葉。丹波産。円勝寺(円勝団1972)ER123B・最勝寺推定地(丸川1995)図46-11と同範。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦252 | 唐草文。中心文無し。唐草は連続し、不定形。外区に界線。 | 薄顎。完全折曲成形。瓦当裏面・下面に縦縄叩き。 | 12世紀前葉。丹波産。平安京左京六条院(原山1981)X5-126と同範。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦253 | 外行3転唐草文。中心文は上向きC字。唐草は連続。外区に界線・珠文。 | 直線顎。瓦当成形不明。瓦当下面は横ケズリ。平瓦凸面に縄叩き・ヘラ記号。 | 12世紀前葉。讃岐産。鳥羽南殿(細谷1968)G8・東殿(堀内1984)図8-9・西村1号窯(香川県1980)と同文。 | 井戸576石組内、計1点。 |
| 瓦254 | 外行4転唐草文。中心文は上向きC字。唐草は分離。外区無し。 | 直線顎。瓦当成形不明。瓦当下面は横ケズリ。 | 12世紀前葉。大和産。円勝寺(円勝団1972)ER114・興福寺(敷中1991)VI平D2と同文。 | 溝628、計1点。 |
| 瓦255 | 左偏行5転唐草文。唐草は連続。外区に界線。 | 曲線顎。瓦当成形不明。瓦当裏面・平瓦凸面に正格子叩き。胎土に長石粒多く含む。 | 12世紀代。産地不明。尊勝寺東側(上村1993)図137-3と同類。 | 井戸775、計1点。 |
| 瓦256 | 外行宝相華文。唐草は連続。外区無し。 | バチ形類。包込成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦257 | 外行宝相華文。唐草は連続。外区無し。 | バチ形類。包込成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦258 | 外行宝相華文。唐草文は右側3転・左側2転。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。法勝寺北方(近藤2005)図64-539と同文。 | 溝327、計2点。 |
| 瓦259 | 外行宝相華文。唐草文は3転。中心文は花文。外区無し。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。林崎三本松窯(春成2014)146と同文。 | 溝302、整地層、計2点。 |
| 瓦260 | 外行宝相華文。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | バチ形類。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。林崎三本松窯(春成2014)117と同文。 | 溝326、溝327、計2点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|------|--|--|---|---------------------|
| 瓦261 | 外行宝相華文。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | 段顎・バチ形顎。包込成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝327(3点)、地業193、計4点。 |
| 瓦262 | 外行宝相華文。唐草は連続。外区無し。 | 段顎・バチ形顎。包込成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝500、溝327、計2点。 |
| 瓦263 | 外行宝相華文。中心文無し。唐草は連続。外区無し。 | 段顎・バチ形顎。包込成形。平瓦凸面に平行叩き。 | 12世紀中葉。播磨産。円勝寺(円勝団1972)ER138と同範。 | 溝326、溝327(2点)、計3点。 |
| 瓦264 | 外行宝相華文。唐草は連続。外区無し。 | 段顎。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦265 | 外行宝相華文。唐草は連続。外区無し。 | 段顎。瓦当裏面溝付平瓦挿入成形。 | 12世紀中葉。播磨産。 | 土坑436、計1点。 |
| 瓦266 | 外行2転宝相華文。中心文は花文。唐草は分離。外区に界線。 | 蹄顎。顎貼付成形。平瓦凸面に斜格子叩き。 | 時期・産地不明。 | 井戸576石組内、攪乱、計2点。 |
| 瓦267 | 半裁花文。花文は菱形、上下交互に配す。外区無し。 | 段顎。半折曲成形。 | 12世紀中葉。山城産。栢杜遺跡(清野1975)J型式・南ノ庄田窯(高1998)図版5-23・栗栖野窯(吉村1993)図27-106と同範。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦268 | 半裁花文。上下交互に配す。外区に界線。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺・縄叩き。 | 12世紀後葉。山城産。法勝寺北方(近藤2005)図64-548と同文。 | 溝31、計1点。 |
| 瓦269 | 半裁雁行文。上下3単位。外区無し。 | 段顎。半折曲成形。 | 12世紀中葉。山城産。栢杜遺跡(清野1975)O型式・栗栖野窯(吉村1993)図26-98と同範。 | 溝627、土坑465、計2点。 |
| 瓦270 | 半裁花文。花文は3葉状、上下交互に配す。外区に界線。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀代。播磨産。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦271 | 半裁花文。花文は菱形、上下交互に配す。外区無し。 | 薄顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺あり。瓦当裏面に横縄叩き、下面・平瓦凸面に縦縄叩き。 | 12世紀前葉。丹波産。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦272 | 雁巴文。左巻三巴文。頭・尾は離れる。外区無し。 | 段顎。半折曲成形。平瓦凸面に縄叩き後、強くナデ。 | 12世紀中葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)294型式・栗栖野窯(市埋文1980)280と同文。 | 溝627、計1点。 |
| 瓦273 | 連巴文か。右巻三巴文。頭離れ尾は接して界線となる。外区無し。 | 段顎。半折曲成形。 | 12世紀中葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)299型式・栗栖野窯(市埋文1996)100と同文。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦274 | 蓮華巴文。各2単位。単弁4蓮弁+右巻三巴文、頭離れ尾は接して界線となる。文様間の上にV・下に珠文を配す。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺有り。 | 12世紀後葉。山城産。平安宮真言院(市文保1976b)図23-17と同範。 | 土坑464、計1点。 |
| 瓦275 | 連巴文。右巻三巴文、頭離れ尾は接して界線となる、4単位。文様間の下にVを配す。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺・縄叩き。文様面に布目残存。 | 12世紀後葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)295A型式と同文。 | 整地層、溝327、計2点。 |
| 瓦276 | 連巴文。右巻三巴文・米印を交互に配す。頭・尾は離れる。外区無し。 | 薄顎・曲線顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺あり。文様面に布目残存。 | 12世紀後葉。山城産。東寺東門南側(引原1992)図48-16と同文。 | 溝327、溝627、計2点。 |
| 瓦277 | 陰刻連巴文。右巻三巴文、頭離れ尾は接して界線となる。左端の文様切れる。 | 薄顎。半折曲成形。 | 12世紀代。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦278 | 陽刻連巴文。右巻三巴文、頭離れ尾は接して界線となる。外区無し。 | 段顎。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。法金剛院(小松1998)図51-5・林崎三本松窯(春成2014)164と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦279 | 陰刻連巴文。右巻三巴文。頭離れ尾は接して界線となる。 | バチ形顎。包込成形。 | 12世紀中葉。播磨産。法住寺殿(芝野1984)図54-40と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦280 | 斜格子文。外区無し。 | 曲線顎。半折曲成形。平瓦凸面ヘラ記号。 | 12世紀中葉。山城産。尊勝寺(奈文研1960)284型式と同文。 | 井戸576石組内、土坑436、計2点。 |
| 瓦281 | 幾何学文。波形の曲線と上下に珠点を配す。外区に界線。 | 直線顎。瓦当成形不明。 | 12世紀代。産地不明。 | 溝326、計1点。 |
| 瓦282 | 陽刻剣頭文。剣頭は連続、配置は垂直。上外区に密な珠文。 | 段顎。半折曲成形。 | 12世紀中葉。山城産。平安宮内膳司(平安博1977)559と同文。 | 井戸576、計1点。 |

| 番号 | 瓦当文様の特徴 | 手法の特徴 | 備考 | 出土遺構 |
|------|---------------------------------------|--|---|--------------------|
| 瓦283 | 陽刻剣頭文。剣頭は連続、配置は放射状。 | 曲線顎。半折曲成形。 | 12世紀中葉。山城産。 | 溝500、計1点。 |
| 瓦284 | 陽刻剣頭文。剣頭は連続、配置は垂直。 | 曲線顎。半折曲成形。瓦当裏面下端は横ケズリ。 | 12世紀中葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦285 | 陰刻剣頭文。配置は放射状。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺あり。瓦当下面に縄叩き。文様面に布目残存。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦286 | 陰刻剣頭文。配置は垂直。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺あり。文様面に布目残存。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦287 | 陰刻剣頭文。配置は垂直。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺あり。平瓦凹面にヘラ記号。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦288 | 陰刻剣頭文。10単位。配置は垂直。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺あり。平瓦部凸面ヘラ記号。文様面に布目残存。 | 12世紀後葉。山城産。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦289 | 陰刻剣頭文。7単位。配置は垂直。中心にXを配す。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺・布目あり。文様面に布目残存。 | 12世紀中葉。山城産。鳥羽金剛心院(前田2002)KH8Aと同範。 | 井戸576、計1点。 |
| 瓦290 | 陰刻剣頭文。中央円形で*を配す、両側3単位。配置は垂直。 | 段顎。完全折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺あり。文様面に布目残存。 | 12世紀後葉。山城産。天龍寺(市埋文1997)図74-222と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦291 | 外行3転唐草文。中心円形輪郭線内に「建仁寺」配す。唐草は分離。外区に界線。 | 段顎。瓦当貼付成形。瓦当裏面と平瓦境に凹型台圧痕有り。 | 13世紀前葉。大和産。東大寺(平松2000)Fig. 185-509Aと同範。 | 溝302・溝327(接合)、計1点。 |
| 瓦292 | 外行4転唐草文。中心文は()形。唐草は分離、上下に珠文を配す。外区に界線。 | 曲線顎。瓦当裏面平瓦貼付成形。瓦当裏面と平瓦境に凹型台圧痕有り。 | 13世紀代。産地不明。東福寺(長谷川1990)57と同文。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦293 | 唐草文。唐草は連続。外区に界線・粗い珠文。 | 段顎。瓦当成形不明。瓦当裏面と平瓦境に凹型台圧痕有り。 | 13世紀代。産地不明。法勝寺金堂(木村1975)図15-11と同文。 | 溝327、井戸576石組内、計2点。 |
| 瓦294 | 外行唐草文。唐草は連続。外区に界線・粗い珠文。 | 段顎。瓦当成形不明。瓦当裏面と平瓦境に凹型台圧痕有り。 | 13世紀代。産地不明。法勝寺金堂(市文保1976)図9-20と同文。 | 溝327、整地層、計2点。 |
| 瓦295 | 外行4転唐草文。中心文は上向C字。唐草は連続。外区に界線。 | 段顎。顎貼付成形。瓦当裏面と平瓦境に凹型台圧痕有り。 | 13世紀代。大和産。東福寺(長谷川1990)56、東大寺(平松2000)Fig. 185-601Aと同文。 | 井戸576、計1点。 |
| 瓦296 | 外行7転唐草文。中心文無し。唐草は連続。外区に界線・粗い珠文。 | 段顎。瓦当成形不明。瓦当裏面と平瓦境に凹型台圧痕有り。平瓦凸面に斜格子叩き。 | 13世紀代。産地不明。法勝寺金堂(市文保1976)図9-28と同文。 | 溝327、井戸576、計2点。 |
| 瓦297 | 陰刻剣頭文。配置は垂直。 | 段顎。折曲成形。瓦当裏面に曲げ皺有り。 | 13世紀代。山城産。大覚寺(上原1994)DKH14と同文。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦298 | 外行唐草文。唐草は分離。外区に界線。 | 段顎。顎貼付成形。 | 時期・産地不明。 | 整地層、計1点。 |
| 瓦299 | 外行唐草文。唐草は連続。外区無し。 | 段顎。顎貼付成形。 | 時期・産地不明。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦300 | 唐草文。唐草は連続。外区無し。 | 直線顎。瓦当成形不明。 | 時期・産地不明。 | 溝327、計1点。 |
| 瓦301 | 幾何学文。内区が1段高い。外区無し。 | 曲線顎。瓦当成形不明。 | 時期・産地不明。 | 井戸335、計1点。 |
| 瓦302 | 瓦301と同文。瓦301より内区幅が広い。 | 曲線顎。瓦当成形不明。 | 時期・産地不明。 | 溝327、計1点。 |

観察表3・4 瓦観察表 備考欄の参考文献

あ

網2011：網伸也・竜子正彦「法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡」『京都市内遺跡詳細分布調査報告』平成22年度、京都市文化市民局、2011年

池田1999：池田征弘・森内秀造『久留美・跡部窯跡群－山陽自動車道関係埋蔵文化財調査報告XXX－』兵庫県文化財調査報告 第186冊、同委員会、1999年

市本2001：市本芳三「大阪地域の平安時代後期瓦の様相」『中世寺院の幕開け』摂河泉古代寺院研究会、2001年

今里1978：今里幾次「播磨魚橋瓦窯跡」『播磨考古学研究』今里幾次論文集刊行会、1978年

上原1975：上原真人・木村捷三郎・畑美樹徳「京都市動物園爬虫類館建設に伴う法勝寺発掘調査報告」『法勝寺跡 京都市埋蔵文化財年次報告1974－II』京都市文化観光局文化財保護課、1975年

上原1994：上原真人「瓦類」『史跡大覚寺御所跡発掘調査報告 大沢池北岸域復原整備事業に伴う調査』大覚寺、1994年

上村1981：上村和直「六勝寺跡A・B調査区」『六勝寺跡発掘調査概要』昭和55年度、京都市埋蔵文化財調査センター、1981年

上村1987：上村和直・辻裕司『法勝寺跡発掘調査概報』昭和61年度 京都市文化観光局 1987年

上村1989：上村和直・辻裕司「尊勝寺跡」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1989年

上村1991a：上村和直「尊勝寺跡」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1991年

上村1991b：上村和直「岡崎遺跡・法勝寺隣接地」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1991年

上村1993：上村和直「尊勝寺跡・岡崎遺跡」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1993年

上村1994：上村和直「尊勝寺跡・岡崎遺跡1」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1994年

上村1996：上村和直・堀内明博・吉村正親「尊勝寺跡・最勝寺跡・岡崎遺跡」『京都市内遺跡立会調査概報』平成7年度、京都市文化市民局、1996年

上村2013：上村和直「瓦」『法住寺殿跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012－10、同研究所、2013年

植山1983：植山茂ほか「出土瓦」『三條西殿跡』平安京跡研究調査報告 第7輯、古代学協会、1983年

宇垣2009：宇垣匡雅「瓦」『備前国分寺』赤磐市文化財調査報告 第3集、岡山県赤磐市教育委員会、2009年

梅原1925：梅原末治「南桑田郡千歳村出雲神社境内発見ノ古瓦」『京都府史跡勝地調査会報』第6冊、京都府、1925年

円勝団1972：円勝寺発掘調査団「円勝寺の発掘調査」『佛教藝術』84号、毎日新聞社、1972年

か

香川県1980：香川県教育委員会編「西村遺跡」『一般国道32号綾南バイパス建設に伴う埋蔵文化財調査報告』同委員会、1980年

柏田2011：柏田有香「法勝寺・岡崎遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成22年度』京都市文化市民局、2011年

梶川1997：梶川敏夫「最勝寺跡」『京都市内遺跡試掘調査概報』平成8年度、京都市文化市民局、1997年

加納2010：加納敬二「瓦類」『常盤仲之町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009－16、同研究所、2010年

亀岡市1994：亀岡市文化資料館『丹波国と平安京～都を支えた篠窯跡群～』同資料館、1994年

北田1986：北田栄造・長谷川行孝『栗栖野瓦窯跡発掘調査概報』昭和60年度、京都市文化観光局、1986年

木村1975：木村捷三郎・杉山信三・梶川敏夫「法勝寺金堂跡発掘調査概要」『法勝寺跡 京都市埋蔵文化財年次報告1974－

Ⅱ』京都市文化観光局文化財保護課、1975年

木村1990：木村捷三郎「瓦」『仁和寺境内発掘調査報告－御室会館建設に伴う調査－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第9冊、同研究所、1990年

清野1974：清野紀子「瓦」『栢杜遺跡調査概報』鳥羽離宮跡調査研究所、1974年

高1998：高正龍『南ノ庄田瓦窯跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第18冊、同研究所、1998年

小松1998：小松武彦・吉村正親・小檜山一良「平安京右京一条四坊・法金剛院境内」『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1998年

近藤2005：近藤奈央・木下保明『白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005－4、同研究所、2005年

近藤2014a：近藤章子『延勝寺跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－1、同研究所、2014年

近藤2014b：近藤章子『白河街区跡・法勝寺跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014－6、同研究所、2014年

さ

柴野1984：柴野康之「出土瓦」『法住寺殿跡』平安京跡研究調査報告第13輯、古代学協会、1984年

市文保1974：京都市文化観光局文化財保護課編『岡崎福祉センター建設用地内終了報告書』、1974年

市文保1976a：京都市文化観光局文化財保護課編「法勝寺金堂跡第Ⅱ次発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告1975』同課、1976年

市文保1976b：京都市文化観光局文化財保護課編「平安宮真言院跡」『京都市埋蔵文化財年次報告1975』同課、1976年

市埋文1980：財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『坂東善平収蔵品目録』同研究所、1980年

市埋文1996：財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『木村捷三郎収集瓦図録』同研究所、1996年

市埋文1997：京都市埋蔵文化財研究所編『京都嵯峨野の遺跡－広域立会調査による遺跡調査報告－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第14冊、1997年

杉山1976：杉山信三・長宗繁一「鳥羽離宮跡第14次発掘調査概要－田中殿第2次発掘調査－」『鳥羽離宮跡・史跡西寺跡』京都市埋蔵文化財年次報告1974－Ⅳ』京都市文化観光局文化財保護課、1976年

鈴木1978：鈴木廣司・伊藤潔・平尾政幸「常盤仲ノ町集落跡発掘調査報告」京都市埋蔵文化財研究所調査報告－Ⅲ、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1978年

鈴木1979：鈴木久男・前田義明「第43次（田中殿Ⅶ）発掘調査」『鳥羽離宮跡 国庫補助による発掘調査概要』昭和53年度、京都市文化観光局・財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1979年

鈴木1995：鈴木久男・前田義明・上村和直「瓦」『新東宝記』東寺、1995年

た

高橋2012：高橋潔・家原圭太「法勝寺・岡崎遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局、2012年

辻2007：辻裕司『法勝寺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007－9、同研究所、2007年

鳥羽研1976：鳥羽離宮跡調査研究所編「昭和50年 醍醐寺霊宝館宝聚院増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報」『埋蔵文化財発掘調査概報集 1976』同研究所、1976年

な

中村1990：中村浩「久留美毛谷－古窯跡群等の発掘調査報告－」久留美毛谷古窯跡群埋蔵文化財調査会、1990年

奈良文研1960：奈良国立文化財研究所編「尊勝寺発掘調査報告－京都都会館建設地の調査－」『平城宮跡第一次・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報第十冊、同研究所、1960年

布川2005：布川豊治・本弥八郎『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004－11、同研究所、2005年

は

長谷川1990：長谷川行孝『東福寺防災施設工事・発掘調査報告書』東福寺、1990年

原山1981：原山充志・小森俊寛ほか『京都市高速鉄道烏丸線内 遺跡調査概報年報Ⅲ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会、1981年

春成2014：春成秀爾「明石の古瓦集成2」『古代の明石Ⅱ』発掘された明石の歴史展実行委員会・明石市、2014年

引原1992：引原茂治「史跡教王護国寺発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第48冊』京都府埋蔵文化財調査研究センター、1992年

平方1991：平方幸雄・菅田薫「勸修寺旧境内」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1991年

平松2000：平松良雄『東大寺防災施設工事・発掘調査報告書 発掘調査編』東大寺、2000年

平安博1977：平安博物館編『平安京古瓦図録』雄山閣、1977年

細谷1968：細谷義治「鳥羽離宮跡出土軒瓦の整理」『埋蔵文化財発掘調査概報』京都府教育委員会、1968年

堀内1981：堀内明博「白河南殿C調査区」『六勝寺跡発掘調査概要』昭和55年度、京都市埋蔵文化財調査センター、1981年

堀内1984：堀内明博・前田義明「第96次調査」『鳥羽離宮跡発掘調査概報』昭和59年度、京都市文化観光局、1984年

ま

前田2002：前田義明「瓦」『鳥羽離宮跡Ⅰ－金剛心院跡の調査－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第20冊、同研究所、2002年

丸川1995：内田好昭・丸川義広・平方幸雄「最勝寺跡・岡崎遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1995年

森下1987：森下衛・竹原一彦・水谷寿克「尊勝寺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第23冊』京都府埋蔵文化財調査研究センター、1987年

や

安井1960：安井良三「篠町A號瓦窯址」『亀岡市史』上巻、亀岡市、1960年

藪中1991：藪中五百樹「平安時代における興福寺の造営と瓦」『佛教藝術』第194号、毎日新聞社、1991年

山崎1987：山崎信二「瓦埴」『薬師寺発掘調査報告書』奈良国立文化財研究所学報第四十五冊、同研究所、1987年

山崎1999：山崎信二「瓦」『興福寺 第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅰ』1998、興福寺、1999年

山崎2000：山崎信二『中世瓦の研究』奈良国立文化財研究所学報第59冊、同研究所、2000年

吉村1993：吉村正親「栗栖野瓦窯跡の調査（その2）」『栗栖野瓦窯跡発掘調査概報』平成4年度、京都市文化観光局、1993年

吉村1995：吉村正親・尾藤德行「尊勝寺跡・最勝寺跡」『京都市内遺跡立会調査概報』平成6年度、京都市文化観光局、1995年

ら

六勝研1977：六勝寺研究会編『六勝寺跡 六盛西店新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』同研究会、1977年

観察表5 土製品観察表

| 番号 | 種類 | 遺構名 | 長さ | 幅・径 | 高さ | 備考 |
|-----|------|-------|------|-----|-----|----|
| 土1 | 土錘 | 溝459 | 4.9 | 2.9 | | |
| 土2 | 土錘 | 湿地460 | 6.0 | 2.7 | | |
| 土3 | 土錘 | 溝459 | 10.2 | 3.2 | | |
| 土4 | 土製円塔 | 溝327 | | 6.3 | 2.4 | 緑釉 |
| 土5 | 土製円塔 | 土坑465 | | 6.1 | 2.4 | 緑釉 |
| 土6 | 土製円塔 | 溝327 | | 6.1 | 2.4 | 緑釉 |
| 土7 | 土製円塔 | 土坑471 | | 6.7 | 2.9 | 緑釉 |
| 土8 | 土製円塔 | 溝327 | | 7.1 | 4.7 | 緑釉 |
| 土9 | 土製円塔 | 堀27 | | 7.2 | 2.9 | 緑釉 |
| 土10 | 土製円塔 | 溝327 | | 7.8 | 3.1 | 緑釉 |

*単位はcm

観察表6 木製品観察表

| 番号 | 種類 | 遺構名 | 長さ | 幅・径 | 高さ・厚さ | 備考 |
|----|----|-------|--------|-------|-------|-----|
| 木1 | 腰掛 | 湿地460 | (21.4) | (7.0) | 7.1 | ヒノキ |
| 木2 | 曲物 | 井戸374 | | 20.5 | 13.8 | ヒノキ |
| 木3 | 曲物 | 井戸374 | | 21.0 | (7.3) | ヒノキ |

*単位はcm、()は残存数値

観察表7 石製品観察表

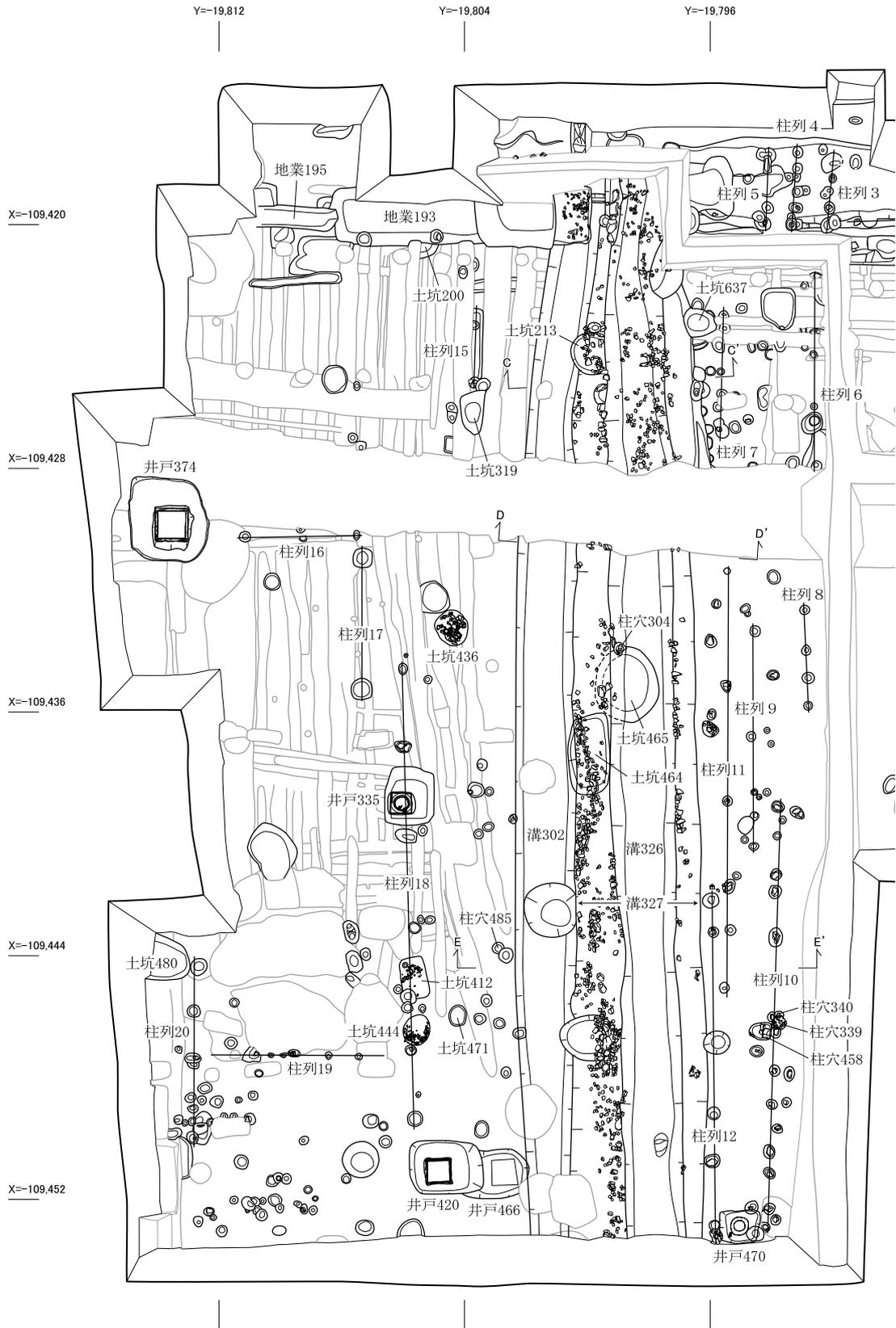
| 番号 | 種類 | 遺構名 | 長さ | 幅・径 | 高さ・厚さ | 素材 | 備考 |
|----|--------|-------|-----|-----|---------|-----|------|
| 石1 | 石製帯飾り具 | 溝327 | 2.7 | 1.5 | 0.8 | 石英 | |
| 石2 | 石製帯飾り具 | 土坑465 | | | 0.4~0.6 | 孔雀石 | |
| 石3 | 紡錘車 | 土坑436 | | 4.6 | 1.7 | 滑石 | |
| 石4 | 温石 | 土坑412 | 9.6 | 5.6 | 1.2 | 滑石 | 石鍋転用 |

*単位はcm

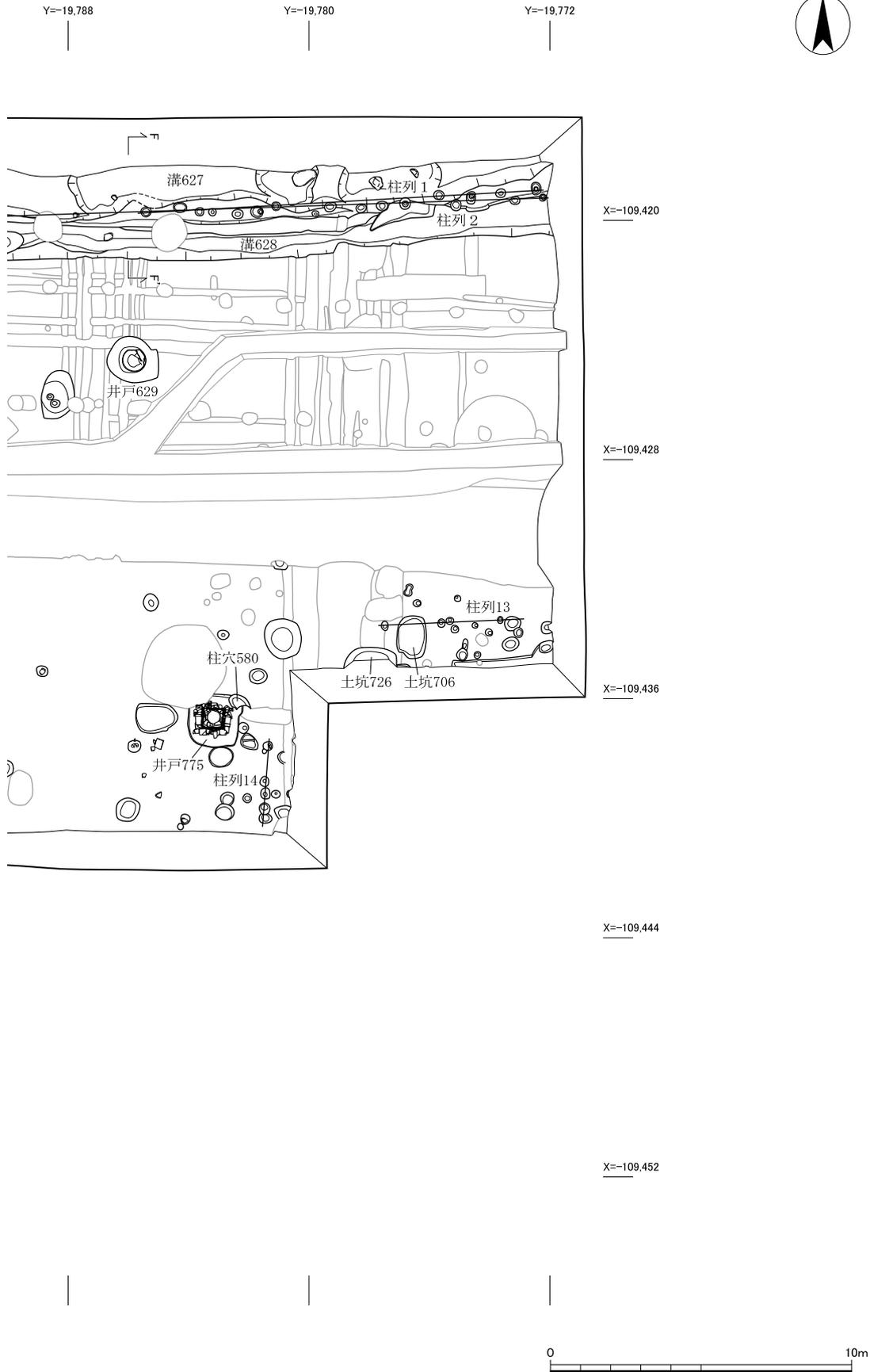
圖 版



第3面遺構平面図 (1 : 300)

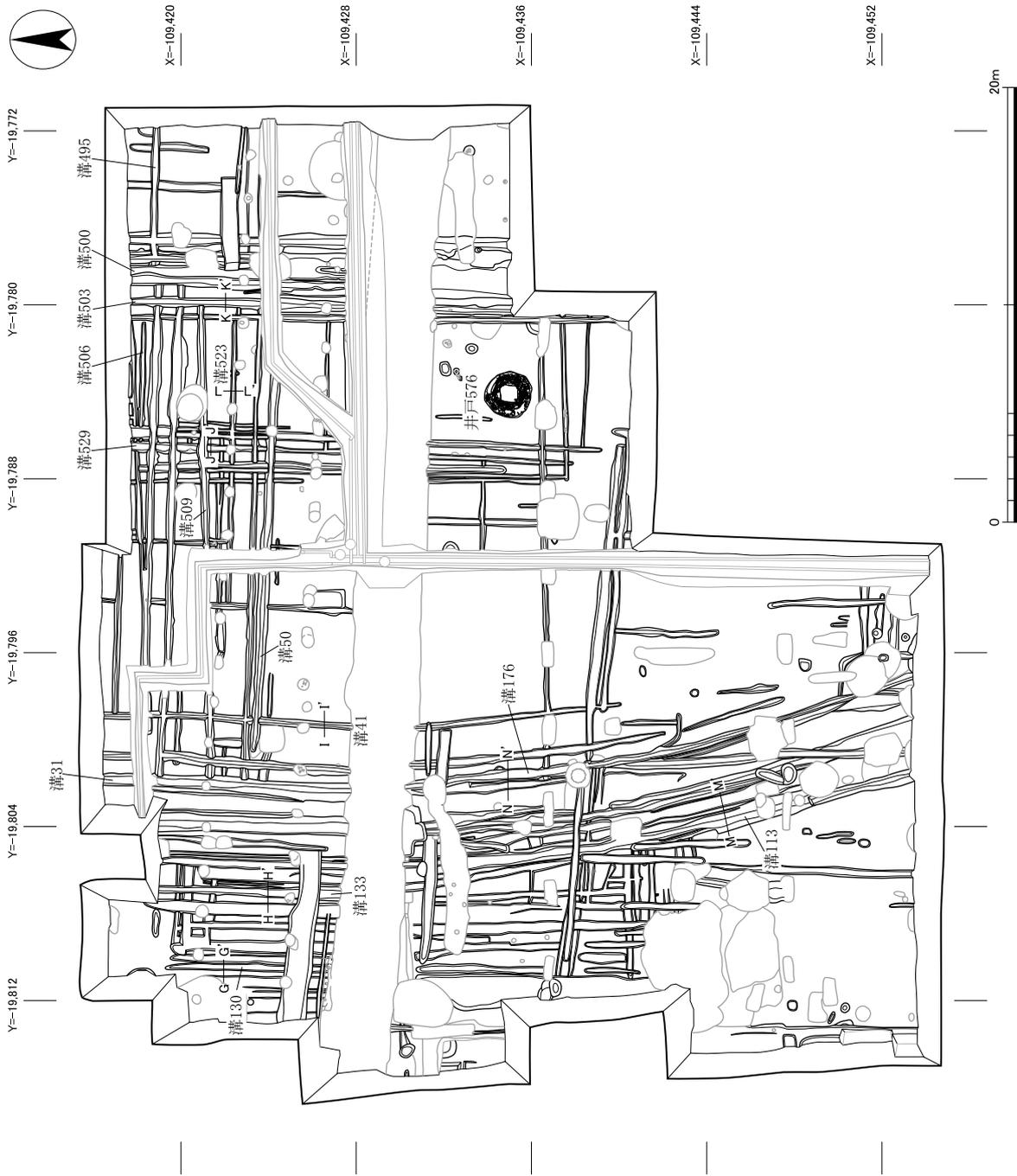


第2面遺構平面図1 (1:200)

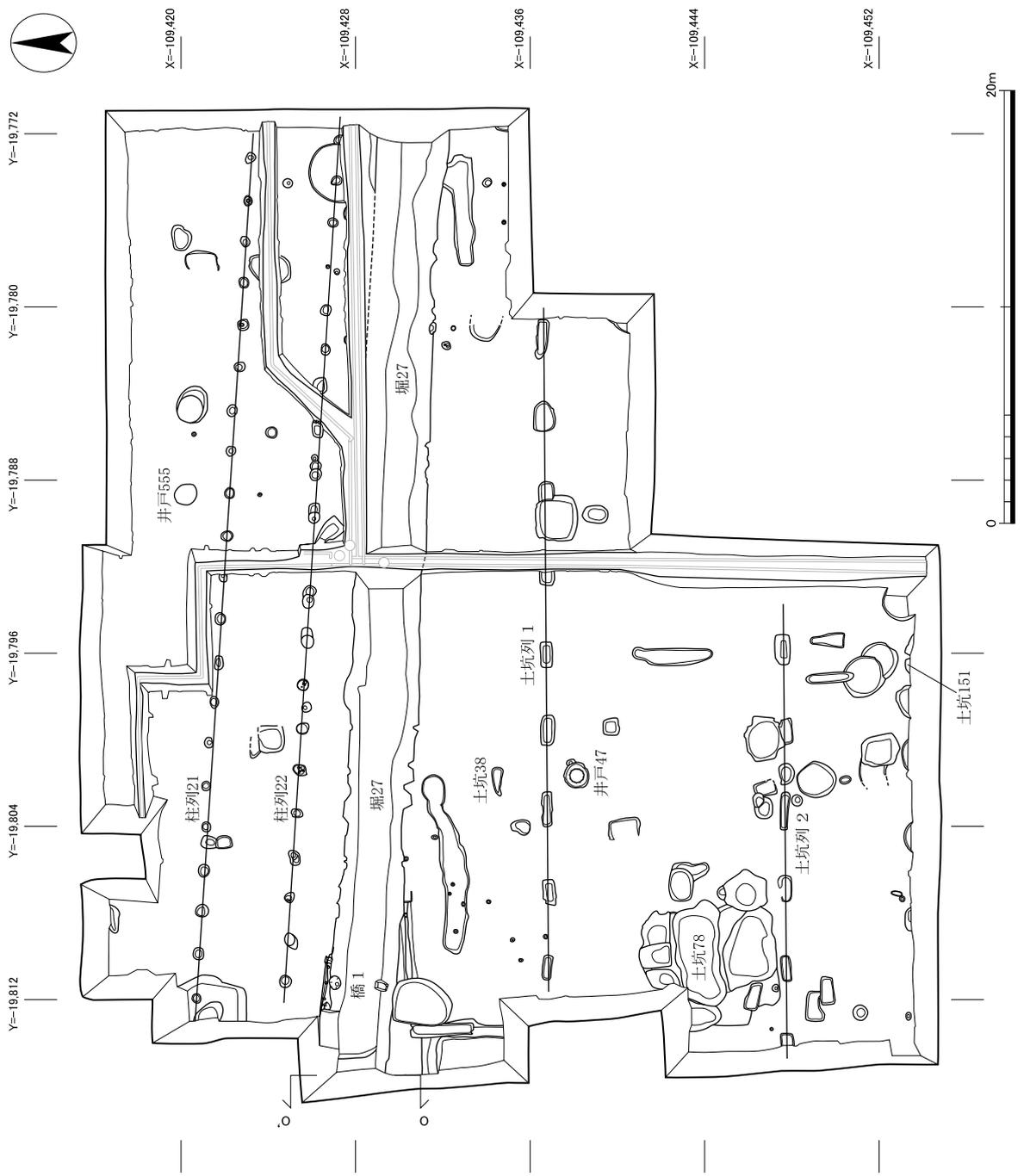


第2面遺構平面図2 (1 : 200)

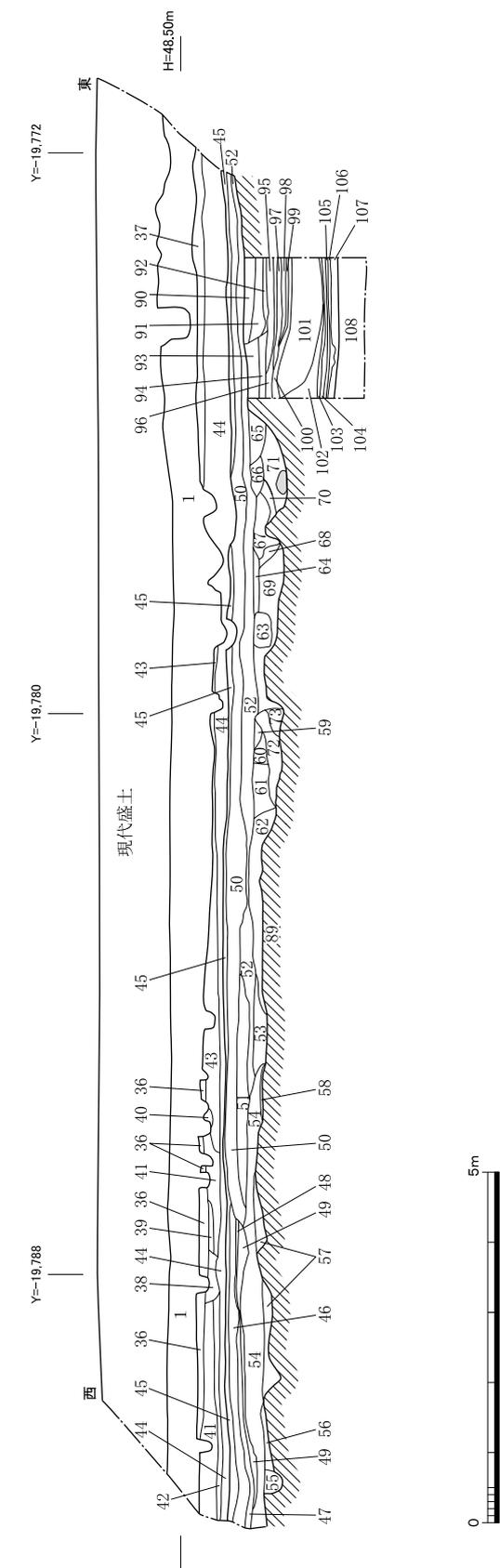
図版 4
遺構



第1面2期遺構平面図 (1 : 300)



第1面1期遺構平面図 (1 : 300)



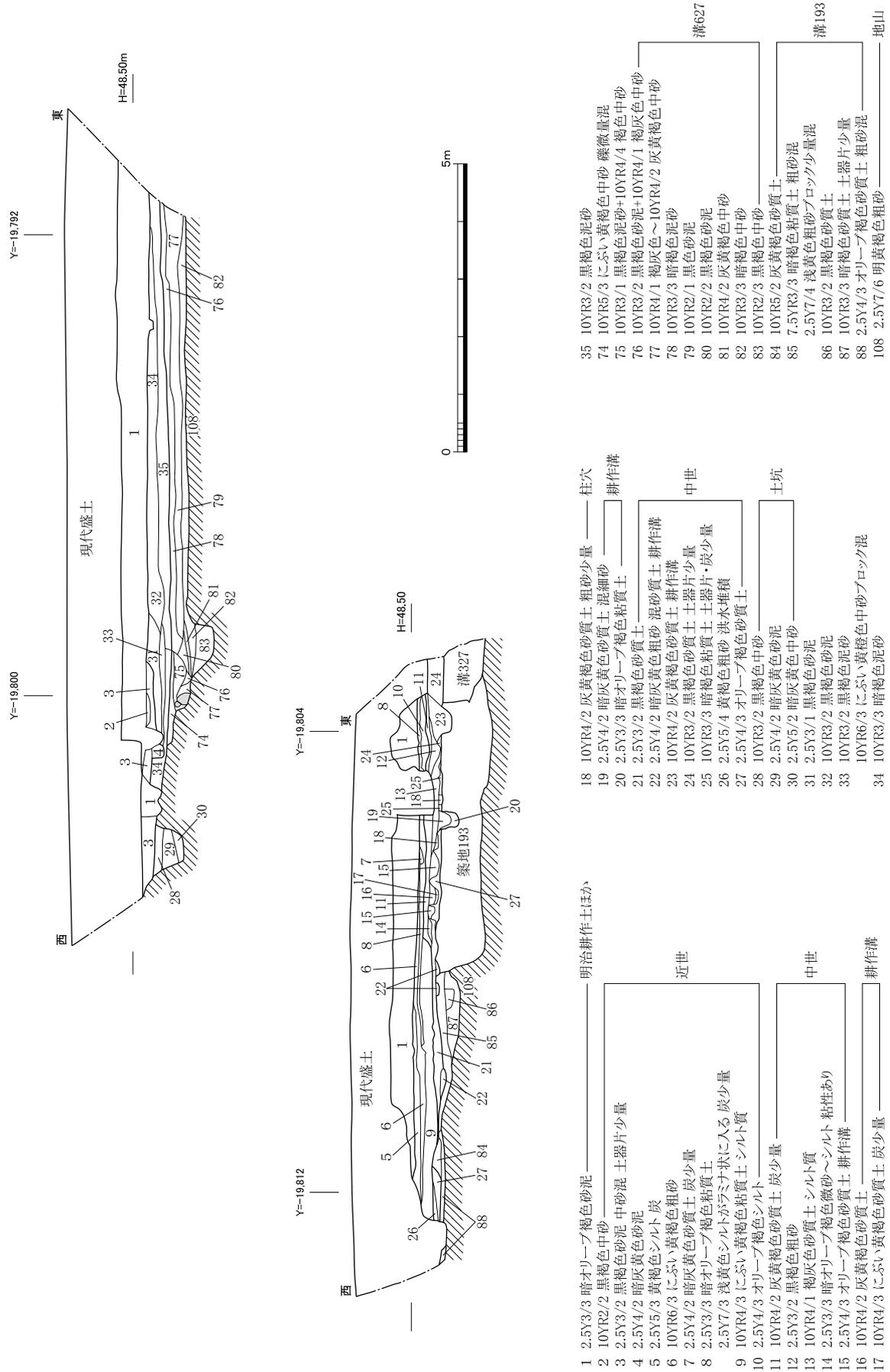
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥
- 36 10YR2/1 黒色泥砂
- 37 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 38 10YR2/3 黒褐色砂泥
- 39 10YR3/3 暗褐色泥砂
- 40 10YR3/1 黒褐色砂泥
- 41 10YR3/3 暗褐色中砂
- 42 10YR2/2 黒褐色泥砂
- 43 7.5YR1.7/1 黒色砂泥+10YR1.7/1 黒色砂泥
- 44 2.5Y3/2 黒褐色シルト
- 45 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色中砂
- 46 2.5Y3/2 黒褐色シルト
- 47 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色中砂
- 48 2.5Y3/1 黒褐色シルト
- 49 2.5Y3/2 黒褐色シルト
- 50 10YR2/2 黒褐色砂泥+10YR1.7/1 黒色砂泥
- 51 2.5Y4/2 暗灰黄色中砂
- 52 10YR3/2 黒褐色中砂
- 53 10YR5/6 黄褐色中砂

- 54 2.5Y4/2 暗灰黄色中砂
- 55 2.5Y4/2 暗灰黄色中砂
- 56 2.5Y5/3 黄褐色中砂
- 57 5YR3/2 暗赤褐色粗砂
- 58 10YR3/2 黒褐色粘土
- 59 10YR1.7/1 黒色砂泥+10YR3/2 黒褐色中砂
- 60 10YR5/3 にぶい黄褐色中砂
- 61 10YR2/2 黒褐色粘土+10YR1.7/1 黒色シルト
- 62 10YR2/1 黒色粘土
- 63 10YR4/1 褐色中砂
- 64 10YR3/3 暗褐色細砂
- 65 10YR4/2 灰黄褐色中砂
- 66 10YR3/2 黒褐色中砂
- 67 10YR2/1 黒色シルト
- 68 10YR4/3 にぶい黄褐色中砂
- 69 2.5Y5/2 暗灰黄色中砂
- 70 2.5Y4/2 暗灰黄色中砂
- 71 5YR3/6 暗赤褐色泥砂
- 72 5YR4/8 赤褐色中砂
- 73 10YR4/2 灰黄褐色中砂

- 89 2.5Y7/6 明黄褐色粗砂
- 90 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 91 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 92 10YR2/2 黒褐色粘質土
- 93 10YR2/1 黒色砂泥
- 94 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 95 10Y7/1 灰白色シルト
- 96 10Y6/1 灰色粘質土
- 97 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質土
- 98 10Y5/1 灰色粘土
- 99 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
- 100 2.5Y5/4 黄褐色粘質土
- 101 2.5Y6/3 にぶい黄色粗砂
- 102 2.5Y7/1 灰白色細砂
- 103 2.5Y6/4 にぶい黄色
- 104 10YR6/4 にぶい黄褐色
- 105 7.5YR6/8 橙色
- 106 7.5YR5/8 明褐色
- 107 10YR1.7/1 黒色粘質土
- 108 10YR2/1 黒色粘質土

北壁断面図1 (1:100)

北壁断面図2 (1:100)



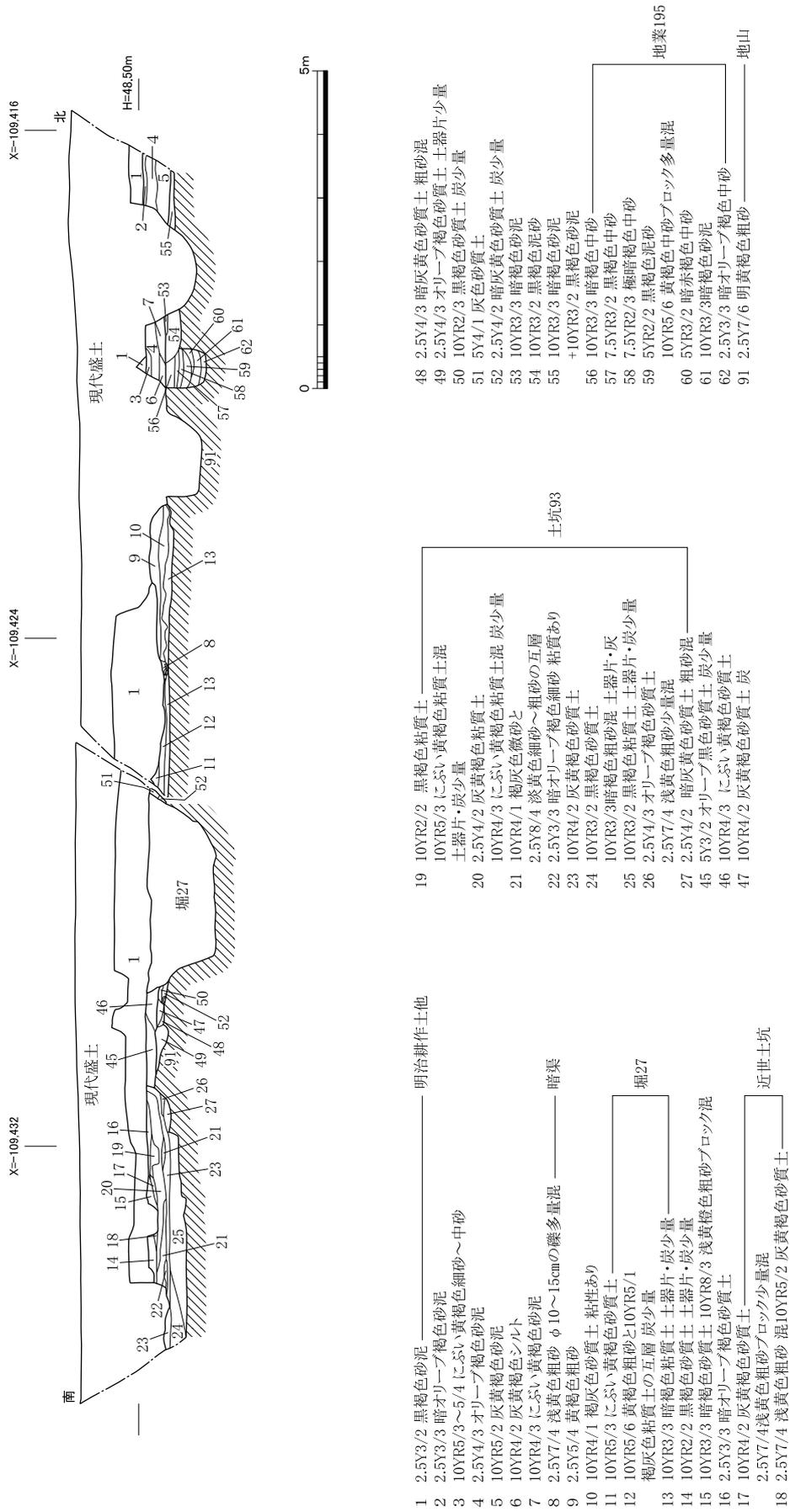
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥
- 2 10YR2/2 黒褐色中砂
- 3 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 中砂混 土器片少量
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥
- 5 2.5Y5/3 黄褐色シルト炭
- 6 10YR6/3 にぶい黄褐色粗砂
- 7 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土 炭少量
- 8 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土
- 9 2.5Y7/3 浅黄色シルトがミナ状に入る炭少量
- 10 10YR4/3 オリーブ褐色粘質土シルト質
- 11 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 炭少量
- 12 2.5Y3/2 黒褐色粗砂
- 13 10YR4/1 褐灰色砂質土シルト質
- 14 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色微砂〜シルト 粘性あり
- 15 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土 耕作溝
- 16 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 炭少量
- 17 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 炭少量

- 18 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 粗砂少量
- 19 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土 混細砂
- 20 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土
- 21 2.5Y3/2 黒褐色砂質土
- 22 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂 混砂質土 耕作溝
- 23 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 耕作溝
- 24 10YR3/2 黒褐色砂質土 土器片少量
- 25 10YR3/3 暗褐色粘質土 土器片・炭少量
- 26 2.5Y5/4 黄褐色粗砂 洪水堆積
- 27 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土
- 28 10YR3/2 黒褐色中砂
- 29 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥
- 30 2.5Y5/2 暗灰黄色中砂
- 31 2.5Y3/1 黒褐色砂泥
- 32 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 33 10YR6/3 にぶい黄褐色中砂ブロック混
- 34 10YR3/3 暗褐色泥砂

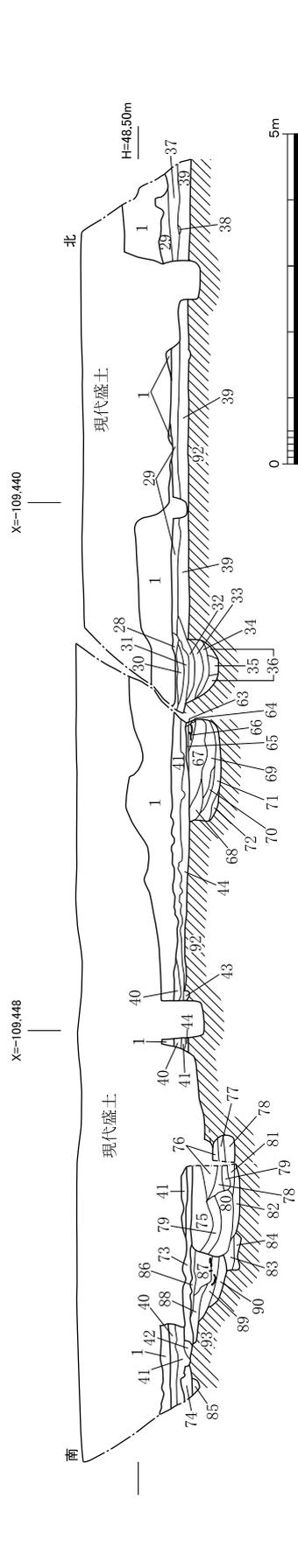
- 35 10YR3/2 黒褐色泥砂
- 74 10YR5/3 にぶい黄褐色中砂 礫微量混
- 75 10YR3/1 黒褐色泥砂+10YR4/4 褐色中砂
- 76 10YR3/2 黒褐色砂泥+10YR4/1 褐灰色中砂
- 77 10YR4/1 褐灰色〜10YR4/2 灰黄褐色中砂
- 78 10YR3/3 暗褐色粗砂
- 79 10YR2/1 黒色砂泥
- 80 10YR2/2 灰黄褐色泥
- 81 10YR4/2 暗褐色中砂
- 82 10YR3/3 暗褐色中砂
- 83 10YR2/3 黒褐色中砂
- 84 10YR5/2 灰黄褐色砂質土
- 85 2.5Y7/4 浅黄色粗砂ブロック少量混
- 86 10YR3/2 黒褐色砂質土
- 87 10YR3/3 暗褐色砂質土 土器片少量
- 88 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土 粗砂混
- 108 2.5Y7/6 明黄褐色粗砂

柱穴 耕作溝 中世 土坑

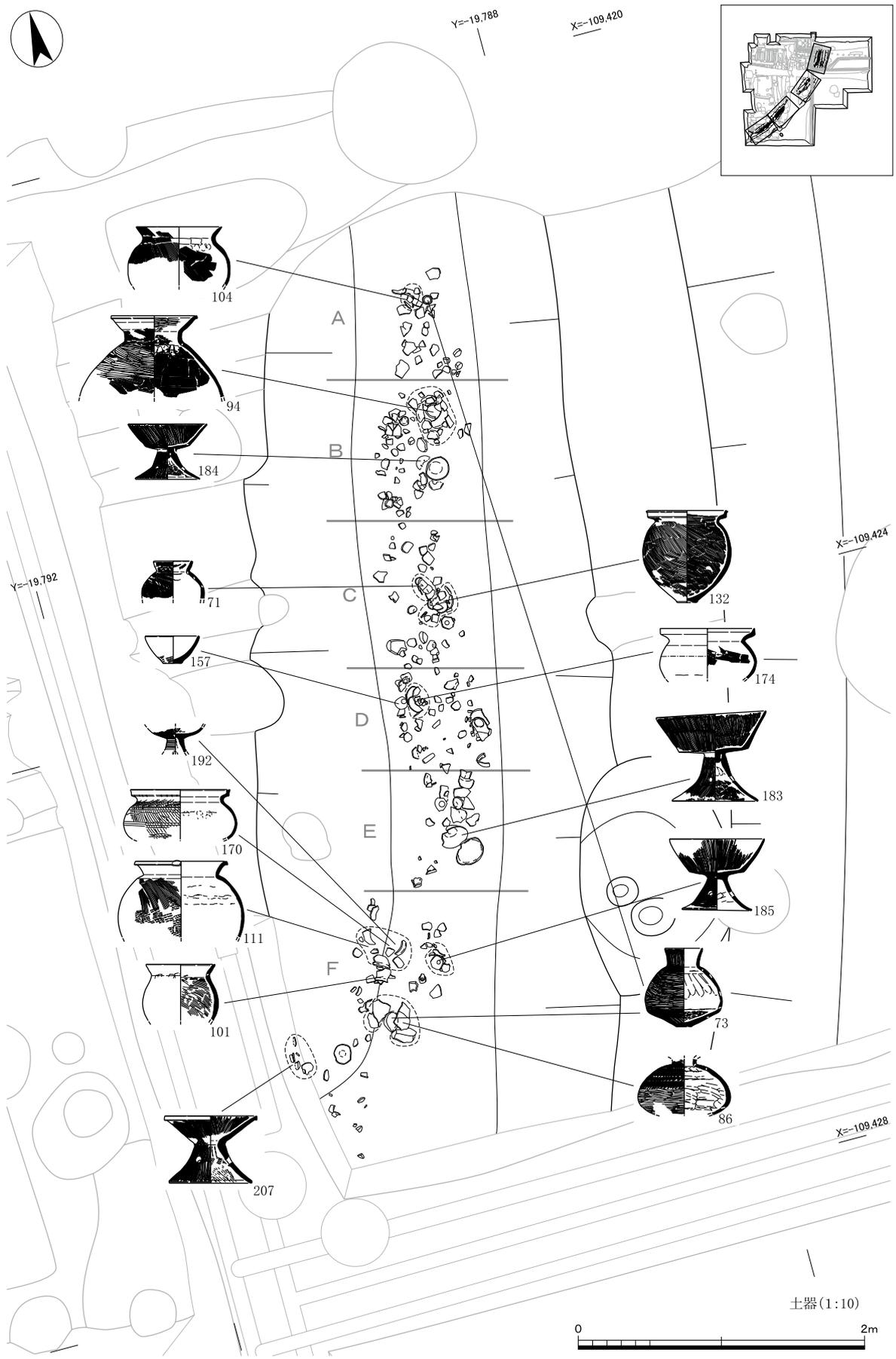
西壁断面図1 (1:100)



西壁断面図2 (1:100)



| | | | | | |
|----|--|--------|----|--------------------------|----------|
| 1 | 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 | 明治耕作土他 | 77 | 2.5Y3/2 黒褐色砂質土ブロックと | 土坑263 |
| 28 | 10YR1.7/1 黒色粘質土 細砂混 炭・焼土塊少量 | 近世耕作土 | 78 | 2.5Y5/4 黄褐色砂質土ブロック混 | |
| 29 | 10YR4.7/3 にぶい黄褐色砂質土 土器片・炭少量 | | | 10YR2/2 黒褐色粘質土 | |
| 30 | 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 細砂混 土器片・炭少量 | | | 粗砂ブロック混 炭・焼土塊少量 | |
| 31 | 5Y3/2 オリープ黒色砂質土 | | | 10YR3/2 黒褐色砂質土 | |
| 32 | 2.5Y4/3 オリープ褐色微砂 | | | 10YR2/1 黒褐色粘質土 | |
| 33 | 2.5Y5/3 黄褐色細砂ブロック少量混 | | | 2.5Y8/4 淡黄色細砂ブロック少量混 | |
| 34 | 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 2.5Y2/4 淡黄色粗砂混 土器片・炭少量 | | | 2.5Y8/4 淡黄色細砂混 土器片・炭 | |
| 35 | 10YR4/1 褐灰色粘質土 | 近世土坑 | | 10YR2/2 黒褐色粘質土 | |
| 36 | 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 粘性あり | | | 2.5Y7/6 明黄褐色シルト粘質土 | |
| 37 | 10YR8/4 浅黄褐色粘質土ブロック多量混 | | | 10YR3/2 黒褐色粘質土 | |
| 38 | 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 粗砂混 鉄分粒少量 | | | 2.5Y8/4 淡黄色粗砂ブロック少量混 | |
| 39 | 10YR3/2 黒褐色粗砂粘質土混 炭少量 | | | 5Y8/4 淡黄色細砂ブロック少量混 | |
| 40 | 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 | | | 10YR2/2 黒褐色粘質土 | |
| 41 | 5Y3/2 オリープ黒色砂質土 粘性あり | | | 2.5Y3/3 暗オリープ褐色砂質土 | |
| 42 | 10YR5/3 にぶい黄褐色粗砂 粘性あり | | | 5Y8/4 淡黄色細砂ブロック少量混 | |
| 43 | 2.5Y4/3 オリープ褐色粗砂 | | | 10YR2/2 黒褐色粘質土 | |
| 44 | 10YR7/6 明黄褐色粗砂 | | | 10YR3/3 暗オリープ褐色粘質土 | |
| 63 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土ブロック多量混 | | | 土器片多量・炭少量 | |
| | 10YR5/1 褐灰色粘質土 | | | 2.5Y3/3 暗オリープ褐色粘質土 土器片多量 | |
| | 10YR7/6 明黄褐色粗砂ブロック混 | | | 90 10YR3/2 黒褐色粘質土 細砂混 | |
| | | | | 92 2.5Y7/6 暗黄褐色粗砂 | |
| | | | | 93 2.5Y5/3 黄褐色粗砂 | |
| | | | | | 弥生 土坑 |
| | | | | | 弥生末～古墳初層 |
| | | | | | 地山 |
| 64 | 2.5Y4/3 オリープ褐色粗砂 粘質土混 | 土坑480 | 79 | 10YR3/2 黒褐色粘質土 | |
| 65 | 10YR5/6 黄褐色細砂～粗砂 | | | 2.5Y3/2 黒褐色砂質土 | |
| 66 | 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂 粘質土 | | | 10YR3/3 暗オリープ褐色粘質土 | |
| 67 | 2.5Y3/3 暗オリープ褐色粘質土 粗砂混 | | | 土器片多量・炭少量 | |
| 68 | 2.5Y6/6 明黄褐色細砂ブロック混 土器片・炭少量 | | | 2.5Y3/3 暗オリープ褐色粘質土 | |
| 69 | 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土の互層 | | | 90 10YR3/2 黒褐色粘質土 細砂混 | |
| 70 | 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性あり | | | 92 2.5Y7/6 暗黄褐色粗砂 | |
| 71 | 2.5Y7/4 浅黄色細砂 | | | 93 2.5Y5/3 黄褐色粗砂 | |
| 72 | 2.5Y3/3 暗オリープ褐色砂質土 粘性あり | | | | |
| 73 | 2.5Y8/2 灰白色細砂 粘性あり | | | | |
| 74 | 2.5Y8/4 淡黄色細砂ブロック少量混 | | | | |
| 75 | 7.5Y6/2 灰オリープ色シルト～微砂 | | | | |
| 76 | 10YR4/1 褐灰色粘土 | | | | |
| 77 | 10YR3/1 黒褐色粘質土 | | | | |
| 78 | 2.5Y5/3 黄褐色粗砂 | | | | |
| 79 | 2.5Y3/3 暗オリープ褐色砂質土 | | | | |
| 80 | 10YR3/3 暗オリープ褐色砂質土 粘性あり | | | | |
| 81 | 2.5Y4/3 オリープ褐色粗砂 | | | | |
| 82 | 10YR3/3 暗オリープ褐色粘質土 粘性あり | | | | |
| 83 | 2.5Y5/4 黄褐色粗砂 | | | | |
| 84 | 10YR3/2 黒褐色粘質土 | | | | |
| 85 | 2.5Y4/3 オリープ褐色粗砂 | | | | |
| 86 | 10YR3/3 暗オリープ褐色粘質土 | | | | |
| 87 | 2.5Y5/3 黄褐色粗砂 | | | | |
| 88 | 10YR3/3 暗オリープ褐色粘質土 | | | | |
| 89 | 2.5Y4/3 オリープ褐色粗砂 | | | | |
| 90 | 10YR3/3 暗オリープ褐色粘質土 | | | | |
| 91 | 2.5Y5/4 黄褐色粗砂 | | | | |
| 92 | 2.5Y7/6 暗黄褐色粗砂 | | | | |
| 93 | 2.5Y5/3 黄褐色粗砂 | | | | |



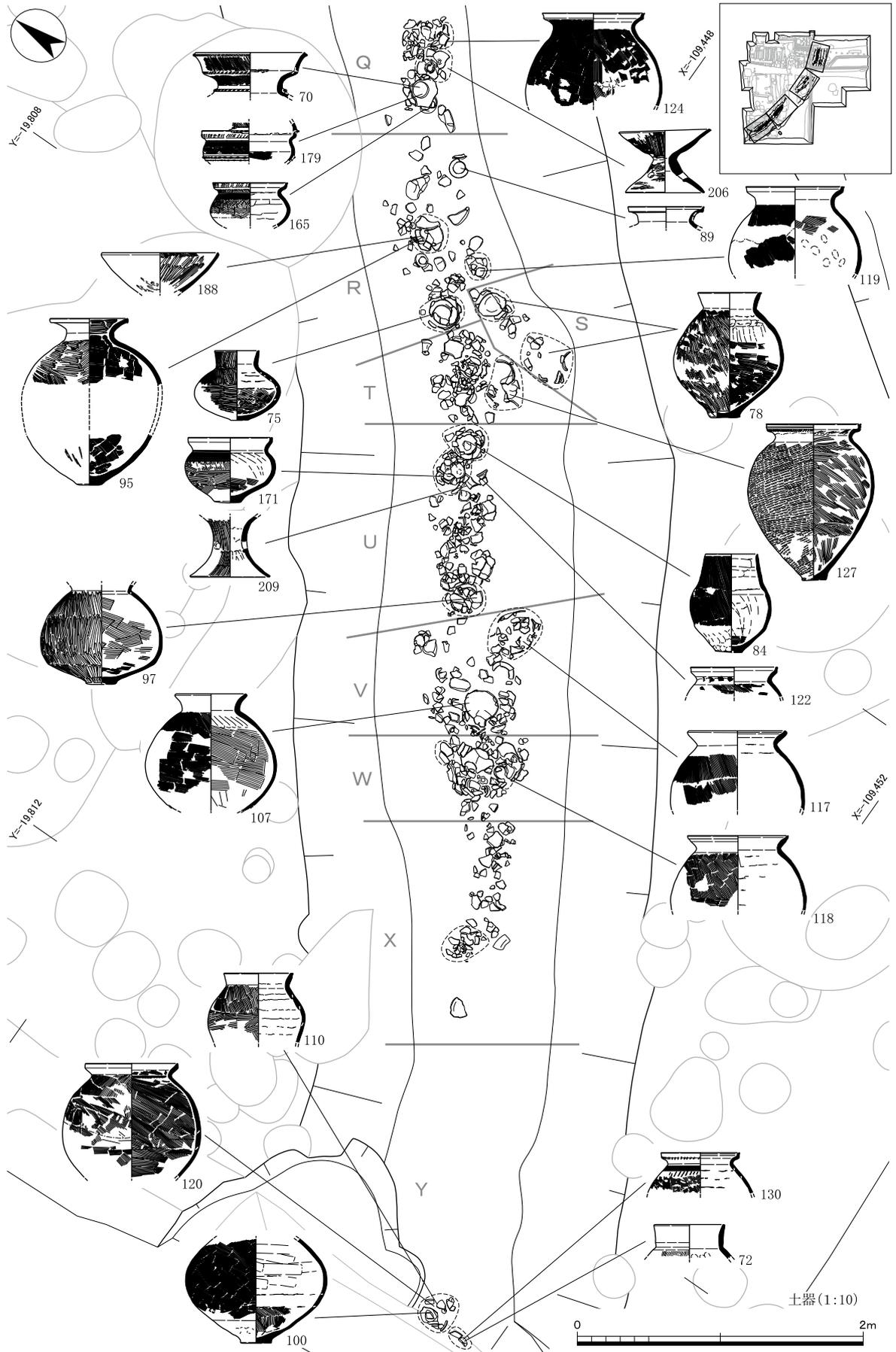
溝459遺物出土状況図1 (1:40)



溝459遺物出土状況図2 (1:40)

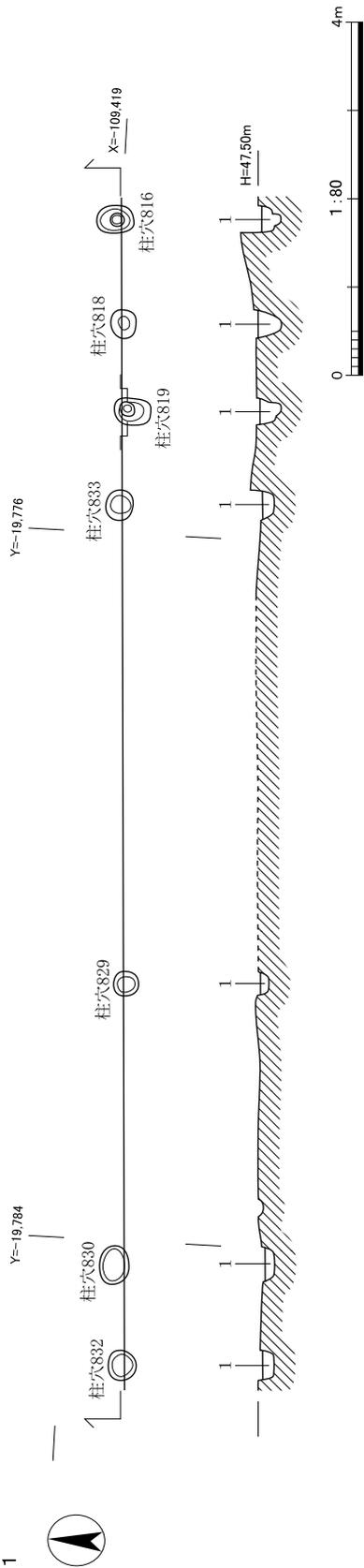


溝459遺物出土状況図3 (1:40)



溝 459 遺物出土状況図 4 (1 : 40)

柱列 1



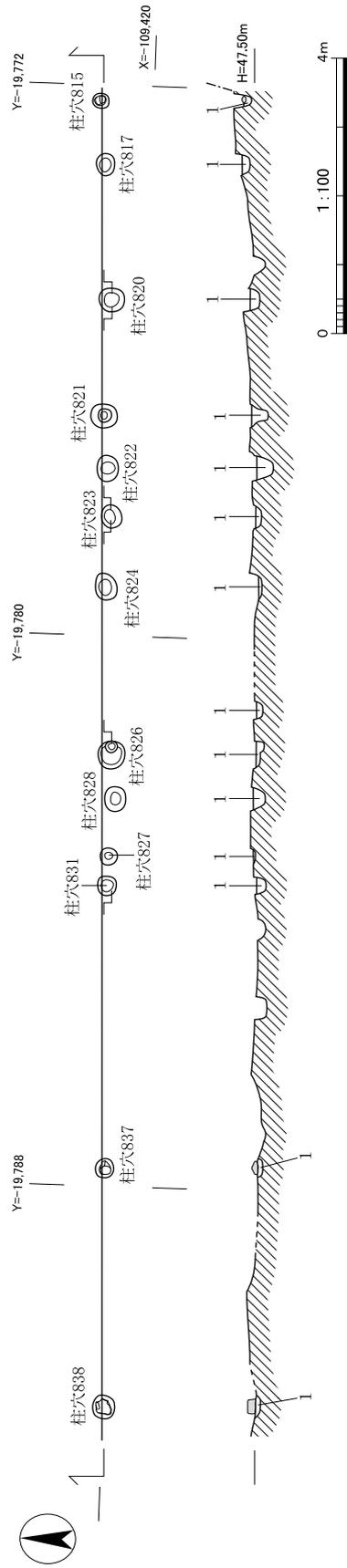
柱穴832
1 10YR2/2 黑褐色粘質土
柱穴830
1 10YR2/2 黑褐色粘質土

柱穴829
1 10YR2/2 黑褐色粘質土

柱穴833
1 10YR2/3 黑褐色砂泥 粘質
柱穴819
1 2.5Y3/1 黑褐色砂泥

柱穴818
1 2.5Y3/1 黑褐色砂泥
柱穴816
1 2.5Y3/1 黑褐色砂泥

柱列 2



柱穴838
1 2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥
柱穴837
1 2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥

柱穴831
1 10YR2/2 黑褐色粘質土
柱穴827
1 10YR2/2 黑褐色粘質土

柱穴828
1 10YR2/2 黑褐色粘質土
柱穴826
1 10YR2/2 黑褐色粘質土

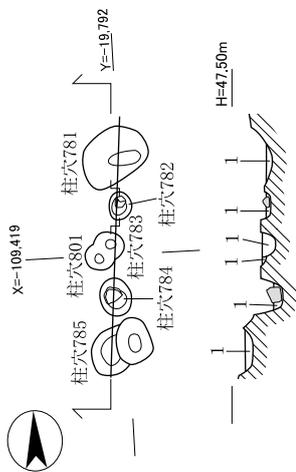
柱穴824
1 10YR2/2 黑褐色粘質土
柱穴823
1 2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥

柱穴822
1 2.5Y3/1 黑褐色粘質土
柱穴821
1 2.5Y3/1 黑褐色粘質土

柱穴820
1 2.5Y3/1 黑褐色粘質土
柱穴817
1 10YR2/2 黑褐色砂泥

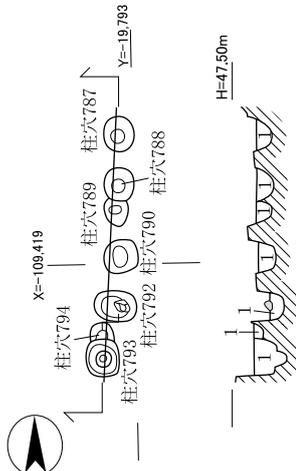
柱穴815
1 2.5Y3/1 黑褐色砂泥

柱列 3



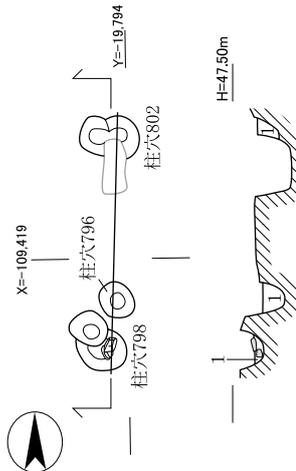
- 柱穴785 1 2.5Y4/1 黄灰色粗砂
- 柱穴784 1 2.5Y4/1 黄灰色粗砂
- 柱穴801 1 2.5Y4/1 黄灰色粗砂
- 柱穴783 1 2.5Y4/1 黄灰色粗砂
- 柱穴781 1 5Y3/1 オリーブ黒色粗砂
- 柱穴782 1 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂

柱列 4



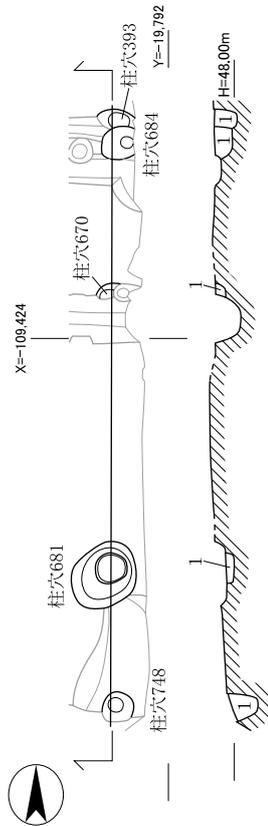
- 柱穴793 1 10YR2/2 黑褐色砂泥 粗砂混
- 柱穴794 1 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂
- 柱穴789 1 10YR3/2 黑褐色砂泥 粗砂混
- 柱穴787 1 2.5Y4/1 黄灰色粗砂
- 柱穴790 1 10YR4/2 灰黄褐色粗砂
- 柱穴788 1 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂

柱列 5



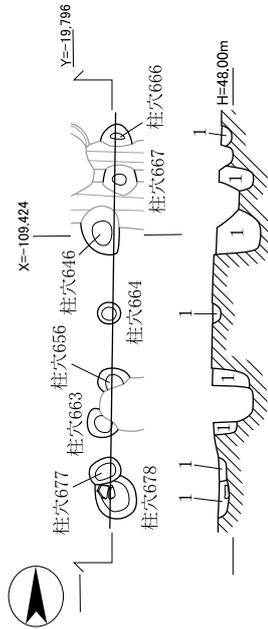
- 柱穴798 1 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥 粗砂混
- 柱穴796 1 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥 粗砂混
- 柱穴802 1 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂

柱列 6



- 柱穴748 1 10YR3/2 黑褐色砂泥
- 柱穴681 1 10YR3/1 黑褐色砂泥
- 柱穴670 1 2.5Y3/2 黑褐色砂泥
- 柱穴684 1 10Y3/3 暗褐色砂泥
- 柱穴393 1 10YR2/1 黑褐色砂泥

柱列 7

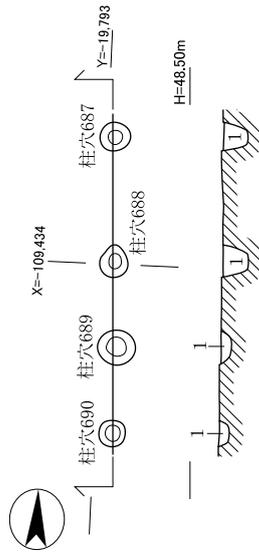


- 柱穴677 1 10YR2/3 黑褐色砂泥
- 柱穴678 1 2.5Y3/2 黑褐色砂泥
- 柱穴663 1 10YR2/3 黑褐色砂泥
- 柱穴656 1 2.5Y3/2 黑褐色砂泥
- 柱穴664 1 10YR3/1 黑褐色砂泥
- 柱穴646 1 2.5Y3/2 黑褐色砂泥
- 柱穴667 1 10YR2/2 黑褐色砂泥
- 柱穴666 1 10YR2/3 黑褐色砂泥



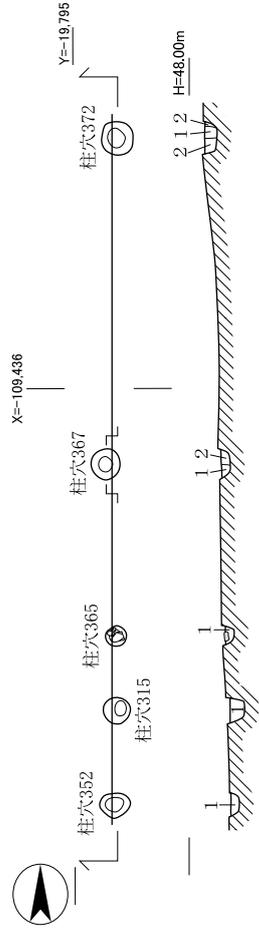
柱列 3~7実測図 (1 : 80)

柱列 8



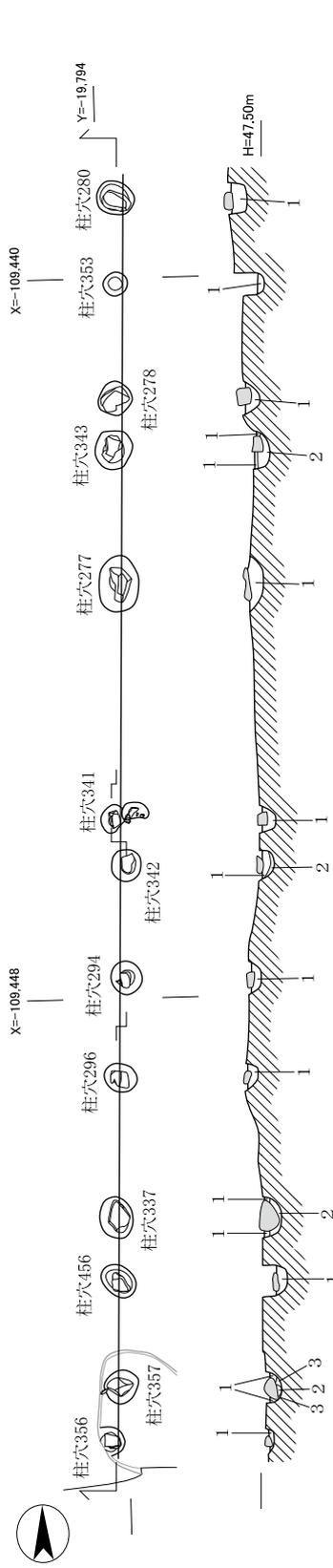
- 柱列 8
柱穴689 柱穴687 柱穴688
1 10YR3/1 黒褐色砂泥
1 10YR2/3 黒褐色砂泥
1 10YR3/1 黒褐色砂泥
1 10YR3/3 暗褐色砂泥
1 10YR3/1 黒褐色砂泥
1 10YR3/3 暗褐色砂泥
1 10YR3/1 黒褐色砂泥
1 10YR3/3 暗褐色砂泥

柱列 9



- 柱列 9
柱穴352 柱穴365 柱穴367 柱穴372
1 10YR4/3 にふい、黄褐色砂泥
1 10YR3/1 黒褐色砂泥 土器片少量
1 10YR3/3 暗褐色砂泥
1 10YR2/3 黒褐色砂泥 中砂混
1 10YR3/2 黒褐色砂泥
2 2.5Y3/2 黒褐色砂泥
1 10YR2/2 黒褐色砂泥
2 10YR2/3 黒褐色砂泥

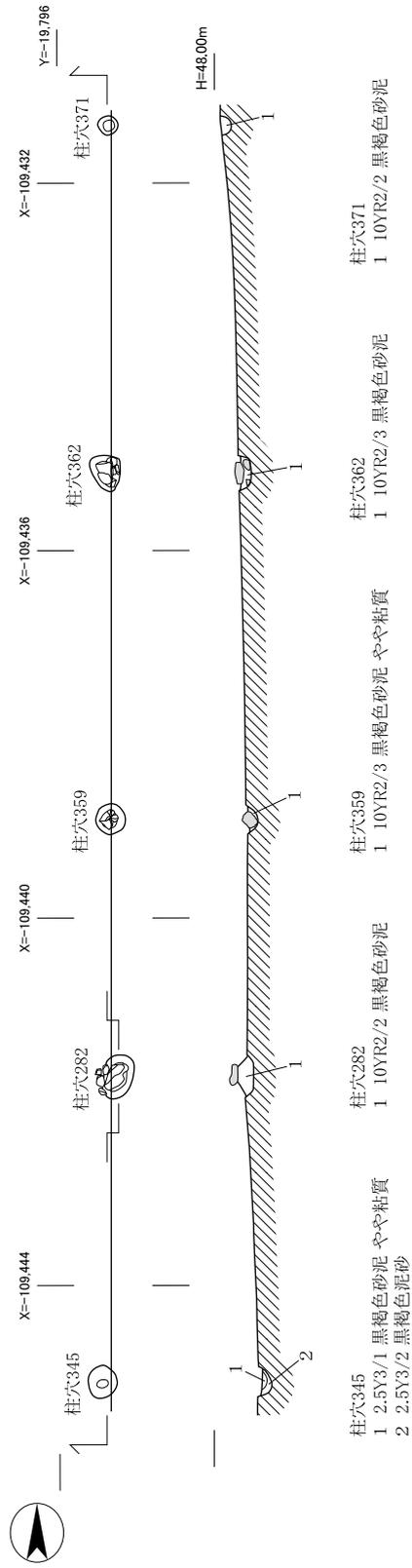
柱列 10



- 柱列 10
柱穴356 柱穴357 柱穴355 柱穴342 柱穴294 柱穴296 柱穴456 柱穴337 柱穴277 柱穴343 柱穴280 柱穴278
1 10YR2/2 黒褐色砂泥
1 10YR2/2 黒褐色砂泥
1 2.5Y3/2 黒褐色砂泥
2 5Y2/2 オリーブ黒色砂泥 細砂混 やや粘質
3 10YR2/3 黒褐色砂泥 瓦片
1 10YR2/2 黒褐色砂泥 やや粘質
1 10YR2/3 黒褐色砂泥 シルト混
2 10YR3/3 暗褐色砂泥
1 10YR2/3 黒褐色砂泥
1 10YR3/2 黒褐色砂泥 やや粘質 土器片
1 10YR3/2 黒褐色砂泥 やや粘質 土器片
1 10YR3/2 黒褐色砂泥 粘質 土器片少量
1 10YR2/2 黒褐色砂泥 粘質 土器片
1 10YR3/2 黒褐色砂泥 粘質 粗砂混
2 2.5Y3/2 黒褐色砂泥
1 10YR2/2 黒褐色砂泥 粘質 土器片
1 10YR2/1 黒色砂泥 やや粘質
1 10YR3/1 黒褐色砂泥 土器片
1 10YR2/2 黒褐色砂泥
1 10YR2/2 黒褐色砂泥 粘質
2 2.5Y3/2 黒褐色砂泥
柱穴343
1 10YR2/2 黒褐色砂泥 粘質
2 2.5Y3/2 黒褐色砂泥
柱穴278
1 10YR2/1 黒色砂泥 やや粘質
柱穴353
1 10YR3/1 黒褐色砂泥 土器片
柱穴280
1 10YR2/2 黒褐色砂泥

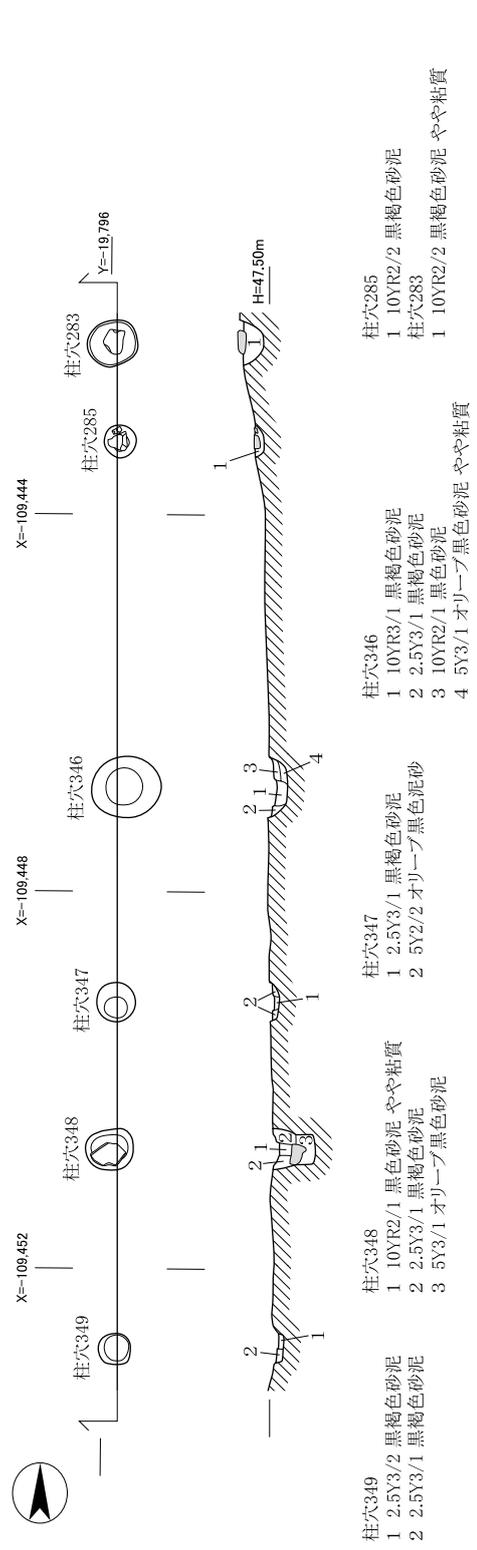
柱列 8~10実測図 (1 : 80)

柱列11



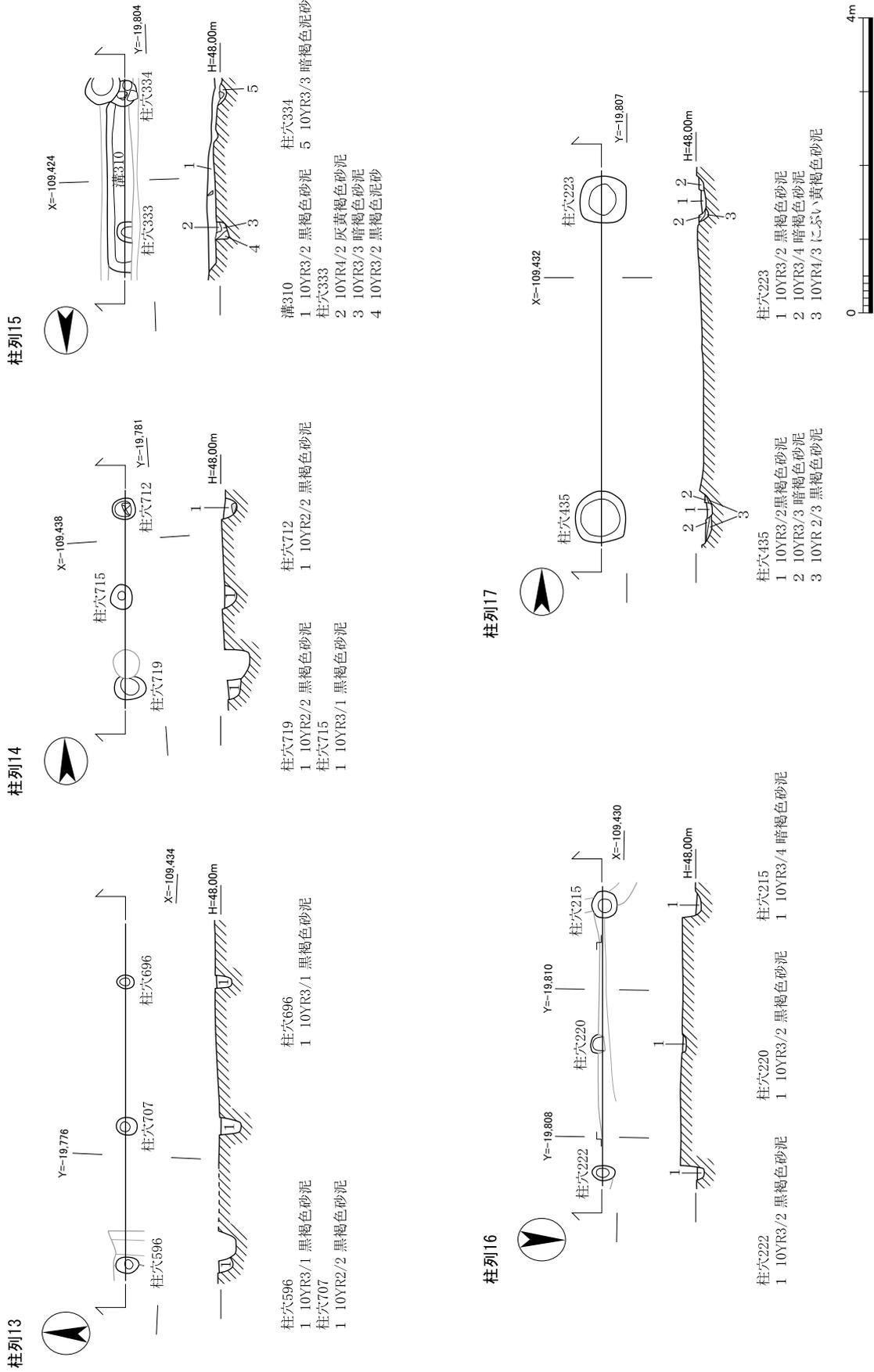
- 柱穴345
1 2.5Y3/1 黒褐色砂泥 やや粘質
2 2.5Y3/2 黒褐色泥砂
- 柱穴282
1 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 柱穴359
1 10YR2/3 黒褐色砂泥 やや粘質
- 柱穴362
1 10YR2/3 黒褐色砂泥
- 柱穴371
1 10YR2/2 黒褐色砂泥

柱列12



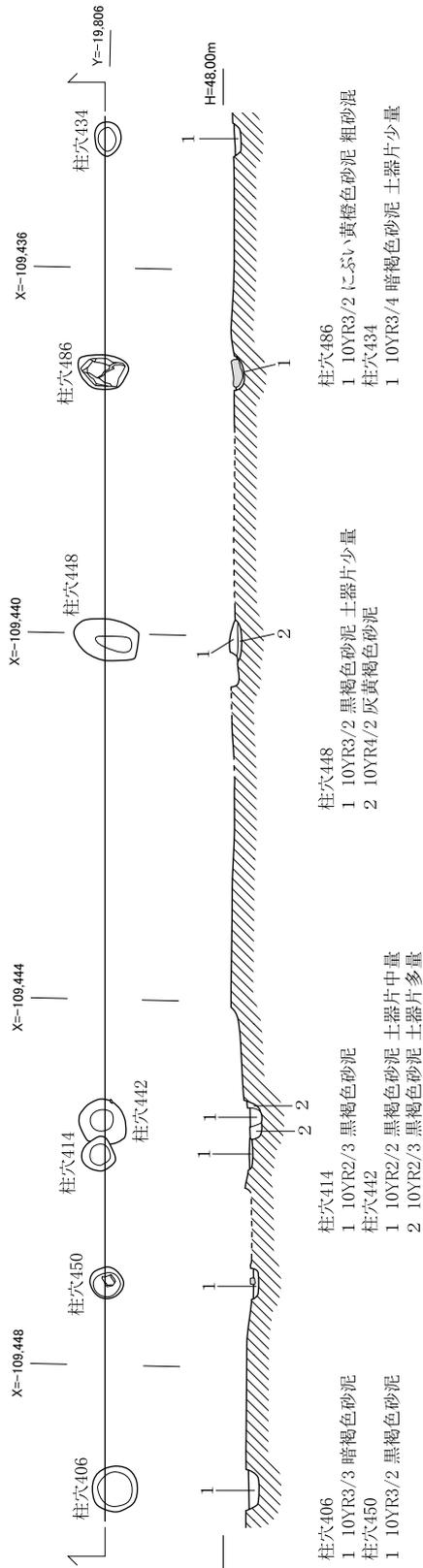
- 柱穴349
1 2.5Y3/2 黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1 黒褐色砂泥
- 柱穴348
1 10YR2/1 黒色砂泥 やや粘質
2 2.5Y3/1 黒褐色砂泥
3 5Y3/1 オリーブ黒色砂泥
- 柱穴347
1 2.5Y3/1 黒褐色砂泥
2 5Y2/2 オリーブ黒色泥砂
- 柱穴346
1 10YR3/1 黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1 黒褐色砂泥
3 10YR2/1 黒色砂泥
4 5Y3/1 オリーブ黒色砂泥 やや粘質
- 柱穴285
1 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 柱穴283
1 10YR2/2 黒褐色砂泥 やや粘質

柱列11・12実測図 (1 : 80)

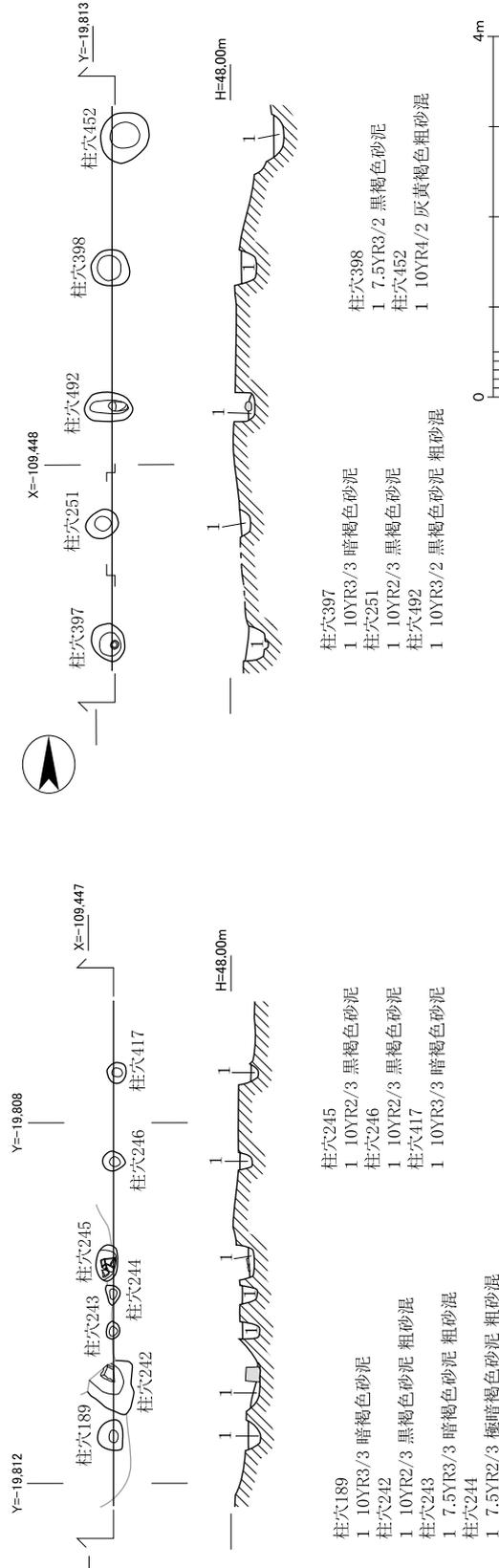


柱列13～17実測図 (1 : 80)

柱列18



柱列19

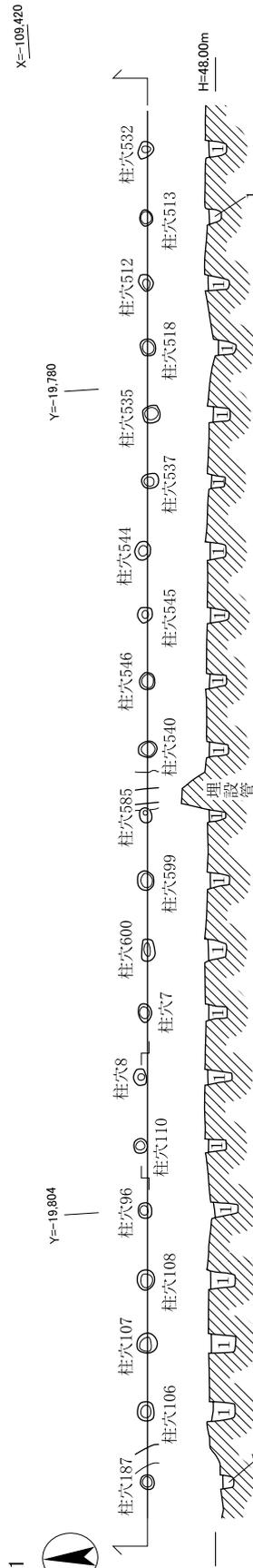


柱列18~20実測図 (1:80)

図版 20
遺構

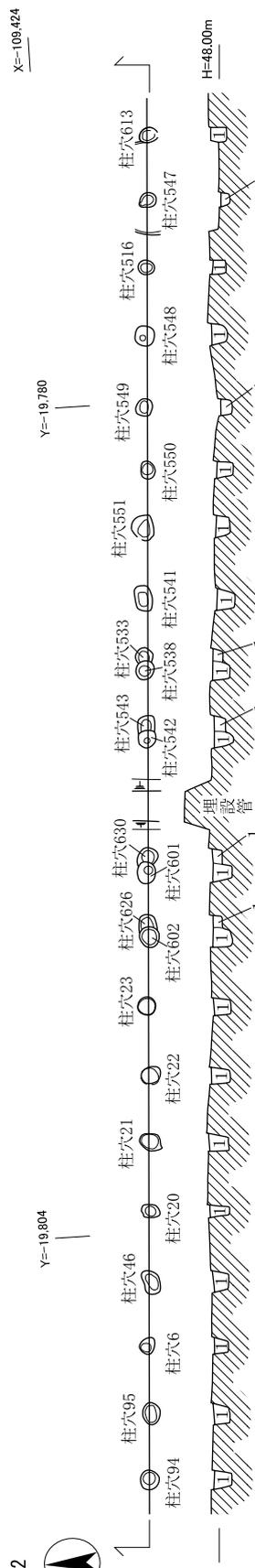
柱列21

柱列21・22実測図 (1:200)



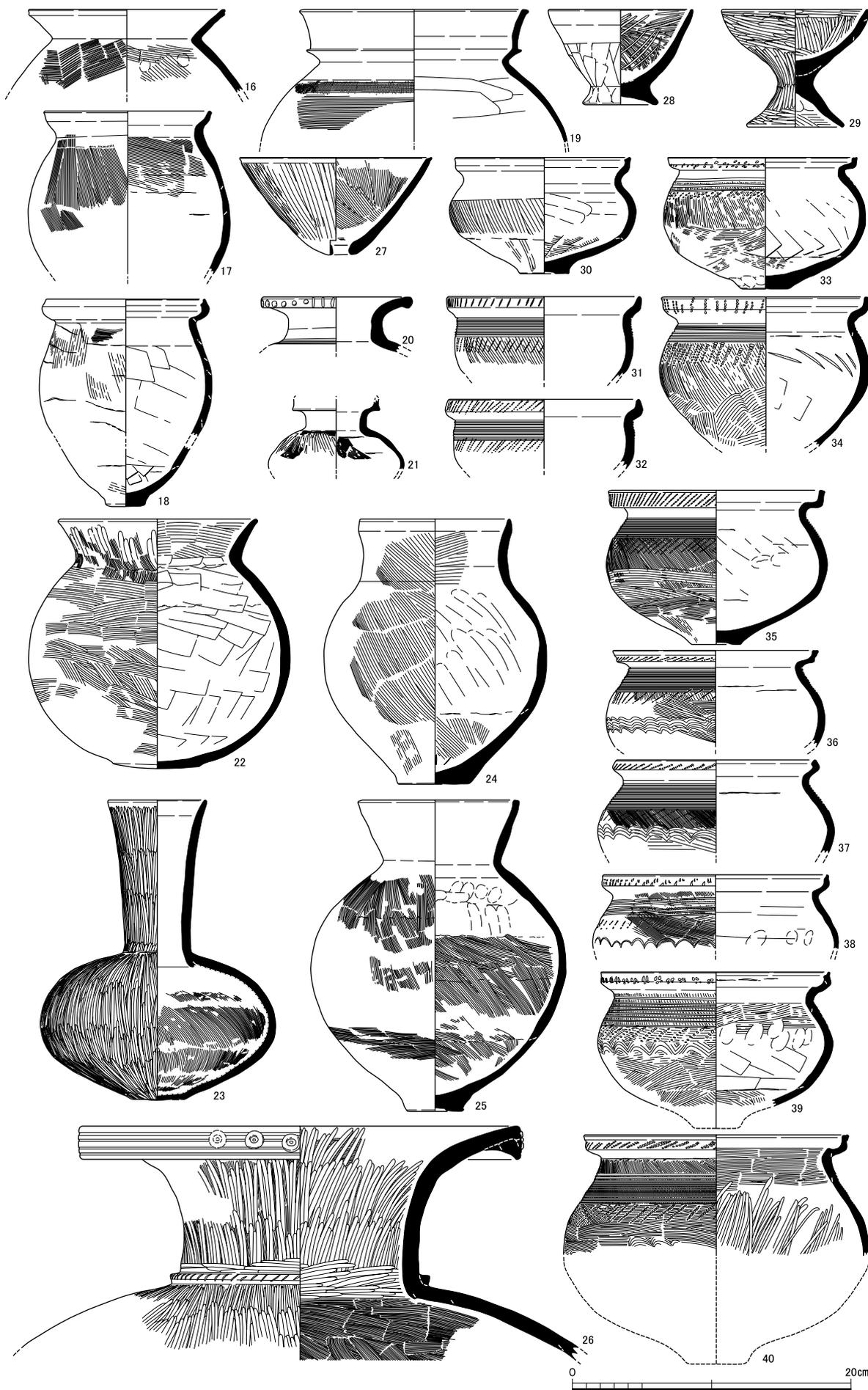
- 柱穴187 1 10YR4/2 灰褐色泥砂
- 柱穴106 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴107 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴108 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴187 1 10YR4/2 灰褐色泥砂
- 柱穴110 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴8 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴110 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 柱穴599 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 柱穴585 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 柱穴540 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴600 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴599 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 柱穴585 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 柱穴540 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴546 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴545 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴544 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴537 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴535 1 10YR3/2 黒褐色砂泥 やや粘質
- 柱穴518 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴512 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴513 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 やや粘質
- 柱穴532 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 やや粘質
- 柱穴532 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥

柱列22

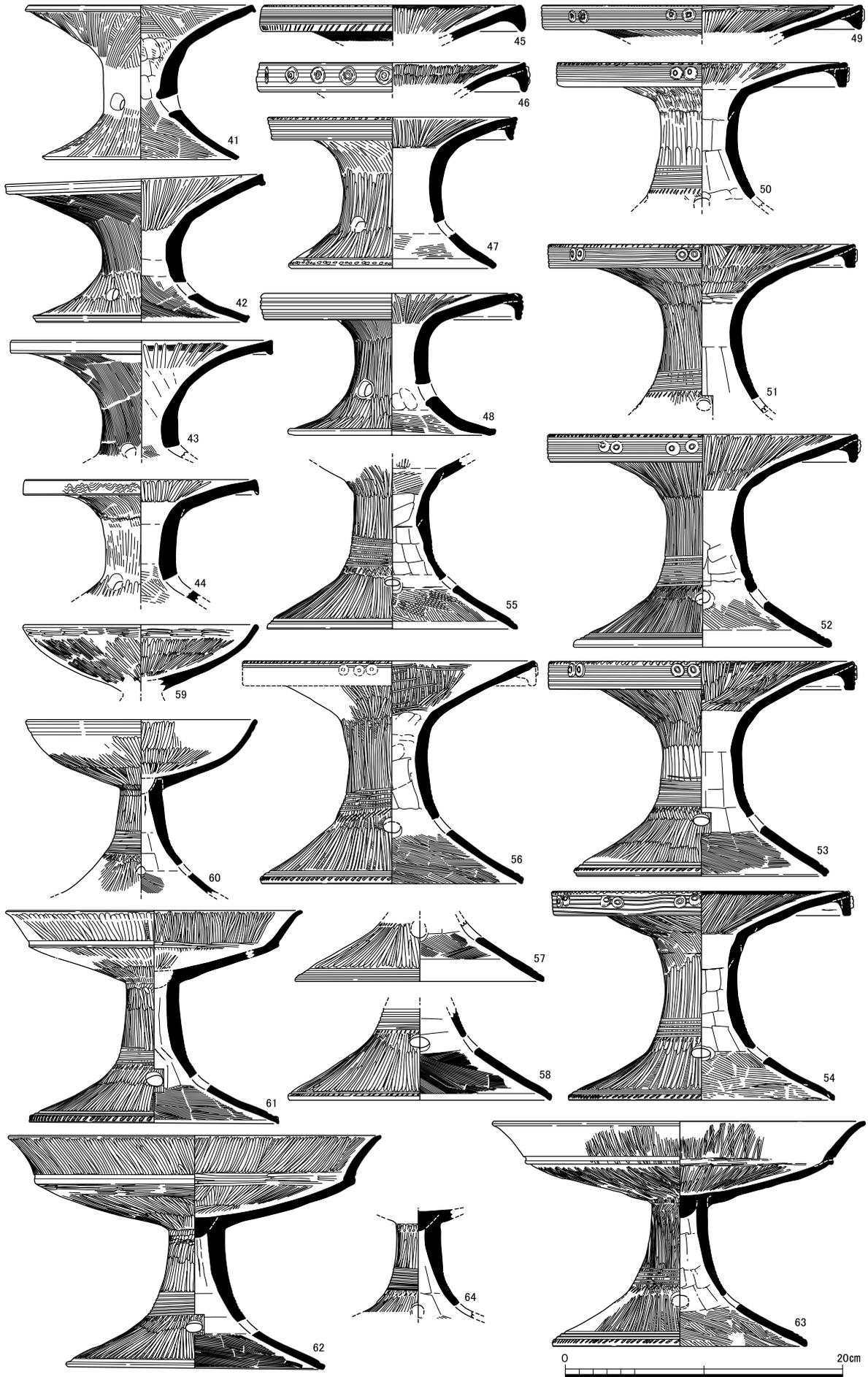


- 柱穴94 1 10YR4/1 褐灰色泥砂
- 柱穴95 1 10YR4/1 褐灰色泥砂
- 柱穴6 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴46 1 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 柱穴20 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴94 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴21 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴22 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 柱穴23 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴602 1 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 柱穴543 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴626 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴23 1 10YR2/3 黒褐色砂泥
- 柱穴630 1 10YR3/2 黒褐色砂泥 混粗砂
- 柱穴542 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴601 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴23 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴22 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴46 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 柱穴95 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴94 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴21 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴22 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴23 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 柱穴602 1 10YR2/2 黒褐色砂泥
- 柱穴543 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴626 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴23 1 10YR2/3 黒褐色砂泥
- 柱穴630 1 10YR3/2 黒褐色砂泥 混粗砂
- 柱穴542 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴601 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴543 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴551 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴541 1 10YR3/2 黒褐色砂泥 やや粘質
- 柱穴533 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴549 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 やや粘質
- 柱穴550 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴548 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴547 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴516 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥
- 柱穴613 1 10YR3/1 黒褐色砂泥 やや粘質
- 柱穴547 1 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 柱穴613 1 10YR3/2 黒褐色砂泥

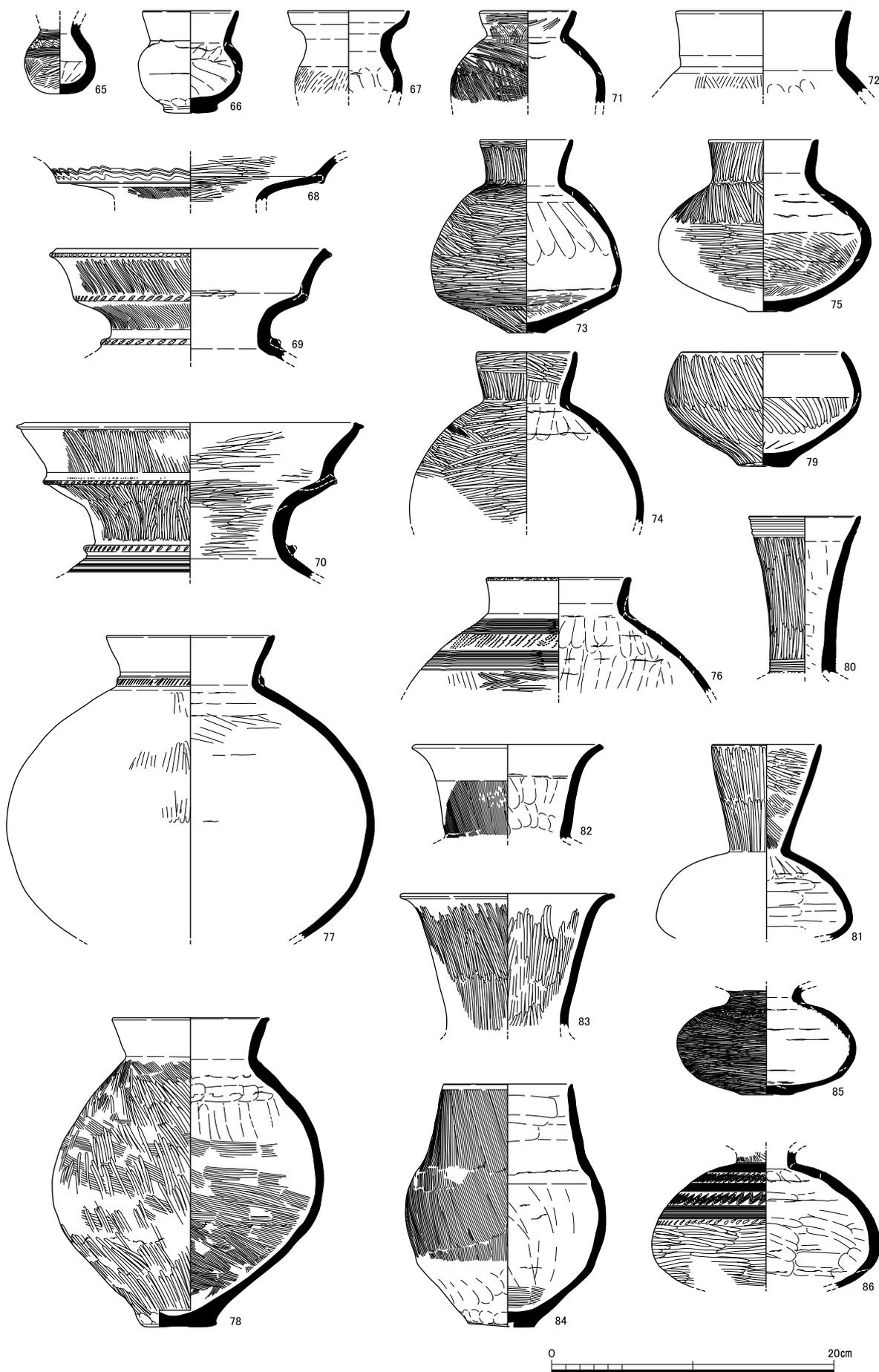




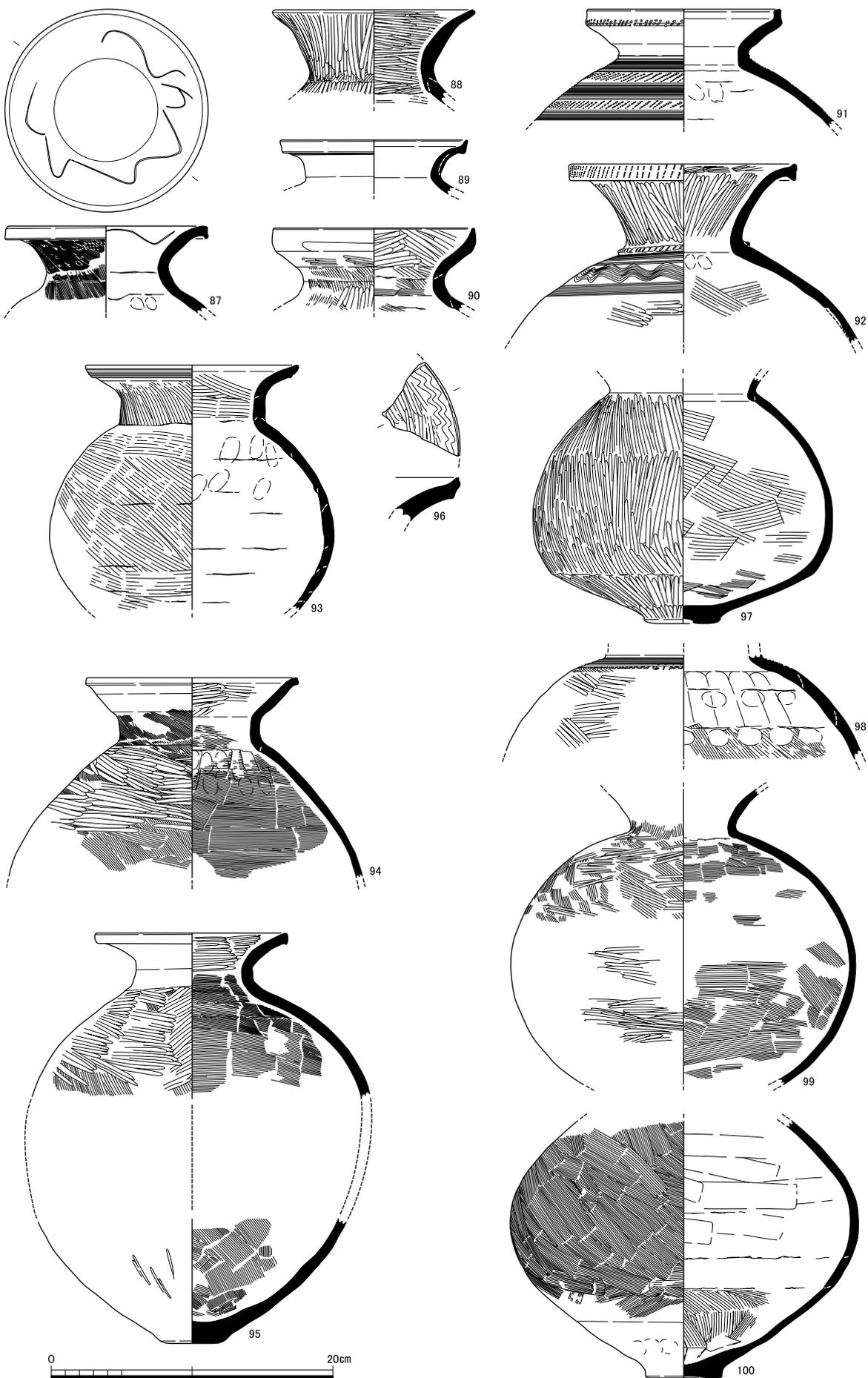
湿地460出土土器实测图1 (1:4)



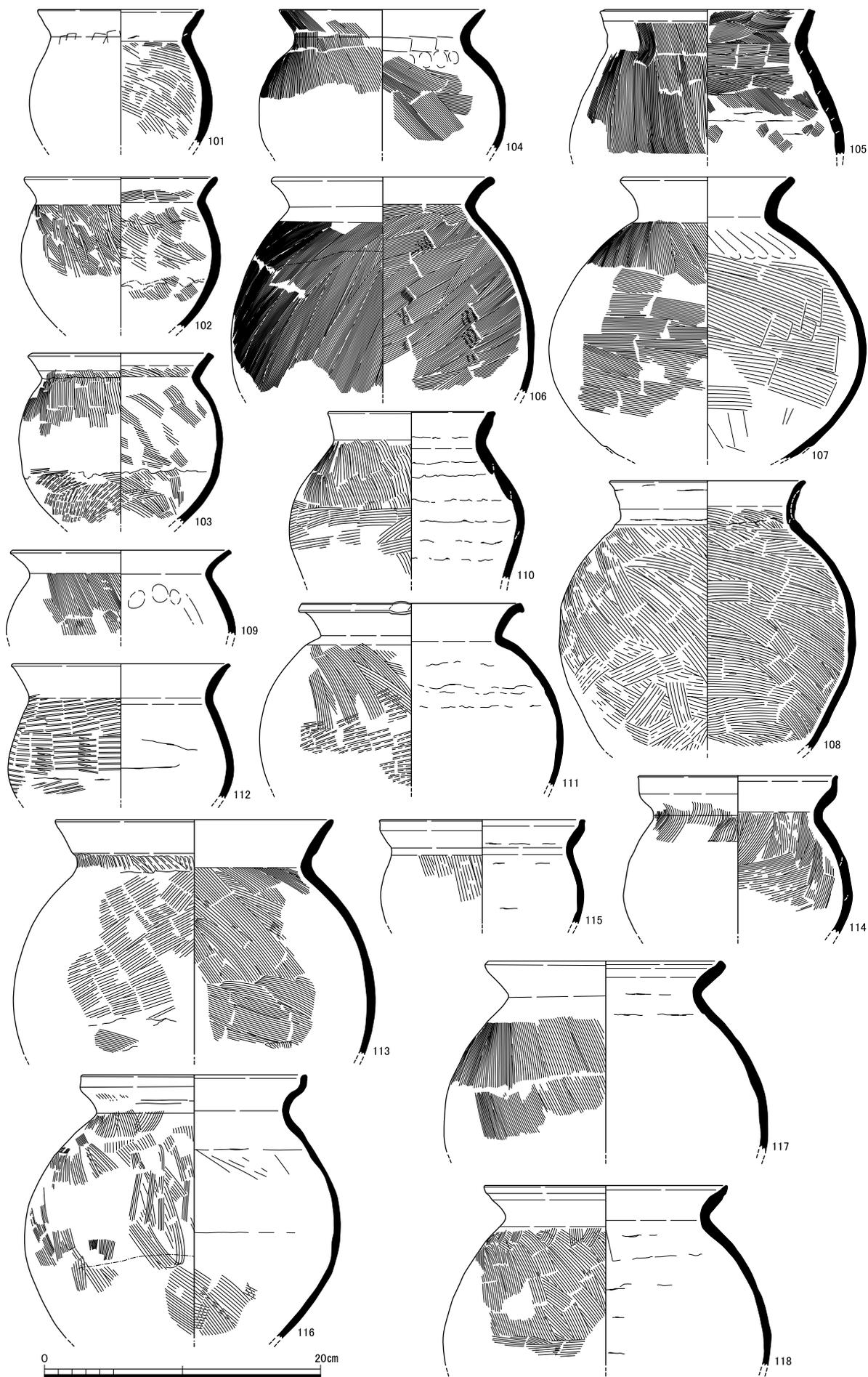
湿地460出土土器実測图2 (1:4)



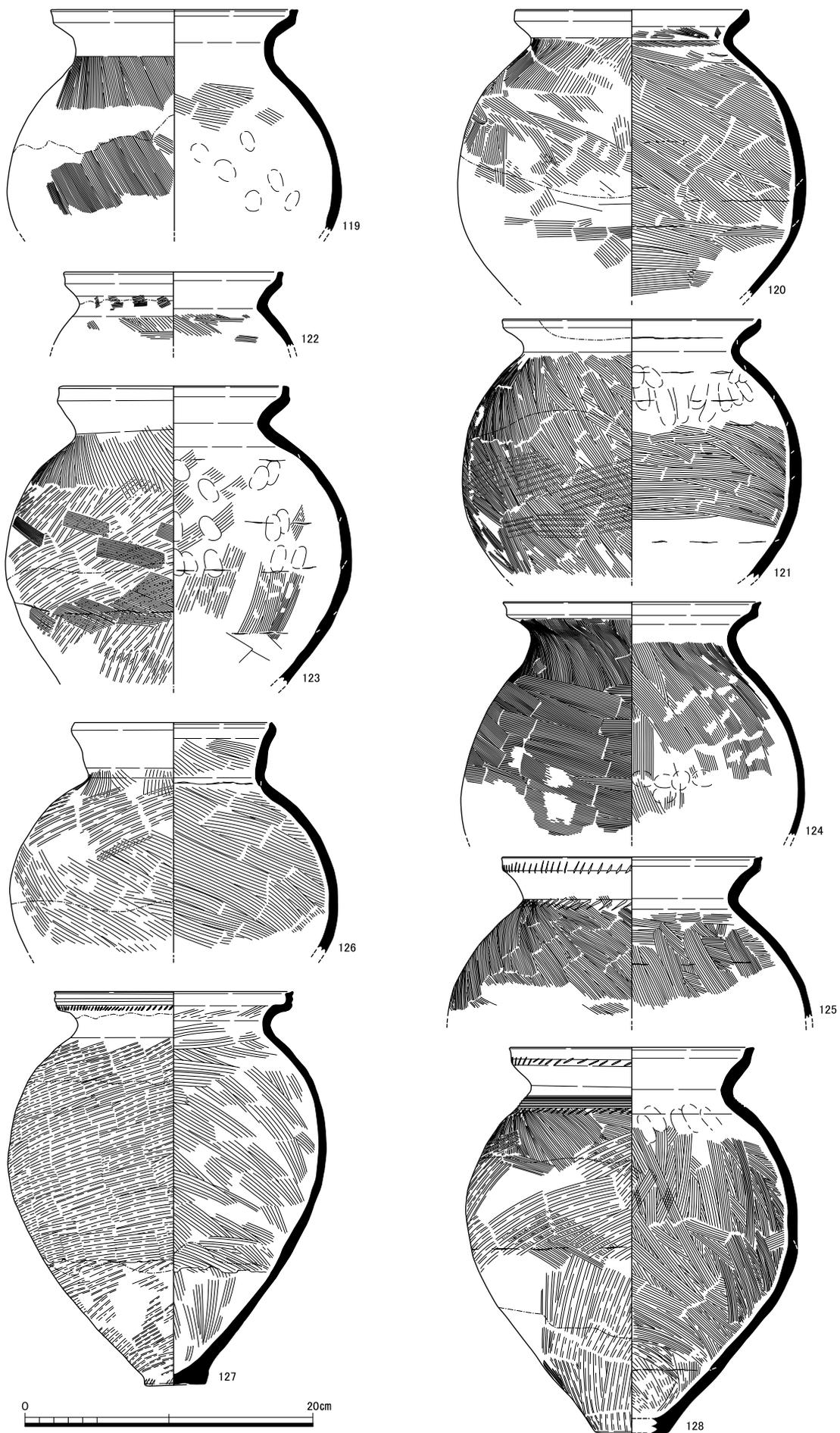
溝 459 出土土器実測図 1 (1 : 4)



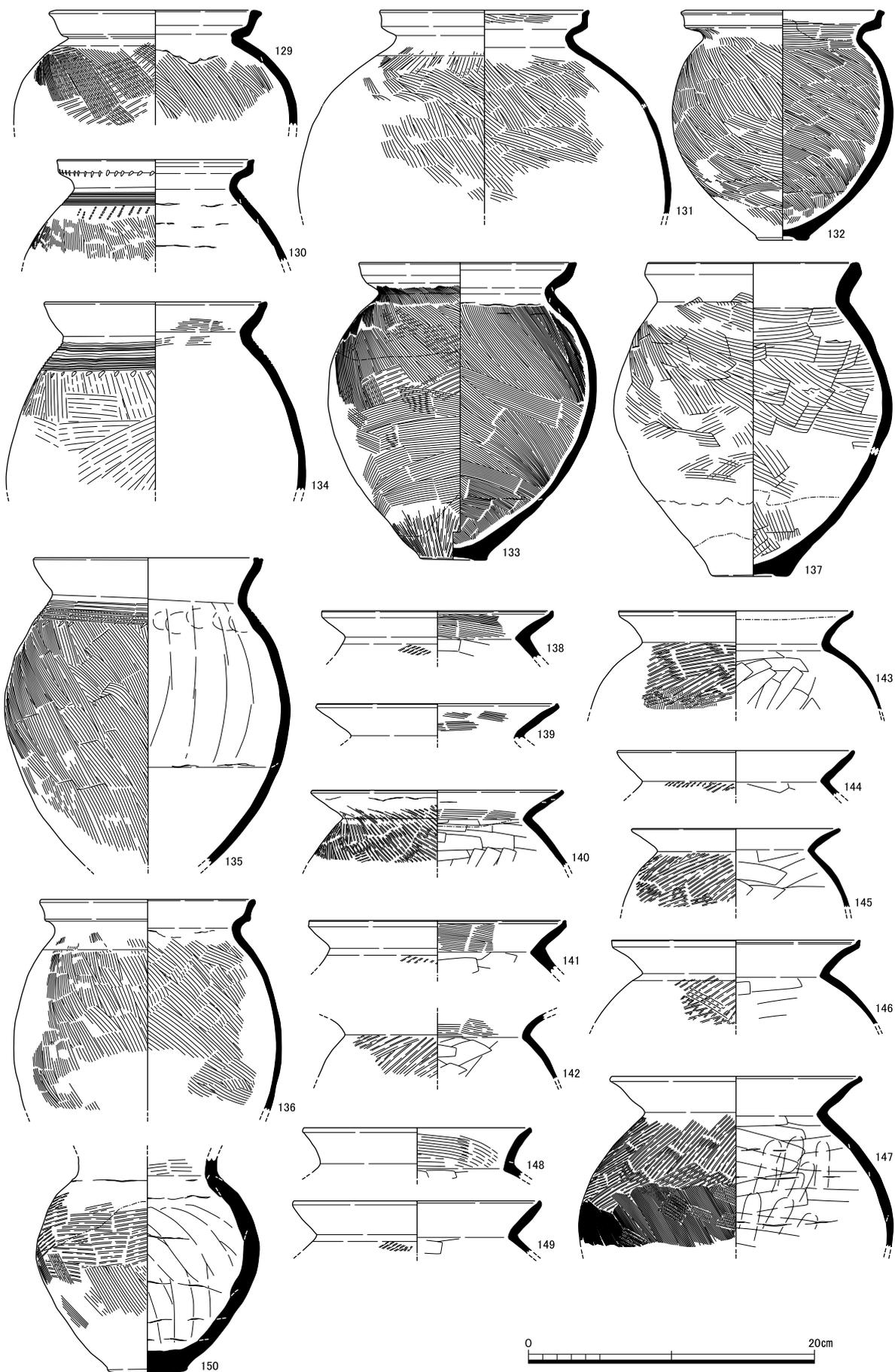
溝459出土土器実測図2 (1:4)



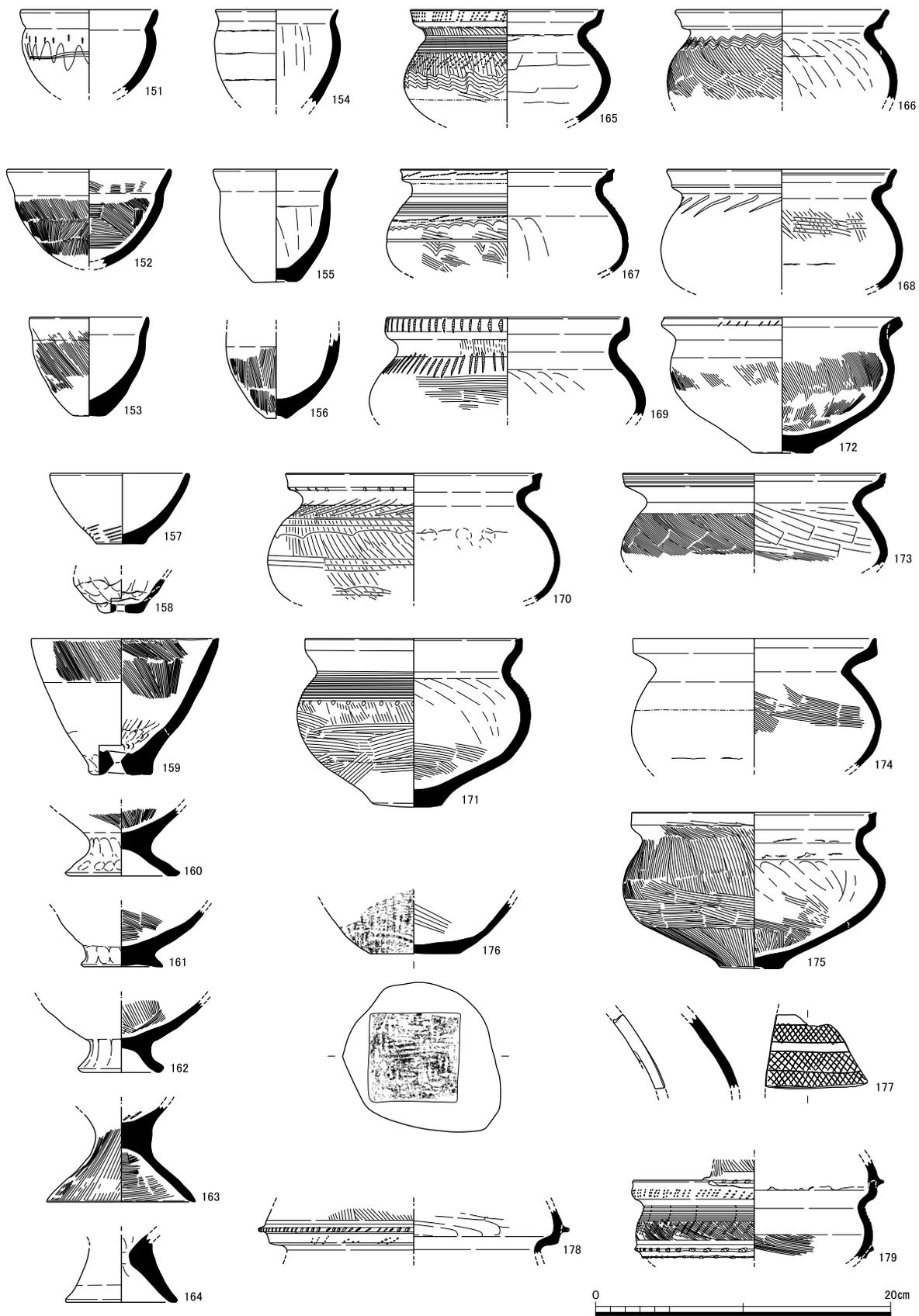
溝459出土土器実測図3 (1:4)



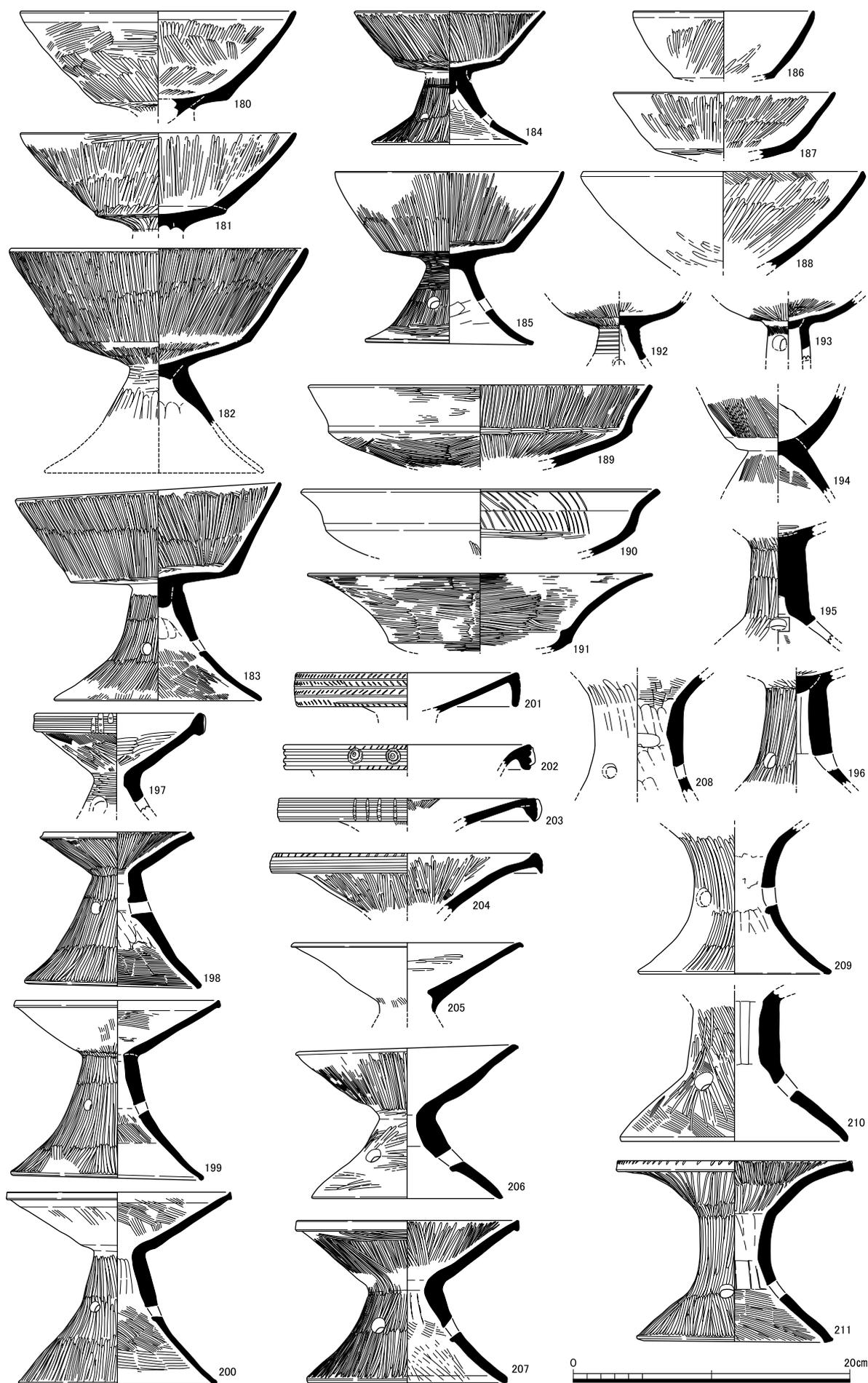
溝 459 出土土器実測図 4 (1 : 4)



溝459出土土器実測図5 (1 : 4)

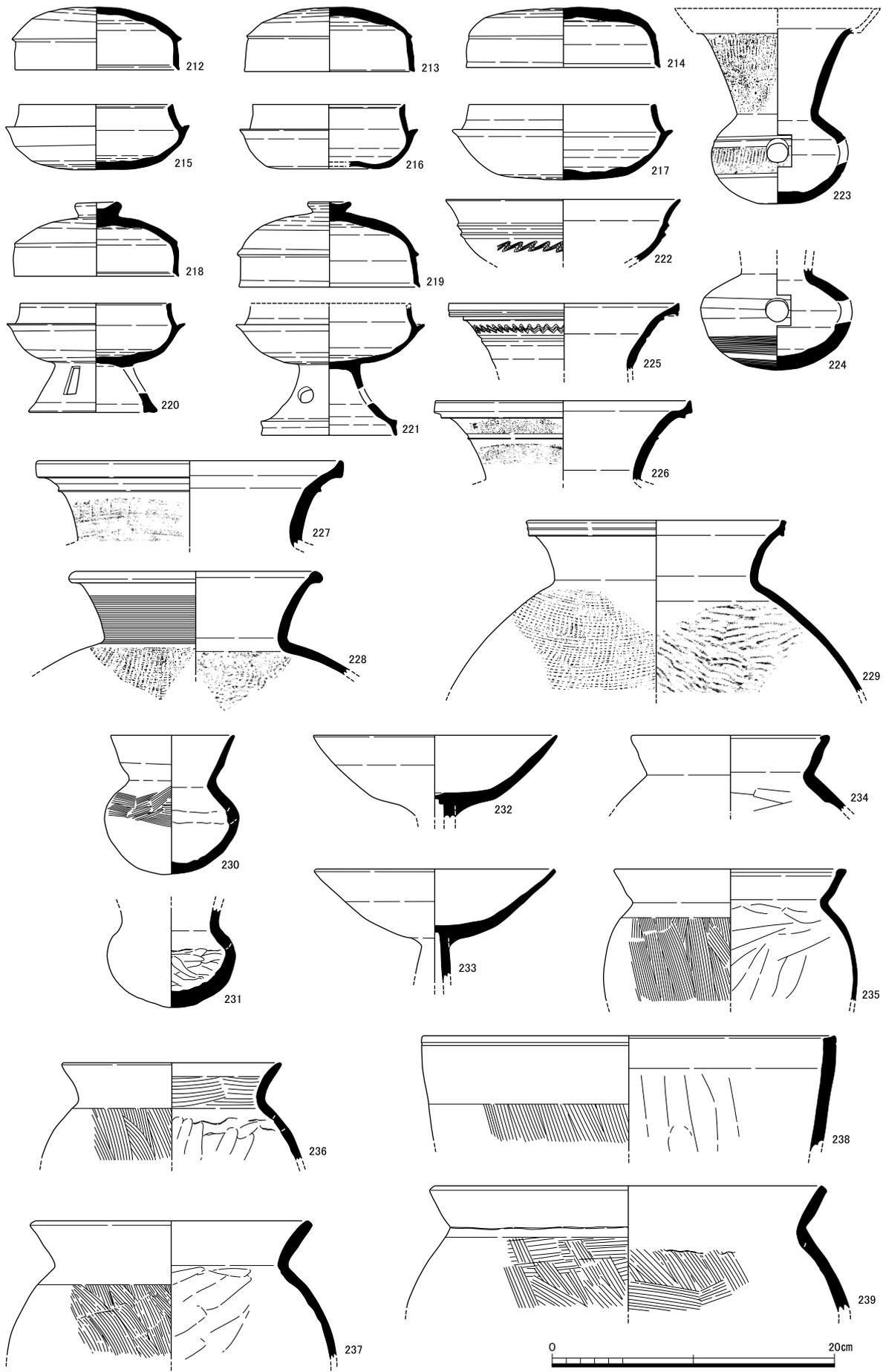


沟 459 出土土器实测图 6 (1 : 4)

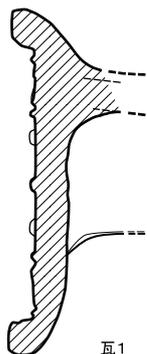
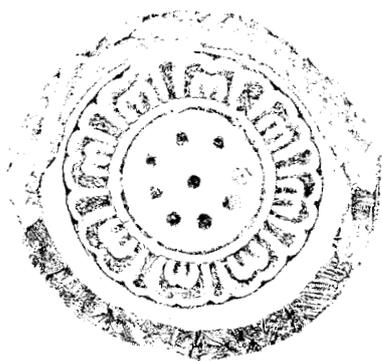


溝459出土土器実測図7 (1:4)

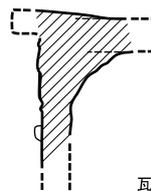
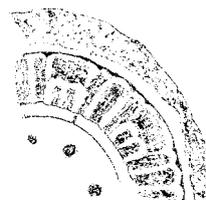
图版 30
遺物



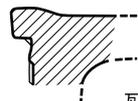
湿地460上層出土土器実測図 (1 : 4)



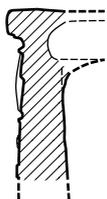
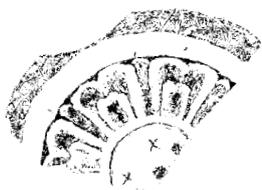
瓦1



瓦3



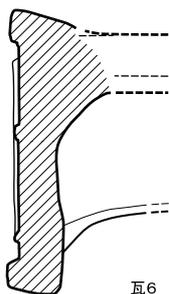
瓦4



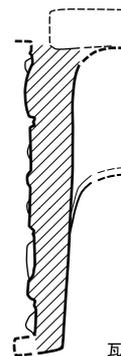
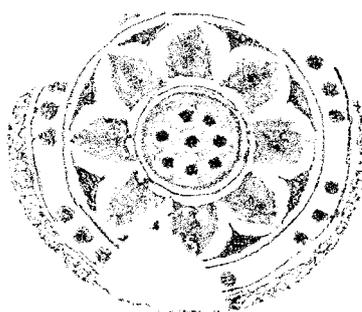
瓦2



瓦5



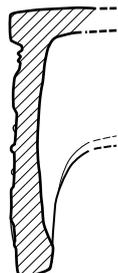
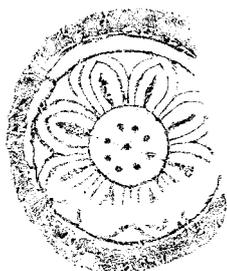
瓦6



瓦7

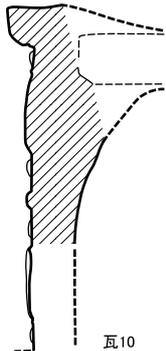
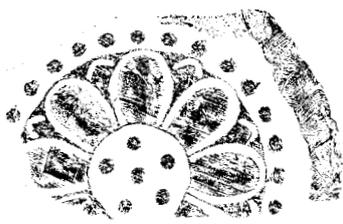


瓦8

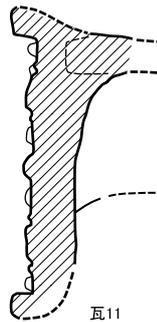
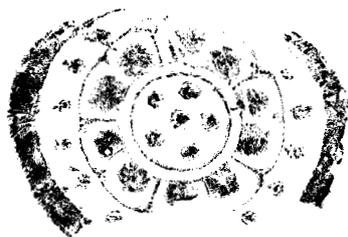


瓦9

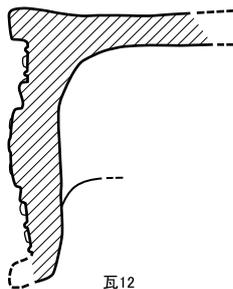
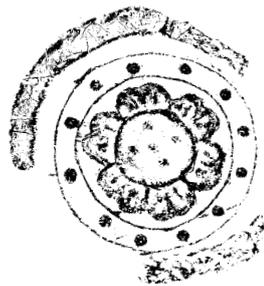




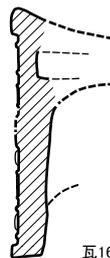
瓦10



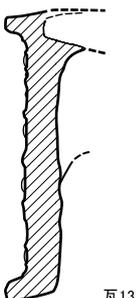
瓦11



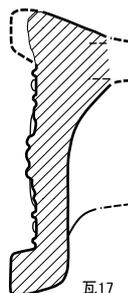
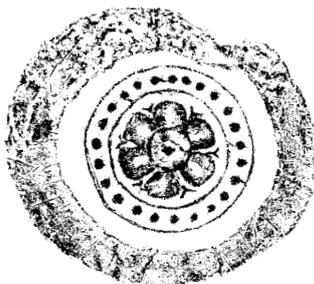
瓦12



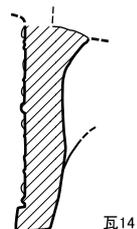
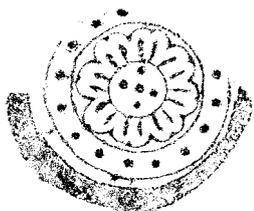
瓦16



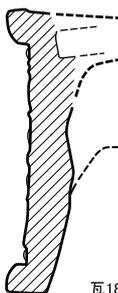
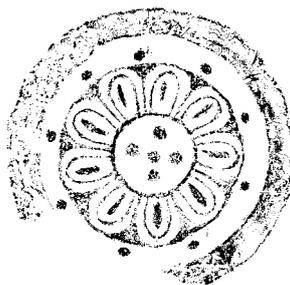
瓦13



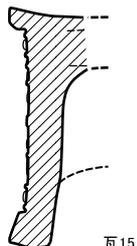
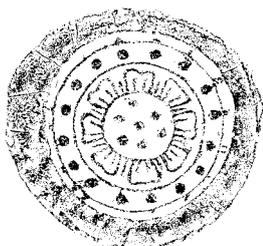
瓦17



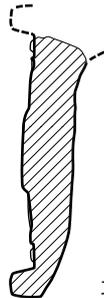
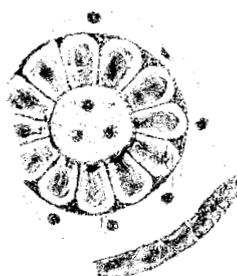
瓦14



瓦18

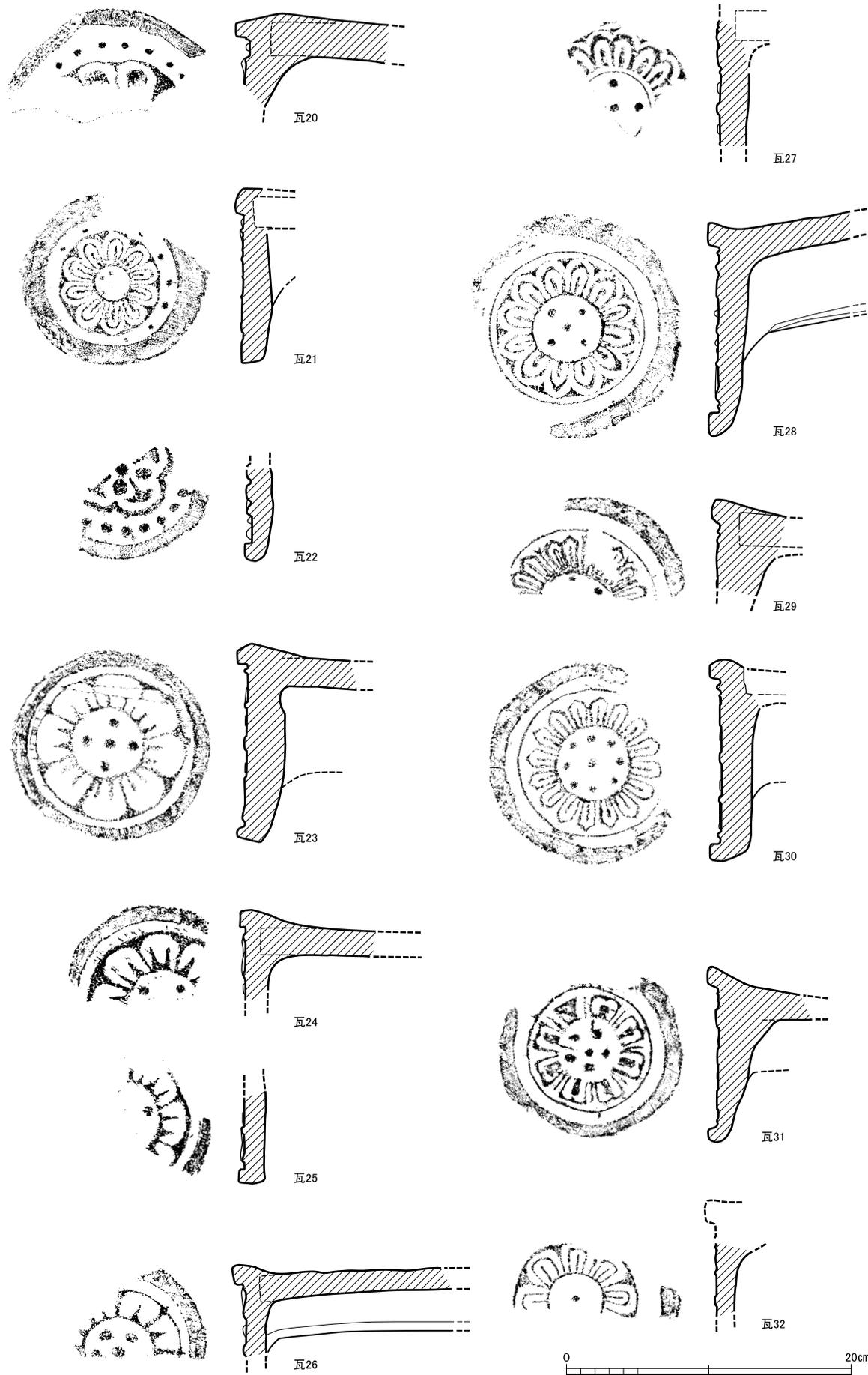


瓦15

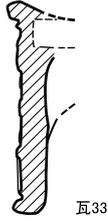
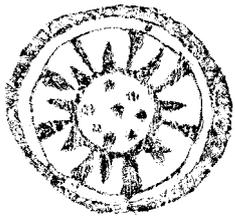


瓦19

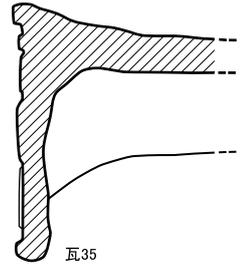
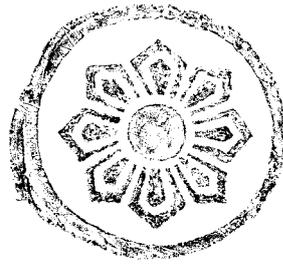




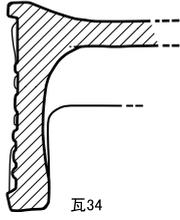
瓦拓影·実測図3 (1:4)



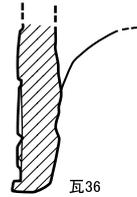
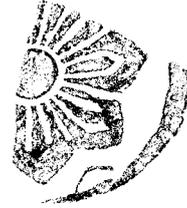
瓦33



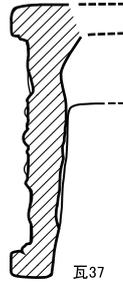
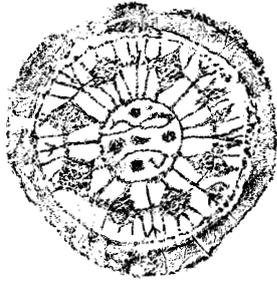
瓦35



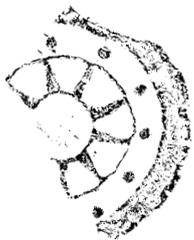
瓦34



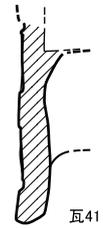
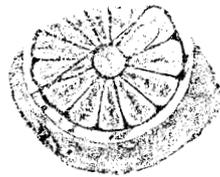
瓦36



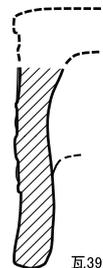
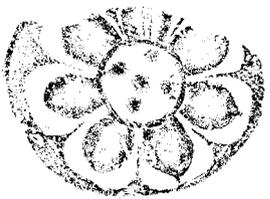
瓦37



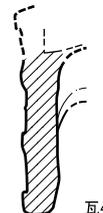
瓦38



瓦41



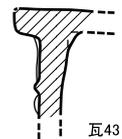
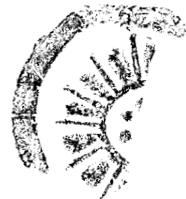
瓦39



瓦42

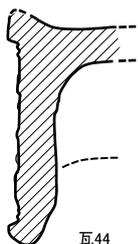
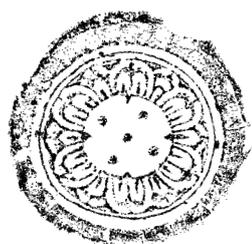


瓦40

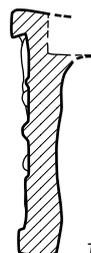
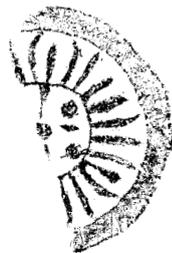


瓦43

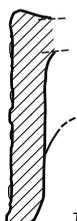
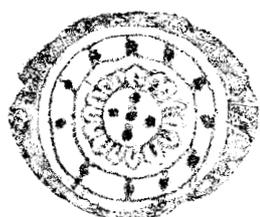




瓦44



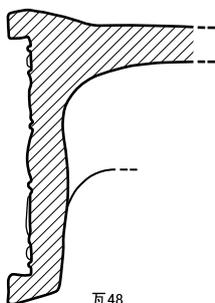
瓦45



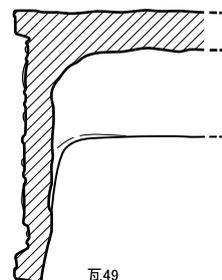
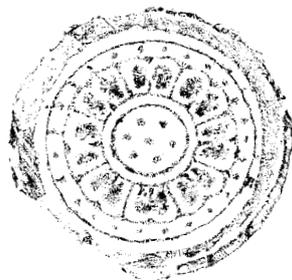
瓦46



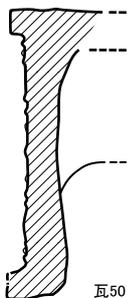
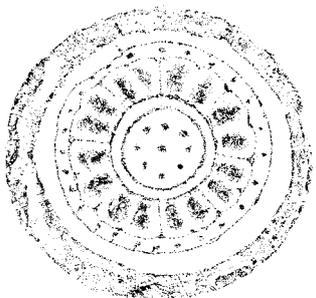
瓦47



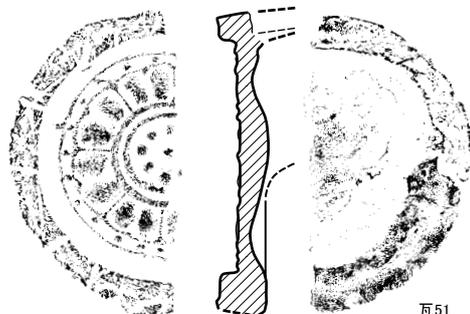
瓦48



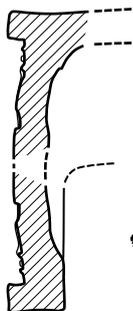
瓦49



瓦50

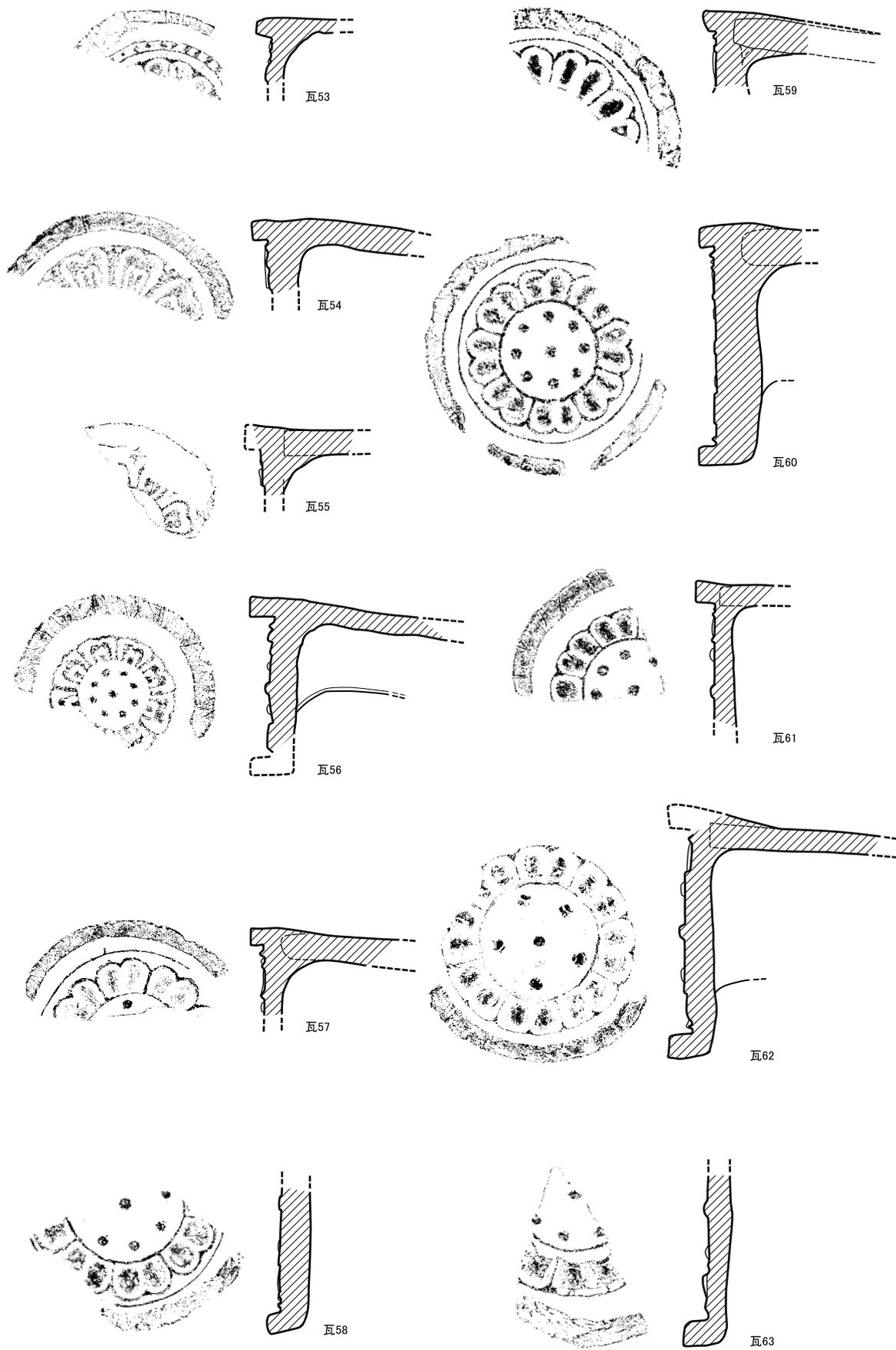


瓦51

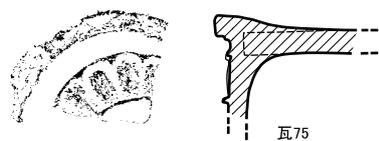
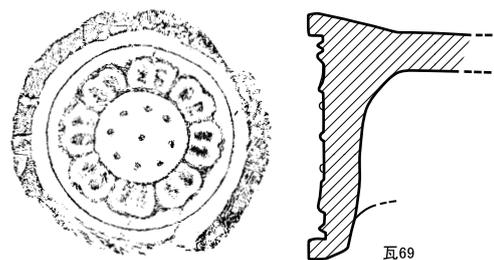
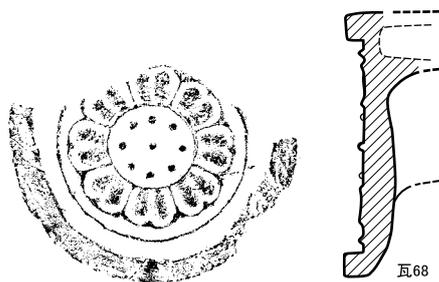
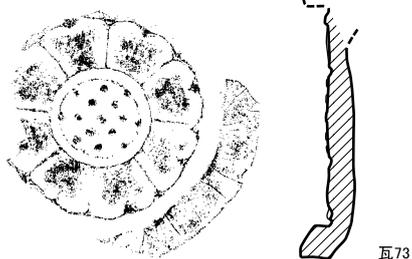
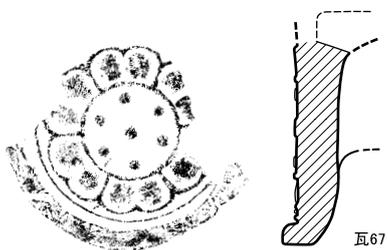
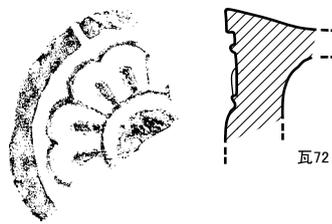
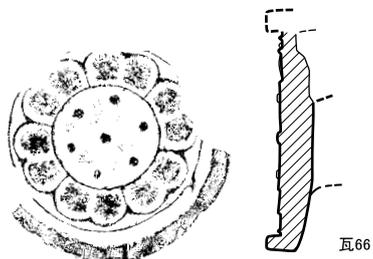
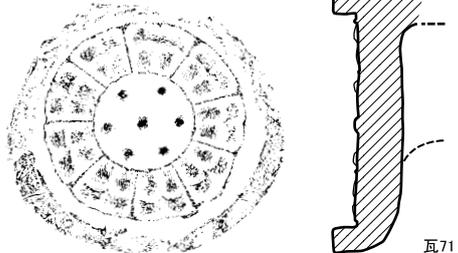
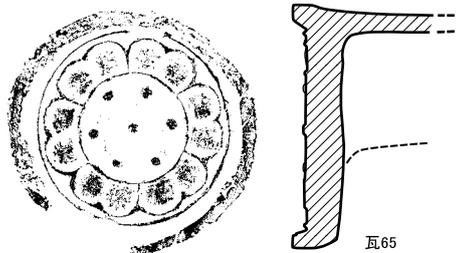
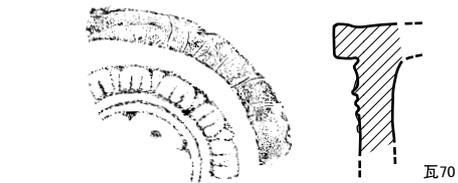
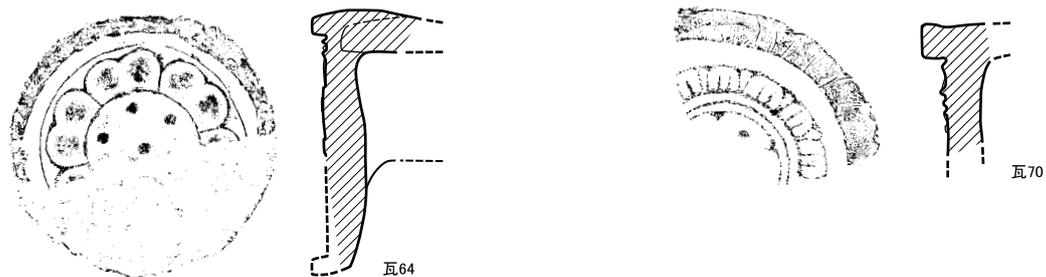


瓦52

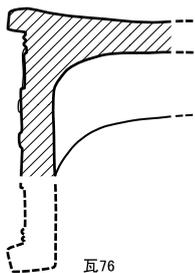
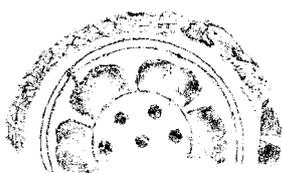




瓦拓影·实测图6 (1:4)



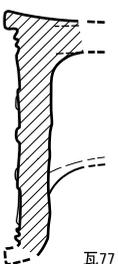
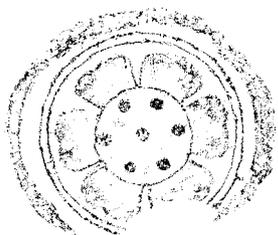
瓦拓影·実測図7 (1:4)



瓦76



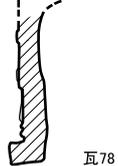
瓦82



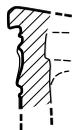
瓦77



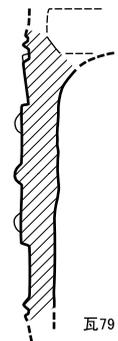
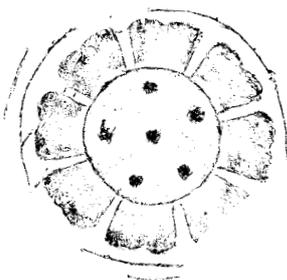
瓦83



瓦78



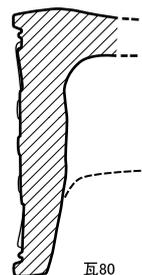
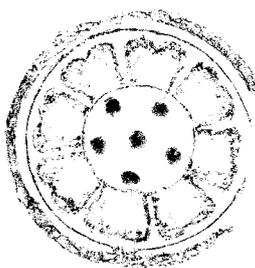
瓦84



瓦79



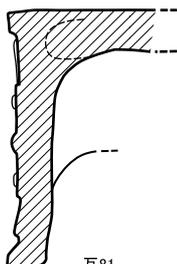
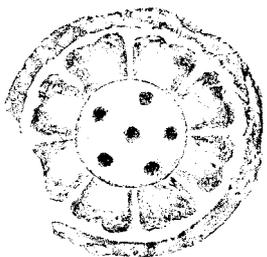
瓦85



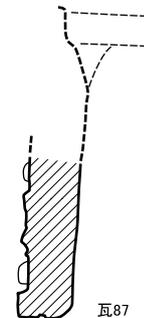
瓦80



瓦86



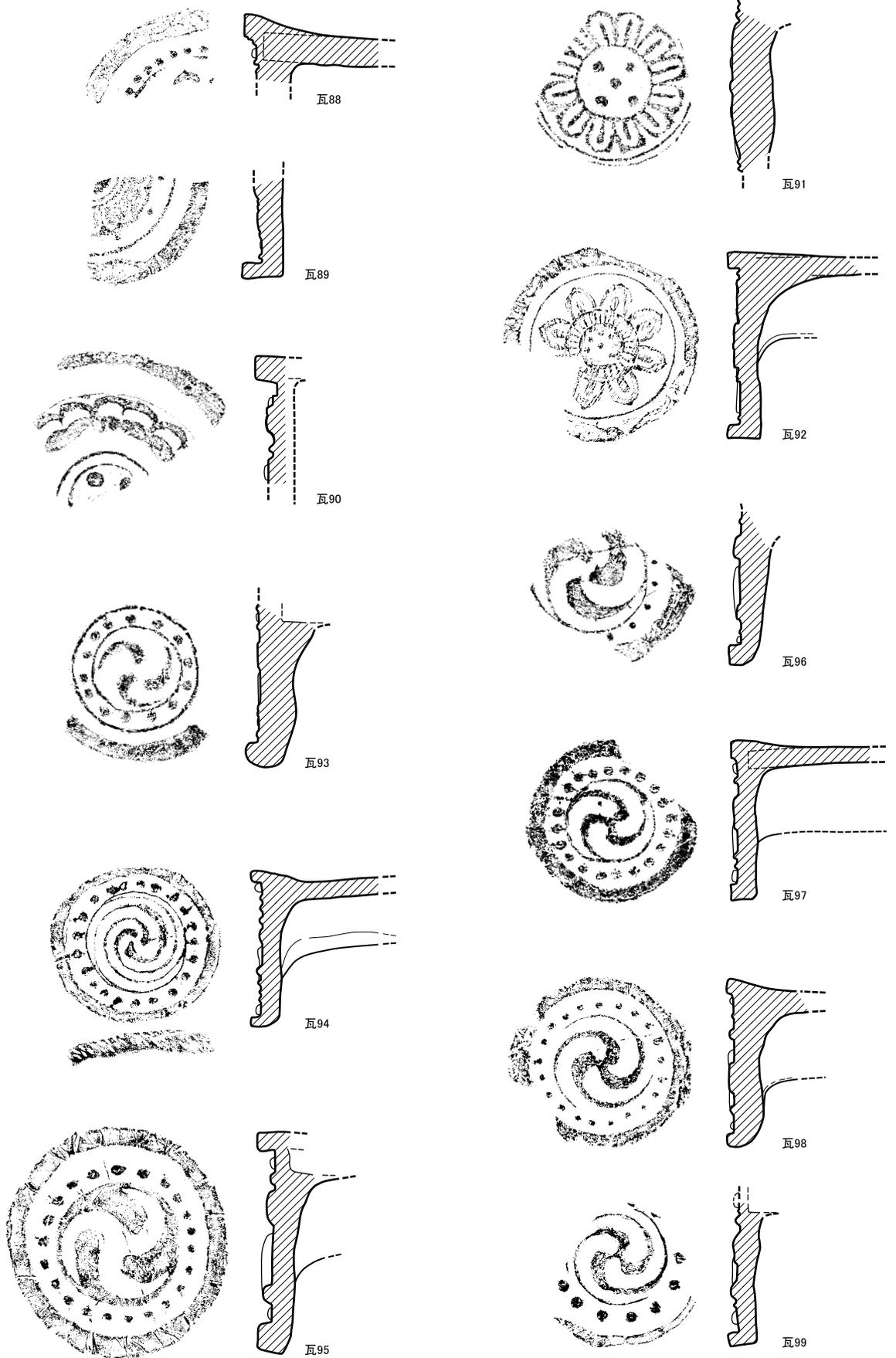
瓦81



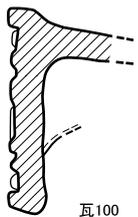
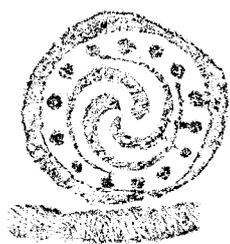
瓦87



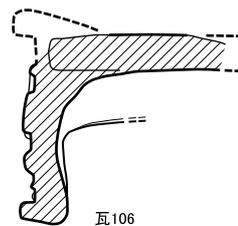
瓦拓影·实测图8 (1:4)



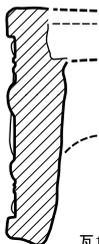
瓦拓影·実測図9 (1:4)



瓦100



瓦106



瓦101



瓦107



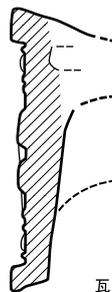
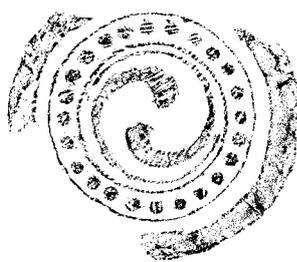
瓦102



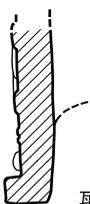
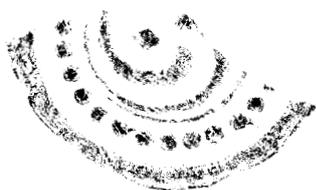
瓦108



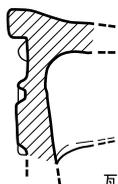
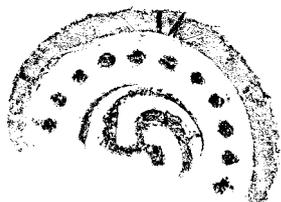
瓦103



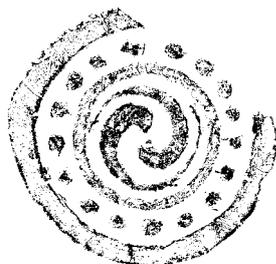
瓦109



瓦104



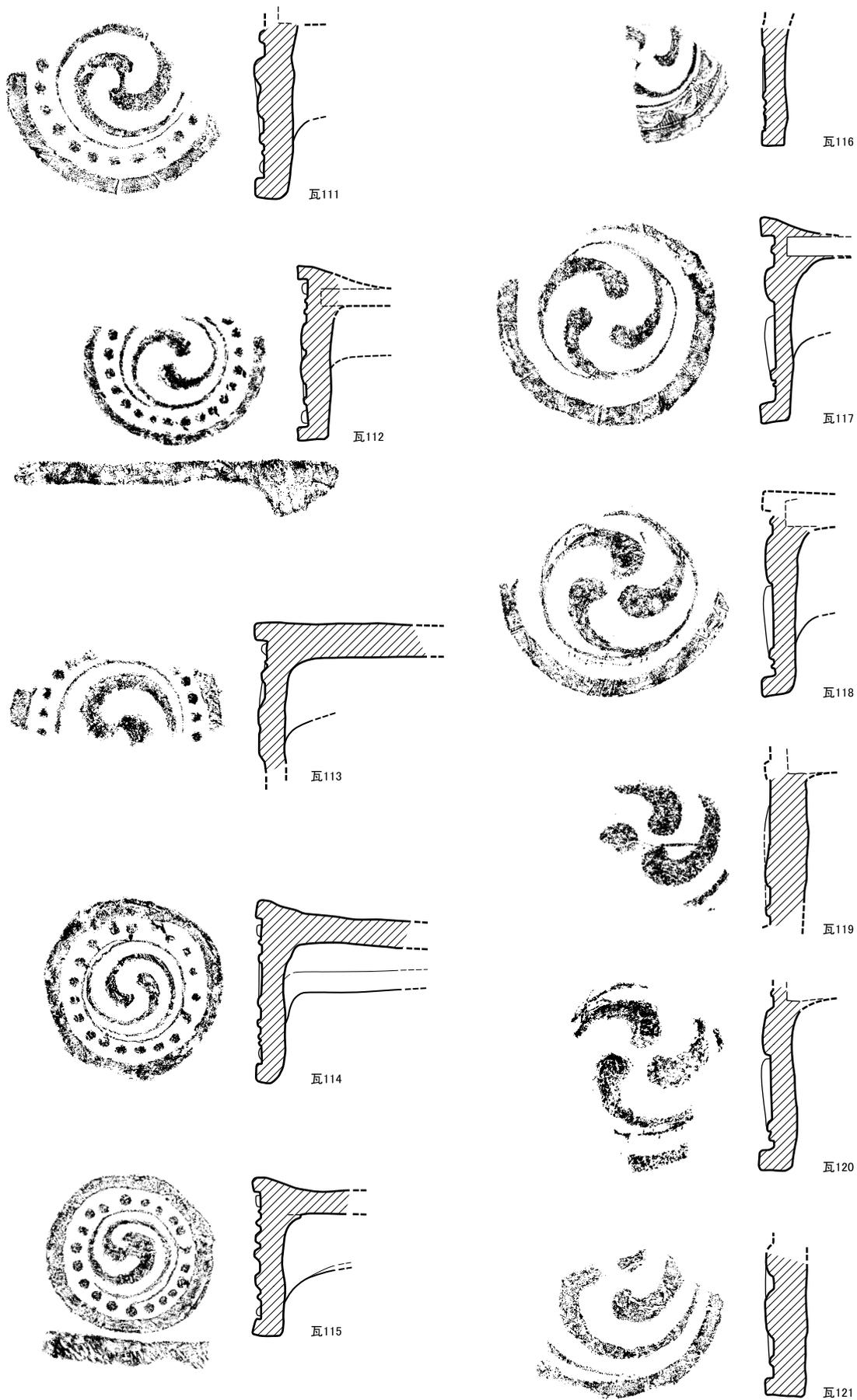
瓦105



瓦110

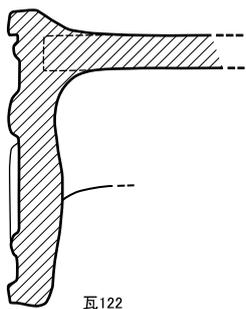
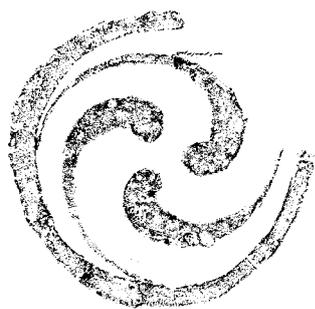


瓦拓影·实测图10 (1 : 4)

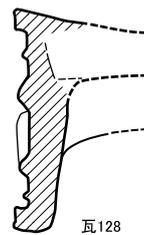


0 20cm

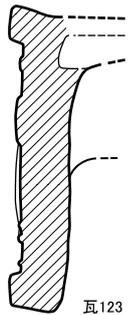
瓦拓影·実測図11 (1 : 4)



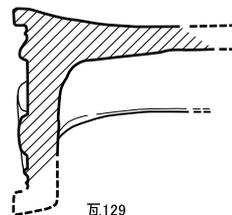
瓦122



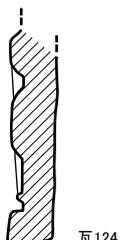
瓦128



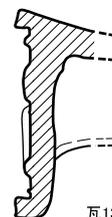
瓦123



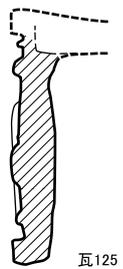
瓦129



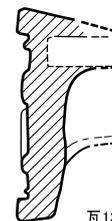
瓦124



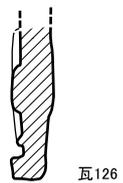
瓦130



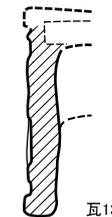
瓦125



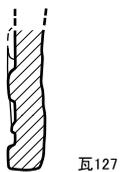
瓦131



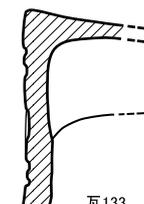
瓦126



瓦132



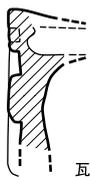
瓦127



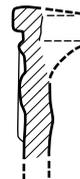
瓦133



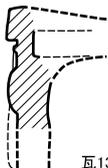
瓦拓影·实测图12 (1 : 4)



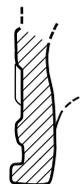
瓦134



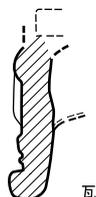
瓦140



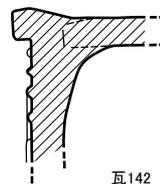
瓦135



瓦141



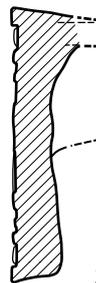
瓦136



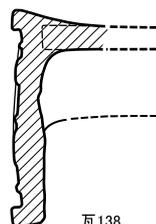
瓦142



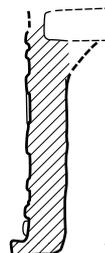
瓦137



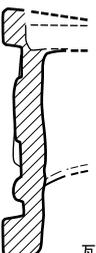
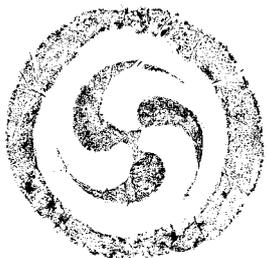
瓦143



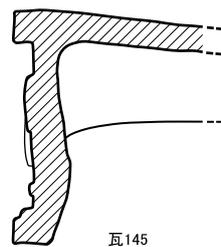
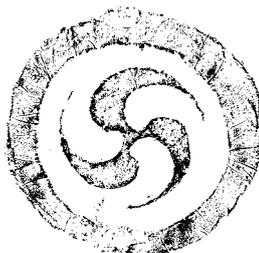
瓦138



瓦144

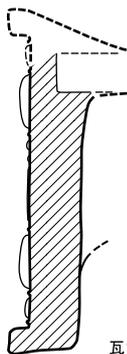
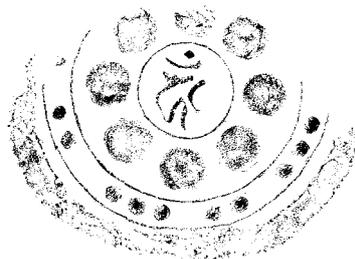


瓦139



瓦145

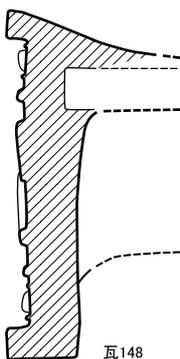




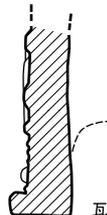
瓦146



瓦147



瓦148



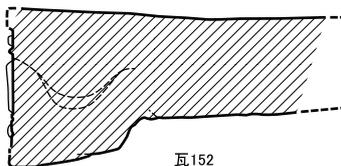
瓦149



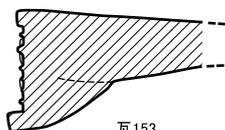
瓦150



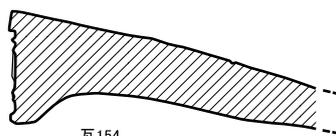
瓦151



瓦152

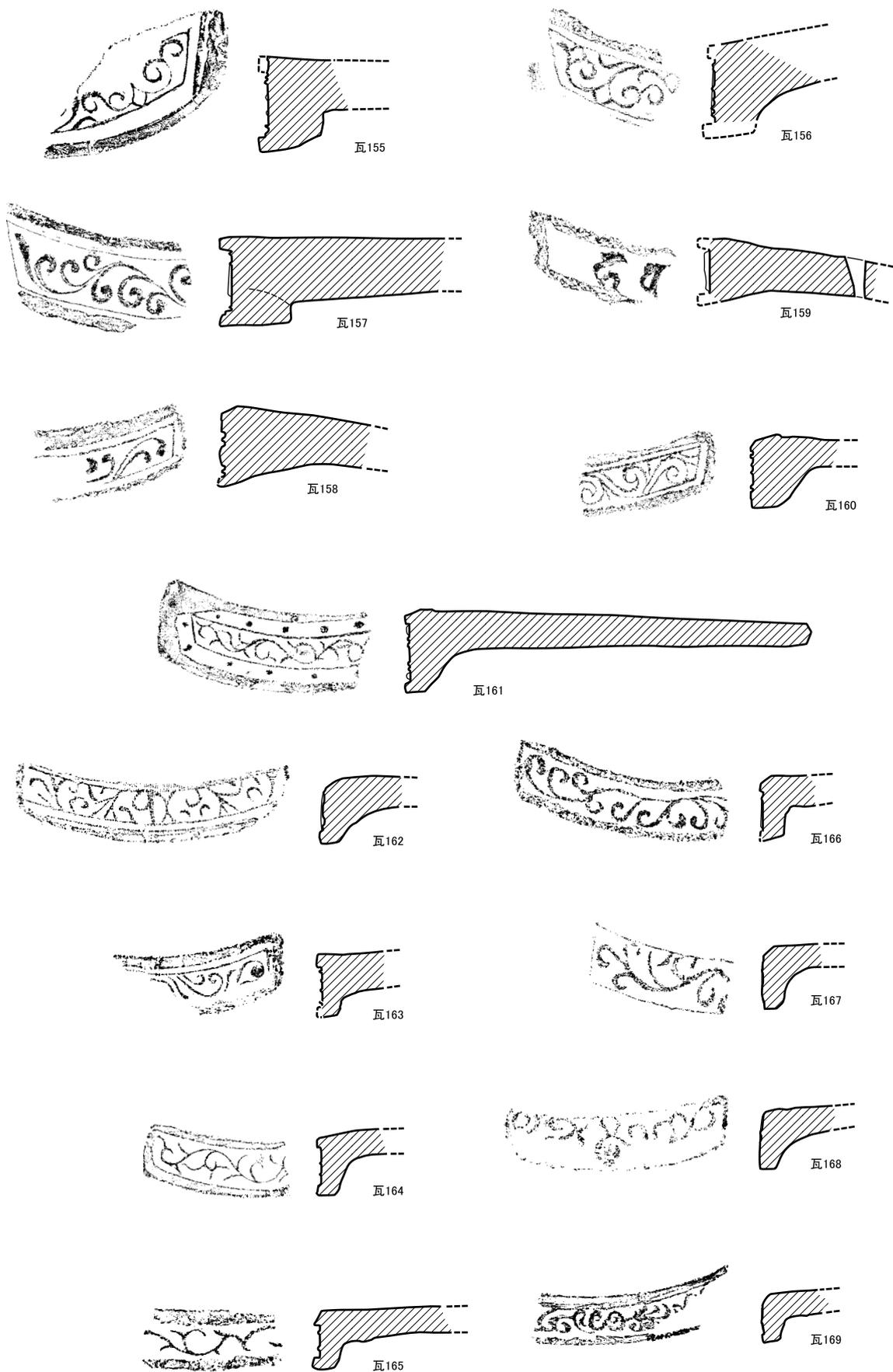


瓦153



瓦154



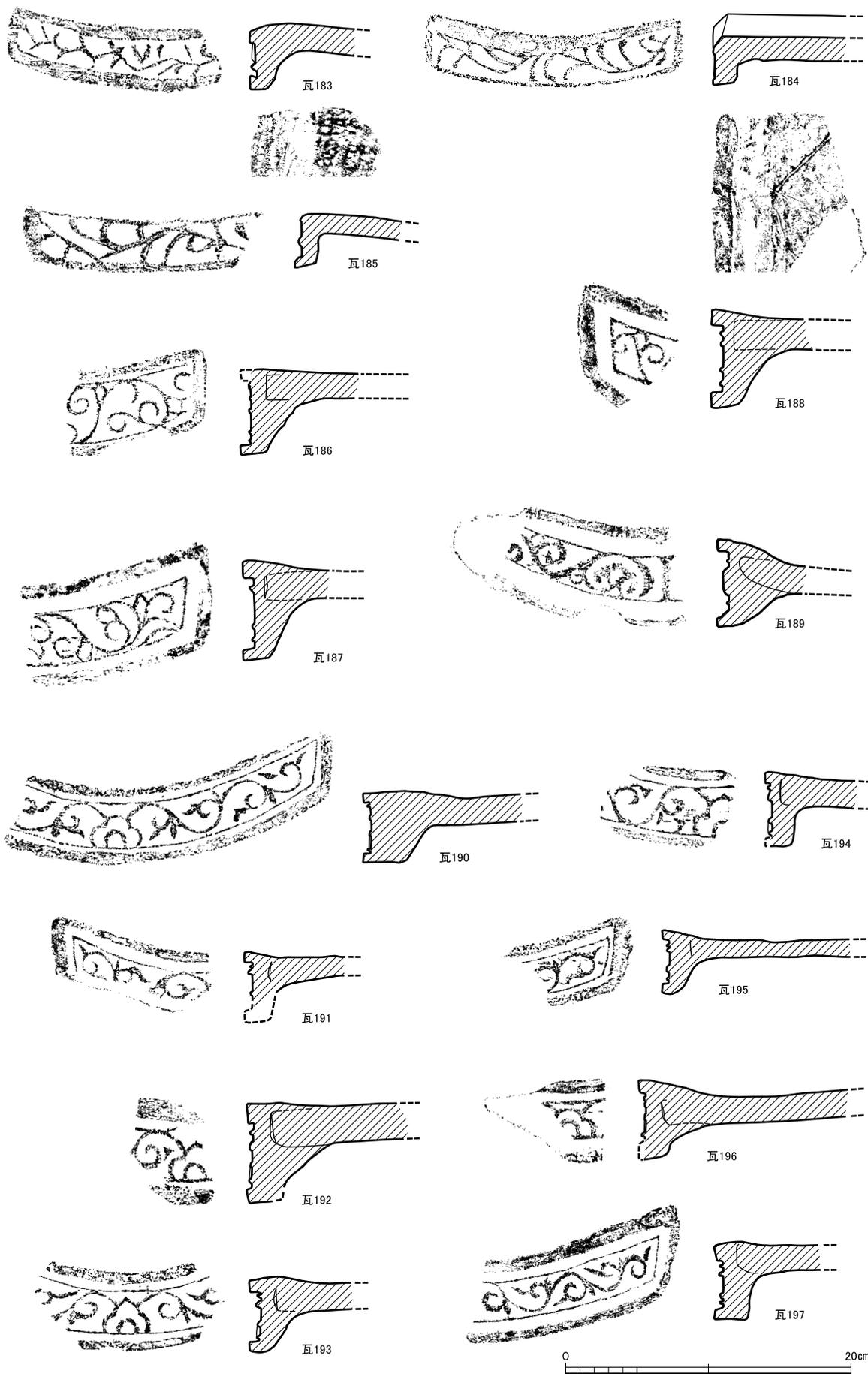


0 20cm

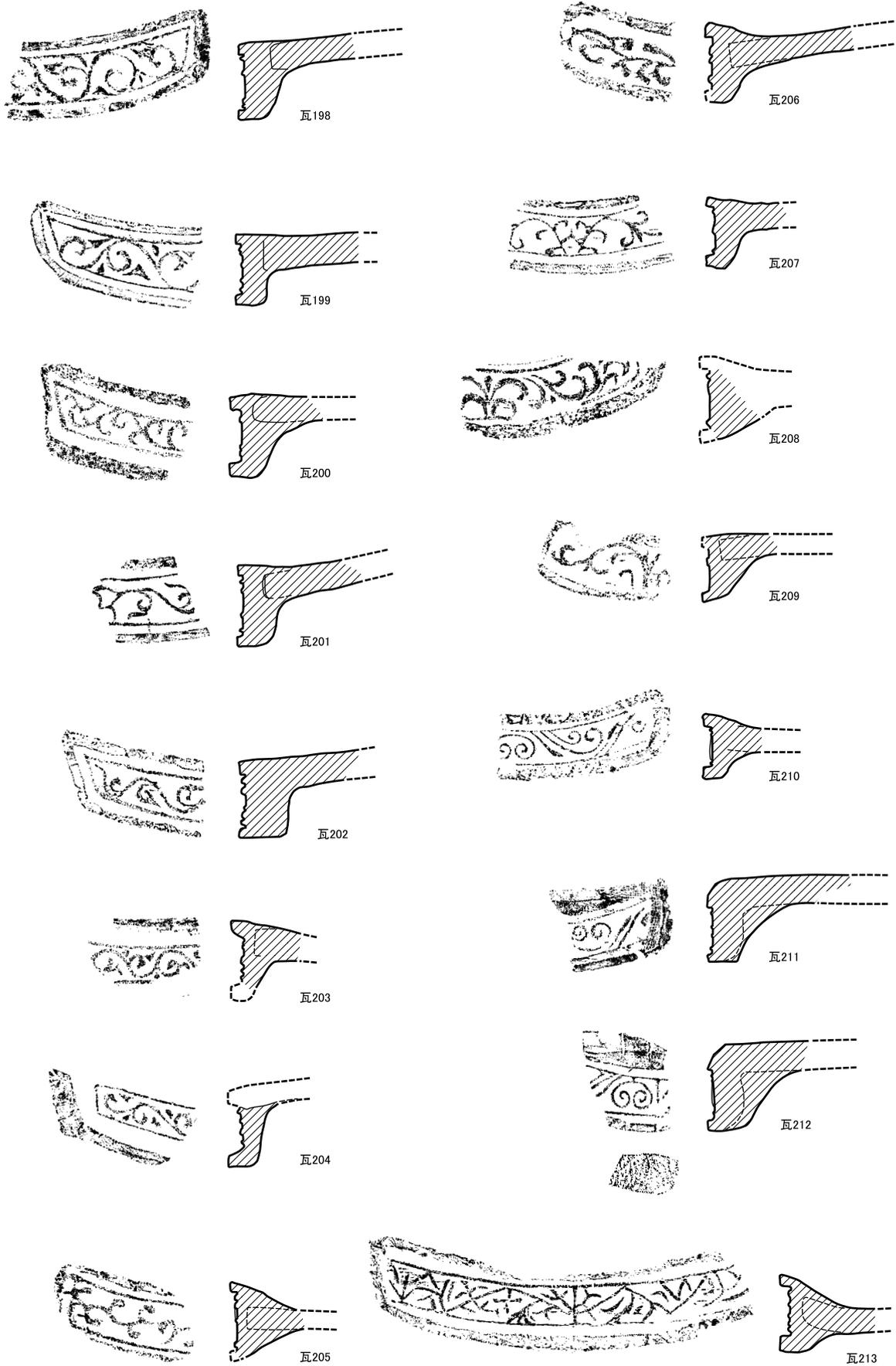
瓦拓影·実測図15 (1 : 4)



瓦拓影·実測图16 (1 : 4)

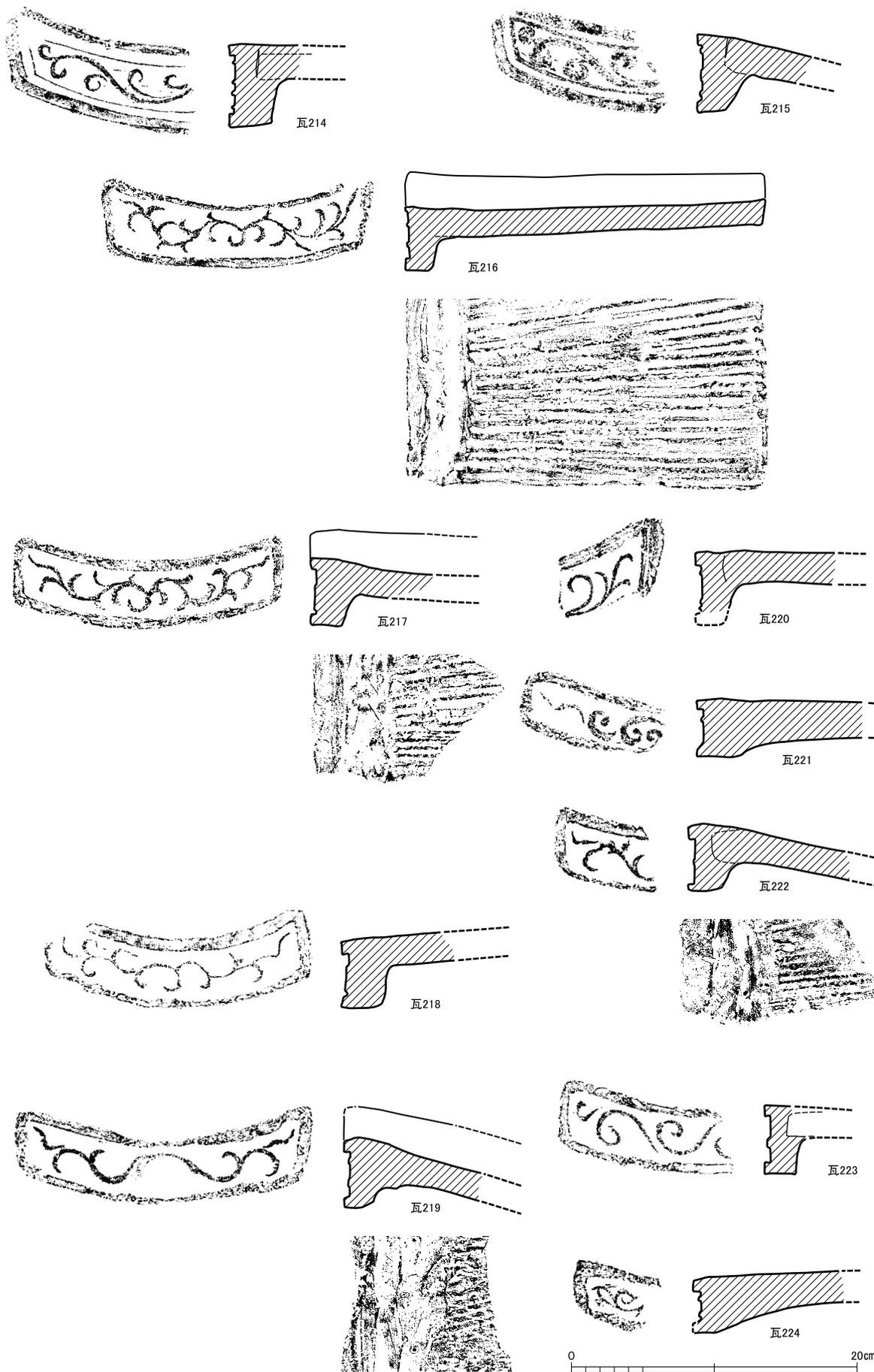


瓦拓影·实测图17 (1 : 4)

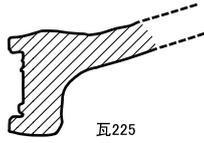


0 20cm

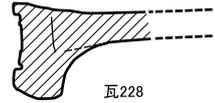
瓦拓影·实测图18 (1 : 4)



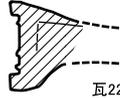
瓦拓影·実測図19 (1 : 4)



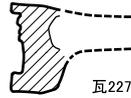
瓦225



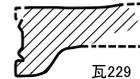
瓦228



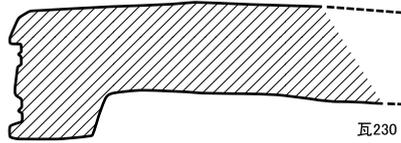
瓦226



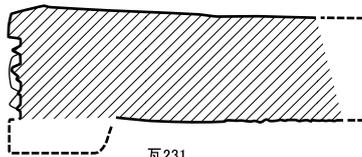
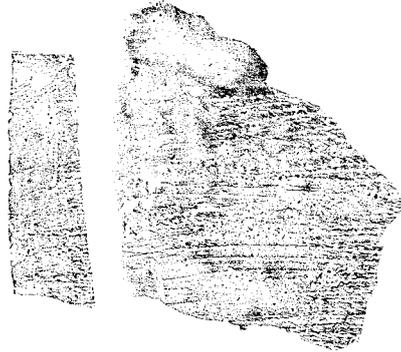
瓦227



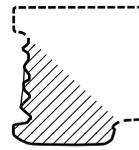
瓦229



瓦230



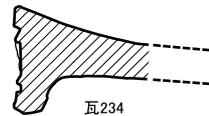
瓦231



瓦233

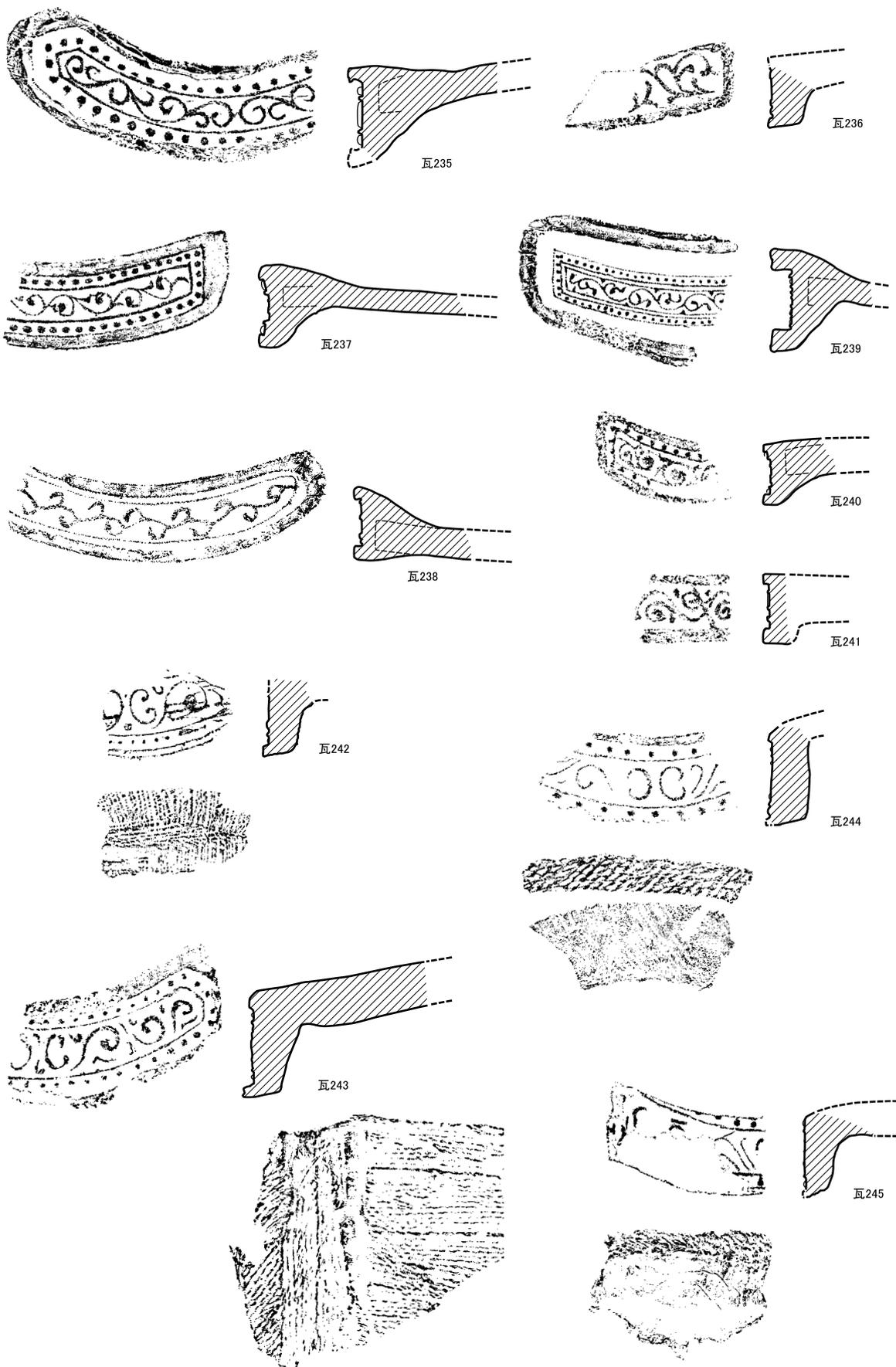


瓦232



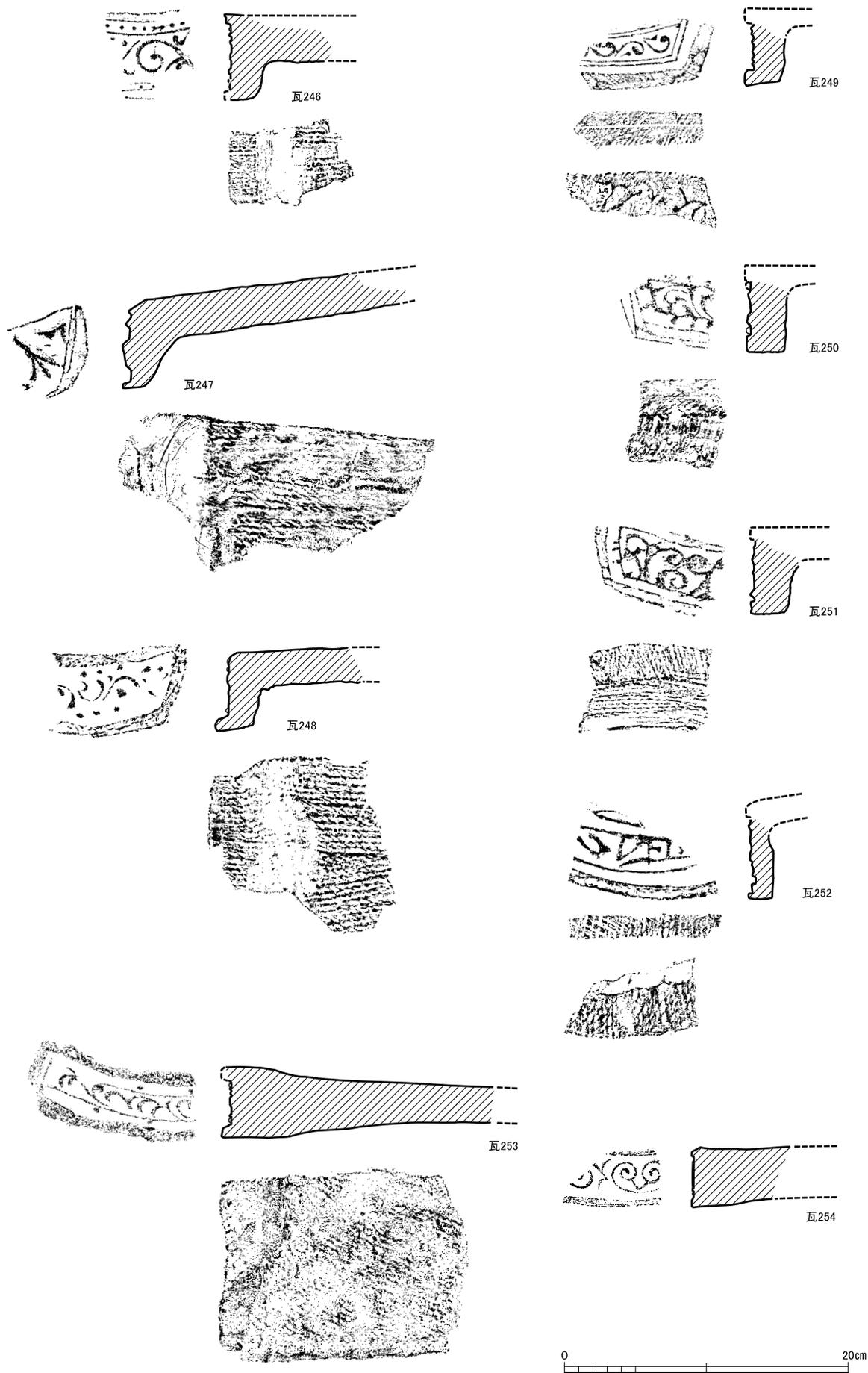
瓦234



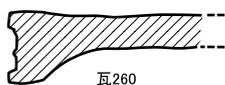
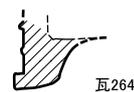
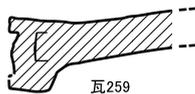
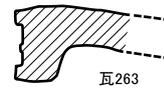
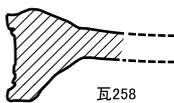
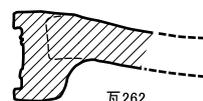
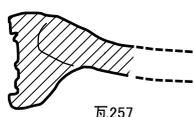
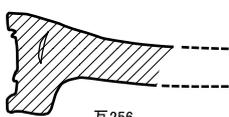
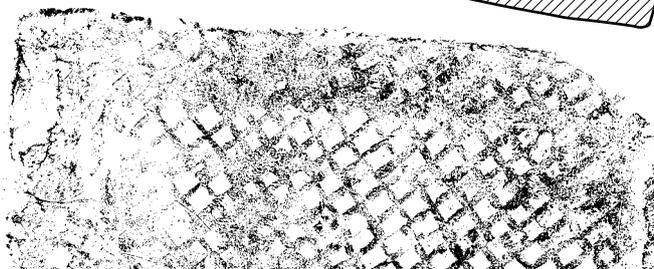
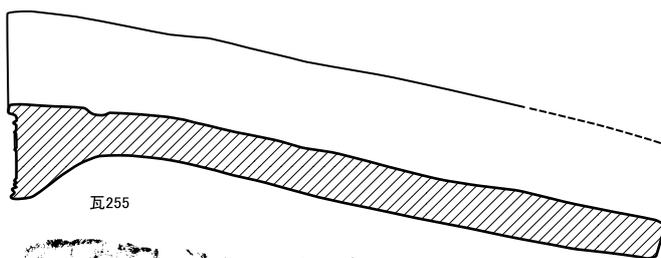


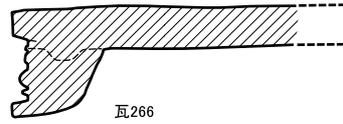
瓦拓影·实测图21 (1 : 4)

0 20cm



瓦拓影·实测图22 (1:4)

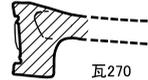




瓦266



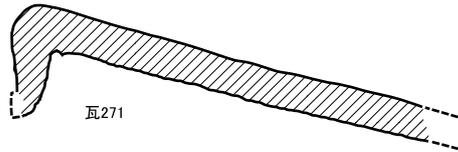
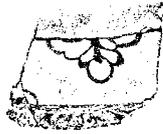
瓦267



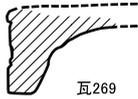
瓦270



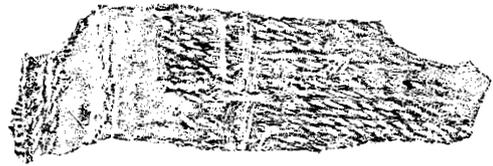
瓦268



瓦271



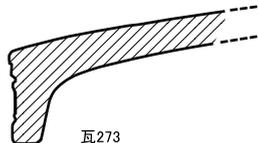
瓦269



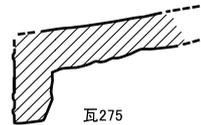
瓦272



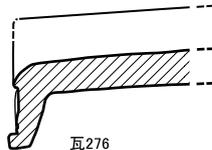
瓦274



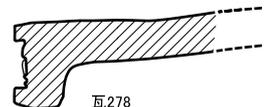
瓦273



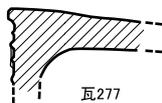
瓦275



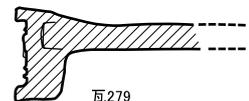
瓦276



瓦278

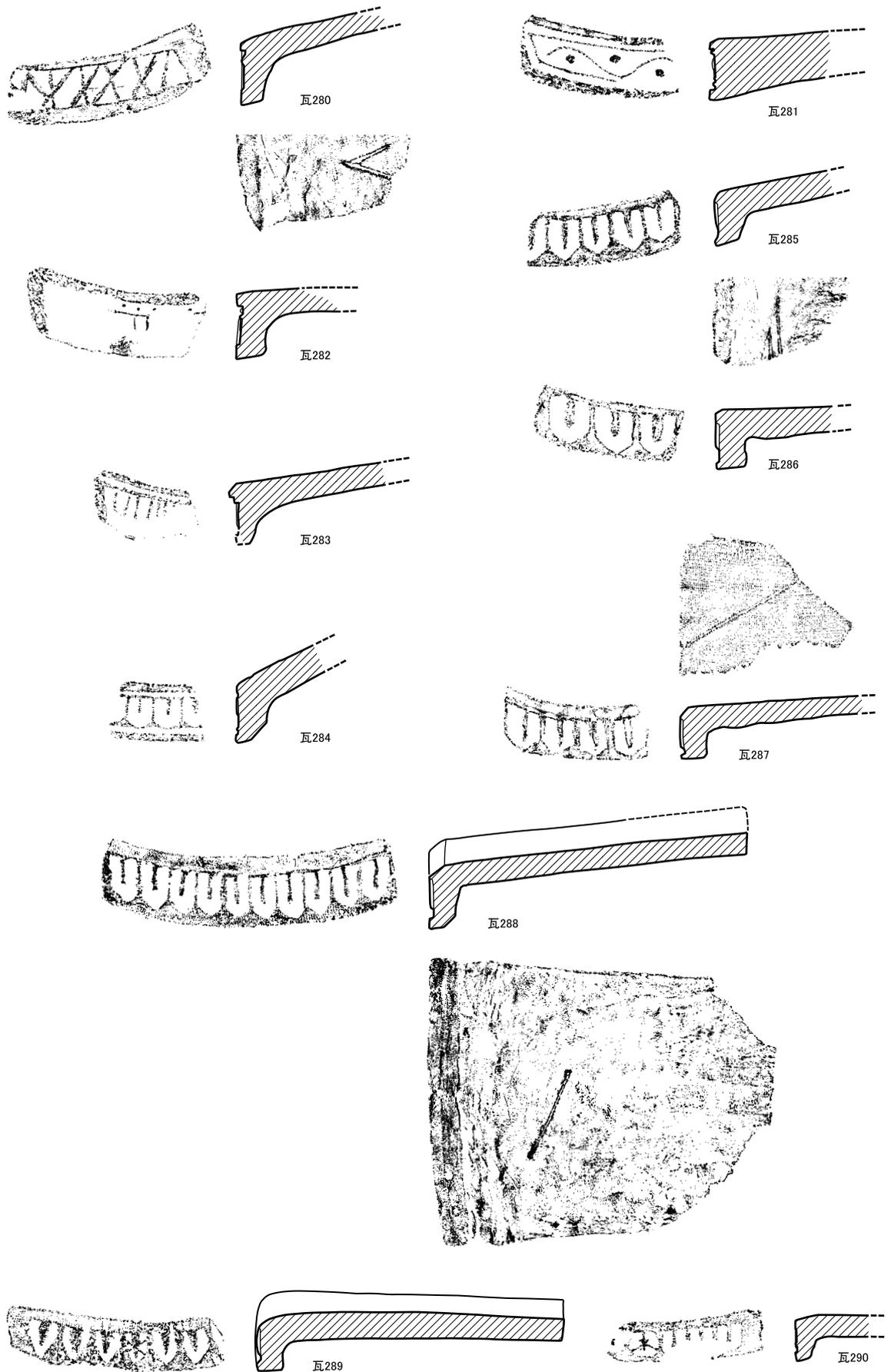


瓦277

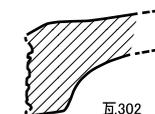
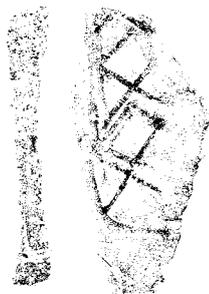
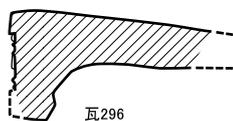
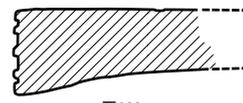
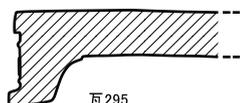
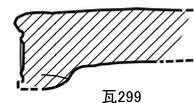
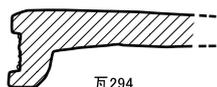
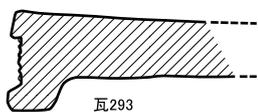
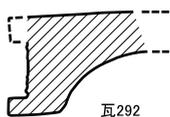
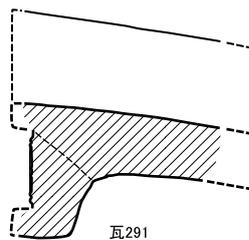
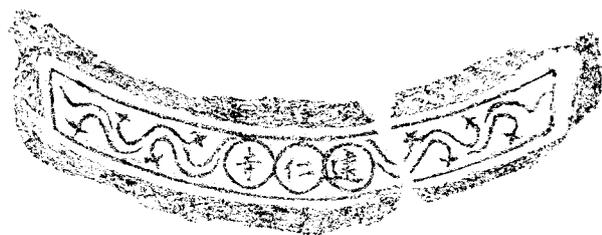


瓦279





瓦拓影・実測図25 (1 : 4)



瓦拓影·实测图26 (1 : 4)



1 第3面西半全景（北東から）



2 第3面東半全景（南西から）



1 溝459西半（北東から）



2 溝459東半（北東から）



3 溝459土器出土状況（北東から）



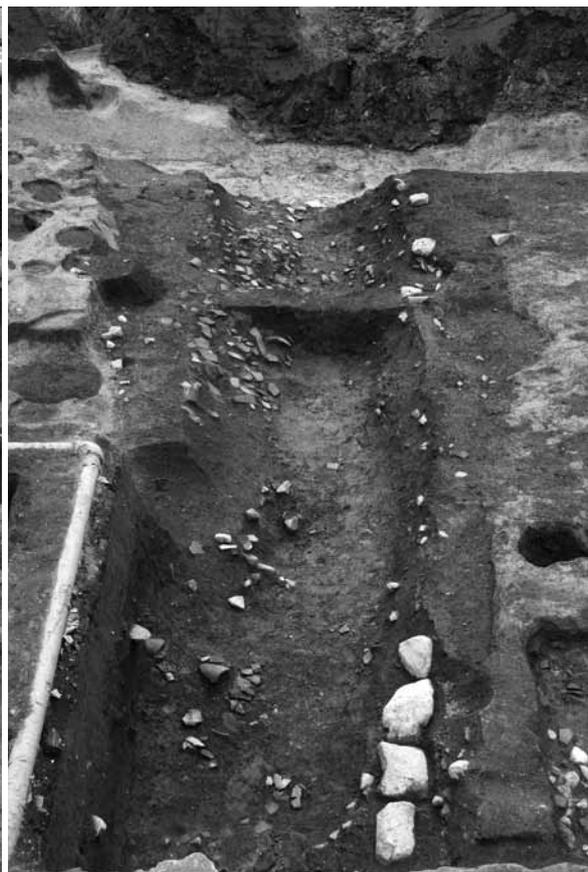
1 第2面西半全景（北東から）



2 第2面東半全景（南西から）



1 溝326北部（南西から）



2 溝326北部護岸（北から）



3 溝326南部（北西から）



4 溝326南部護岸（北東から）



1 溝327北部（南西から）



2 溝327南部（北西から）



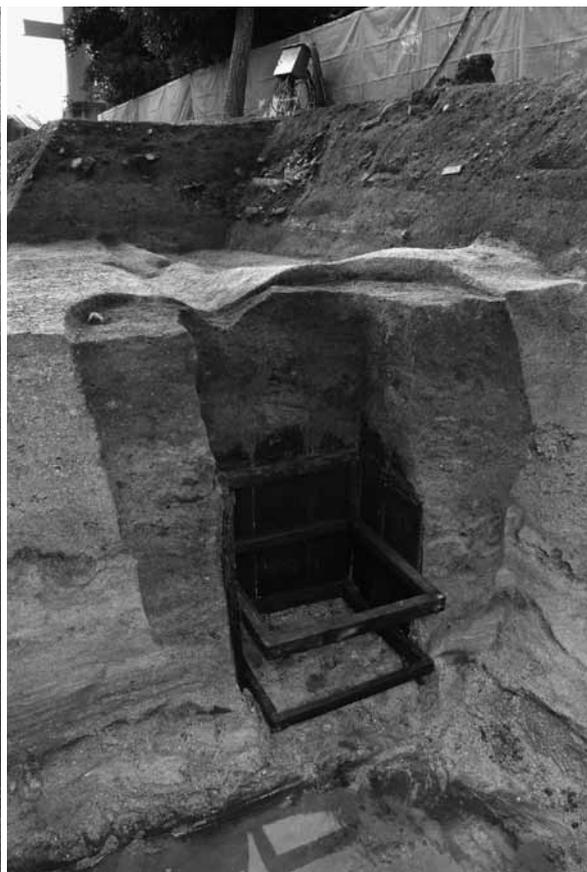
3 溝627・628東半（北西から）



4 溝627・628西半、地業193（西から）



1 井戸374検出状況（南から）



2 井戸374断割り（北東から）



3 井戸374木枠（北西から）



4 井戸374木枠（北西から）



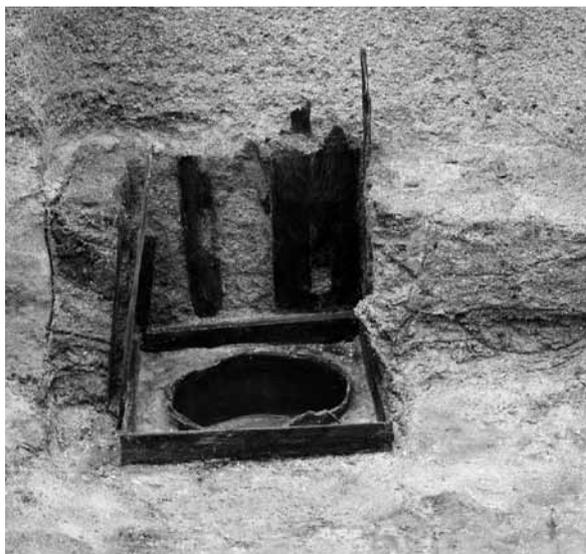
5 井戸374木枠（北東から）



6 井戸374木枠（北東から）



1 井戸470 (北から)



2 井戸335 (東から)



3 井戸420 (東から)



4 井戸629 (南東から)



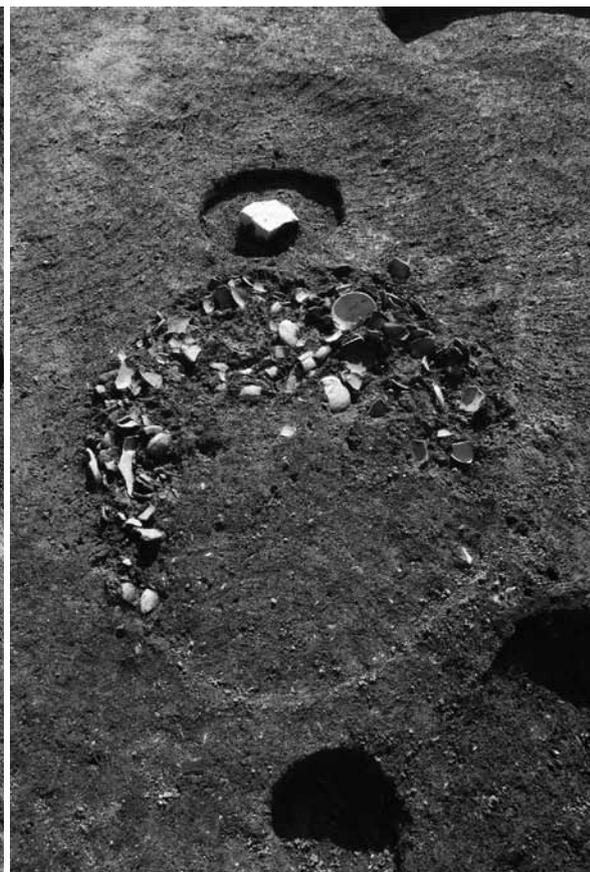
5 井戸775 (北から)



6 井戸775断割り (北から)



1 土坑412 (北から)



2 土坑444 (北から)



3 土坑436 (北から)



1 柱列3～5 (北から)



2 柱列10南部 (北西から)



1 第1面西半全景（北東から）



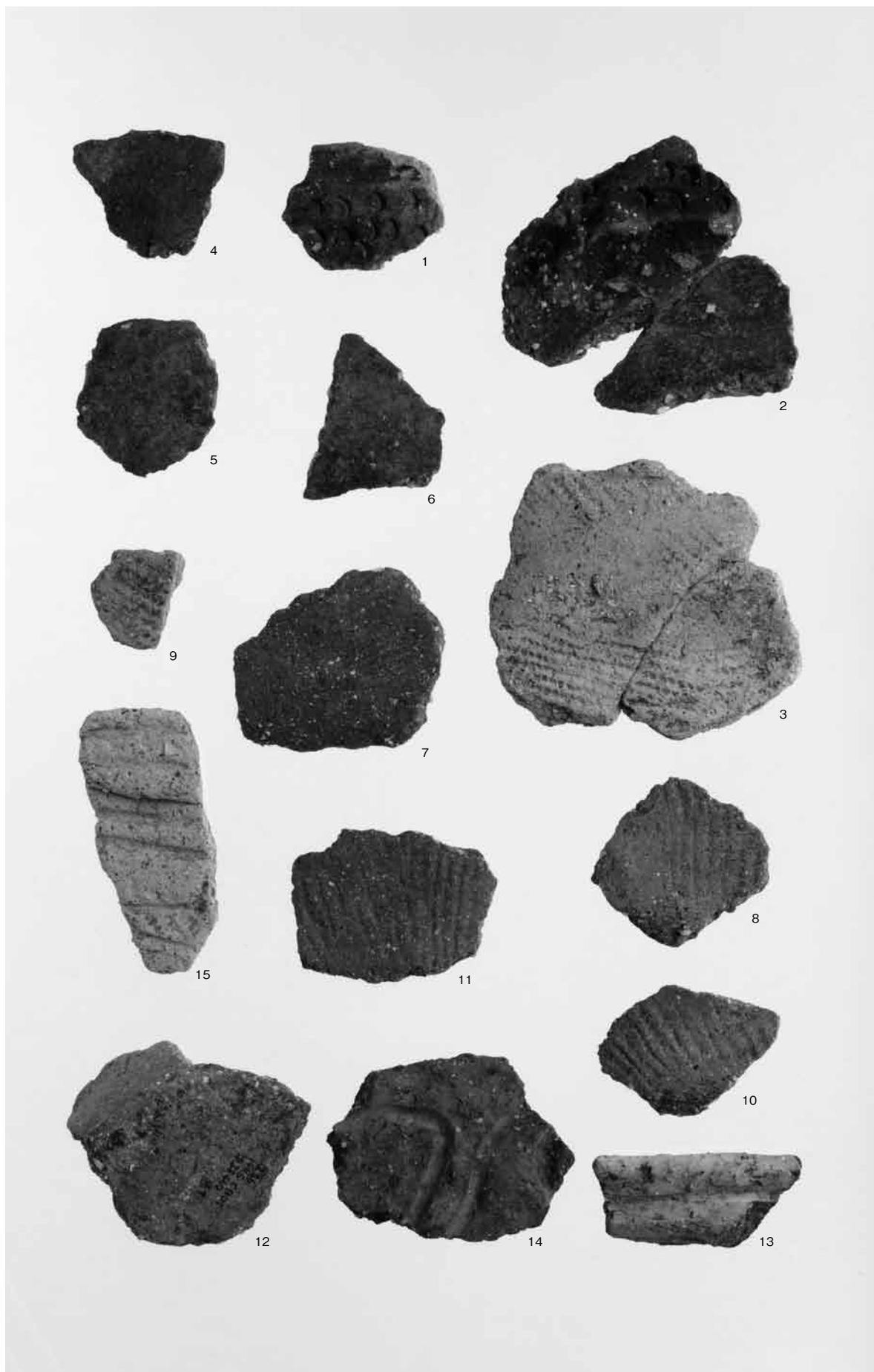
2 第1面東半全景（西から）



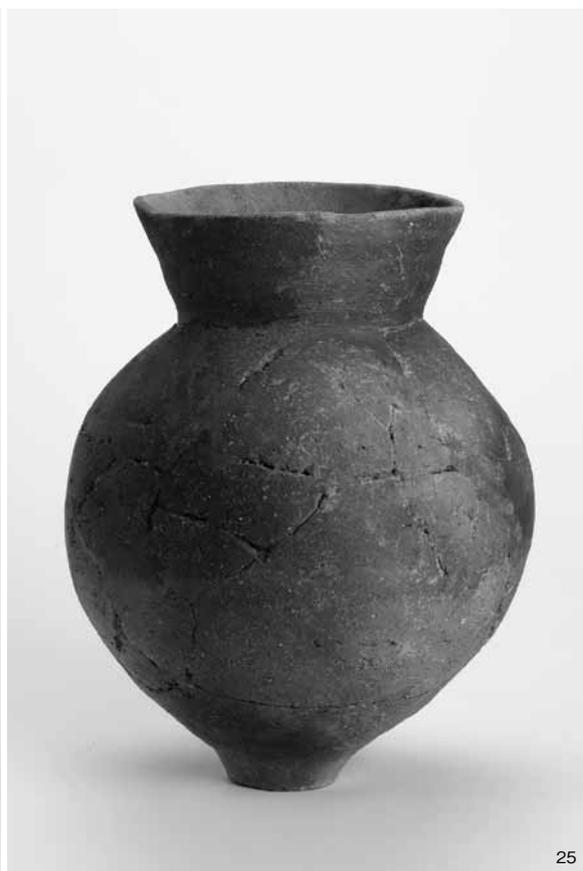
1 堀27・橋1（北東から）



2 堀27断面（西から）



縄文時代の土器



弥生時代から古墳時代初頭の土器 1 (湿地460出土)



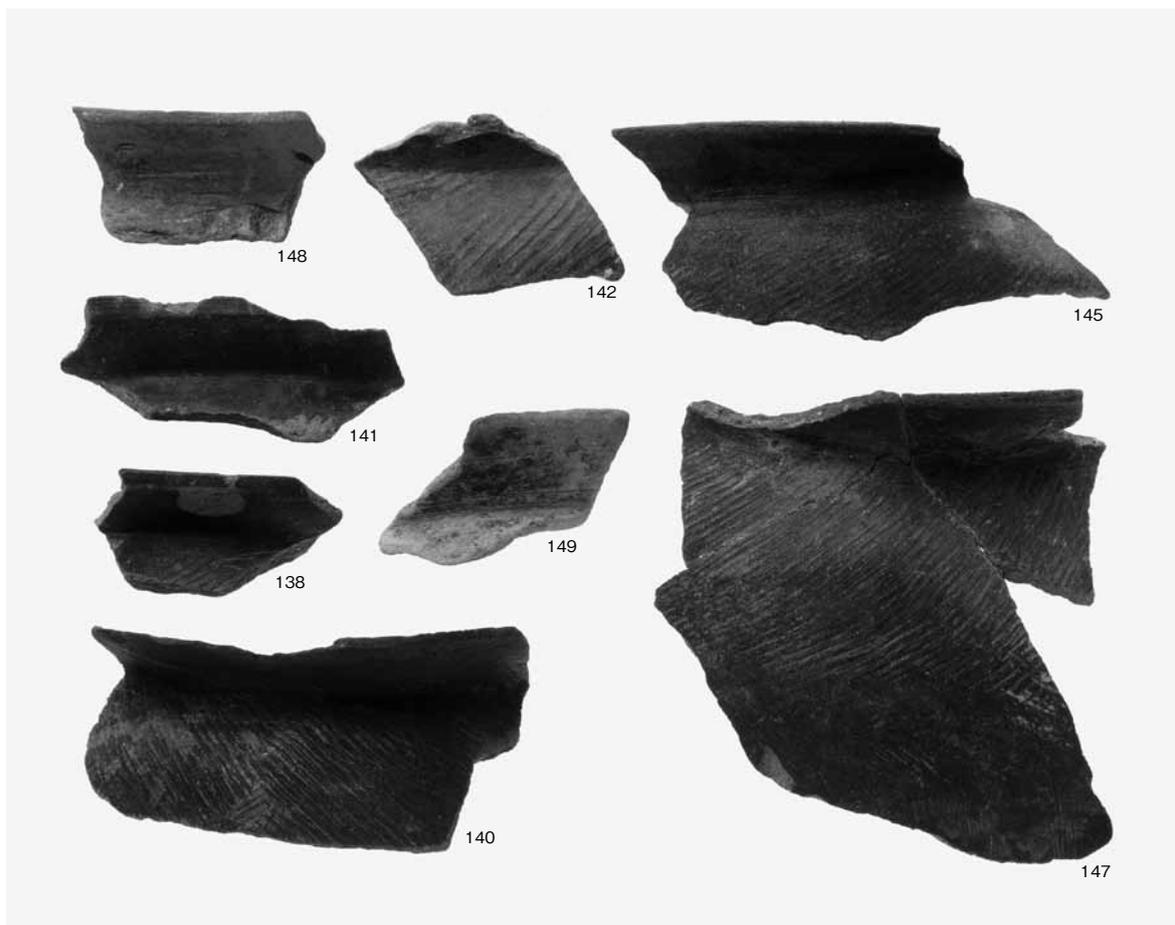
弥生時代から古墳時代初頭の土器2（湿地460・溝459出土）



弥生時代から古墳時代初頭の土器3（溝459出土）



弥生時代から古墳時代初頭の土器4（溝459出土）



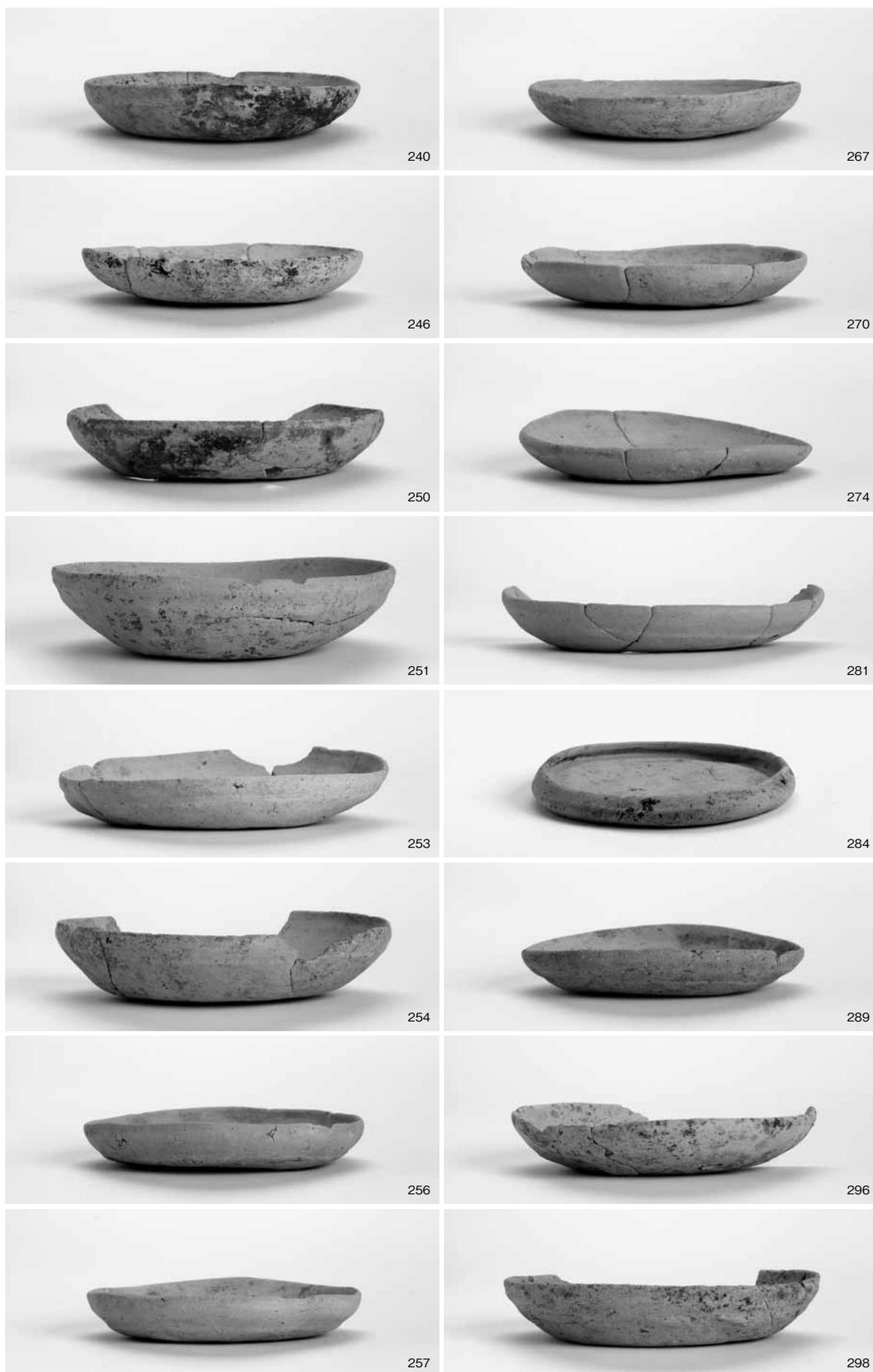
弥生時代から古墳時代初頭の土器 5 (溝 459 出土)



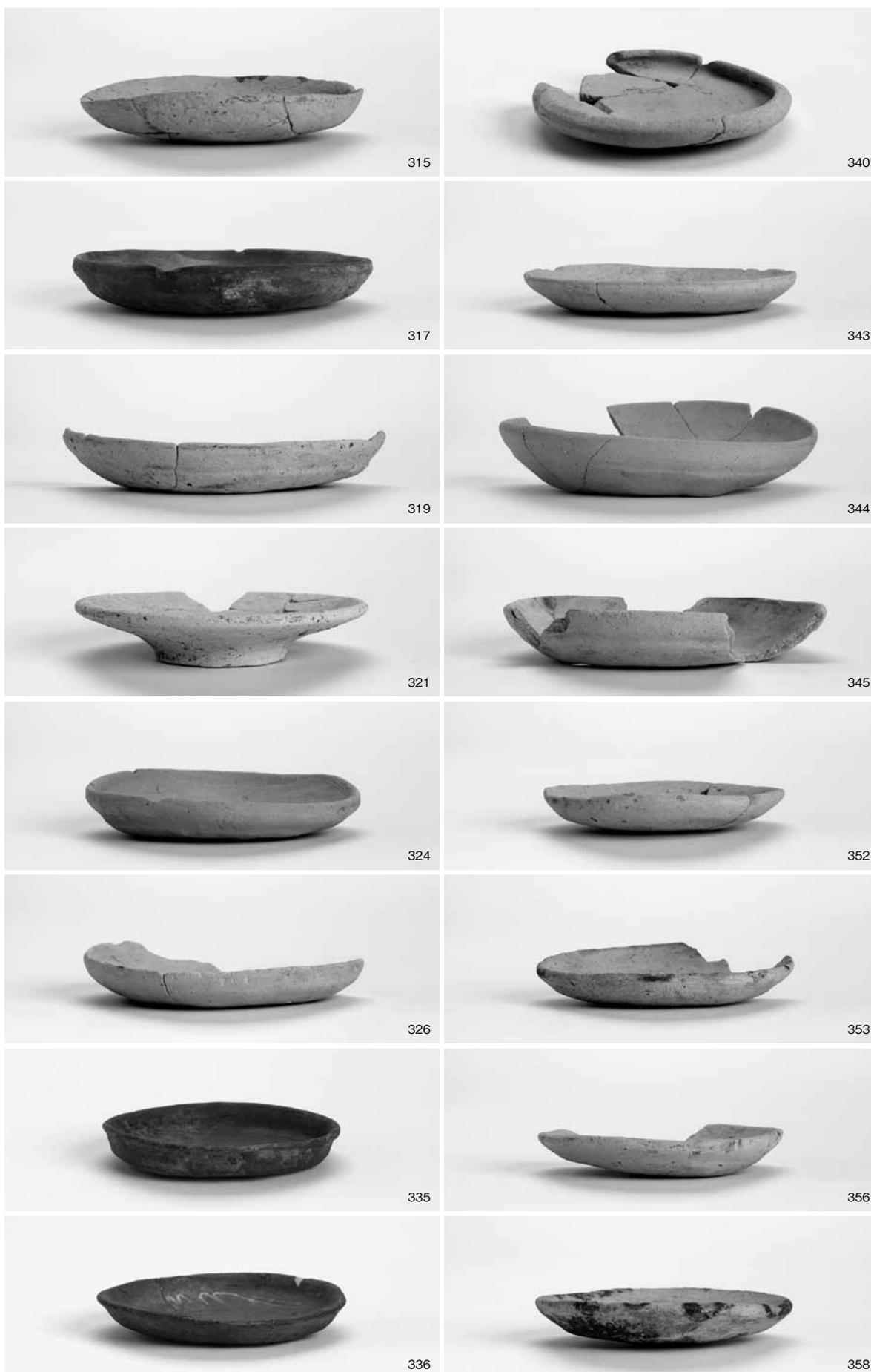
弥生時代から古墳時代初頭の土器6（溝459出土）



古墳時代中期から後期の土器（湿地460上層出土）



平安時代から鎌倉時代の土器 1



平安時代から鎌倉時代の土器 2



鎌倉時代から江戸時代の土器



瓦 1



瓦 3



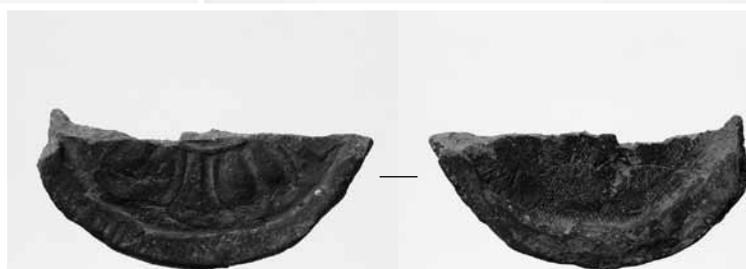
瓦 6



瓦 7



瓦 2



瓦 8



瓦 5



瓦 9



瓦 10



瓦 11





瓦23



瓦24



瓦28



瓦30



瓦31



瓦33



瓦34



瓦35



瓦36



瓦37



軒丸瓦 4



軒丸瓦 5







瓦110



瓦113



瓦112



瓦114



瓦115



瓦116



瓦128



瓦130



瓦118



瓦122



瓦133



瓦137



瓦139



瓦142



瓦143



瓦144



瓦145



瓦146



瓦148



瓦149



瓦147



瓦150



瓦151



瓦152



瓦157



瓦153



瓦154



瓦159



瓦160



瓦161



瓦162



瓦164



瓦166



瓦168



瓦169



瓦174



瓦175



瓦171



瓦179



瓦178



瓦180



瓦182



瓦183



瓦185



瓦184



瓦186





瓦216



瓦221



瓦217



瓦230



瓦218



瓦231



瓦219



瓦234



瓦235

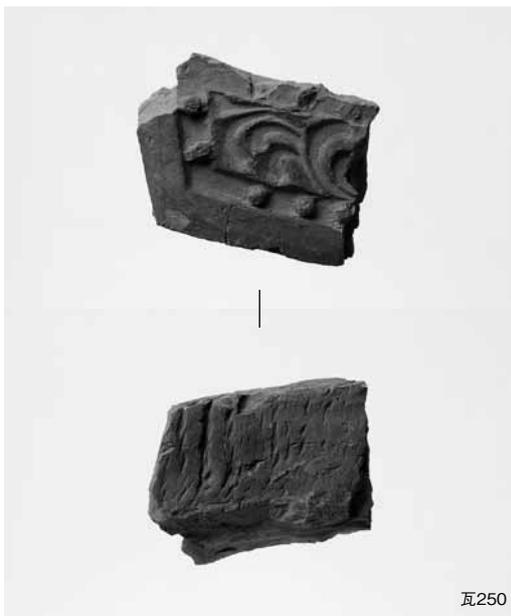


瓦238



瓦242





瓦250



瓦253



瓦254



瓦255



瓦259



瓦262



瓦261



瓦267



瓦266



瓦268



瓦269



瓦270



瓦274



瓦271



瓦276



瓦279



瓦280



瓦281



瓦291



瓦283



瓦288



瓦289



瓦292



瓦295



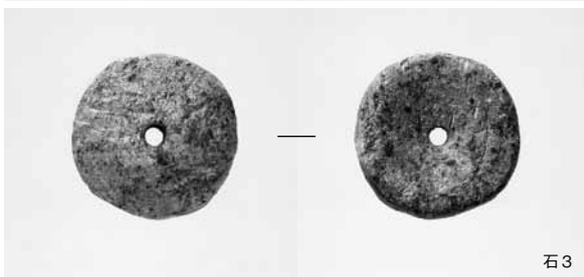
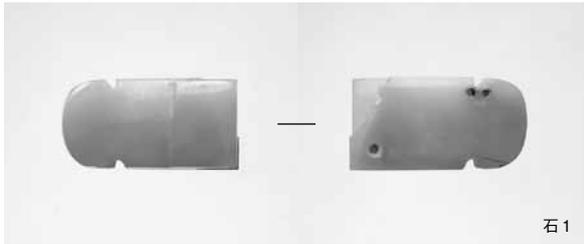
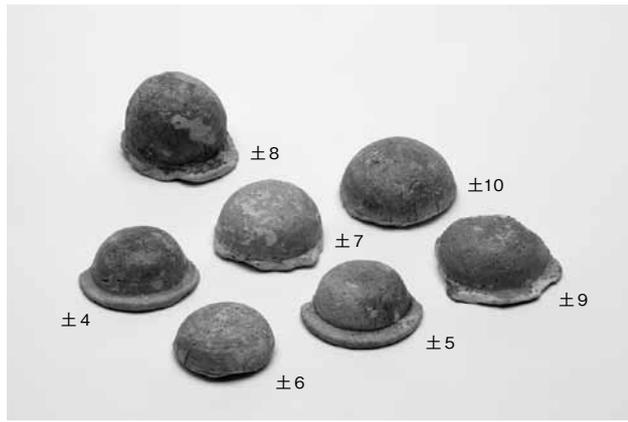
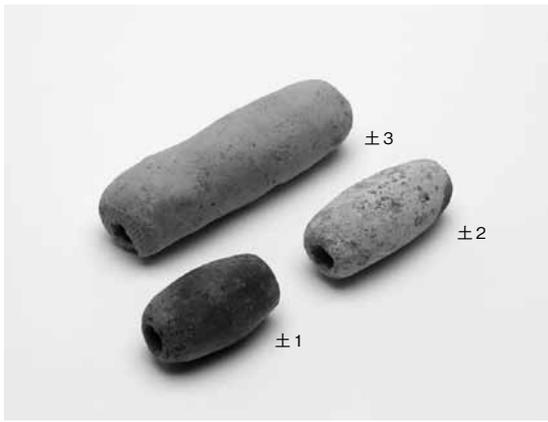
瓦296



瓦300



瓦302



報 告 書 抄 録

| ふりがな | えんしょうじあと・じょうしょうじあと・しらかわがいくあと・おかざきいせき | | | | | | | |
|--------------------|--------------------------------------|---------------|----------------------|--|------------|---|--------|--------------|
| 書名 | 円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 2014-13 | | | | | | | |
| 編著者名 | 小檜山一良・近藤奈央・伊藤 潔・上村和直・李 銀眞・柏田有香・山下大輝 | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 | | | | | | | |
| 所在地 | 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1 | | | | | | | |
| 発行所 | 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2015年12月28日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| えんしょうじあと 円勝寺跡 | きょうとしさきょうく 京都市左京区 | 26100 | 417-4 | 35度 | 135度 | 2014年10月 9日～2015 年3月5日 | 1,387㎡ | 美術館再 整備事業 |
| じょうしょうじあと 成勝寺跡 | おかざきえんしょうじちやう 岡崎円勝寺町 | | 417-5 | 00分 48秒 | 46分 59秒 | | | |
| しらかわがいくあと 白河街区跡 | | | 417 | | | | | |
| おかざきいせき 岡崎遺跡 | | | 418 | | | | | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 円勝寺跡 | 寺院跡 | 縄文時代 | 湿地 | 縄文土器 | | 弥生時代後期から 古墳時代初期の環 濠を検出した。 円勝寺と成勝寺の 境と考えられる溝 を検出した。 | | |
| 成勝寺跡 | 寺院跡 | 弥生時代 ～古墳時代 | 湿地、溝、土坑 | 弥生土器、土師器、 須恵器、木製品 | | | | |
| 白河街区跡 | 寺院跡 | 平安時代 ～鎌倉時代 | 地業、溝、井戸、 柱列、柱穴、土坑 | 土師器、須恵器、灰釉 陶器、緑釉陶器、白色 土器、黒色土器、焼締 陶器、輸入陶磁器、瓦 類、木製品、石製品、 金属製品 | | | | |
| 岡崎遺跡 | 邸宅跡 集落跡 | 室町時代 | 井戸、土坑、溝 | 土師器、瓦器 | | | | |
| | | 江戸時代以降 | 堀、井戸、土坑、 | 土師器、施釉陶器、 国産磁器、金属製品 | | | | |

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-13

円勝寺跡・成勝寺跡・白河街区跡・岡崎遺跡

発行日 2015年12月28日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961